

Annual Report 2018

年 報 2018年(平成30年)度



JA 広島総合病院
JA. HIROSHIMA General Hospital

Annual Report 2018

年 報 2018年(平成30年)度

Contents

巻頭言 ———— 病院長の言葉	4
-----------------------	---

トピックス

世界初！積層型平面検出器（CALNEO Dual）導入！	6
ICD、CRT 植込み開始	7
腰椎椎間板ヘルニアに対する新しい椎間板内酵素注入法（ヘルニコア®）について	8
第16回市民公開講座	9
第28回院内バレーボール大会開催	10
第8回広島西部高校生外科セミナー開催	10

病院の概要

病院概況	12
JA 広島総合病院のあゆみ	13

活動報告

呼吸器内科	16
循環器内科	18
腎臓内科	19
糖尿病代謝内科・糖尿病センター	20
消化器内科	21
小児科	23
外科	24
乳腺外科	25
整形外科	26
形成外科	27
脳神経外科	28
呼吸器外科	31
心臓血管外科	32
皮膚科	33
泌尿器科	34
産婦人科	35
眼科	36
耳鼻咽喉科	37
放射線治療科	38
画像診断部	39
麻酔科	40
歯科口腔外科	42
救急・集中治療科	43
緩和ケア科	44
健康管理センター	45
病理診断科・病理研究検査科	47
臨床研修科	48
看護科	49
外来	50
外来治療センター	51
地域救命救急センター	52
ICU・西3階病棟	53
西4階病棟	54
西5階病棟	55
西6階病棟	56
西7階病棟	57
西8階病棟	58

東 3 階病棟	59
東 4 階病棟	60
東 5 階病棟	61
東 6 階病棟	62
東 7 階病棟	63
手術室	64
居宅介護支援事業所	65
訪問看護ステーション	66
薬剤部	67
臨床研究検査科	68
中央放射線科	69
臨床工学科	70
リハビリテーション科	71
栄養科	72
診療情報管理科	73
医療安全管理室	74
地域医療連携室	75
総合医療相談室	76
教育研修課	77
医事課	78
栄養サポートチーム (NST)	79
呼吸療法サポートチーム (RST)	80
感染防止対策室 (ICT・AST)	81
緩和ケアチーム	82
心臓リハビリテーションチーム	83
「膵がん・胆道がん教室」運営チーム	84
各種委員会	85
出張記	94

実績

著書・論文	100
書籍・雑誌編集	104
学会発表	105
学会での座長	115
研究会講演・発表	117
研究会座長	125
地域活動	129
雑誌投稿・テレビ・ラジオへの出演	133
合同カンファレンス	135

クラブ活動

華道部	138
野球部	139
テニス部	140
伯友会 (ゴルフ同好会)	141
サッカー部	142
フットサル部	143
バスケットボール部	144

資料

統計資料	146
------	-----



巻 頭 言

JA 広島総合病院・2018 年度年報が完成しました。

2018 年は 7 月に西日本を中止に豪雨災害に見舞われ、広島県にも大きな被害をもたらした年でした。深い悲しみを抱いたことを思い出します。

当院は、廿日市市とともに検討を進めている「廿日市メディカルタウン構想」整備への動きがより具体的となり、10 月には当院の将来構想の核となる新棟建設に向けた設計業者の選定を行い、いよいよ基本設計とりまとめへの最初の一步を踏み出しました。

併せて、廿日市市が運営している「廿日市休日夜間急患診療所」を JA 広島総合病院内へ機能移転するプランの協議も始まりました。地域住民の利便性や一次救急から二次救急への移行がスムーズに行えることを考慮し、地域医療へさらなる貢献をすべく、新たなスタートを切りました。

2018 年度年報のトピックスとして、1 回の x 線照射でエネルギーサブトラクション (ES) 処理ができる「CALNEO Dual」を導入したことがあげられます。ES 処理により、通常の胸部 x 線画像に加え、1 回の撮影で軟部組織画像、骨強調画像を取得することができ、肋骨陰影や血管陰影に重なった病変の検出率の向上や病変内の石灰化有無などが診断可能となります。

また、本装置の導入で、従来の 2 回照射の ES 処置で課題となっていた心拍動や体動による画質低下、被ばく線量の増加を低減することが可能となり、診断能力の向上にも寄与すると考えます。

2018 年度年報は、辻山修司・年報編集委員長をはじめ 10 名の委員の尽力のおかげで完成しました。病院の各セクションの 1 年間の貴重な記録が収められ、当院の未来へつながっていきます。将来構想として、効率的な導線や医療機器の整備などでハードウェアの充実を図り、他方ではスタッフの育成によりソフトウェアの充実を図り、最高の医療を提供できる病院として成長しています。スタッフたちの放つ一筋の光を感じていただければ幸いです。

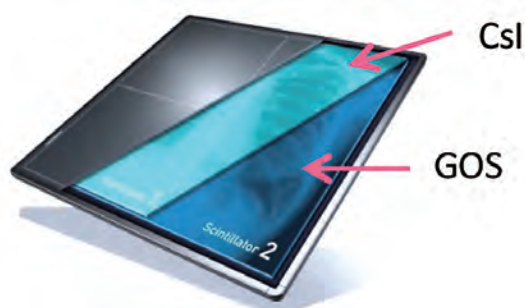
2020 年 3 月

広島県厚生農業協同組合連合会
広島総合病院

病院長 藤本 吉範

世界初! 積層型平面検出器 (CALNEO Dual) 導入!

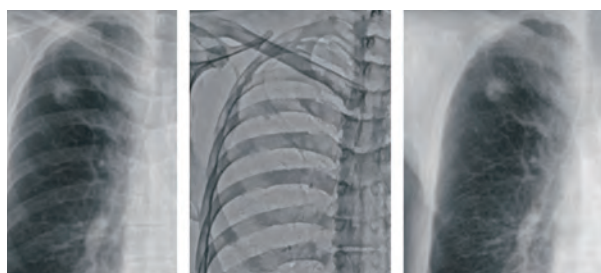
第1X線撮影室の機器更新に伴い、2019年8月に世界初号機となるデジタルX線画像診断装置「CALNEO Dual」が導入されました。この装置の最大の特徴は、X線エネルギーの吸収感度が異なるCsI（ヨウ化セシウム）とGOS（ガドリニウムオキサイドサルファ）を用いた2種類のX線検出部を積層したデュアル構造となっているところです。



「FUJIFILM DR CALNEO Dual」

胸部単純X線写真は、低侵襲かつ簡便でありながら情報量が多く、スクリーニング検査として最も優れている検査方法といえます。しかし、肺野内の病変は肋骨陰影や血管の陰影等に隠れている場合があります。そのため、正確な診断において読影者の十分な知識と経験は欠かせないものとなります。そこで、医師の読影を補助する代表的な画像処理法の1つにエネルギーサブトラクション処理があります。

エネルギーサブトラクション処理とは、エネルギーの異なる2種類の画像を加重減算することで、骨陰影を消去した**軟部組織画像**、あるいは軟部組織を消去した**骨強調画像**を作成する画像処理です。



胸部単純X線写真

骨強調画像

軟部組織画像

この技術により、通常の胸部単純X線写真では観察しにくい肋骨や血管等に重なる病変も容易に検出できるようになりました。

従来は単層型平面検出器を用い、高速でX線エネルギーを切り替え2回照射（two-shot法）することにより、エネルギーサブトラクション処理を行っていましたが、呼吸停止不良時や心臓周囲のアーチファクトが問題となっていました。

今回導入された「CALNEO Dual」では、1回のX線照射（one-shot法）により検出器側でエネルギーの異なる2つの画像を得ることができるようになりました。これにより被ばくの軽減と、モーションアーチファクトのない画像が得られるようになりました。



two-shot 法

one-shot 法

このエネルギーサブトラクション技術は、今まで主に肺がんの結節や石灰化の検出に有効であるとされてきましたが、新しい画像処理技術により、骨組織の分離精度を高めることで、鮮明な骨強調画像が得られ、胸椎・腰椎・股関節などにおいて、骨の視認性向上が期待されます。

さらに、本装置では、腰椎及び大腿骨の骨強調画像を用いて、DXA法による骨密度測定が原理上可能です。近い将来、腰椎単純X線撮影のついでに骨密度を測定する日が来るかもしれません。

ICD、CRT 植込み開始

当院では 2018 年 4 月から心室頻拍・心室細動といった致死性不整脈に対する植え込み型除細動器 (ICD) の植え込みと、心不全に対する心室再同期療法 (CRT) が出来るようになりました。

ICD 植え込みは致死的不整脈に対する治療方法であり、致死性不整脈による心停止の既往のある方や、心筋症・虚血による心不全で致死性不整脈リスクの高い方に適応となります。

心疾患が原因の心突然死は日本でも年間 5 万件以上起こっており、その 80-90% が心室細動や心室頻拍といった致死性不整脈によるものと言われています。また近年の高齢化によりその件数も増加傾向にあります。

このような持続する心室頻拍・心室細動による突然死を防ぐためには電氣的除細動が唯一の有効な方法です。しかし致死性不整脈の多くは病院内ではなく職場や家庭など、すぐには治療ができない環境で起こります。直ちに救急車を呼んだとしても電氣的除細動を行う頃には時間が経ちすぎており、そのまま死亡したり助かったとしても神経学的後遺症が残ったりする事が多々あります。

ICD はこのように突然起こる致死性不整脈に対してすぐに電氣的除細動を行えるように作られたデバイスです。通常のペースメーカーと同様にデバイス本体を前胸部に、リードを右心房・右心室に留置し、デバイスが常に植え込まれた患者さんの心拍を監視します。致死性不整脈が起こった時にはデバイスがそれを検出し、自動で電氣的除細動を行う事で不整脈を停止させ、突然死を防ぐことができます。

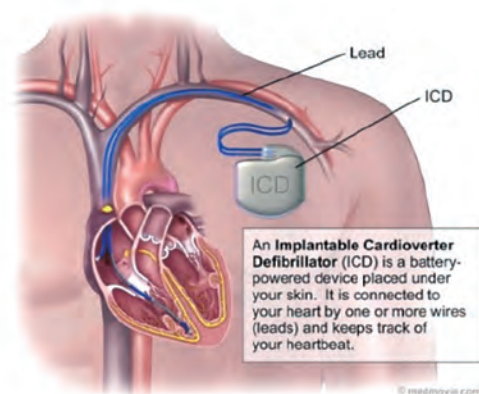
一方、CRT は心不全に対する治療を行うデバイスとなります。心不全は心臓の収縮が低下する事で全身に充分な量の血液を送り出すことができなくなる病態ですが、心不全患者の一部には心臓の収縮力の低下だけでなく、心室の各部分の動きが協調できなくなり、結果効率的に収縮しない事で心不全を来

たしやすくなっている方がいます。このような病態を心臓の同期不全と言い、心電図で完全左脚ブロックを認める患者に多い事が分かっています。

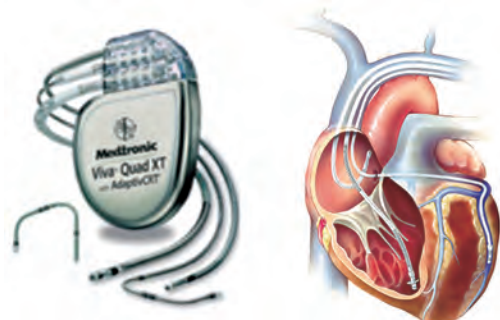
CRT はこの同期不全を治療するために作られたデバイスです。こちらペースメーカーと同様にリードを右房・右室に留置しますが、それに加えて左室の側壁にもリードの留置を行う点が異なります。右室のリードと左室のリードで左室を挟み込み、同時にペーシングを行う事で同期不全を改善する事ができます。

当院では機械操作に習熟した臨床工学技士や診療放射線技師、看護師が一丸となり ICD や CRT の植え込みを行っています。ICD の場合は 2 時間程度、CRT の場合は 3 - 4 時間程度の治療時間で入院は 1 週間から 10 日程度となります。

先生方の日常診療でこういった患者さんがおられましたら気軽にご紹介頂ければ幸いです。



植え込み型除細動器 (ICD)



心室再同期療法 (CRT)

腰椎椎間板ヘルニアに対する新しい椎間板内酵素注入法（ヘルニコア[®]）について

腰の骨は椎骨と椎間板が積み重なって構成され、椎間板は椎骨の間でクッションの役割を果たしています。椎間板の中心にはゼリー状の髄核があり、その周囲を比較的硬い線維輪という軟骨組織が取り囲んでいます。腰椎椎間板ヘルニアは椎間板の脆弱な線維輪から中身の髄核が飛び出して、近くを通る神経を圧迫して痛みやしびれなどの症状を引き起こす疾患です。20から40歳代に好発しますが、その発症には加齢に伴う椎間板の変性だけでなく、日常生活やスポーツなどでの負担も影響するとされています。

現在、腰椎椎間板ヘルニアの治療では保存療法と手術療法に大別されています。腰椎椎間板ヘルニアは自然に縮小したり、大きさは変わらなくても症状がおさまるケースも多いため、通常はまず保存療法で様子を見ます。保存療法では、安静、コルセット等の理学療法と鎮痛薬、筋弛緩薬、抗うつ薬などによる薬物療法が推奨されています。保存療法で効果がみられない場合、手術療法が選択されます。手術では外科的に突出したヘルニアを摘出するので確実に症状を改善する効果があります。しかし手術療法は、全身麻酔下で行う必要があり、患者への侵襲性や合併症などの発現のリスクも伴います。また長期間の入院や休業などを必要とすることから、患者さんへの社会的・経済的な負担も大きいのが現状です。

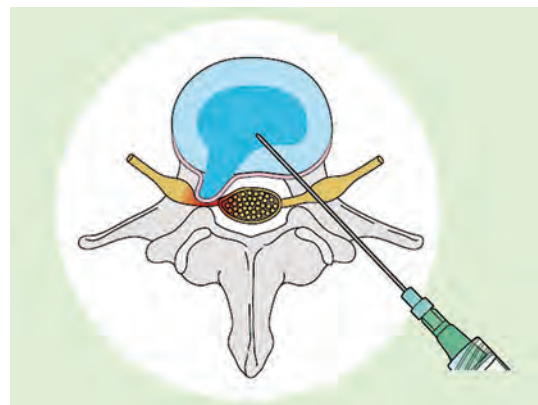
これらの保存治療と手術治療の中間的な治療法として、注射によるヘルニア治療が開発されました。椎間板内に酵素を含んだ薬剤を直接注射して、ヘルニアによる神経の圧迫を弱める方法です。過去に海外では、1980年代にタンパク分解酵素のキモパパインを椎間板の髄核内に直接注入し、椎間板内圧を減少させる椎間板内酵素注入療法（化学的髄核融解術）が実施されていましたが、アナフィラキシーや重度の腰痛などの副作用発現により販売中止となりました。

2018年5月22日、腰椎椎間板ヘルニア治療薬コンドリアーゼ（商品名ヘルニコア[®] 椎間板注用 1.25単位）が薬価収載されました。このヘルニコアの有効成分コンドリアーゼ（コンドロイチン硫酸ABC分解酵素）は、髄核の保水成分（プロテオグリカン）を分解する酵素です。髄核に適切な量のヘルニコアを注入すると、コンドリアーゼによって髄核内の保水成分が分解され、水分による膨らみが適度にやわ

らぎ、その結果、神経への圧迫が改善し、痛みやしびれが軽減すると考えられています。その適応は「保存療法で十分な改善が得られない後縦靭帯下脱出型の腰椎椎間板ヘルニア」、用法用量は「1.25単位を症状の原因である高位の椎間板内に単回投与」とされています。本剤の特徴は、髄核のプロテオグリカンのみを選択的に加水分解するために、他の椎間板組織や神経組織への悪影響が少ないこと、またアレルギー反応が少ないとされ、日本国内で行われました臨床試験（JA広島総合病院も参加しました）においても、主要評価項目の最悪時下肢痛の変化量（VAS）などにおいて、その有効性が確認されています。その一方でアナフィラキシー例は一例も認められませんでした。

この治療方法は、「切らずに治す！椎間板ヘルニア」としてメディアにおいても、大きな注目を浴びており、腰椎椎間板ヘルニアで悩んでおられる患者さんに朗報となっています。この治療を行うには医師要件・施設要件などの細かい規定が設けられていますが、当院はこれらの要件を満たしています。すでに数名の患者さんにおいて施行され、良好な治療成績が認められています。

私たちJA広島総合病院整形外科では身体に優しい治療を信条に、近隣の病院、診療所と連携し、患者さん一人一人に合ったオーダーメイドの治療を行っています。腰椎椎間板ヘルニアに対して、従来から行っている顕微鏡手術・内視鏡手術に加え、第三の治療方法としてこのヘルニコア治療を開始しています。お困りの患者さんがおられましたら是非当科までご紹介ください。



椎間板内酵素注入法（ヘルニコア[®]）

第16回 市民公開講座

日 時：2018年6月24日（日曜日）

13：00～16：00

場 所：はつかいち文化ホール

さくらびあ大ホール

テーマ：もっと知らんと胃けんよ、胃がんの話

～検診から治療まで～

参加者：508名

【要旨】

急速な高齢化と生活習慣の変化から疾病構造が変化し、疾病全体を占める割合が、がん、高血圧、心臓病、脳血管疾患、糖尿病などの生活習慣病が増加しています。特に胃がん検診受診率が、廿日市市は8.2%と全国平均8.6%より低くなっています。胃がんは部位別患者数の第1位にもなっています。そのため検診受診率の増加と適切な治療に関する情報提供に加え、生活に関する情報も含め、第16回市民公開講座は、『もっと知らんと胃けんよ、胃がんの話～検診から治療まで～』と題して開催しました。廿日市市制施行30周年記念も迎え、動員数は500名を目標としていたが、多くの方々のご賛同とご協力をいただき、508名と目標を達成できました。市民公開講座は、廿日市市、佐伯地区医師会、JA広島総合病院が主催で開催しています。今後も、市民の方々に健康な生活を送っていただけるように、継続して参ります。

【演題】

1. 胃がん検診廿日市市の受診状況
廿日市市福祉保健部健康推進課
2. 一度は受けてみよう～胃カメラの話～
たに内科クリニック院長 谷 洋
3. きいてよかった～胃がん内視鏡治療～
JA広島総合病院 食道・胃腸内科
主任部長 古土井明

4. きいてよかった～胃がん外科治療～

JA広島総合病院 消化器外科

主任部長 杉山陽一

5. 胃を切った後の食事 5つのコツ

JA広島総合病院 栄養科 科長 河本良美

6. がんになっても自分らしく

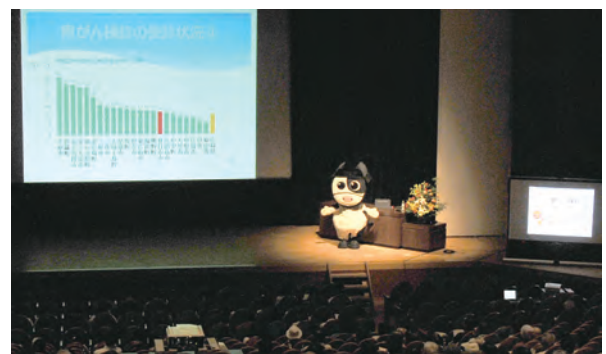
JA広島総合病院 がん相談支援センター

社会福祉士 正島忠貴

【会場の風景】



【廿日市市副指保健部健康推進課講演】



【講演風景】



第28回 院内バレーボール大会開催

2018年6月16日（土）、日本赤十字広島看護大学体育館にて、第28回院内バレーボール大会が開催されました。

当日は、部署ごとに結成された19チーム（選手と応援を合わせて約420名）が参加しました。各チームでおそろいのユニフォームを着用し、熱戦が繰り広げられました。



各リーグの成績は、Aリーグ優勝はHCUチーム、Bリーグ優勝は検査科チームでした。

職員間の親睦を図る貴重な行事として、今後も開催していきたいと思えます。



第8回 広島西部高校生外科セミナー開催

2018年8月1日（木）、外科セミナーが開催されました。外科の魅力を知り、関心・理解を深めてもらうために毎年開催しているもので、今年度で8回目の開催です。

当日は、県内の高校生43名が参加されました。各自手術着に着替えグループに分かれて、実際の手術で使用する器具を使った模擬手術体験や、実習キットを用いた縫合・糸結び体験をしました。内視鏡外科トレーニング用エンドトレーナーでの鉗子操作体験では、画面を見ながらの鉗子操作に苦労する場面も見られましたが、楽しみながら実習を体験することができました。

参加者からは、「医学、特に外科に対して一層関心が高まった」、「普段触れることのできない機器を使用でき、楽しかった」等の意見があり、今年度も大盛況のうちに幕を閉じました。



■ Annual Report 2018 2018年(平成30年)度 年報 ■

病院の概要

病院概況

病院基本理念

私たちは人間愛に基づいた医療を実践し地域社会に貢献します

基本方針

- 1 地域の医療機関と密接に連携した医療を提供します
- 2 医療の安全性を高め安心できるチーム医療を提供します
- 3 最新の知識と技術を習得し質の高い医療を提供します
- 4 説明と同意に基づき人権を尊重した医療を提供します

病院の概要

病院名	広島県厚生農業協同組合連合会 広島総合病院
所在地	〒738-8503 広島県廿日市市地御前1丁目3番3号 TEL (0829)36-3111 FAX (0829)36-5573
開設年月日	1947年12月23日
許可病床数	561床 (一般)
開設者	広島県厚生農業協同組合連合会 代表理事 岡田仁志
病院長	藤本吉範

土地・建物の状況	区分	敷地面積	建物延面積
	病院	12,825.33㎡	32,123.09㎡
住宅地	3,967.47㎡	3,632.41㎡	
計	16,792.8㎡	34,815.15㎡	

診療科目 (計37科)
内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、内視鏡内科、腎臓内科、糖尿病・代謝内科、緩和ケア内科、化学療法内科、神経内科、精神科・心療内科、小児科、小児アレルギー科、外科、消化管外科、肝・胆・膵外科、乳腺外科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓・血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、麻酔科、救急科、腹部救急科、脳血管救急科、心臓血管救急科、放射線科、放射線治療科、放射線診断科、歯科口腔外科、形成外科

病棟別許可病床数 (一般561床)

西棟		階	東棟	
内(呼消)・放射線治療科	55床	8	内(内分泌・腎・透析)	44床
内(消化器)・画像診断部	55床	7	内(呼・整・呼吸器外科)・(脳)	43床
外・(泌)	54床	6	泌・外・皮・精・心療内科	51床
整形外科	55床	5	脳外・歯科口腔外科	52床
産婦・外科系(小)・ドック	46床	4	小・耳・眼	43床
地域救命救急センター	19床	3	内(循環器)・心外・麻酔	44床
計	284床			277床

計 561床

指定等	<ul style="list-style-type: none"> ・病院群輪番制病院 ・災害拠点病院 ・脳死臓器提供病院 ・救急指定病院 (救急告示番号第374号) ・臨床研修指定病院 ・地域医療支援病院 ・地域がん診療連携拠点病院 ・DPC対象病院 ・地域救命救急センター ・へき地医療拠点病院
併設事業所	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護ステーション ・居宅介護支援事業所

施設基準	<p>■基本診療料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般病棟入院基本料7:1 ・総合入院体制加算3 ・超急性期脳卒中加算 ・診療録管理体制加算1 ・医師事務作業補助体制加算1 (15対1) ・急性期看護補助体制加算 (50対1) ・看護職員夜間配置加算1 (12対1) ・療養環境加算 ・重症者等療養環境特別加算 ・栄養サポートチーム加算 ・医療安全対策加算1 ・感染防止対策加算1 ・患者サポート体制充実加算 ・ハイリスク妊娠管理加算 ・ハイリスク分娩管理加算 ・病棟薬剤業務実施加算1 ・病棟薬剤業務実施加算2 ・データ提出加算 ・退院支援加算1 ・認知症ケア加算1 ・精神疾患診療体制加算 ・救命救急入院料1 ・特定集中治療室管理料3 ・小児入院医療管理料4 ・長期滞在手術等基本料2 <p>■特掲診療料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・糖尿病合併症管理料 ・がん疼痛緩和指導管理料 ・がん患者指導管理料1 ・がん患者指導管理料2 ・がん患者指導管理料3 ・糖尿病透析予防指導管理料 ・外来放射線照射診療料 ・ニコチン依存症管理料 ・開放型病院共同指導料 ・ハイリスク妊産婦共同管理料 (I) ・地域連携診療計画管理料 ・がん治療連携計画策定料 ・肝炎インターフェロン治療計画料 ・薬剤管理指導料 ・検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料 ・医療機器安全管理料1 ・医療機器安全管理料2 ・歯科治療総合医療管理料 (I) 及び (II) ・持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定 ・遺伝学的検査 ・HPV核酸検出及びHPV核酸検出 (簡易ジェノタイプ判定) ・検体検査管理加算 (IV) ・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト ・ヘッドアップディスプレイ試験 ・小児食物アレルギー負荷検査 ・内服・点滴誘発試験 ・画像診断管理加算1 ・CT撮影及びfMRI撮影 ・冠動脈CT撮影加算 ・心臓MRI撮影加算 ・抗悪性腫瘍剤処方管理加算 	<ul style="list-style-type: none"> ・外来化学療法加算1 ・無菌製剤処理料 ・心大血管疾患リハビリテーション料 (I) ・脳血管疾患等リハビリテーション料 (I) ・運動器リハビリテーション料 (I) ・呼吸器リハビリテーション料 (I) ・がん患者リハビリテーション料 ・エタノールの局所注入 (甲状腺に対するもの) ・透析液水質確保加算1 ・下肢末梢動脈疾患指導管理加算 ・CAD/CAM冠 ・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算 ・組織拡張器による再建手術 (乳房再建手術) の場合に限る) ・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術 ・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検 (併用) ・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検 (単独) ・乳腺悪性腫瘍手術 (乳頭乳輪温存乳房切除術 (腋窩郭清を伴わないもの) 及び乳頭乳輪温存乳房切除術 (腋窩郭清を伴うもの)) ・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術 (乳房切除後) ・経皮的冠動脈形成術 (特殊カテーテルによるもの) ・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術 ・大動脈/アレーノパンピング法 (IABP法) ・胆管悪性腫瘍手術 (膵頭十二指腸切除及び肝切除 (葉以上) を伴うものに限る。) ・体外衝撃波胆石破砕術 ・腹腔鏡下肝切除術 ・体外衝撃波脾石破砕術 ・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術 ・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術 ・体外衝撃波腎・尿管結石破砕術 ・膀胱水圧拡張術 ・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術 ・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術 ・輸血管理料II ・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算 ・麻酔管理料 (I) ・麻酔管理料 (II) ・放射線治療専任加算 ・外来放射線治療加算 ・高エネルギー放射線治療 ・1回線量増加加算 ・画像誘導放射線治療 (IGRT) ・体外照射呼吸性移動対策加算 ・直線加速器による放射線治療 (定位放射線治療) ・定位放射線治療呼吸性移動対策加算 ・病理診断管理加算1 ・口腔病理診断管理加算1 ・パクリタキセル静脈内投与及びカルボプラチン腹腔内投与の併用療法
認定	日本医療機能評価機構 (区分4 Ver.6.0) DMAT 指定医療機関 (災害派遣医療チーム)	

平成30年4月1日現在

JA 広島総合病院のあゆみ

昭和21年6月佐伯郡内の町村長および町村農業会長の代表の方々が県農業会を訪れ、廿日市方面の緊急対策として原子爆弾による負傷者に対する医療施設を設置するよう強い働きかけがあった。そのため佐伯郡37ヶ町村および農業会が出資して地御前村元旭兵器(株)の工員宿舎を買収し農業会病院の誘致を決定する。

昭和22年12月23日、4診療科、スタッフ総員20名、60床の病床を有する農業会佐伯病院として開設された。その後、昭和37年と40年に相次いで増床と診療体制の充実を図り、昭和41年には総合病院の認可を受け、名称も佐伯総合病院と改称された。

爾来、同地域は広島市のベッドタウンとして開発が進み、診療圏人口の増加に伴って施設の狭隘化を来したため、昭和54年には大幅な増改築が行われ、これを機会に名称も現在の広島県厚生農業協同組合連合会 広島総合病院と改められた。その後更なる人口増加に伴う医療需要の増大により地域の中核的病院の性格を持つに至り、昭和55年には二次救急病院の指定を受け、また昭和59年および平成元年には増築増床工事が実施され430床となる。

更に平成9年5月には、施設の狭隘化と老朽化に対する対策として新棟建設と既存棟の改築工事が開始され、平成10年10月末に新棟完成、平成12年2月には全工事が完了し、同年4月より578床となる。その後透析用ベッドへの転用により平成15年に570床、外来化学療法用ベッドに転用により平成20年に561床となる。

広島西二次保健医療圏の三次救急患者への速やかな高度医療の提供と、広島都市圏域全体の救急医療体制の充実強化のため、平成22年8月から平成23年2月にかけて救急棟新築工事が行われ、平成23年4月には「地域救命救急センター」19床を開設した。

昭和21年	8月	佐伯郡37ヶ町村および農業会が出資して地御前村元旭兵器(株)の工員宿舎を買収し農業会病院の誘致を決定
昭和22年	12月	診療科目(内科・外科・耳鼻科・歯科)、病床数60床、職員20名で広島県農業会佐伯病院として発足
昭和23年	4月	婦人科開設
昭和23年	6月	眼科新設
昭和24年	12月	結核病棟開設(一般49床、結核11床)
昭和25年	5月	外来診療室拡張のため(一般44床、結核11床)計55床に変更
昭和26年	3月	一般病床25床、結核病床25床計50床に変更
昭和29年	6月	一般病床37床、結核病床42床計79床に変更
昭和31年	7月	小児科新設
昭和37年	1月	病棟増築(一般130床、結核20床)
昭和37年	6月	皮膚泌尿器科新設
昭和37年	7月	整形外科新設
昭和40年	2月	病棟増築(一般160床、結核20床)
昭和41年	2月	総合病院の認可を受け、佐伯総合病院となる
昭和49年	9月	結核病床20床一般病床へ転用、16床増床し196床に変更
昭和54年	1月	脳神経外科新設、皮膚泌尿器科が分離独立し皮膚科・泌尿器科となる
昭和54年	4月	現在の広島県厚生農業協同組合連合会広島総合病院に名称変更
昭和55年	2月	第二次救急医療指定病院となる
昭和59年	7月	病棟増築100床(一般370床)
昭和60年	4月	麻酔科新設
昭和60年	9月	放射線科(治療部門)新設
昭和60年	10月	放射線治療棟完成
昭和63年	4月	心臓血管外科新設
昭和63年	7月	放射線科(診断部門)開設
平成元年	4月	精神科・心療内科新設
平成元年	4月	大竹市栗谷診療所の委託運営開始
平成元年	6月	病棟増築60床(430床)
平成2年	8月	形成外科新設
平成2年	11月	MRI棟完成
平成4年	3月	院内保育園開園
平成6年	5月	訪問看護ステーション開設
平成9年	2月	災害拠点病院指定
平成9年	9月	オーダーリングシステム稼働
平成10年	9月	広電・JA広島病院前駅開業式
平成10年	10月	新館西病棟落成
平成11年	4月	病棟増床59床(489床)
平成11年	11月	居宅介護支援事業所開設
平成12年	4月	病棟増床89床(578床)
平成12年	6月	開放型病床(20床)届出
平成13年	10月	呼吸器外科新設
平成15年	2月	一般病床8床を透析用ベッドに転用(570床)
平成15年	10月	臨床研修指定病院指定
平成16年	8月	地域医療支援病院
平成18年	8月	地域がん診療連携拠点病院指定
平成18年	8月	電子カルテシステム稼働
平成20年	4月	一般病床9床を外来化学療法用ベッドに転用(561床)
平成21年	4月	DPC対象病院
平成22年	4月	センター制度の導入(救急センター、循環器・呼吸器疾患センター、一般外科治療センター、健康管理センター、急性期リハビリテーションセンター)
平成23年	4月	神経内科新設
平成23年	4月	地域救命救急センター開設(19床)
平成23年	9月	へき地医療拠点病院
平成25年	2月	糖尿病センター
平成25年	4月	医療福祉支援センター
平成25年	4月	脊椎脊髄センター
平成25年	10月	内視鏡センター
平成26年	4月	電子カルテシステム更新
平成26年	10月	廿日市地域医療拠点等整備に関する基本協定調印
平成26年	11月	第3駐車場運用開始
平成28年	10月	救命センターHCU病床の高規格化(ICU整備)のため、3床一般病床へ変更
平成28年	11月	老朽化に伴い医師住宅・看護師宿舎解体(平面駐車場整備)
平成30年	4月	総合診療科開設
平成30年	9月	外来化学療法治療室を東8階へ移設
平成30年	10月	病棟減少30床

呼吸器内科

■ スタッフ

主任部長 近藤 文 博 (1999 年卒)
日本呼吸器学会専門医
日本内科学会専門医

部 長 大月 鷹 彦 (2007 年卒)
日本呼吸器学会専門医
日本内科学会専門医

医 員 鳥 井 宏 彰 (2015 年卒)
日本内科学会認定医

医 員 田 中 三千彦 (2016 年卒)

■ 診療科紹介

当科では肺がんによって代表される悪性腫瘍の診療だけでなく、多様な呼吸器疾患に伴う急性、慢性の呼吸不全や生理学的な呼吸機能障害、能力障害、社会的ハンディキャップに対する広い意味での医療的な支援形成を目指しています。今後は急性期にとどまらず、慢性期の治療とケア、リハビリテーション、在宅呼吸ケアなどと広がる有機的な支援体制が一層必要となってきています。「包括ケア」というキーワードは、このような状況から必然性を持って浮上してきました。この10年余りでICU、一般病棟、在宅での人工呼吸が大きく変遷しつつあります。1990年代半ばから非侵襲陽圧換気療法（NPPV）の導入が始まり、現在では慢性呼吸不全急性増悪時の人工呼吸の第一選択がNPPVとなり、スタッフの習熟とともに、一般呼吸器病棟でも当たり前のよう導入されるようになりました。そのような状況を背景として今後、急性期から慢性期にかけて「包括的呼吸ケア」という概念は今後一層の重要性を増してくるものと考えます。当科ではこのような時代の要請に合わせて、医師だけでなく病棟スタッフの教育・指導を行っています。

当科では以下のように呼吸器疾患の加療にあたっています。

【肺がん】

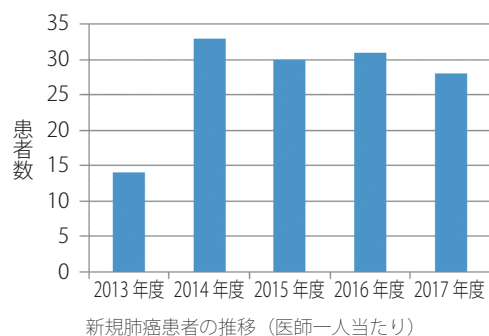
肺がんの治療法はここ数年でめざましい進歩をとげています。イレッサを始めとする分子標的薬剤は、耐性遺伝子を標的とした第3世代のEGFR-TKI（タゲ

リッソ）の時代を迎え、また、ALK阻害薬もアレセンサを始めめざましい生存期間延長をもたらしています。

さらに、2016年から臨床現場で使用可能となった免疫チェックポイント阻害薬（オプジーボ、キイトルーダ）は医療経済的な問題をはらんでいるものの、従来EGFR-TKIやALK阻害薬の恩恵にあずかることのなかった扁平上皮癌の患者さんを中心に大きな利益をもたらすこととなりました。当院呼吸器内科ではこれらの新規薬剤を積極的に導入し、全国的に見ても高い水準の肺癌治療が行える体制を整えています。

また、当院では初診から治療まで呼吸器外科と放射線治療部と連携し、最速で2週間程で診断後治療に入れます。市内の大病院では治療まで一ヶ月前後かかるにもかかわらず、まだまだこの地域の患者さん達は市内の病院へ目を向けていると思われる。当院も市内と変わらないレベルの治療を行うことができることを知っていただき、もっと当院で肺がんの方々の診療ができればと思います。

さらに、当院では局所麻酔下胸腔鏡などの最新の診断・治療技術を積極的に導入しています。



【感染症】

当科で扱うのは主に肺炎です。高齢化の影響で誤嚥性肺炎なども多く、繰り返される傾向にあり、最近では治療に難渋する傾向があります。また、肺結核を早期診断し、外来加療を行うとともに結核病棟のある病院への紹介も行っています。さらに、最近増加している非結核性抗酸菌症の加療も行っています。

【気管支喘息】

吸入ステロイドの普及に従い、10年前と比べ喘息死は半数以下となっていますが、まだまだ普及していないように思います。大学などと連携し、この地域の喘息患者さんに良い治療があることを知ってもらうことが大事だと思っています。

【COPD（慢性閉塞性肺疾患）：肺気腫、慢性気管支炎など】

マスクミを通じての啓発運動により、ここ数年でだんだんこの疾患名も知られてきました。日本人の場合は、喫煙が原因です。当院では早期診断し、吸入薬などによる加療や必要に応じて在宅酸素療法の導入を行っています。

【びまん性肺疾患】

特発性間質性肺炎などです。早期診断し、薬物が効くタイプを鑑別することが大事です。当科では気管支鏡や画像診断で早期発見に努めています。

【睡眠時無呼吸症候群】

外来または入院でPSG検査を行い耳鼻咽喉科とも連携しつつ、CPAP等の導入を行っています。最近、導入される開業医の先生方も徐々に増えて来られたので、逆紹介も行いたいと思っています。

その他にも様々な分野の呼吸器の疾患がありますが、当科は広島大学病院呼吸器内科や市中の病院の呼吸器科と連携をはかり、最新の知見を吸収しつつ広島県西部地区の医療に貢献できればと思っています。

循環器内科

■ スタッフ

心臓血管内治療科主任部長

辻山 修司

日本循環器学会専門医

主任部長 前田 幸治

日本循環器学会専門医

CVIT 指導医

主任部長 (心臓カテーテル室担当)

莊川 知己

日本循環器学会専門医

日本内科学会専門医

部長 渡邊 義和

日本循環器学会専門医

日本不整脈心電学会専門医

部長 赤澤 良太

日本循環器学会専門医

部長 藤原 敬士

日本循環器学会専門医

医員 石橋 直樹

■ 診療科紹介

冠動脈形成術を中心とした冠動脈の治療（急性心筋梗塞は 80 件／年）、下肢動脈の治療を主に、高血圧や心不全の治療にも力を入れています。

不整脈専門医の渡邊医師を中心に、これまでのペースメーカー治療に加え、心房粗細動や、心房頻拍に対するカテーテル治療、心臓同期治療や植え込み型除細動器も当院で施行可能となっています。

【冠動脈形成術】

薬剤溶出性 STENT を中心に、必要であればロータブレーターも使用し、232 件／年のカテーテル治療をこなしています。そのうち緊急は 124 件で、夜間でも緊急対応しています。

主に上肢の橈骨動脈からアプローチし、患者さんの負担軽減にも努めています。下肢動脈形成は、心臓血管外科主導で、当科の藤原医師が積極的に参加施行しています。

【不整脈】

徐脈性不整脈に対するペースメーカー治療は、新規で 40 件／年施行しました。可能であれば、生理的な DDD ペースメーカーを選択するよう努めてい

ます。

植え込み型除細動器の新規植え込みも 9 例／年施行しました。

頻拍性不整脈に対するアブレーションも現在は火曜日のみの限定ではありますが、83 件／年（約倍増）施行しました。

特に心房細動に対しての治療は、抗凝固療法の中止や心不全増悪の予防にも効果が見込まれ、近隣の医療機関からの要望も増えています。



〈カテーテル室でのアブレーション風景〉

腎臓内科

■スタッフ

主任部長 荒川 哲次 (1998年広島大学卒業)

日本内科学会総合内科専門医・指導医

日本腎臓学会腎臓専門医・指導医

日本透析医学会透析専門医・指導医

部長 清水 美奈子 (2009年島根大学卒業)

日本内科学会認定内科医

日本腎臓学会腎臓専門医

日本透析医学会透析専門医

医員 板倉 崇帆 (2013年広島大学卒業)

医員 新開 泰 (2015年川崎医科大学卒業)

日本内科学会認定内科医

■診療科紹介

2018年4月より清水医師が新たに着任し、前任の荒川・板倉・新開各医師と合わせ現在4人体制で診療を行っています。

各医療機関の先生方から多くの患者さんを紹介して頂いており、外来および入院患者数は県内有数です。

また、当院は日本腎臓学会研修施設および日本透析医学会教育関連施設に認定されています。

現在、日本には約32万人の透析患者さんがおり、これは国民450人に1人に相当します。近年の高齢化社会を反映しての糖尿病性腎症と高血圧性腎硬化症の増加に伴い、現在も年1万人弱程度の割合で透析患者数は増加しており、今後もさらに増加することが予想されています。

また、慢性的に腎機能が低下している透析予備軍を「慢性腎臓病」と呼び、現在、日本には約1,300万人の慢性腎臓病患者がいると推定されています。これは、成人の約8人に1人にあたる数ですが、こちらも透析患者と同様に急激に増加傾向にあります。「慢性腎臓病」はこれだけ頻度の高い国民病であるにもかかわらず、患者さんの大部分は何の症状もないまま、徐々に腎機能が低下していき、末期腎不全へと進行していきます。また、慢性腎臓病は透析予備軍であるだけでなく、心・血管疾患の発症と生命予後に強く影響を与えていることが多くの研究で明らかにされており、透析回避および心血管疾患の予防の観点から、慢性腎臓病をいかに治療していくかが現在大きな問題となっています。

当科では、原発性糸球体・尿細管間質性疾患、高血圧、糖尿病、膠原病、血液疾患などに伴う全身性

腎疾患、急性腎障害、高血圧、電解質異常など、あらゆる腎臓病に対し幅広く診療に当たっています。腎炎に対しては腎生検を中心とした診断とその診断結果の基づいた集学的な治療を、また腎不全に対しては食事・薬物療法などによる保存的加療および透析療法を実施しています。



写真1 当科での腎生検

透析療法に関しては積極的に腹膜透析 (PD) 導入を推進しているのが当院の特徴であり、また、血液透析 (HD)、各種疾患に対するアフェレシス療法も積極的に行っています。



写真2 血液透析室

■診療実績

2018年度実績

腎生検数	26例
血液透析患者数(延べ)	5,278件
腹膜透析患者数	21名

■教育・研修活動

研究会、学会への参加および発表などを積極的に行っています。また、若手に対するセミナーなどへの積極的な参加を奨励しています。

糖尿病代謝内科・糖尿病センター

■ スタッフ

副院長、主任部長

石田 和史 (1986年卒、1988年4月～)

部長 三玉 康幸 (2007年卒、2015年10月～'19年3月)

医員 濱岡 彩 (2013年卒、2017年4月～)

医員 由田 彩佳 (2014年卒、2018年4月～)

日本糖尿病療養指導士：21名

■ 診療状況

糖尿病 外来受診患者実数 計 3,073名 (平均年齢 68.7歳、平均罹病期間 19.3年、平均通院期間 12.0年、インスリン治療者の割合 34.0%)

(1型糖尿病 7.4%、2型糖尿病 91.4%、その他 1.2%)

糖尿病入院患者 164名 / 他科周術期管理 361名)

※ 2008年8月に開始した広島県西部地区糖尿病連携パス紹介患者総数 504名 (うち 212名が継続通院中、全通院患者の約 7%を占める)

図1 インスリン注射回数の内訳 (1型には緩徐進行型も含む)

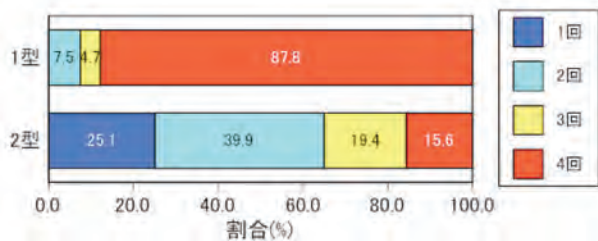


図2 2型糖尿病における治療内容の内訳 (重複あり)

図3 年間平均HbA1cの内訳

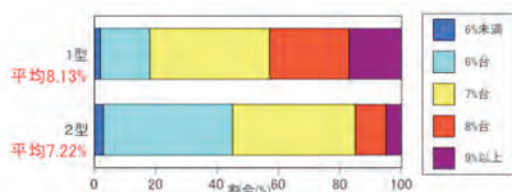
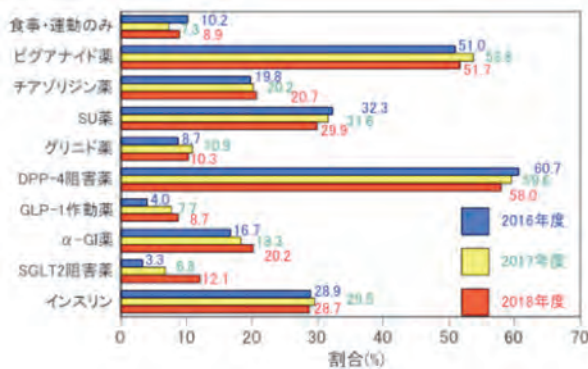


図4 2型糖尿病における年代別治療状況 (SU薬 and/or インスリン使用：有→+、無→-)

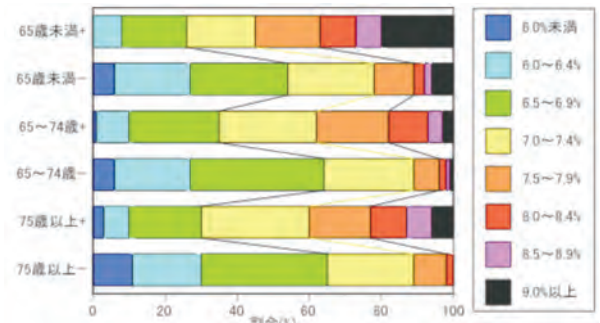
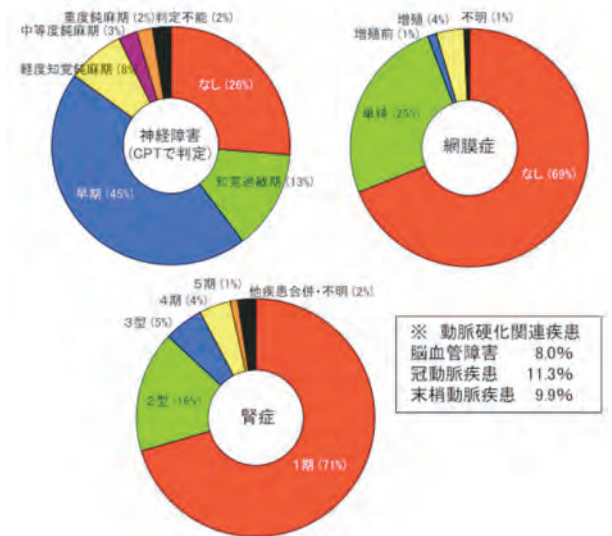


図5 定期通院患者の合併症の状況



甲状腺疾患 723名 (バセドウ病、慢性甲状腺炎のみ / 糖尿病合併例を含む) ※甲状腺腫瘍病変は他科で取り扱い

下垂体機能低下症および副腎機能低下症 若干名

■ 研究活動

研究テーマ

- 1) 電流知覚閾値検査 (CPT) を用いた糖尿病神経障害の病期および治療効果の評価 (実臨床における DPP-4 阻害薬の神経障害進展阻止作用)
- 2) 体組成分析 (インピーダンス法) を用いた臨床研究 (体組成に着目した適正な糖尿病治療薬選択の究明)
- 3) CGM を用いた薬剤効果の比較研究
- 4) 患者 QOL 向上を重視したテーラーメイド治療法確立の試み
- 5) 糖尿病地域連携パスの有効性検証

消化器内科

■ スタッフ

副院長、消化器内科主任部長、内視鏡センター長

徳毛 宏 則 (Hironori Tokumo) 1980 年卒
認定内科医、消化器病学会専門医・指導医
消化器内視鏡学会専門医・指導医

内視鏡科主任部長、緩和ケア科主任部長

小松 弘 尚 (Hironao Komatsu) 1985 年卒
認定内科医、消化器病学会専門医・指導医
消化器内視鏡学会専門医・指導医

肝臓内科主任部長、消化器内科部長

相坂 康 之 (Yasuyuki Aisaka) 1990 年卒
認定内科医、消化器病学会専門医・指導医
肝臓学会専門医・指導医

肝臓内科主任部長（代謝領域担当）、消化器内科部長

兵庫 秀 幸 (Hideyuki Hyogo) 1992 年卒
総合内科専門医、消化器病学会専門医・指導医
肝臓学会専門医、消化器内視鏡学会専門医

膵・胆道内科主任部長、消化器内科部長

藤本 佳 史 (Yoshifumi Fujimoto) 1993 年卒
認定内科医、消化器病学会専門医・指導医
胆道学会認定指導医

食道・胃腸内科主任部長、消化器内科部長

古土井 明 (Akira Furudoi) 1993 年卒
総合内科専門医、消化器病学会専門医・指導医
消化器内視鏡学会専門医

肝臓内科主任部長（光学医療担当）、消化器内科部長

野中 裕 広 (Michihiro Nonaka) 1997 年卒
総合内科専門医、消化器病学会専門医・指導医
消化器内視鏡学会専門医・指導医
肝臓学会専門医、がん治療認定医

医 員 隅 岡 昭 彦 (Akihiko Sumioka) 2014 年卒

医 員 村 田 愛 (Ai Murata) 2014 年卒

医 員 石 橋 一 樹 (Kazuki Ishibashi) 2015 年卒

■ 診療科紹介とトピックス

消化器内科の診療スタッフは総勢 10 名となっています。消化器といっても多数の臓器があり、消化器内科が担当する疾患は多岐にわたります。当科では各臓器領域の専門指導医がスタッフ間で連携を取りながら診療にあたっており、すべての消化器疾患に適切に対応することができる体制となっています。

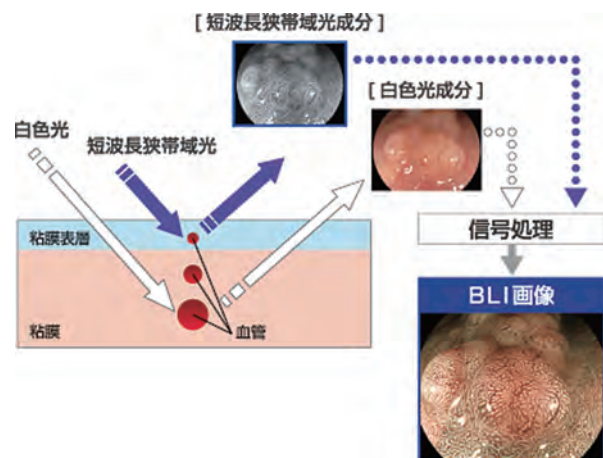
当科は近隣の病院やクリニックとの連携に力をいれており、様々な勉強会研究会共同活動を行っています。主な活動をあげると、RIGD Net（固い絆：地域相互消化器医師ネットワーク）、広島西部地域食

道胃腸疾患研究会、膵癌胆道癌教室、広島胃瘻と経腸栄養療法研究会（広島ページェント）などです。これらの情報は末尾の JA 広島総合病院消化器内科フェイスブックから確認できます。

当科では「膵臓がん胆道がん教室」という、患者さんやご家族を対象とした患者支援事業を行っています。当院医師や地域の先生方のみならず多職種専門職とともに毎月 2 回全 4 回のシリーズで様々な催しを行っています。

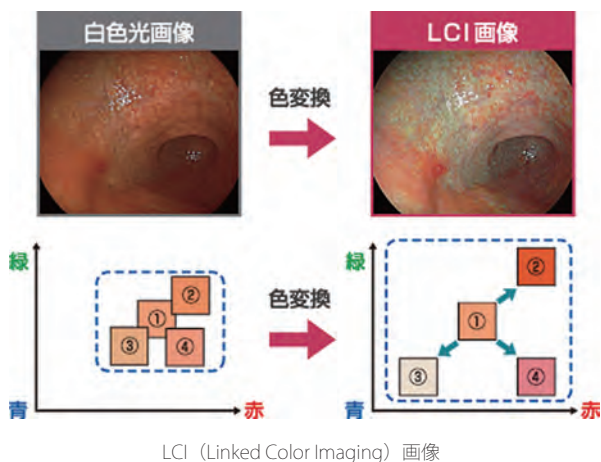
2018 年の当科のトピックは、特殊光による内視鏡撮影です。（以下フジメディカルシステム HP より引用）

LASEREO システムのレーザー光源装置は白色光用と BLI 用の 2 つの波長のレーザーを搭載しています。白色光用レーザーは、蛍光体を発光させて白色光照明を得るための励起光として使用します（波長幅は 2nm、発振波長の個体差は 440～460nm の範囲内）。BLI 用レーザーは血管・表面構造の情報を高コントラストな信号として取得するために使用します（波長幅は 2nm、発振波長の個体差は 400～420nm の範囲内）。2 種類のレーザーの発光強度比を変えることで、白色光観察と狭帯域光観察それぞれに適した光を照射し、画像処理との組合せによって 4 つの観察タイプを切替えて使用できます。



BLI (Blue LASER Imaging) 画像

短波長狭帯域光観察 BLI は、表層血管観察に適した短波長レーザー光を照射して得られる高コントラストな信号に画像処理を行うことによって、血管や表面構造の観察に適した画像を表示します。



LCI (Linked Color Imaging) 画像

赤みを帯びた色はより赤く、白っぽい色はより白くなるように色の拡張・縮小を行い、粘膜の微妙な色の違いを強調し、炎症診断をサポートします。

肝臓領域では肝臓疾患の専門指導医である相坂康之により最新の抗ウイルス薬による治療が行われています。C型肝炎の治療は、2011年に抗ウイルス内服薬とインターフェロン注射、リバビリン内服薬の3剤の併用療法が認可され、2014年には内服薬だけでウイルスの排除ができる抗ウイルス薬が登場しました。さらに、最近では12週間という短い期間の治療で済む抗ウイルス薬が登場し、治療の選択肢が広がりました。現在まで当院では多数の患者様がこれらの治療を受け、治療効果は9割以上の高率であり、C型慢性肝炎は治る病気であると言える状況になっています。

肝臓領域でのもう一つの大きな話題は非アルコール性脂肪性肝疾患 (NAFLD) や非アルコール性脂肪性肝炎 (NASH) です。いわゆるお酒を飲まない人に起こる脂肪肝のことで、この領域のリーダーである兵庫秀幸と野中裕広がNASH専門外来を開設し診療しています。さらに、全国多施設での共同研究を進めるとともに糖尿病治療薬によるNASH改善の多施設共同の臨床研究なども進めています。

消化器内科のさまざまな検査処置を行う場である内視鏡センターでは、充実した内容の診療をしています。経鼻内視鏡など人に優しい内視鏡機器、安楽な内視鏡検査処置を目的として二酸化炭素送気によ

る検査や鎮静麻酔下での内視鏡処置なども行っています。

食道や胃腸といった消化管の分野では、早期癌等に対して内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD) という侵襲の少ない革新的な方法のプロフェッショナルである古土井明が活躍しています。また、胃瘻に関しては全国的に先進的な取り組みを行っている施設として知られています。

■ 研究活動

当科は、実地臨床の中で積極的に臨床研究を行い、本誌別記のごとく多数の学会発表や論文での報告を行っています。

■ 検査実績

消化器内科・内視鏡センター検査処置件数 (2018年度)	
上部消化管内視鏡検査 (含小腸内視鏡)	4,786
上部消化管内視鏡処置 (含EUS)	644
十二指腸内視鏡検査処置 (ERCP等)	236
小計	5,666
下部消化管内視鏡検査	1,381
下部消化管内視鏡処置治療	1,071
小計	2,452
全消化管検査処置合計	8,118
腹部超音波検査 (含造影US)	4,707
腹部超音波下処置	100
超音波関連検査処置合計	4,807
その他 (造影等)	110
消化器内科検査処置合計	13,035



フェイスブック <https://www.facebook.com/GH.JAHGH>

小児科

■スタッフ

主任部長 診療部長

辻 徹 郎 (1993 年卒)
日本小児科学会専門医・指導医
日本アレルギー学会専門医

部 長 小 野 大 地 (2010 年卒)
日本小児科学会専門医

副 部 長 森 本 彩 (2011 年卒)
日本小児科学会専門医

医 員 梶 間 理 人 (2011 年卒)

嘱託医師 中 畠 千 恵 子 (1970 年卒)
日本小児科学会専門医・指導医

嘱託医師 岡 島 宏 易 (1980 年卒)
日本小児科学会専門医・指導医
日本アレルギー学会専門医・指導医

■診療科紹介

当科は常勤医師4名、嘱託医師2名の計6名で外来、病棟診療を行っています。常勤医師の辻と嘱託医師の岡島の両名はアレルギー領域を専門としており、感染症をはじめとする一般小児科診療に加え、気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギーなどのアレルギー疾患に対しては、特に専門的診療が可能となっています。

気管支喘息診療に関しては、県内でもトップクラスの肺機能検査実施件数をほこり、呼気NO濃度測定や気道過敏性検査なども積極的に実施しています。昨年から強制オシレーション法による呼吸抵抗の測定も可能となり、これまでは肺機能の客観的評価が困難であった低年齢児での肺機能検査件数も増えつつあります。その他、重症喘息症例に対する生物学的製剤の投与も積極的に行っています。

アトピー性皮膚炎診療に関しては、生後早期からの保湿剤を用いたスキンケアの導入による発症予防を積極的に心がけています。発症後の治療に関しても、アレルギーマーチ進行を抑制する観点から、ステロイド外用剤を上手く用いた積極的な寛解維持療法により、新たな抗原感作を防ぐことや食物アレルギーの合併対策を行っています。

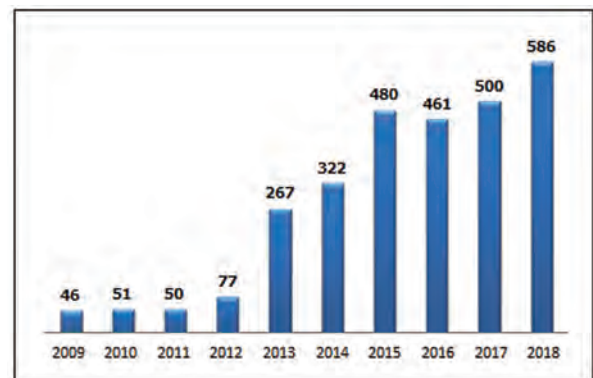
食物アレルギー診療に関しては、経口負荷試験に

よる正確な原因食物の診断及び必要最低限の除去を行い栄養面での問題を最小限にするとともに、近年は早期の耐性獲得を目的として、原因食物を普段から少量ずつ摂取する経口免疫療法を行う症例も増えつつあります。

勿論、こどもの総合診療医として、アレルギー領域に偏らず幅広い領域の診療ができるよう研鑽を積むとともに、必要に応じて各領域の専門医が所属する県内医療機関との速やかな連携も可能です。

■診療実績

食物アレルギー経口負荷試験 (OFC)



OFC 実施件数推移

肺機能検査

2016 年	147 件	2017 年	183 件
2018 年	229 件		

呼吸抵抗測定

2016 年	79 件	2017 年	69 件
2018 年	77 件		

気道可逆性検査

2016 年	170 件	2017 年	133 件
2018 年	213 件		

気道過敏性検査

2016 年	11 件	2017 年	5 件
2018 年	3 件		

外科

■ スタッフ

副院長、医療福祉支援センター長

中 光 篤 志 (1982 年卒)

日本外科学会専門医

日本消化器外科学会認定医

化学療法室 室長

今 村 祐 司 (1983 年卒)

日本外科学会専門医・指導医

日本消化器外科学会専門医

診療部長、一般外科センター長、肝・胆・膵外科主任部長

佐々木 秀 (1991 年卒)

日本消化器外科学会専門医・指導医

日本肝胆膵外科学会高度技能指導医

消化管外科主任部長

香 山 茂 平 (1993 年卒)

日本消化器外科学会専門医・指導医

日本内視鏡外科学会技術認定医 (大腸)

腹部救急治療科主任部長

田 崎 達 也 (1997 年卒)

日本消化器外科学会専門医・指導医

日本内視鏡外科学会技術認定医 (ヘルニア)

消化管外科主任部長 (上部消化管外科担当)

杉 山 陽 一 (1997 年卒)

日本消化器外科学会専門医・指導医

本内視鏡外科学会技術認定医 (胃)

消化管外科部長

新宅谷 隆 太 (2008 年卒)

日本消化器外科学会専門医

消化管外科部長

平 野 利 典 (2010 年卒)

日本消化器外科学会専門医

医 員 海 氣 勇 気 (2012 年卒)

日本外科学会専門医

医 員 新 原 健 介 (2014 年卒)

医 員 岡 本 暢 之 (2014 年卒)

■ 診療科紹介

上部消化管 (杉山)、下部消化管 (香山・平野)、肝・胆・膵 (佐々木・新宅谷)、ヘルニア/甲状腺 (田崎) の臓器別チームに分かれ、安全な手術と周術期管理をこころがけています。各チームリーダーはそれぞれの領域で、県下で数少ない日本内視鏡外科学会技術認定医資格 (胃、大腸、ヘルニア)、日本肝胆膵外科学会高度技能指導医資格を有し、治療成績を積極的に学会で発表しています。



■ 診療実績

主な手術件数は以下のとおりです。

・ 上部消化管外科

食道癌手術 4 例、食道裂孔ヘルニア 2 例、胃・十二指腸潰瘍 8 例、胃悪性腫瘍手術 76 例 (腹腔鏡 36 例)、胃空腸バイパス術 7 例

・ 下部消化管外科

大腸悪性腫瘍手術 162 例 (腹腔鏡 137 例)、直腸良性疾患 25 例、人工肛門造設 17 例、虫垂切除 79 例 (腹腔鏡 67 例)、腸閉塞手術 33 例 (腹腔鏡 6 例)

・ 肝・胆・膵外科

肝切除 18 例 (腹腔鏡 8 例)、膵頭十二指腸切除 19 例、膵体尾部切除 8 例 (腹腔鏡 6 例)、膵中央切除 1 例、胆嚢摘出 158 例 (腹腔鏡 145 例)、総胆管結石手術 11 例

・ 鼠径部・腹壁ヘルニア外科

鼠径部ヘルニア 187 例 (腹腔鏡 166 例)、腹壁ヘルニア 22 例 (腹腔鏡 7 例)、閉鎖孔ヘルニア 1 例

・ 甲状腺外科

甲状腺悪性腫瘍手術 2 例

■ 研究活動

日本外科学会、日本消化器外科学会、日本肝胆膵外科学会、日本外科感染症学会の修練・認定施設です。

■ その他の活動

2018 年 6 月に、地域の先生方、当院消化器内科医とともに「もっと知らんと胃けんよ、胃がんの話」というテーマで市民公開講座を開催しました。当科からは外科治療について講演しました。

乳腺外科

■ スタッフ

主任部長 大原正裕 (2000年卒)
 日本外科学会専門医
 日本乳癌学会専門医 指導医

部長 板垣友子 (2002年卒)
 日本外科学会専門医
 日本乳癌学会専門医

医員 木村優里 (2013年卒)
 日本外科学会専門医

■ 診療科紹介

2017年から引き続き2018年も上記3名体制で診療を行いました。これまで通り、外来診療は2つの診察室にて行い、少しでも待ち時間が短縮できるように留意しています。年間600名近くの初診患者さんに来院いただき、患者さんの外来での動線短縮を目的に、外来診察室にて臨床検査科・中央放射線科技師による乳腺エコー業務を行っています。

化学療法室とのカンファレンス・遺伝性乳癌卵巣癌症候群についての産婦人科とのカンファレンスを新設し積極的に行いました。周術期の治療方針についても、放射線治療科・診断科・多職種とのカンファレンスにて決定しました。

新規薬剤（リムパーザ®・イブランス®）についても患者さんに遅滞なく使用できるよう適応に注意し治療方針をカンファレンスで選択しました。

前主任部長である川淵医師がはつかいち乳腺クリニックを開業されましたので、今まで以上に拠点病院として精査・治療に専念できる体制づくりを心がけ、積極的に地域連携パスの運用を行いました。

広島西部においても他と遜色ない乳腺診療が行えるように診療情報を更新していきます。今後は遺伝カウンセリング外来の立ち上げを計画し、予防的乳房切除や予防的卵管卵巣切除が可能となるように体制を整えていきます。

■ 診療実績

〈手術〉

乳腺悪性腫瘍手術

胸筋温存乳房切除術	71
皮膚温存乳房切除術	3
乳頭温存乳房切除術	3
乳房部分切除術	61
腫瘍摘出術	3

小計 (件) 141

腋窩リンパ節郭清 26

センチネルリンパ節生検

→腋窩リンパ節郭清 8

センチネルリンパ節生検 130

乳房再建

エキスパンダー 4

インプラント 3

腹直筋皮弁 3

乳腺再発手術

小計 (件) 3

乳腺良性手術

小計 (件) 13

その他

小計 (件) 3

合計 (件) 160

〈外来化学療法〉

術前化学療法 25

術後化学療法 11

進行再発化学療法 48

合計 (名) 84

整形外科

■ スタッフ

病院長 藤本吉範 (2002年4月～)
 主任部長 田中信弘 (2018年4月～)
 部長 山田清貴 (2009年4月～)
 部長 橋本貴士 (2011年4月～)
 部長 平松武 (2015年4月～)
 医員 丸山俊明 (2017年4月～)
 医員 福井博喜 (2018年4月～)

以下の如く各スタッフが専門領域を担当しています。

脊椎・脊髄疾患：藤本、田中、山田、平松

関節外科：橋本

外傷：橋本、平松、丸山、福井

■ 診療状況

整形外科は2018年4月から田中信弘医師、福井博喜医師が赴任し、藤本病院長以下7名が常勤として勤務しています。広島大学整形外科より3名の非常勤医師の派遣を受け、近年の手術件数のさらなる増加に対応しています。当科は広島県西部地区の基幹病院として地域の病院、医院の先生方と密接に連携を取りながら診療を進めています。2018年度の初診患者数は2,753名で、引き続き多くの患者さんを紹介して頂いています。また、地域医療支援病院紹介率は109.3%で、当院で手術した患者さんは再び地域の先生にご加療いただいています。

2018年度の手術件数は1325例です。そのうち頸椎手術が144例、腰椎手術が649例と脊椎・脊髄疾患の手術が多いのが当院整形外科の特徴です。広島県内のみならず、中・四国地方、関西、関東からも藤本病院長のもとに紹介されて来られる患者さんも多くおられます。

また、当科では経皮的椎体形成術を先進医療として中国四国厚生局から認可された唯一の施設として積極的に行ってきました。2011年からは経皮的後弯矯正術として保険診療が可能となり、継続して多く行っています。2018年度の後弯矯正手術例は114例です。さらに腰椎椎間板ヘルニアの治療では、当院では顕微鏡視下ヘルニア摘出術を基本術式としていますが、新しい手術方法である全内視鏡椎間板ヘルニア摘出術も行っており、2018年度までに66例と症例数が増えてきています。

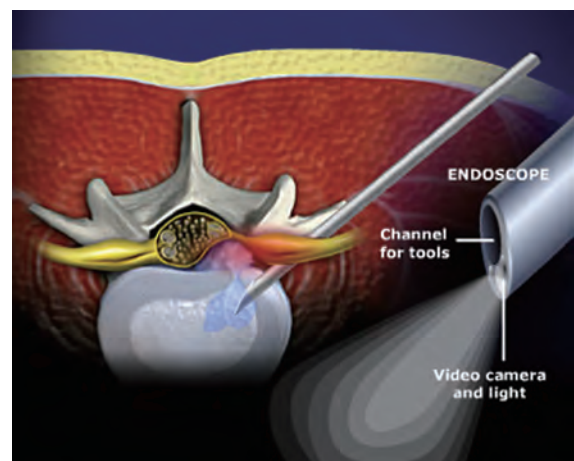
2013年に病院内に開設された脊椎・脊髄センター

(センター長：山田清貴、副センター長：平松武)は、脊椎・脊髄疾患の治療を、医師とコメディカルが密接な連携を取りながらチームとしてより集学的に行うことを目標としています。脊髄損傷や化膿性脊椎炎など重篤な障害の治療も、積極的に行っています。

また、整形外科診療の大きな柱のひとつである人工関節置換術については、橋本医師が中心となり股関節・膝関節の治療を積極的に行っています。地域の先生方から患者さんをご紹介いただくことも多く、手術症例数は年々増加しています。

骨折や靭帯損傷など整形外科の基本的な外傷は、2011年に当院に開設された地域救命救急センターの医師と互いに協力しつつ、多くの患者さんの治療にあたっています。当院には多数の救急搬送がありますが、救命救急医による全身状態のチェックを受けた上で、整形外科的外傷に対して、質の高い治療を行うよう心がけています。また大腿骨頸部骨折の手術と後療法については、アマノリハビリテーション病院、廿日市記念病院、大野浦病院と当院で地域連携診療を行っており、年4回の連絡会議を行い、円滑に治療が進むように努めています。

手術症例数が多いのが当科の特徴です。しかし一方で学会や研究会での活動も大切と考え積極的に行っており、国際学会にも演題が採用され発表の機会が増えています。当科の治療成績は良好なものと思われませんが、学会・研究会で発表し、評価を受けながら常にこれを向上させる姿勢を持ち続けて行きたいと考えています。



全内視鏡椎間板ヘルニア摘出術：局所麻酔下に直径6ミリの内視鏡を用いてヘルニア摘出を行います。

形成外科

■ スタッフ

部長 長谷川 美 紗 (2003年広島大学卒業)
 医学博士
 日本形成外科学会専門医
 小児形成外科分野指導医
 日本創傷外科学会専門医

■ 診療科紹介

形成外科は、身体に生じた組織の異常や変形、欠損、または整容的な不満足に対して、あらゆる手法や特殊な技術を駆使し、機能のみならず形態的にもより正常に、より美しくすることによって、患者さんの生活の質の向上に貢献する、外科系の専門領域です。特定の臓器や部位が治療対象な訳ではありませんので、対象症例は多岐にわたります。

当科で特に力を入れているのは、加齢性眼瞼下垂症で、除皺術、上眼瞼挙筋前転術、筋膜移植術、すべての術式に対応しています。

眼瞼周囲の疾患以外にも、腫瘍切除後の再建や外傷に伴う組織欠損、先天性疾患、難治性潰瘍など幅広く診療しています。

■ 診療実績

初診患者数	320 例
手術症例数	計 224 件
内訳 全身麻酔	56 件
腰麻・伝達麻酔	29 件
局所麻酔	139 件

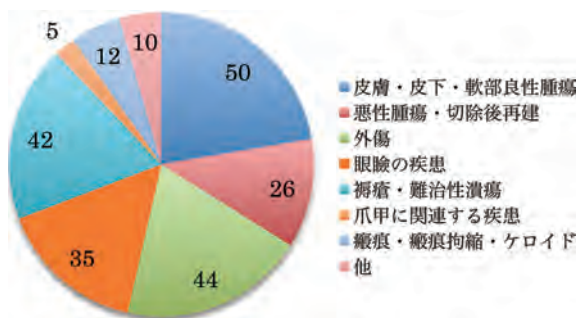


図1 2018年 形成外科手術内訳

■ トピックス

・日本創傷外科学会専門医の取得

日本創傷外科学会は、形成外科的観点から各種創傷の治療法の開発や検証を行い、外傷、熱傷創などの新鮮創傷から褥瘡や難治性潰瘍など陳旧創傷までの幅広い創傷治療、いわゆる「きず」治しの専門家を育成する目的で、2008年に創立された臨床医学会です。

交通事故による挫滅を伴う外傷や低温熱傷は創治療に時間を要することがあり、またベースに虚血がある場合はどんな外用剤を用いても時間をかけても治療しません。一概に「きず」と言いましても治療は簡単ではないことは多いです。この度、長谷川が本学会の専門医を取得しました。「きず」に対して保存的にも外科的にも対応できますので、お困りの際にはご紹介いただければと存じます。

・虚血肢の術式別症例数

当科では血管外科とともに多くの虚血肢症例の治療に当たっています。虚血による潰瘍、壊死を生じた患者に対して断端形成術や切断術を当科が施行しています。年間の患者数25人(うち透析患者16人)、手術件数33件、2018年は大切断が多い年であり、大腿・下腿切断の合計12件でした。うち7件は透析患者であり、当院での血行再建治療歴の長い方々でした。当院では余命が残されている間は患肢の救済に努めています。

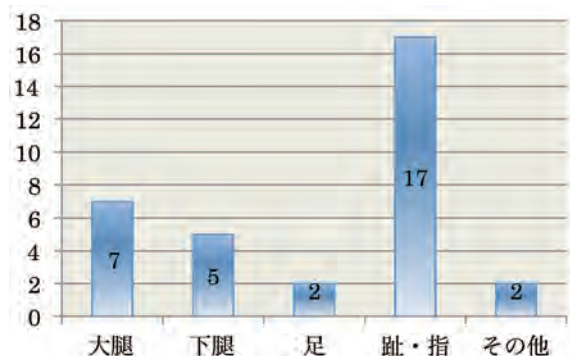


図2 2018年 虚血肢の術式別症例数

脳神経外科

■ スタッフ

主任部長、急性期リハビリテーション主任部長

黒木 一彦 1991年広島大学卒
日本脳神経外科専門医
日本救急医学会専門医
日本脳卒中学会認定医
日本脳卒中の外科技術指導医

部長 品川 勝弘 2002年広島大学卒

日本脳神経外科専門医
日本脳神経血管内治療学会認定専門医

部長 野坂 亮 2004年大分大学卒

日本脳神経外科専門医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医

上記のスタッフで地域市民の脳を24時間体制で守っています。

■ 診療科紹介

当科では脳梗塞、一過性の虚血発作、脳血管狭窄、脳出血、くも膜下出血、脳動静脈奇形、脳腫瘍、頭部外傷、髄膜炎、原因不明の意識障害、顔面けいれんや三叉神経痛、水頭症など多岐にわたって診療、治療をおこなっています。2018年では610人の入院がありました。2018年手術数は合計173例；脳動脈瘤手術19例（clipping 14例、コイル塞栓5例）例、頸動脈ステント留置術（CAS）13例、脳腫瘍摘出術17例、血行再建術19例、開頭血腫除去術32例、慢性硬膜下血腫41例でした。

代表的な疾患である脳梗塞、脳出血、くも膜下出血、脳腫瘍における最近の治療について簡単に説明したいと思います。

【脳梗塞】大きく分けて脳塞栓症と脳血栓症に分類できます。脳塞栓症は心房細動などが原因となり、心臓などで形成された血栓が太い脳血管を閉塞する疾患です。致死的になることが多く、予防が極めて重要と考えています。最近の抗凝固薬は副作用の出血率が低く、他の薬との併用や食事に制限が必要なく、内服しやすくなっています。また、発症4時間30分以内では遺伝子組み換え組織型プラスミノゲン・アクティベータ（tPA）の投与、発症8時間以内で条件を満たす疾患であればカテーテルによる血

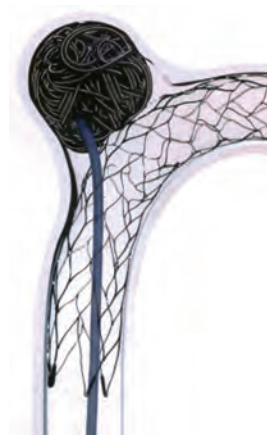
栓除去も可能となっています。最近のデータでは発症から24時間以内でも適応となる症例もあることがわかってきました。いずれにしても脳梗塞は時間との闘いになります。救急部の医師と連携し迅速に対応しています。tPAは時間経過だけでなく出血既往や手術既往、血圧や血糖、血小板数など禁忌項目も多く、適応を判断しつつ内頸動脈や中大脳動脈閉塞症例では同時にカテーテルによる血栓除去治療の準備を行います。発症早期の脳梗塞患者が搬送されると担当脳神経外科医が速やかに来院し、治療に取り組んでいます。このため3人の医師が24時間常に待機状態を強いられる過酷な勤務状況です。働き方改革に逆行するような仕事ぶりですが、幸い皆仕事に大きな情熱を持っている医師ばかりなので前向きに仕事に取り組んでいます。

また、一過性脳虚血発作などで発症する頸部内頸動脈狭窄病変が増加傾向にあります。血管内壁にアテロームといわれる粥腫が塞栓源となったり、血流低下が症状の原因となります。頸部を切開し、アテロームを切除する頸動脈内膜剥離術（CEA）という治療やカテーテル治療による血管拡張術（CAS）を行っています。血栓の状態や病変の位置などで治療方法の適応を判断しています。また中大脳動脈狭窄も一過性脳虚血発作の原因として多くみられる疾患です。この病態に対しては浅側頭動脈を頭蓋内血管と吻合する浅側頭動脈-中大脳動脈吻合術が予防治療として有効です。

【脳出血】高血圧管理に対する関心が高まり、開頭手術を要する脳出血の頻度は少なくなっています。出血量が多い場合には救命目的の開頭手術、中等量であれば機能改善を目的とした定位血腫除去を行っています。最近の症例は小出血が多く、点滴・降圧剤投与による保存的加療を行う症例が多くをしめています。小出血であっても錐体路に障害が及ぶと後遺症は必発です。予防的治療、生活習慣の是正がなにより重要だと考えています。

【くも膜下出血】脳動脈瘤が破裂をおこすことで

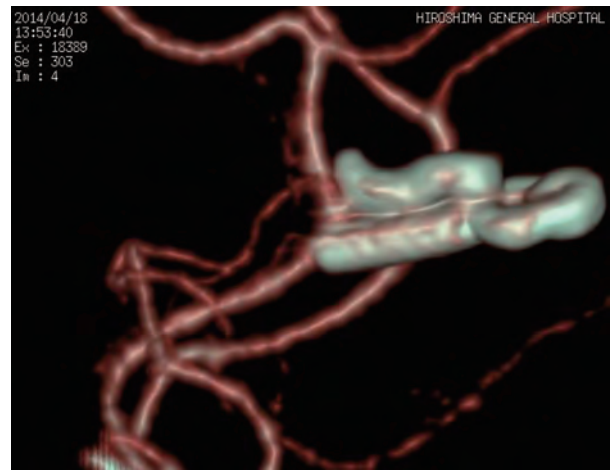
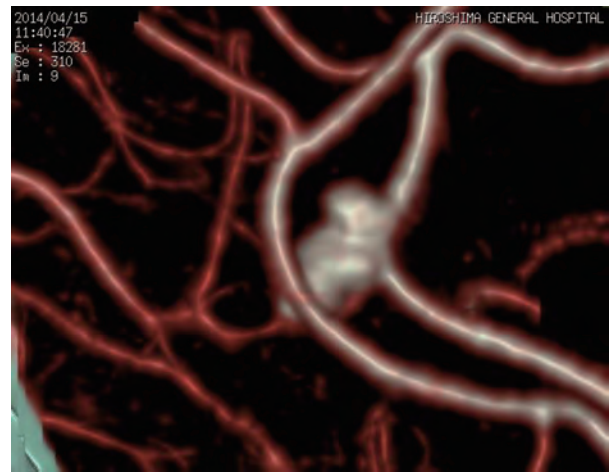
生じる疾患で、発症時の重症度によって軽度の頭痛から突然死までその症状には差がみられます。治療の目的は再出血予防であり、開頭クリッピング術と血管内コイル塞栓術があります。重症度、年齢、合併症、動脈瘤の部位・大きさ・形状により治療法を選択します。椎骨脳底動脈瘤や前床



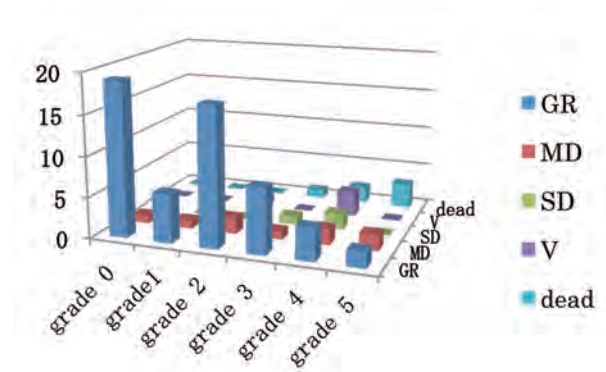
ステントアシストコイルの模式図

突起近傍動脈瘤はコイル塞栓術のよい適応です。以前は wide neck な動脈瘤はコイル塞栓術が困難でしたが、最近ではステントアシストコイルという新たな方法を用いることにより、治療の幅が広がっています。

開頭クリッピング術は症例の蓄積のある確立された治療法です。いびつな形状の瘤や wide neck、血腫を伴うくも膜下出血は開頭クリッピング術が適応となります。一般的に入院時重症度の高い症例や高齢者は予後も不良となる傾向が強いのですが、当科での治療成績は非常に良好であると自負しており、積極的に手術をお勧めしています。



遠位前大脳動脈瘤破裂
脳動脈瘤クリッピング前後の3D-CT画像



(grade0：無症状、grade Vは昏睡状態です)
開頭クリッピング術治療成績

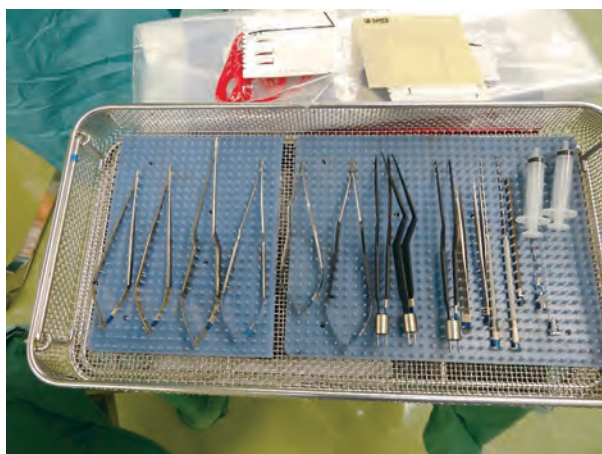
【脳腫瘍】脳腫瘍の発生率は1年間に10万人あたり10人くらいといわれ、そのほとんどが原因不明です。種類も細別すると100種類くらいありますが、70%は髄膜腫、神経膠腫、下垂体腫瘍です。脳腫瘍の多くは手術が必要と判断されますが、その目的には①腫瘍の種類を確認するため（生検）②腫瘍の体積を減らし放射線治療や化学療法を併用して治療する③全摘出で治癒を目指す大別することができます。腫瘍の部位、ひろがりや神経機能を総合評価し、治療方針を個々に検討します。脳内に発生する神経膠腫は grade I-IV までありますが、浸潤性に発育するため治癒が困難であり、特に grade IV においては30年以上にわたり治療成績が目立った改善がみられない難治腫瘍であり、今後の更なる研究が待たれるところです。

これまで当科では年齢を考慮し、手術治療を選択してきましたが、高齢者が以前より体力的に向上していること、手術技術、麻酔技術、術後管理が進歩していることから高齢者でも手術をためらう必要性は乏しいと感じています。

実際手術成績も他施設と比較し遜色はないと自負しています。

【慢性硬膜下血腫】

頭部外傷後1か月くらい経過して発症することが多い疾患です。硬膜下に徐々に血腫が貯留し、脳を圧迫することで歩行障害や手の巧緻運動障害、認知症などの症状を呈し、認知症と誤認されることもあります。穿頭洗浄術という簡単な手術で症状の改善がみられ、脳神経外科領域では最も多くみられる疾患です。



呼吸器外科

■スタッフ

主任部長 渡 正 伸 (1986年卒)
 日本呼吸器外科学会評議員
 日本外科学会指導医
 副部長 熊 田 高 志 (2010年卒)
 日本外科学会専門医
 医 員 伊 藤 林太郎 (2014年卒)

■診療科紹介

2001年10月に開設され、17年が経過しました。近年増加の一途である肺癌は、日本人の癌死亡の1位となっています。今日、外科分野では内視鏡を用いる内視鏡手術が主流となっています。大きく開胸して行う場合と比較し、低侵襲と言われています。故に、より専門性の高い技術が要求され、呼吸器外科専門医による専門的な診療、手術が必要です。

最近の年間手術症例は130-150例、そのうち肺癌根治術は50-70例を行っています。手術侵襲を最小限とするために胸腔鏡を多用しています。

また、肺疾患（COPDなど）や低栄養、低体力、高齢の肺癌患者さんなど、手術のハイリスク患者さんでは栄養科、リハビリテーション科と連携し術前から患者さんに関わり、肺疾患治療、栄養改善、体力改善などを行い耐術能力が向上した状態で手術を行うチーム医療を2009年よりいち早く導入して、良好な成績をあげています。低体力、低肺機能の肺癌症例に上記の術前管理を応用して根治術を行っています。

さらに、肺癌をより早期で発見するために胸部CT検診も2002年より人間ドックのオプションとして行っています。胸部CT検診の有用性は2011年の米国の報告（NLST）で証明され、県内でも実施する施設が増えてきました。しかし被曝線量を考慮し低線量CTで行う必要があり、胸部CT検診認定医による検診が必要です。

■診療実績

2018年度までの手術件数を図1に示します。上記の術前チーム医療を行うようになり、術後合併症は激減しています。

また2012年7月より開始した術前肺機能外来による潜在COPD患者の診断治療については、国内外

の数多くの学会で発表してきました。COPDは、今後日本人の死亡原因として上位にランクされるようになる疾患です。そのために、健康日本21（第2次）でもCOPDの認知度の向上とその早期発見を目標としています。我々は、術前肺機能外来という新規のシステムにより当院の外科系の全診療科の手術患者に対して、術前肺機能検査を通して潜在COPD患者の発見と、より良い周術期管理が期待できる新たな取り組みを提供しています。そして、当院で術前診断されたCOPD患者さんは退院時にかかりつけ医に逆紹介し、COPDの継続治療をお願いする病診連携を行っています。

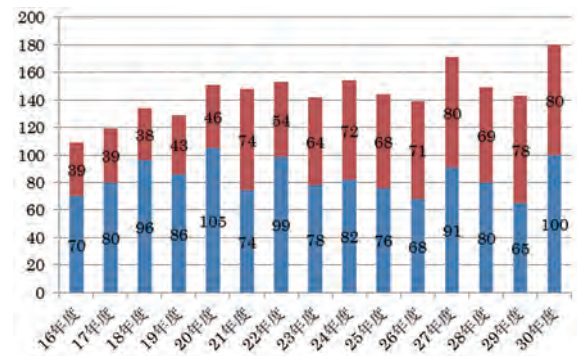


図1 肺癌根治術件数とその他の手術件数の推移
 肺癌根治術 (上段)、その他 (下段)

■今後の展望

2019年3月末で伊藤林太郎医師が転勤となりました。その補充について、将来的に第一外科教室からは派遣できないということが、第一外科より正式に通達がありました。欠員の補充と今後のスタッフの派遣に関しては、原医研外科教室に依頼しています。しかしながら2019年4月からの派遣は困難との回答がありました。2019年度の1年間は、1名欠員の状況になります。

広島大学医学部の臓器別再編から10年以上経過しましたが、ようやく当院呼吸器外科もスタッフの派遣を呼吸器外科のある原医研外科にお願いすることとなりますのでよろしくお願いします。

■研究活動

ハイリスク肺癌手術における工夫
 術前から開始する総合的周術期管理
 術前肺機能検査によるCOPDスクリーニング

心臓血管外科

■ スタッフ

主任部長 濱 本 正 樹 (1995 年卒)
心臓血管外科専門医、修練指導医
外科学会専門医、指導医

主任部長 (血管外科担当)
小 林 平 (1999 年卒)
心臓血管外科専門医、修練指導医
脈管専門医

部 長 小 澤 優 道 (2001 年卒)
胸部ステントグラフト指導医
腹部ステントグラフト指導医

医 員 白 川 賢 司 (2012 年卒)

■ 診療科紹介

心臓弁膜症

2018 年 4 月～2019 年 3 月の弁膜症手術は 46 例で、その約 40%に心房細動 (AF) を合併しています。AF を発症すると左心耳 (LAA) に血栓を形成するため、塞栓症予防のため抗凝固療法が必須となります。そこで AF を合併する弁膜症手術の際には同時に LAA を閉鎖します。LAA 閉鎖方法は、左房内腔から左心耳口を縫合閉鎖するか、左心耳を根部で切除して縫合する方法が主流です。閉鎖確認のため術後に造影 CT や経食道心エコーを行うと、約 40%の症例で LAA 閉鎖が不完全でした。海外論文でも、LAA 閉鎖成功率は約 40～60%であり (JTCS 2016 ; 152 : 1075-80)、縫合に変わる新たな閉鎖方法が必要となりました。2017 年秋に LAA 閉鎖専用の金属クリップ (AtriClip : Century Medical 社) が本邦で認可されました。その閉鎖成功率は 98.4%と高く (EXCLUDE 試験 : JTCS2011 ; 142 : 1002-9)、AF 手術を行う際は AtriClip を用いた LAA 閉鎖術を併施しています。術後、当科経験症例でも閉鎖成功率 100%と非常に良好な成績を得ています。当科では LAA を閉鎖しても AF が残存すれば抗凝固療法を継続しています。しかし、抗凝固療法がなくても AtriClip で LAA を閉鎖していれば心原性脳梗塞発症率を 93.1%軽減できたとの報告もあり (Europace 2018 ; 20 : e105-e114)、今後同様の報告が増えれば AtriClip 閉鎖例で抗凝固療法が不要となることも期待されます。

大動脈疾患

大動脈疾患は“瘤”と“解離”に大別され、“瘤”

は大きさと形状、“解離”は発生部位により治療の必要性が検討されます。低侵襲のステントグラフト治療が大動脈疾患の確立した治療法となり、これまで唯一の治療法であった人工血管置換術では治療困難なハイリスク症例に対しても治療の道が拓かれました。さらに、2つの治療を組み合わせるハイブリッド治療や、これまで保存加療が基本だった B 型解離に対する積極的ステントグラフト治療介入、など今なお大動脈疾患の治療戦略は変化しています。人工血管置換術とステントグラフト治療にはそれぞれ長所と短所があり、それらに精通し適切に選択することで治療成績の向上を目指しています。当院における 2018 年の大動脈手術症例は 73 例 (人工血管置換術 : 27 例、ステントグラフト治療 : 46 例) であり、手術死亡率は待期手術 3.7% (2 例 / 54 例)、緊急手術 21.1% (4 例 / 19 例) でした。

末梢動脈疾患

重症下肢虚血は今まで難治性と言われ、下肢切断に陥る場合が多い疾患でした。当院では 2009 年より弁切開刀を使用したバイパスで、下腿、足部を中心に血行再建を施行しています。この分野では日本有数の施設であり、8 割以上の症例で下肢を救うことができるようになってきました。2018 年は 334 例に血行再建術を施行、うち重症下肢虚血に対する下腿へのバイパスは 60 例に、血管内治療は 274 例に施行しました。

静脈疾患

2017 年より下肢静脈瘤に対して低侵襲治療であるラジオ波焼灼術を開始しました。2018 年度は 17 例の下肢静脈瘤手術を行い、11 例でラジオ波焼灼術を行いました。手術合併症はありませんでした。



下肢静脈瘤に対するラジオ波焼灼術

皮膚科

■スタッフ

主任部長 北野文朗 (2002年卒)
皮膚科専門医
部長 吉賀哲郎 (2008年卒)
医員 坂本拓海 (2015年卒)
非常勤医師 吉屋直美 (2001年卒)
皮膚科専門医

■診療科紹介

皮膚科の診療内容としては、外来診療においては湿疹・皮膚炎群などの炎症性疾患、带状疱疹・蜂窩織炎などの感染症、皮膚の自己免疫疾患、良性・悪性の皮膚腫瘍など、皮膚疾患を全般的に扱っています。

現在は病診連携の一貫で軽症な疾患は開業医の先生で診療していただき、重症な疾患や手術が必要な症例は総合病院で診療する分業化がすすんでいます。まずは開業医の先生方に診察をしていただき、総合病院を受診する必要性を判断していただいたうえで、当院へご紹介いただいています。皆様方にはご迷惑をおかけしますが、ご協力のほど宜しくお願いします。また緊急で入院が必要な重症皮膚疾患の患者さんに対しては、今後も変わらず全力で対応をしていきます。

外来担当医表

		月	火	水	木	金
外来診療前		朝の病棟カンファレンスおよび病棟処置				
午前	1診	北野	北野	北野	北野	北野
	2診	吉賀	吉賀	吉賀	吉賀	吉賀
	3診	坂本	坂本	坂本	坂本	坂本
	4診	吉屋		吉屋		吉屋
午後		手術室手術	小手術	小手術	小手術	手術室手術
		病棟処置および他科の患者さんの往診				
		病棟回診				

■最近のトピックス

近年、尋常性乾癬、アトピー性皮膚炎、じんま疹など、難治な症例に対して生物学的製剤が適応となり高い効果を得ています。

尋常性乾癬

尋常性乾癬とは、皮膚における免疫異常により皮膚の炎症、新陳代謝が亢進することで、全身の皮膚に紅斑、肥厚、鱗屑といった皮膚症状が現れる疾患です。乾癬の病態にはTNF α 、IL-23、IL-17などが関係しており、これらを生物学的製剤で抑えることで、高い治療効果を発現します。2018年3月現在で、尋常性乾癬に対しては計7製剤が承認されており、

患者さんの症状や通院頻度などを考え、選択します。

アトピー性皮膚炎

基本治療は、従来のステロイドや免疫抑制剤外用剤を中心に、保湿剤の外用や抗ヒスタミン剤の内服などになります。これらの治療を行っても改善が難しい重症な患者さんに対してIL-4、IL-13を抑制する生物学的製剤（デュピクセント）が適応となっています。

慢性じんま疹

基本治療は、従来の抗ヒスタミン剤の内服が第一選択です。従来の治療で効果が乏しい重症な患者さんに対して抗IgE抗体であるゾレアが適応になっています。肥満細胞の活性化に必要なIgEに結合することで肥満細胞の脱顆粒を抑制し、症状を改善させます。

化膿性汗腺炎

従来、慢性膿皮症と言われていた病気は化膿性汗腺炎の範疇に入ります。腋窩や陰部などに多発性の膿瘍、瘻孔を作り、難治性の疾患です。肥満の患者さんに多く見られ、特に男性ではヘビースモーカーの方に生じます。これまではデブリードマンと皮膚移植を中心に行ってききましたが、軽症～中等症の患者さんに対して、抗TNF- α 製剤である、ヒュミラが2019年3月に保険適応になりました。重症例に対しては手術が第一選択ではありますが、これまで治療困難であった病気に対して有効な治療法ができたことは大きな進歩です。

これらすべての生物学的製剤に共通するのは、これらの製剤は症状を抑制する効果はあるものの根治するもので無いということです。そのため、治療効果を持続するためには継続的な治療が必要になります。また実際の導入において一番大きな難点は、どの製剤も非常に高価であるということです。高額療養費制度が利用できる場合や、加入している保険組合によっては医療補助などがある場合があり、それらを有効に活用して、治療を行いやすくしています。

また、当院では近隣のクリニックで治療の難しい、皮膚腫瘍の小手術を多数行っています。2018年度の全手術件数は896件であり、内訳は外来での局所麻酔手術が709件、手術室での全手術件数は187件でした。そのうち、良性腫瘍が多数を占めますが、皮膚悪性腫瘍も30件手術を行っており、全身麻酔下での手術も19件行っています。

泌尿器科

■ スタッフ

主任部長 加藤 昌生 (1996年卒)
 日本泌尿器科学会専門医 指導医
 日本泌尿器科学会・日本泌尿器内視鏡学会腹腔鏡技術認定医
 日本排尿機能学会認定医

部長 増本 弘史 (2001年卒)
 日本泌尿器科学会専門医 指導医
 日本泌尿器科学会・日本泌尿器内視鏡学会腹腔鏡技術認定医
 日本がん治療認定医機構がん治療認定医

副部長 赤坂 保行 (2011年卒)
 日本泌尿器科学会専門医

医員 田坂 亮 (2015年卒)
 顧問、医療秘書室長

小深田 義勝 (1979年卒)
 日本泌尿器科学会専門医 指導医
 日本がん治療認定医機構暫定教育医

■ 診療科紹介

多くの手術を開腹手術から腹腔鏡手術に移行し、腹腔鏡技術認定医2人体制で、質の高い腹腔鏡手術を実践しています。

腎癌の手術は、腎機能温存のために、可能な限り腹腔鏡下腎部分切除を行っています。

浸潤性膀胱癌の手術は、腹腔鏡下膀胱全摘除術を行っており、高齢の患者さんに対しても適用範囲が広がりました。

前立腺癌の手術は、腹腔鏡下前立腺全摘除術を行っています。術後の早期尿禁制を図るために、適用症例に対しては可能な限り神経温存を意図した手術を行っています。

女性泌尿器科にも積極的に取り組んでいます。腹圧性尿失禁に対する中部尿道スリング手術 (TVT)、骨盤臓器脱に対する腹腔鏡下仙骨腔固定術 (LSC) を導入しました。

■ 診療実績 (2018年度 手術統計)

- ・ 前立腺：96件
 - 腹腔鏡下前立腺全摘除術 73
 - 経尿道的前立腺切除術 22
 - 前立腺被膜下摘除術 1
- ・ 腎尿管副腎：54件

- 腹腔鏡下副腎摘除術 3
- 腹腔鏡下腎摘除術 11
- 腹腔鏡下腎尿管全摘除術 18
- 腹腔鏡下腎部分切除術 20
- 腎摘除術 2
- ・ 膀胱：176件
 - 経尿道的膀胱腫瘍切除術 166
 - 腹腔鏡下膀胱全摘除術 9
 - 腹腔鏡下尿管管摘出術 1
- ・ 結石：152件
 - 体外衝撃波結石破砕術 128
 - 経尿道的尿管結石破砕術 8
 - 経尿道的膀胱結石破砕術 14
 - 経皮的腎結石破砕術 2
- ・ 陰茎・陰嚢：18件
 - 陰嚢水腫手術 8
 - 精巣摘出術 3
 - 包茎手術 4
 - 精巣捻転手術 3
- ・ 女性泌尿器科：26件
 - LSC 9
 - TVM 5
 - TVT 8
 - 膀胱水圧拡張術 1
 - 尿道脱切除術 3



産婦人科

■スタッフ

- 主任部長 中西慶喜 (1984年卒)
日本産科婦人科学会専門医・指導医
女性ヘルスケア暫定指導医
- 部長 高本晴子 (1996年卒)
日本産科婦人科学会専門医・指導医
母体保護法指定医師
- 部長 佐々木美砂 (2005年卒)
日本産科婦人科学会専門医・指導医
母体保護法指定医師
- 部長 小西晴久 (2009年卒)
日本産科婦人科学会専門医
日本臨床細胞学会細胞診専門医
- 医員 菅裕美子 (2015年卒)
日本産科婦人科学会専攻医
- 医員 日比野佑美 (2015年卒)
日本産科婦人科学会専攻医

■診療科紹介

2017年3月末で中前医師・川崎医師・佐藤医師が退職し、4月から小西医師と菅医師が赴任しました。10月には菅医師が大学病院に異動となり、大学病院から日比野医師が赴任しました。

診療内容は平日午前中に外来診療を行い、月・水・金曜日の午後に手術をしています。火曜日と木曜日の午後には子宮鏡や子宮卵管造影などの検査を行っています。当院はセミオープンシステムを導入しており、大竹市ではシルククリニックとレディースクリニックとよしま医院、廿日市市では青葉レディースクリニックとかとうレディースクリニック、広島市佐伯区ではさくらウィメンズクリニックに妊婦健診ができるかかりつけ医として健診をお願いしています。休日・夜間等の緊急時にかかりつけ医に連絡が取れないときは最終的に当院が受け入れ病院となるシステムを広島県西部地域保健対策協議会で2012年に構築しました。

年間の母体搬送を約70件程度受け入れており、県内でも有数の母体搬送受け入れ病院となっています。但し当院にはNICUがなく35週未満での早産が予想される場合には他院に搬送をしています。

悪性腫瘍に関しては、手術・化学療法・放射線治

療等で集学的治療を行っています。また良性疾患に対しては腹腔鏡下手術を取り入れており、骨盤臓器脱には積極的に手術療法を勧めています。

■診療実績

分娩数 437件 (2017年度 491件)

手術数 471件 (2017年度 453件)

悪性腫瘍 子宮頸癌 1例

子宮体癌 14例

卵巣癌 13例

■研究活動

日本産科婦人科学会婦人科腫瘍委員会や周産期委員会での全国規模の調査研究に協力しています。

またJGOG (日本婦人科悪性腫瘍研究機構) の臨床治験にも多くの症例を登録しています。



マタニティクラス (妊娠中の栄養について)

眼科

■ スタッフ

主任部長 二井 宏 紀 (1986 年卒)

眼科専門医

部 長 末 岡 千 絵 (2007 年卒)

眼科専門医

■ 診療科紹介

眼科スタッフは医師は昨年同様、当院が 19 年目の私（二井）と 7 年目の末岡千絵医師です。他は、看護師（OMA の有資格者）が 2 名、視能訓練士が 3 名で、他に事務 1 名（OMA の有資格者）、医師事務作業補助者 1 名（OMA の有資格者）の計 9 名と、変化ありません。

■ 診療実績

午前は外来診療、手術は週 3 回午後から概ね一日 5 例行っており、毎年微増傾向です。

2018 年度手術件数は、白内障 444 例、緑内障 124 例（緑内障単独手術 68 例、緑内障・白内障同時手術 56 例）、緑内障手術の内訳は、線維柱帯切開術が 24 例（ μ LOT）、線維柱帯切除術が 21 例、白内障手術併用線維柱帯切開術が 49 例、白内障手術併用線維柱帯切除術が 2 例、白内障手術併用隅角癒着解離術が 5 例、MMC 併用濾過胞再建術 23 例、翼状片 2 例、眼瞼・結膜腫瘍 6 例、その他 8 例、計 584 例と緑内障手術は増加傾向です。最近調べたところ当院で緑内障点眼を 3 剤以上投薬している緑内障患者さんが 50% もおられ、緑内障点眼を減少させ QOL の向上を目指し 2016 年末から合併症の少ない極小切開緑内障手術（低侵襲緑内障手術）であるマイクロフック線維柱帯切開術眼内法（ μ LOT）を積極的に行っています。この術式では入院期間も 1 週間以内ですみ、早期の通常生活への復帰が可能です。白内障手術は、全国でもトップレベルである極小切開白内障手術（切開幅 2.2mm）を行っています。幸い 2018 年度も白内障手術・緑内障手術ともに最も忌むべき合併症である術後感染や駆逐性出血は経験しておりません。レーザーは 197 件（網膜レーザー 121 件 緑内障レーザー 76 件（選択的線維柱帯形成術 28 件

他は虹彩切開と隅角形成術）でした。他に、糖尿病網膜症・加齢黄斑変性症・網膜静脈閉塞症に対するマキユイドテノン嚢下注射とルセンチス・アイリーア硝子体注射を合わせ 156 例に施行しています（硝子体手術ができないので感染の可能性を少しでも減らすため手術室で行っています）。他に、テノン嚢下注射とルセンチス・アイリーア硝子体注射を合わせ 149 例に施行しています（注射後感染の可能性を少しでも減らすため手術室で行っています）。

■ 研究活動

手術症例の多い緑内障・白内障をメインに学会報告・論文発表を行っています。また、緑内障新薬の治験も行っています。



耳鼻咽喉科

■スタッフ

主任部長 高本 宗 男 (1992年広島大学卒)
 日本耳鼻咽喉科学会専門医
 気管食道科学会専門医
 めまい平衡神経科学会めまい相談医

部 長 長 陽 子 (2001年浜松医科大学卒)
 日本耳鼻咽喉科学会専門医

医 員 弓 井 康 平 (2014年杏林大学卒)

■診療科紹介

2016年8月より上記医師の3人体制にて耳鼻咽喉科全般の診療にあたっています。

■診療実績

当科診療体制は月曜日から金曜日までの午前中の一般外来と火曜日・木曜日の午後に手術、月曜日の午後は甲状腺疾患の超音波外来、水曜日・金曜日の午後は局所麻酔下の外来小手術や嚥下機能検査などを行っています。また、月2回の月曜日の午後には補聴器に関する相談などのための時間（予約制）があります。

耳鼻咽喉科外来では外来に設置いただいた機器による甲状腺や耳下腺などの唾液腺疾患についての超音波検査（エコー検査）も行っております。2018年度は926件（2017年度は901件）の検査が行われています。

また、当院のリハビリ科言語療法士（ST）と連携して、主に入院中の患者様を中心にではありますが、嚥下機能評価検査を担当し、内視鏡下および透視造影にて経口摂取による栄養確保の可否の判定なども行っています。（図1）



図1 嚥下造影検査

手術治療は耳鼻咽喉科一般で行われている扁桃・アデノイド手術や内視鏡下鼻内鼻副鼻腔手術、直達喉頭鏡下の声帯手術（ラリンゴマイクログ手術）などのほか、唾液腺・甲状腺手術を中心に行っています。（図2）

また、広島大学病院の腫瘍専門医師の指導による悪性腫瘍手術なども行っています。

2018年度の手術件数は190件（2017年度は187件）でした。



図2 内視鏡下鼻内鼻副鼻腔手術

放射線治療科

■ スタッフ

主任部長 伊 東 淳 (1995 年卒)

医学博士、

日本医学放射線学会・日本放射線腫瘍学会認定治療専門医、

日本がん治療認定医機構認定がん治療認定医

診療放射線技師は3名体制で、海老谷京子（科長・放射線治療品質管理士）、中村哲之（放射線治療専門技師）、砂田研二が常勤で担当しています。他にローテーションの技師が1名です。

看護師は河野佐代子（がん放射線療法看護認定看護師）、受付は奥田志帆です。

以上7名で診療に当たっています。

■ 診療科紹介

放射線治療は手術、抗がん剤とならぶ、癌治療の3本柱です。

メスを入れずに癌を治療する、したがって体にやさしい治療であることが放射線治療の特徴です。また、臓器を残す（温存する）ため、機能・形態が温存可能というメリットがあります。

また、（治癒をめざした）根治照射から、（症状軽減のための）緩和照射まで、その役割は多岐にわたります。

全身のあらゆる疾患が対象になるので

月曜日：入院患者センター放射線治療カンファレンス
（当科医師、大学病院医師、診療放射線技師、認定看護師）

水曜日：入院患者センター cancer board
（消化器内科・外科・画像診断部・当科）

水曜日：呼吸器カンファレンス
（呼吸器内科・呼吸器外科・画像診断部・当科）

水曜日：乳腺カンファレンス
（乳腺外科・画像診断部・当科）

木曜日：緩和ケアカンファレンス
（消化器内科・麻酔科・外科・呼吸器内科・精神科・栄養科・リハビリ・薬剤部・地域連携・当科）

金曜日：頭頸部癌カンファレンス
（耳鼻咽喉科・当科）

と院内でもカンファレンスが多いのも当科の特徴です。他には、

1. IMRT、体幹部定位照射といった高精度放射線治療をおこなっている一般病院
 2. 化学放射線療法では抗癌剤の効果を最大限にかすよう時間調整している。
 3. 毎回 EPID で写真を撮り、より正確な照射を行うようとりくんでいる。
 4. 病棟を持ち、とくに化学放射線療法の患者・緩和照射の患者の主治医となっている
- などが、当科の特徴といえるかと思えます。

今後も、がん拠点病院における放射線治療部門として、広島県西部の癌治療に貢献していきたいと考えています。

■ 診療実績

1) 脳・脊髄	3
2) 頭頸部	18
3) 食道	13
4) 肺・気管・縦隔	34
4) のうち肺	34
5) 乳腺	90
6) 肝・胆・膵	14
7) 胃・小腸・大腸	15
8) 婦人科	5
9) 泌尿器系	52
9) のうち前立腺	44
10) 造血器・リンパ系	1
11) 皮膚・骨軟部	1
12) その他（悪性）	2
13) 良性疾患	1

2018 年度の新患数は 249 人（昨年度 235 人）、のべ治療患者数は 281 人（昨年度 262 人）です。新患の原発巣別内訳は上記の如くです。

高精度放射線治療としては、前立腺癌の IMRT を 12 人（昨年度 21 人）に、体幹部低位照射を 2 人（昨年度 2 人）に施行しています。定位照射（脳）は 0 人（昨年度 0 人）でした。

■ 研究活動

2001 年 4 月更新の直線加速器を使用しており、機器の更新時期を迎えていること、医師一人体制のためマンパワー不足もあり、対外的な活動に手が回らない状況です。

画像診断部

■ スタッフ

主任部長 西原 礼介 (1994年卒)
放射線診断専門医

部長 岡崎 肇 (1993年卒)
放射線診断専門医

副部長 廣延 綾子 (2010年卒)
放射線診断専門医

副部長 石崎 宏美 (2010年卒)
放射線診断専門医

医員 近藤 翔太 (2015年卒)

■ 診療科紹介

- CT、MRI、核医学等各種検査の画像診断や、造影検査（胃透視、注腸）の読影をしています。
- IVRは、肝細胞癌に対するTACE、膀胱癌動注のためのリザーバ留置、救急での外傷、動脈出血に対する塞栓術などを行っています。
- Nonvascular IVRとして、CTガイド下生検、CTガイド下膿瘍ドレナージを行っています。
- 検診では、脳ドックを行い、希望者には結果説明も行っています。また胃透視の読影、乳腺マンモグラフィーの一次読影を行っています。
- 職員対象に頸動脈エコー検診を施行しました。
- 開業医から依頼されたCT、MRIや骨塩定量、マンモグラフィーなどの検査や画像診断を行っています。
- 救急外来から依頼された時間外読影を在宅で行っています。
- 造影剤副作用発生時の対応のシミュレーションを放射線技師や看護師と施行しました。
- 呼吸器内科・呼吸器外科・放射線治療科の三科カンファレンスへの参加、乳腺カンファレンスへの参加、救命救急センターとの画像カンファレンスを毎週行っています。
- 2017年11月に導入された256列 Revolution CTで dual energy 撮影が可能になり、物質の弁別など従来と異なるCTを施行しています。

■ 診療実績

2018年度 放射線診断業務

CT	22,466
MRI	7,506
消化管造影	1,245
核医学	1,056
腹部IVR	78



麻酔科

■ スタッフ

病院長代行、麻酔科主任部長

中尾正和 (山口大学 1979 卒)
臨床研修プログラム責任者、臨床研修指導医
医学博士、麻酔科学会麻酔指導医、広島大学医学部臨床教授、ICLS インストラクター、JPTCCMD、査読者；Journal of Anesthesia、日本臨床麻酔学会雑誌、麻酔と蘇生 (2002 / 4-)

地域救命救急センター長

吉田研一 (広島大学 1984 卒)
救急・集中治療部門責任者、医学博士、臨床研修指導医 (1997 / 4-)

手術・中央材料部主任部長

古賀知道 (広島大学 1995 年卒)
麻酔科学会麻酔指導医、臨床研修指導医 (2015 / 7-)

救急麻酔治療科主任部長

本多亮子 (愛媛大学 1998 卒)
麻酔科学会麻酔指導医、米国心臓学会認定 ACLS インストラクター、集中治療医学会認定医、臨床研修指導医 (2011 / 4-)

副部長 村上俊介 (広島大学 1998 卒)

麻酔科学会認定医 (2016 / 4-)

副部長 河本佐誉子 (広島大学 2008 卒)

麻酔科学会認定医 (2015 / 4-)

医員 佐々木幹子 (川崎医科大学 2009 卒)

麻酔科後期研修中、麻酔科学会認定医 (2015 / 7-)

医員 佐藤浩毅 (広島大学 2014 卒)

麻酔科後期研修中 (2017 / 10-) 麻酔科学会認定医

医員 竹野典子 (広島大学 2016 卒)

麻酔科後期研修中 (2018 / 4-2019 / 3)

医員 好中大雅

広島大学歯学部歯科麻酔科より
医科麻酔研修 (2017 / 10-2018 / 7)

医員 小川雄也

広島大学歯学部歯科麻酔科より
医科麻酔研修 (2018 / 4-2019 / 3)



2018/7 撮影

■ 診療実績

▶2018 年度の総手術件数は 5,403 例で、うち麻酔科管理は 3,958 例で、中央部門として大きな役割を果たしています。

	全症例 (%)	麻酔科管理 (%)
総数	5,403	3,958
予定	4,018 (74.4)	2,887 (72.9)
追加	671 (12.4)	472 (11.9)
当日緊急	714 (13.2)	599 (15.1)

▶予定手術 (締め切りは前週水曜日正午) 計画以降に申し込まれた追加手術、当日申し込みの緊急手術と計画後手術が比較的多いのが特徴です。2018 年秋の手術室看護師の日勤・夜勤交代制が始まり、看護師総数は増員しましたが、日勤人員都合で総症例数が減少し、夕方に残る症例が増えています。

▶麻酔管理の診療科別内訳は外科 950、整形外科 1,272、泌尿器科 407、産婦人科 377、心臓血管外科 283、耳鼻科 179、乳腺外科 153、呼吸器外科 186、脳外科 81、口腔外科 65、形成外科 48、皮膚科 19、眼科 11 など新生児を除く多岐にわたっています。

▶ペインクリニック；平日午前のみですが、外来で痛みをもつ患者の治療を担っています。患者さんは山口県岩国市から広島市までをカバーしています。

▶救急・集中治療 (地域救命救急センター、ICU のセクション参照)

■ 麻酔科の機器

▶麻酔ワークステーション；ドレーゲル社全身麻酔器 Fabius GS をベースに、フィリップス社インテリビューモニターを統合し、安全で信頼性の高いシステムを構築しています。セボフルラン専用気化器はすでに全室に配備されていましたが、2014 年度にデスフルラン専用気化器も全手術室に配備完了しました。

モニターデータ波形をフライトレコーダーのように保持してくれるデータサーバーを更新しました。

- ▶自動麻酔記録システム；paperChart を神戸海星病院の越川正嗣 Dr と共同開発したもので、静脈麻酔薬を投与するポンプもオンライン接続して活用しています。記録用 PC を更新しました。
- ▶高次脳波モニターの全室配備；患者さんの術中覚醒防止と麻酔薬の調整に有用な BIS モデル A2000 を全手術室に配備し全身麻酔患者さんに利用してきました。当院のように手術室が 9 室あるような大きめの一般病院では全国で数番目と早期から導入されています。実際の麻酔の品質管理にも役立てています。2017 年度に BIS はフィリップスモニターのモジュールタイプで両側脳波がモニターできる新型に更新されました。Masimo 社 SedLine と両方が使用できるようになりました。
- ▶筋弛緩モニタリング TOFwatch Sx monitor を全手術室に配置し、PC への取り込み客観的な筋弛緩レベルを記録・確認しています。フィリップス社 NMT モジュールを導入し、麻酔記録への自動記録のできる方向も始めました。エコーガイド下の末梢神経ブロックも積極的に取り入れています。

■基本活動

- ▶麻酔科学会認定指導病院 (No 421)
 - ・ 初期研修医の医師としての基本的手技を含めた基礎教育
 - 1 年次必須ローテーション 11 名 8wks (広島大学たすき掛け 2 名含)
 - 2 年次選択 4wks 1 名
 - ・ 後期研修医 (麻酔科) の養成指導
 - ・ ガイドラインによる歯科医師の医科麻酔研修 (12 ヶ月 1 名、6 ヶ月 1 名)
 - ・ 広島大学医学部生に対する学外教育
 - ・ 救急救命士の就業前研修、就業後研修、気管挿管などの実習病院
 - ・ 女性麻酔科医師復帰支援機構の協力病院
 - ・ 看護大学、看護学校での非常勤講師など、多くの役割を果たしています。

■研究活動

- ▶GlideScope、AirwayScope、McGRATH®MAC などのビデオ喉頭鏡による安全で速やかな気管挿管に関する研究
- ▶ビデオ喉頭鏡を利用した、気管挿管技術習得の品質管理
- ▶気管挿管時の歯牙損傷予防に関する歯科口腔外科協力による歯牙プロテクタ作成とそのアウトカム研究
- ▶麻酔記録システム paperChart のビッグデータからの筋弛緩モニタリングの実態調査、筋弛緩効果と血中シミュレーション濃度との関連研究

■その他活動内容

- ▶救急蘇生の講習会 日本救急医学会認定 ICLS 認定コース 開催
- ▶外傷のプレホスピタルケア JPTEC 認定コース 開催 CMD (中尾)

歯科口腔外科

■ スタッフ

主任部長 原 田 直 (1986年卒)
 口腔外科学会専門医、口腔外科学会指導医
 癌治療認定機構暫定教育医
 臨床歯科医研修指導医、歯学博士

医 員 大 井 尚 志 (2014年卒)
 医 員 平 田 ひかる (2018年卒)

■ 診療科紹介

口腔外科を専門として診療をしています。一般開業医では、困難な口腔・顎・下顔面の疾患の診療、入院処置、手術を中心とした専門的治療を行っています。

主な疾患は、がんや良性腫瘍、粘膜疾患、骨折、顎関節症、歯が原因の感染症などがあります。もう一つの特色として、周術期口腔管理を行っています。口腔は大きな感染源であり、医科での全身麻酔下での手術、化学療法、放射線治療に伴う口腔合併症は、食事量の低下、粘膜炎、誤嚥性肺炎を誘発し、術後感染など予後の低下や生活のレベル低下、入院日数の延長につながります。このようなトラブルを防止・軽減するため、医科と連携し、口腔管理・口腔保清を行っています。

■ 診療内容

当科で扱っている主な疾患

- 1: 顎顔面の外傷・骨折等
- 2: 悪性腫瘍 (舌がん、歯肉がん、唾液腺がん、肉腫等)
- 3: 良性腫瘍 (顎、歯肉、舌、軟組織、唾液腺等)
- 4: 歯性感染症 (蜂窩織炎、膿瘍、薬剤性顎骨壊死、上顎洞炎等)
- 5: 顎関節症 (顎関節脱臼等)
- 6: 口腔粘膜疾患 (白板症、扁平苔癬、ヘルペス、口内炎等)
- 7: 神経疾患 (三叉神経痛、顔面神経麻痺等)
- 8: 周術期口腔管理 (医科での手術・放射線治療・化学療法中の口腔管理)
- 9: その他 (味覚異常・舌痛症、歯科金属アレルギー)

■ 診療実績

【口腔外科】

主な入院件数は以下のとおりです。

悪性腫瘍：15件 外傷（骨折他）：10件 良性腫瘍：27件 歯性感染症：31件 埋伏抜歯術：24件
 その他：1件

外来小手術：骨内埋伏・水平埋伏抜歯や小病変の摘出など約700例

(2017年度より100件増加)

【周術期口腔衛生管理】

周術期の口腔管理の延べ人数は2,726名となり、歯科介入することで、在院日数の短縮や肺炎等の術後感染防止につながっています。

また、全身麻酔下での手術前に、口腔管理（口腔保清や歯牙のカバー）は、350名介入しており、全身麻酔下のトラブルの回避を行っています。

■ 学生指導

広島高等歯科衛生士学校、広島デンタルアカデミー専門学校、IGL医療福祉専門学校の3校の実習受け入れを行っており、次世代の歯科衛生士の臨床実習教育を行っています。

■ 学会発表、論文発表

下顎骨に発生した Odontogenic fibroma の1例 (大井 尚志 原田 直 平田 ひかる)

第63回日本口腔外科学会総会・学術大会にて

■ 研究活動

日本口腔外科学会認定研修施設です。口腔外科学会など全国学会が主催する顎・口腔疾患、口腔外科疾患調査の実施や口腔がん登録などに参加しています。

救急・集中治療科

■スタッフ

地域救命救急センター長

主任部長 吉田 研一 (1984年卒)
医学博士 日本救急医学会専門医
臨床教授 (広島大学 救急医学)

部長 櫻谷 正明 (2006年卒)
日本救急医学会専門医
日本集中治療医学会専門医

部長 加藤 之紀 (2006年卒)
日本救急医学会専門医

副部長 河村 夏生 (2010年卒)
日本救急医学会専門医

副部長 高場 章宏 (2011年)
日本救急医学会専門医
日本集中治療医学会専門医

医員 筒井 徹 (2013年卒業)
日本救急医学会専門医

医員 西山 千尋 (2014年卒業)

医員 松本 文雄 (2015年卒業)

■診療科紹介

2018年度、当科は、総勢7名（主任部長の吉田は、2019年1月より復帰）で救急・集中治療の診療を施行しました。また当院は日本救急医学会認定救急専門医研修基幹病院でもあります。

救急・集中治療科は、「内科系、外科系を問わず呼吸、循環、代謝そのほかの重篤な急性機能不全の患者を収容し強力かつ集中的に緊急治療・看護を行うことにより、その効果を期待する部門です。

このたび、2011年4月から地域救命救急センターとして組織変更し、より患者さんへもわかりやすい救急体制が認可されました。地域に愛され信頼される急性期病院として、さらに設備と体制の整備をすすめていく計画です。御支援をよろしく申し上げます。

■診療実績

2018年度

年間救急搬送患者数 4,404台(県内3位)

年間救急来院患者数 7,673人

2018年度の年間重篤患者数を表1に示します。

表1) 救急・集中治療科実績 (厚生労働省報告)
年間重篤患者数 (2018年4月～2019年3月)

(人)

番号	疾病名	患者数	退院・転院	死亡
1	病院外心肺停止	182	7	175
2	重症急性冠症候群	110	97	13
3	重症大動脈疾患	30	25	5
4	重症脳血管疾患	138	84	54
5	重症外傷	91	83	8
6	重症熱傷	4	4	0
7	重症急性中毒	28	28	0
8	重症消化管出血	71	65	6
9	重症敗血症	46	29	17
10	重症体温異常	5	4	1
11	特殊感染症	5	5	0
12	重症呼吸不全	62	37	25
13	重症急性心不全	72	59	13
14	重症出血性ショック	4	1	2
15	重症意識障害	12	10	2
16	重篤な肝不全	5	1	4
17	重篤な急性腎不全	5	4	1
18	その他の重症病態	6	4	2
	合計	876	547	328

※上記のなかには敗血症、横紋筋融解症、各種ショックなど含まれない疾患もあります。

緩和ケア科

■ スタッフ

主任部長 小松 弘 尚 (1985年広島大学卒)
 日本消化器内視鏡学会専門医・指導医
 日本がん治療認定医機構がん治療認定医・指導医

■ 診療科紹介

緩和ケア科は2007年に発足した緩和ケアチームを母体として2010年に創設されました。2012年7月に緩和ケア病床を西8階病棟の一角に5床を開床し緩和ケア科を主科としての専門的緩和ケアを提供しています。現在は院内のプライマリー科から病床依頼があれば緩和ケア科へ転科しチームで方向性を共有し専門的な緩和治療の実践を行っています。

地域に対して、県から依頼された地域在宅緩和ケア推進事業の取り組みを行っています。中でも、がん患者が不安なく療養場所の調整が行われる事を目標とした両方向で利用できる緩和ケア地域連携パスを作成し、患者の緩和ケア提供体制を整えました。パスの使用件数は、2018年度13件でした。

当科では、患者の意思決定支援に対する取り組みとして、アドバンス・ケア・プランニング(後述)の実施・啓発と、2013年8月から終末期医療におけるリビングウィル文書を導入しています。2018年度の文書の作成数は37件/年でした。これらを用いて、治療の選択、療養場所の選択、終末期医療について患者の希望を中心としたケアの実践をしています。

【アドバンス・ケア・プランニング】

将来の不測の事態(不慮の事故・不治の病)に備えて、あらかじめ意志表示や準備・覚悟をしておく過程(プロセス)を言います。健康な人であっても必要な過程ですが、がん終末期の方には喫緊の必須事項と考えて、十分な説明と御理解をいただけるように対応しています。このアドバンス・ケア・プランニングが実践されなければ、本人の望まない医療・療養となってしまう可能性があり、非常に重要な事項です。

■ 診療実績

- 1) 緩和ケア外来：2/週 水・木曜日午後診：原則として罹患がんの主科との併診により緩和ケアを提供しています。
- 2) 緩和ケア病床(西8階5床)：緩和ケア科を主科・プライマリー科医師を副主治医として診療しています。



■ 各部門の主な活動紹介

【薬剤調整】

個々の患者が使用する薬剤につき、過不足ないように主治医と連携し調節し、症状緩和の必要な患者に対して患者・家族の理解が得られるよう薬剤指導します。

【がん患者リハビリテーション】

外来では加算の算定が出来ない背景もあり、主には入院患者が対象です。がんを抱える患者の日常生活動作に対応します。2018年緩和ケア科病床を利用した19名の患者のうち14名にリハビリを実施しました。

【栄養相談】

管理栄養士が個々の患者に合う食事の工夫を患者・家族へ指導します。

【がん患者管理指導加算】

がん患者管理指導加算はシステムを整え運用中です。がん患者管理指導加算1では各科主治医(緩和ケアに関わる医師に対する研修会を終了している)と認定看護師等が協力して患者の病状説明、その後の意思決定支援にあたります。がん患者のスクリーニングの運用を軌道に乗せて、そこから要望の出た患者へはがん患者管理指導加算2も利用して対応しました。2018年度緩和ケア科では、がん患者管理指導加算1の定数は41件、がん患者管理指導加算2は34件でした。

健康管理センター

■スタッフ

診療部長・センター長、主任部長、臨床研究検査科部長

碓井 裕史 (1977年卒業)

日本人間ドック学会認定医・産業医・臨床検査管理医

課長(保健師) 川村 洋子

主任(保健師) 増本 順子

林 直子

保健師 4名

事務 6名

業務委託(受付・予約) 5名

(車両業務) 1名

臨時職員(医師5名、看護師7名、助手2名、臨床検査技師2名)

【取得資格】

人間ドックアドバイザー5名、健康運動指導士1名、転倒予防指導士1名、心理相談員1名、【所属学会】日本人間ドック学会、日本癌学会、日本人類遺伝学会、日本農村医学会、日本乳癌検診学会、日本禁煙学会、日本転倒予防学会

【担当事務局】

広島県農村医学研究所、広島県農村医学研究会
日本農村医学会

■概要

当センターでは、厚生連の基本理念に基づき、JAグループ・行政・医師会との連携によって広島県西部地域のJA組合員、住民の健康管理活動の推進に努めています。病院併設型の機能を活かし、診療部門、臨床研究検査科、中央放射線科など優れたスタッフの協力により精度の高い健診活動に取り組んでいます。

■主な活動内容

1. 施設内健診は、当院独自の人間ドックに加え、廿日市市、広島市、大竹市、各健康保険組合等の委託ドック、各種がん検診他、10月第3日曜日にJMSマンモグラフィーサンデー(8回目)を行いました。今年は、乳腺エコー検査を新規に導入し受診者から大変好評でした。

2. 巡回健診はJAグループ、廿日市市、佐伯地区医師会等の委託健診を中心に実施しています。

3. 地域の健康教育活動

院内オープンホスピタル、廿日市あいプラザ健康まつり等でミニ健診、健康相談を実施、その他JA組合員健康教室やJA広報誌の執筆活動も行っていきます。

■トピックス

「人間ドック健診施設機能評価」施設認定を取得
日本人間ドック学会による「人間ドック健診施設機能評価」を受審し2018年12月、基準を満たした健診施設と認定されました。

人間ドック健診施設機能評価とは、人間ドックを行っている医療・健診施設を対象に、受診者が安心して健診を受けられるよう施設の質の改善を促進する事を目的として、第三者評価を行う事業です。施設運営のための組織体制、受診者の満足と安心、人間ドック健診の質の確保、運営の合理性などがチェックされます。当センターは、すべての審査項目において人間ドック学会が定めた基準をクリアしました。

健診の質の確保の面では、健康管理センターの医師による診察と結果説明、保健看護職による保健指導が高く評価されました。当センターでは、ホスピタリティマインドを大切に健診を心がけており、受診者ひとりひとりの健康に関する心配事に目をむけています。日頃の生活習慣を見直し、より健康的な習慣に取り組むきっかけになれるような人間ドックをめざしています。農協組合員ならびに地域住民のみなさまの健康保持・増進を基本理念とし、生活習慣病の早期発見およびその予防、がんの早期発見を目的に、これからも、受診者様に満足いただき、健康管理にお役立てできるよう、質の高い人間ドックを目指してスタッフ一同努力して参ります。

■ 2018 年度活動実績

○施設内健診

	実施日数 (日)	受診者数 (人)
入院ドック	16	16
外来ドック	233	2449
協会けんぽ健診	184	1342
原爆(一般・がん・2世)	231	291
脳ドック	190	321
肺ドック	105	148
個別子宮がん検診	18	20
個別乳がん検診	42	112
個別大腸がん検診	12	14
健康診断(一般・簡易)	152	363
健康診断(当院職員)	13	1363
個別特定健診	41	49
骨密度	98	136
計	1,335	6,624

○巡回健診

	実施日数 (日)	受診者数 (人)
生活習慣病予防健診	22	587
肝炎検診	4	18
胃がん検診	17	383
職員健診	59	3,683
大腸がん検診	4	318
特定・後期高齢者健診	4	394
計	110	5,383

○保健指導

	実施日数 (日)	受診者数 (人)
特定保健指導	31	(初回)31
施設内保健指導	226	2,715
健康教育	5	168
事後指導	8	100

■ 2018 年度がん検診部位別精密検査受診状況

○施設内検診

		受診者数 (人)	要精検者数(人)	要精検率 (%)	精検受診者数(人)	精検受診率(%)	がん発見数(人)	がん発見率(%)
胃部	バリウム	1,048	227	21.7	157	69.2	0	0.00
	カメラ	2,313	147	6.4	141	95.9	2	0.09
胸部	レントゲン	4,345	112	2.6	92	82.1	3	0.07
	CT	148	11	7.4	10	90.9	0	0.00
大腸(便潜血反応)		3,855	187	4.9	110	58.8	4	0.10
乳部		1,068	72	6.7	70	97.2	2	0.18
子宮頸部		945	51	5.4	44	86.3	0	0.00
前立腺(PSA)		628	24	3.8	20	83.3	2	0.32

○巡回検診

	受診者数 (人)	要精検者数(人)	要精検率 (%)	精検受診者数(人)	精検受診率(%)	がん発見数(人)	がん発見率(%)
胃部間接レントゲン		88	23.1	52	59.1	0	0.00
胸部間接レントゲン	4,533	25	0.6	8	32.0	0	0.00
大腸(便潜血反応)	1,608	73	4.5	38	52.1	2	0.12
前立腺(PSA)	350	10	2.9	4	40.0	1	0.29

病理診断科・病理研究検査科

■ スタッフ

主任部長 台 丸 裕
科 長 水 野 誠 士
臨床検査技師 6名
事 務 1名

■ 取得資格

病理専門医	1名
細胞診専門医	1名
病理解剖資格	1名
細胞検査士	4名
国際細胞検査士	2名
二級甲類臨床病理技術士	4名
	(病理学4)
診療情報管理士	1名
医療情報技師	1名
認定病理検査技師	2名
特化物四アルキル鉛等作業主任者	2名

■ 所属学会

日本病理学会
日本臨床細胞学会
日本臨床衛生検査技師会

■ 業務内容

病理組織検査・細胞診検査・病理解剖

検査件数 (2018年度)

組織検査	5,787件	(2017年度 5,938件)
術中迅速検査	345件	(" 358件)
細胞診検査	6,562件	(" 6,575件)
術中迅速細胞診	131件	(" 102件)
病理解剖	4件	(" 2件)

■ トピックス

〈出張します。迅速細胞診〉

超音波気管支鏡下吸引生検法 EBUS-TBNA (Endobronchial Ultrasonography Guided Transbronchial Needle Aspiration) や超音波内視鏡下穿刺吸引術 EUS-FNAB (Endoscopic ultrasound Fine Needle Aspiration Biopsy) の検査時、組織が的確に採取されているか評価するため、細胞検査士が採取現場に出向し、ベッドサイドで標本を作製、染色、鏡検、判定し簡易報告する On site cytology を行っています。今まで、重たい顕微鏡とガラス容器に入った染色液のセットを抱えて出張していましたが、危険を伴うため出張細胞診用のワゴンを購入しました。2018年の診療報酬改定で従来の術中迅速細胞診から“術中”が外れ、1. 手術中につき(1手術につき)、2. 検査中の場合(1検査につき)450点になり、気管支鏡での迅速依頼を算定できるようになりました。細胞診迅速診断は、穿刺回数削減や病理診断率向上に貢献するのみでなく、再検査や再来院などの患者負担の軽減、医療費削減につながります。

臨床研修科

■ スタッフ

〈2年目初期臨床研修医〉

今中俊秀、宇山拓澄、児玉竜一、柴田祥之、西蔭孝之、初鹿佳輝、山本高嗣

〈1年目初期臨床研修医〉

入江耕平、岩田和佳奈、越智南帆、洪早耶佳、清水美羽、住元遥香、近本哲士、橋本晃、原田怜、濱永有華、山本真由

〈歯科研修医〉

平田ひかる

■ 概要

初期臨床研修医 18名、歯科研修医 1名の、計 19名の臨床研修医が在籍しています。それぞれが当院の研修プログラムに沿って、各科をローテーションしながら研修を行っています。

■ 活動内容

初期臨床研修医は1年目に内科6ヶ月、外科系1ヶ月、救急集中治療科2ヶ月、麻酔科2ヶ月、自由選択1ヶ月でローテーションを行い、2年目で産婦人科1ヶ月、小児科0.5ヶ月、精神科1ヶ月、地域医療1ヶ月、残りを自由選択として研修を行っています。

研修内容は各科によって異なりますが、上級医の下で日々の診療業務（主に外来での新規患者さんの初期対応や病棟業務）を行っています。医学知識としてはまだまだな点も多いですが、患者さんと積極的にコミュニケーションをとり、研修医だからこそ気づける些細な出来事に気がつけるよう意識して日々の診療に当たっています。外科系の診療科をローテーションしている際には、手術に助手として参加させていただくこともあります。救急集中治療科では、主に救急車で搬送される急患の初期対応を行います。指導医の下、今自分のできることは何かを常に考えながら行動するよう心がけています。

また、HCU や一般病棟に入院された患者さんの管理を行います。麻酔下では、麻酔の導入から維持、覚醒までの一連を行います。静脈路確保や気管挿管、人工呼吸器の操作といった手技も麻酔下で取得します。

日々の診療に加え、夜間・休日の当直・日直業務を行っています。研修医1年目・2年目それぞれ1名ずつと、救急当直医1名、一般当直医1名の計4名で、夜間・休日に救急外来を受診される患者さんの対応をしています。日々の診療で得た知識や技術を活かしながら、目の前の患者さんの病態を迅速かつ的確に把握し、適切な初期診療を行えるよう心がけています。上級医からのフィードバックもあり、研修医にとっては大きく成長できる絶好の場であると感じています。ウォークインから救命センターならではの重症患者さんまで幅広い症例を経験でき、非常に勉強になっています。

毎週火曜日の早朝には、Early Bird Lecture と呼ばれる研修医同士の勉強会を行っています。当直・日直で経験した症例を発表し研修医間で共有したり、上級医の先生からの講義も行われます。スライド作成や発表の練習にもなります。

BLS・ACLS、JPTEC、JATEC、FCCS、TNT など、様々な講座を受講し、資格を取得するための補助を受けることもできます。若手医師のためのセミナーや勉強会に数多く参加ができ、対外面としては中四国の地方レベルから、場合によっては海外の学会にまで上級医の指導を仰ぎながら学会発表をする機会もあります。

そのほか当院では、初期臨床研修を修了した後に、3年目からも後期臨床研修医として、当院の研修を希望する先輩方が多くいるのが特徴の一つでもあります。初期臨床研修で慣れ親しんだのはもちろんのことですが、それ以上に熱心な上級医や、スタッフの皆さんと一緒に医療を行い、その中で自分自身も成長したいという気持ちからだと思います。

看護科

■ スタッフ

看護部長	馬場崎	喜美子
看護副部長	佐藤	澄香
	村中	好美 (医療安全管理室兼務)
	藤本	七津美 (総合医療福祉相談室兼務)
	久保	知子

■ 部門紹介

2018年度 看護科目標

心と心の通い合うハートふるナーシング

～2018！共に育ち看護の質を向上させよう～

■ 看護活動

1. 看護の質向上に関する活動

○看護実践能力の開発支援

広島厚生連3病院共通のクリニカルラダー認定制度を推進し、今年度はラダーⅠ50名、ラダーⅡ15名、ラダーⅢ2名の認定を受けました。

2. 看護職員の職務満足の向上に関する活動

○すずめレターの開始

看護職員の日頃の相談や意見を伺う「すずめレターボックス」を設置しました。様々な現場の声が寄せられ、その内容に対する回答はハートフルナース通信でお伝えしています。ヘルシーワークプレイスの推進のためにも現場の声を大切にします。



○広島県看護協会「チャレンジ」の推進

「チャレンジ」とは看護職の仕事へのやりがい、就業意欲、ストレスなどの項目をアンケートで把握し、より良い職場環境づくりのための自己点検ツールです。チャレンジの活用は今年で3年目に入り、今年度はワーキングが主体となりその推進を図りました。アンケート回収率は前年の50%から91%へ増加し、チャレンジの結果をもとに企画した科長研修会では管理者として次年度の部署の課題抽出に役立てることができた、スタッフから評価を受けるため自己のマネジメントに対する課題が明確になるなどポジティブな意見が多く、一歩先を見据えた組織運営に向けて今後の新たな取り組みに期待できそうです。

3. 看護の普及啓発に関する活動

○ふれあい看護体験

8月3日(土)14校67名の高校生を対象にふれあい看護体験を実施しました。白衣に着替え、患者さんとの会話や清拭、足浴などを通じて看護や命について理解と関心を深める機会となりました。5名の先輩看護師は、なぜ看護師を目指そうと思ったか、看護師の仕事についてわかりやすく伝えてくれました。



○命の授業

広島県看護協会からの依頼で宮島工業高校、阿品台中学校、山陽女子短大において助産師による命のたいせつさ、こころとからだについて授業を行いました。

4. 看護の人材確保と定着推進活動

○病院見学会

5月12日(土)、26日(土)の両日193名の看護学生の参加がありました。看護部長による病院概要や看護の話、院内見学を通して、参加者からは「病院のことがよくわかった。JAで働きたい」など多くの感想が寄せられました。

○育児休暇中の看護職員の復帰支援(るんるん広場)

11月2日(金)、18名の看護職員と子供たちが参加しました(7月6日は天候の影響で中止)。内容は院内保育見学や看護部長からの話、先輩看護師の体験談などであり、他部署のママ同士の交流も深まりました。今年で開催5年目になりますが、安心してスムーズな職場復帰ができるように内容の充実に努めます。

○サマーインターンシップ

7月23日～8月17日の期間で66名の看護学生の参加がありました。看護学生が就職後にスムーズに医療現場に入っていくために急性期総合病院の職場体験(環境整備、シーツ交換など)を毎年企画しています。

外来

■ スタッフ

科 長 中 元 美 恵 (糖尿病センター)
 鶴 谷 理 恵 (内科、泌尿器科)
 村 田 美 智 子
 (耳鼻科、皮膚科、眼科、外科・乳腺外科、心臓血管外科・
 呼吸器外科、脳神経外科、形成外科・整形外科)
 松 下 理 恵
 (中内視鏡センター、中央採血室、中央検査処置室、
 地域救命救急センター外来、精神・心療内科)

主 任 廣 瀬 敏 子、平 舛 仁 美、
 尾 崎 直 美、槌 井 美 穂、
 竹 野 香 織

他 看護師 66 名 看護補助者 3 名

■ 外来の概要

2018 年度の 1 日平均外来患者数は、1,027.4 人で、年間延べ合計患者数は 250,686 人でした。

地域医療と連携を密にし、地域→外来→病棟→外来→地域のつながりの中で、患者さんの生活を見る視点をより一層強化し、質の高い医療、看護を目指しています。また、他職種との協働により専門性の高い医療サービスが提供できるよう心がけています。

地域の住民の皆様が当院を選んでいただき、受診してよかったとっていただけるよう、患者さん・ご家族との一瞬一瞬の関わりを大切にしていきたいと思っています。

■ 看護

昨年度までは、当院で健康診断を受診し、便潜血結果が陽性となった方には、当日結果をお渡しして受診を勧めていました。しかし 2017 年度当院の健康診断で便潜血検査を実施した 3,797 名のうち要精検者は 201 名でしたが、精検受診者（検査結果が返書として当院に郵送された方）は 135 名でした。そのうち当院で検査を実施した方は 57 名（42.2%）で半数以上が当院以外で精検受診をしていました。そこで健康管理課、内視鏡センター、内科外来で検討し、健康診断当日に便潜血陽性者が当院での検査の予約ができるようにしました。結果、2018 年度は精検受診者の 111 名中 71 名（63.9%）が当院で精査

を行いました。当院で検査を実施した 71 名中 39 名（54.9%）は健康診断当日に大腸検査の予約を取りました。健康診断受診者からは「何度も受診しなくてよい」「忘れずに受診できる」と好評の意見が聞かれました。

今後も地域の皆様が利用しやすい外来を目指して行きたいと思います。

■ 教育

外来看護師は各診療科で看護を実践していますが、1 回/月各診療科の看護師が集まり各種伝達や勉強会を行っています。今年度医療安全委員会を中心にインシデントの事例を用いて情報共有と再発防止のための勉強会を実施しました。外来全体で情報を共有することで外来看護の質の向上に努めています。

■ トピックス

今年度、糖尿病センター糖尿病看護認定看護師 1 名が特定行為研修（糖尿病ケア）を修了しました。今後、地域の糖尿病患者さんの在宅支援にも、係わらせていただきたいと思います。

外来治療センター

■ スタッフ

科 長 野 村 昌 代

他 放射線治療科 1名

透析室 7名

化学療法治療室 4名

看護助手 1名

【資格取得】

がん放射線療法看護認定看護師 1名

がん薬物療法看護認定看護師 1名

【所属学会】

日本放射線治療学会

日本臨床腫瘍学会

日本がん看護学会

■ 概要

2018年9月の病棟編成により、東8階は従来の透析室に化学療法治療室と調剤室の移設及び各病棟の休憩室と様変わりしました。透析室14床の並びに化学療法室は、移設に伴い10床から14床に増床されたことで、治療患者の待ち時間は改善されました。

また、治療室のベッド間隔も規定を遵守することができました。

がん薬物療法外来治療患者述べ件数 4,136件

1日平均 17.4件

透析治療患者述べ件数 5,278件

■ 看護

治療センターでは、がん放射線治療・がん薬物療法及び透析を受ける患者さんとそのご家族がよりよい療養生活を維持・継続できるように抱えるそれぞれの多様な問題に指導・相談の支援を行っています。患者さん個人が抱える身体的な問題だけでなく、心の問題や生活環境の問題などを理解したうえで、患者さん・ご家族のもつ不安・混乱・迷いなどを受け止め、患者さん自身が疾患と向き合い納得した治療の選択と自立した生活が送れるように必要な社会的資源の連携など、地域を巻き込んだ患者中心のチーム医療を実践しています。

がん患者さんにおいては、放射線治療やがん薬物治療導入時のIC同席や治療中の支援を専門的に認定看護師の説明・指導・相談を実施しています。

放射線治療と薬物療法の合計患者指導述べ件数 488件
透析関連では、9月より外来患者の療法説明を透析室が実施することになりました。慢性腎不全になり、やがては透析が必要になる患者さんとそのご家族を対象に人工透析と腹膜透析及び腎移植の療法選択について早期に関わることで、患者さんやご家族が透析治療を受容し、適応していく段階に応じて自立した生活が送れるように支援を実施しています。

療法選択指導述べ件数 11件

■ 教育

一般的な知識のみならず、専門的な透析・薬物療法・放射線治療が行われる中、緊急時に直ちに対応出来る能力やリスクを予測して行動する実践力が求められます。その為実践力の維持向上を期待出来る研修や教育に取り組んでいます。

① スタッフ参加型（学習）を活用

経験の豊富なスタッフの特性から専門的知識と実践に即した臨床判断能力の習得のためにマニュアルの確認・修正をすることで、スタッフ自身が思考しながら行動に移し、体験しながら知識と実践力を身につけるアクティブラーニングの体制を取っています。

② 知識や実践力の確実な定着・実施に向けて専門的に実施される研修会や勉強会への参加を積極的に取り入れています。

■ トピックス

薬物療法では、新薬の免疫阻害剤導入

早期に療法選択支援への積極的参加

地域救命救急センター

■スタッフ

科長 村田 美智子
主任 杉中 知子
岡崎 裕美
他 看護師 22名 看護助手 1名

■概要

2011年に地域救命救急センターが開設され、救急外来・病棟として救急患者の受け入れを行ってまいりましたが、2018年4月より、地域救命救急センター救命病棟として新たにスタートしました。病床数8床（個室1床）を有し、救命救急加算対象患者を中心に受け入れています。小児、産科を除く全科の救急患者が入室可能であり、昨年は、年間入室患者数1,021名（前年より+239名）、平均滞在日数2.6日でした。定期手術後患者入室・ICU満室時の転床受け入れもあり、救命救急加算対象患者は入室患者数の81%でした。

■看護

4：1の看護体制をとっており、日勤帯では受け持ち制とパートナーシップを用い、重症度が高い症例に対応しています。急な外傷による看取りや救急処置を終えて入室となる患者が多いため、「患者家族看護」に重点を置き、家族の気持ちに寄り添う看護の提供を心がけています。患者さんやそのご家族の権利や意志の尊重を目指して、最善な看護介入ができるように、医師・看護師・コメディカルと倫理カンファレンスを行っています。



■教育

新人看護師教育は、プリセプターが中心になり教育計画を提示し毎月評価しながら個人の成長に合わせて進めています。スタッフ全体教育では、他部署からの異動者を中心に、OJT教育に力を入れています。呼吸・循環アセスメント能力強化に向けて、呼吸器・循環器・脳外科・ケアチームの4チームを編成し、ミニ勉強会・事例検討を行っています。

ストレスの多い職場環境でも質の高い看護の提供と、スタッフの個々の仕事へのモチベーション向上が必要と考え、フィッシュ理論を導入し、出来る事を積極的に伝え合うハッピーボードを取り入れました。



■院内における研究・発表

院内看護研究発表会

フィッシュの働きかけによるスタッフのモチベーションの効果

～ハッピーメッセージ導入前後を比較して～

研究者：○坂口伽奈 岡崎裕美

第49回日本看護学会—看護教育—学術集会

2018年度看護協会廿日市支部看護研究発表会

地域救命救急センター卒後2年目看護師による家族看護の実態と課題

～フォーカスグループインタビューの語りから～

研究者：○岡崎裕美 杉中知子

ICU・西3階病棟

■スタッフ

科長 丸 澤 葉志子
 吾 郷 志津江 (2019年1月～)
 主任 坂 本 佳奈江、岡 崎 祐 也
 岩 藤 美 穂
 他 看護師 26名・看護助手 1名

■病棟の概要

ICUでは、特定集中治療室管理料3を取得しており、病床数は8床、2:1の看護体制です。ICUへの入室患者は、救急搬送後の患者・大手術後・院内急変患者の救命および治療目的の患者です。



■看護

2018年度の病棟目標は、1. ICUでの看護の役割を果たし、患者のQOL・ADLを低下させず病棟につながる。2. スタッフ間で協力し、共に成長できる職場をつくる。とし、目標達成のために、早期離床・口腔ケア・医療安全・カンファレンス・家族看護・教育の6チーム編成で、スタッフ全員がチームに所属し1年間活動しました。

早期離床チーム：超急性期からの早期離床の重要性を、患者の予後にも大きく影響する事を再学習し、入室早期よりリハビリ介入はしていましたが、入室1日目からの他職種カンファレンスを導入しました。

口腔ケアチーム：挿管患者の口腔ケアのマニュアルを見直し、改訂しました。

医療安全チーム：インシデントレポート作成時、なぜなぜ分析を行い、レポートと共に提出するよう義務化しました。なぜなぜ分析をすることにより、新たな課題が見いだされ、業務改善にもつながりま

した。

カンファレンスチーム：カンファレンス時間を確保するために、申し送りの廃止に向けた取り組みをしました。

倫理問題が生じた場合は、他職種間で倫理の4原則を用いたカンファレンスをし、医療者の情報共有と家族対応について介入方法を考えています。

家族看護チーム：ICUダイアリーを継続し、家族の思いの表出ができるよう、介入を継続しました。患者さんの好きな音楽を流したり、家族写真・ペットの写真をベッドサイドに飾ったりし、リラックスできる環境づくりをしています。また、誕生日にはパーティーに飾りをし、無機質な環境を温かい雰囲気になるように取り組みました。



看護師の手作りの飾りです。誕生日以外にも七夕飾りをし、ご家族に短冊に願いを記入してもらいました。

■教育

教育チーム：新卒看護師の教育パスの改訂と共に、勤務異動者の教育パスを作成し、運用を開始しました。看護師の教育に力を入れています。2018年度は、11月から2019年の3月までに一般病棟より、8名の部署異動がありました。新人看護師・異動看護師への教育体制を整えています。

■研究発表

多職種に対する脳卒中啓発運動における研修の成果
 —FASTを用いて— 山崎克仁
 第45回脳神経看護研究学会

西 4 階病棟

■ スタッフ

科 長 田 尾 由美子
 古 井 良 子 (2018年10月～)
 主 任 植 野 祐 子、麻 川 真 代
 横 山 祐 加 子
 他 助産師 24名 看護師 17名 看護補助者 3名

■ 病棟の概要

診療科は産婦人科・外科系混合病棟で、唯一の女性病棟です。今年度より、乳腺外科の患者の受け入れを始めています。病床数は46床、病棟稼働率は75.8%で、平均在院日数は7.6日です。平均必要度は28.9%です。退院支援加算は4.6件です。

2018年度の分娩件数は447件で帝王切開率は25.9%でした。

婦人科では主に良性・悪性腫瘍手術、化学療法、異常妊娠、切迫流産などの治療を行っています。乳腺外科は、主に乳癌や良性腫瘍の摘出術、化学療法を行っています。



■ 看護

病棟外来一元化が3か年計画の3年目となりました。交替で病棟から外来へ派遣し、現在24名のスタッフが外来業務を行えるようになりました。1月より平日夜間の産科救急対応を開始し、主に遅出が対応するようになりました。また、病棟と外来での情報共有やスタッフの応援体制もとれるようになっていきます。

今年度より病床編成のため、乳腺外科の患者さんも入院してくるようになり、乳腺外科・婦人科では周手術期看護や悪性腫瘍の化学療法・放射線療法の看護、終末期患者に対して同じ女性としての目線で患者さん・ご家族に寄り添った看護を提供しています。

■ 教育

4月より赴任した小西医師の指導のもと、産科救急対応の訓練を定期的に行い、緊急時の対応に自信を持って臨めるようになりました。また、乳腺外科の木村医師に乳癌の病態生理や手術方法、術後管理まできめ細やかに指導をしてもらい、乳腺外科の術後管理への理解を深めることができています。



■ 院外活動

2018年度も廿日市健康祭りでベビーマッサージを行いました。看護の出前授業では、中学校・高等学校の学生に対して「いのちの授業」を行いました。

助産師1名が広島県看護協会の社会経済福祉委員として活動しています。

■ 研究

「分娩第1期におけるアロマの効果」院内発表

○尾崎沙彩加、森藤央、柿木華織

西 5 階病棟

■スタッフ

科 長 西 村 留 美
主 任 敝 小百合、岩 崎 文 江
他 看護師 28 名 看護助手 3 名

■病棟の概要

診療科は整形外科で主に脊椎疾患患者の看護、急性期の看護を行っています。病棟スタッフは、看護師 33 名、看護助手 3 名で構成されており、勤務体制は 2 交代勤務です。2018 年度の整形外科手術件数：1,643 件 病床稼働率：82.5% 平均在日数 12.6 日です。

■看護



当科では固定チーム＋受け持ち制を行っており、入院時に患者さんへ受け持ち看護師が挨拶し、入院から退院までを責任をもって継続した看護を提供することに努めています。

男性看護師が 10 人在籍しており、看護師の 1/3 を占めています。男性看護師は患者さんの移乗や体位変換時に力を発揮してくれており、頼りがいがある・言葉に説得力があるとの患者さんからの声もいただいています。スタッフ全員で分担し、チームごとに活動を行っています。特にシミュレーションチームは月 1 回、急変を想定したシミュレーションの勉強会を行い、スタッフ全員が急変時に対応できるよう日々学習しています。

学会認定運動器看護師が 1 名在籍しており、その看護師が中心となって開発的な看護を実践していま

す。さらに、来年度の資格取得に向け 1 名取り組んでいるところです。

■教育

個人の興味、関心に基づき、研修会に参加しています。年間計画を立て、研修会参加後は病棟内で伝達講習を行い、病棟看護師全体のレベルアップをはかっています。

スタッフ全員のキャリアラダー認定合格を目指すと共に、リーダーや実習指導者を育成しスタッフがさらに成長できるよう支援を続けています。

今年度の新人看護師は 8 人と多く、ペアナーシング制度を取り入れました。その結果、新人看護師は年度内には独り立ちし一人も退職することなく頑張っています。また、オータムデイキャンプでのカレー作りでは優勝を果たし、同期の結束も深めました。



■院内における研究・発表

女性患者の男性看護師に対する受容状況～入院時に男性看護師に関するオリエンテーションを実施して～

○橋渡菜摘 中田恵梨 新屋亜美 西村留美

整形外科病棟における新人看護師教育の現状と今後の課題

○安尾由佳 岩崎文江 西村留美

西 6 階病棟

■ スタッフ

科 長 槌 谷 滋 乃
主 任 竹 村 美 鈴、阿 部 伸 也
他 看護師 34 名 看護助手 3 名

■ 病棟の概要

【診療科】 消化器外科

【病床数】 54 床

(個室 6 室・うち重症個室 1 室、4 人部屋 12 室)

急性期消化器外科周術期から終末期まで幅広い看護を提供しています。2018 年度の平均病床稼働率は 82.3%、平均在院日数は 13.1 日となっています。

また、肝・胆・膵外科と消化管外科の年間手術件数は、842 件となっています。

■ 看護

看護体制は固定チームナースングをとっており、周術期医療・看護を行うチームとがん患者に対する抗がん剤治療や症状緩和を行うチームの 2 つで編成しています。

「外科看護に特化した病棟」であるため、周術期医療・看護を行うチームは、専門性を強化し、クリニカルパスを多数導入しました。術後の合併症予防と皮膚・排泄ケア認定看護師と協働しながらストーマセルフケア指導に力を入れています。

また、がん看護に対する抗がん剤治療や症状緩和を行うチームは、薬剤導入時や食事摂取困難な患者に対して薬剤師や管理栄養士と協働して患者さんのサポートに力を入れています。

2018 年度の看護目標は、「統一した看護を実施する」「スタッフ一人一人が病棟運営への参画意識を持つ」「スタッフや患者との良好なコミュニケーションを図る」と設定し日々の看護に励んでいます。安全で質の高い看護を目指し、チームリーダーを中心にチームカンファレンスを実施することで、情報共有しながら看護・医療の提供を行っています。

■ 教育

毎月 1 回を目標に、病棟内で勉強会を実施しています。

2018 年度は院外研修参加も推奨しました。広島県看護協会などで開催された勉強会に自主的に参加し、伝達講習を行うことで情報を共有しました。

新人看護師教育に対しては、プリセプターが中心となり、勉強会の開催や立案した計画に沿ってチェックリストを使用した基礎看護技術に対する OJT を行いました。

また、各委員リンクナースが病棟内で勉強会やシミュレーションを通じてスタッフに教育するなど、積極的に教育活動が行えました。



■ 院内における研究・発表

院内看護研究発表会

チーム目標から考えるカンファレンスの意識調査
～カンファレンスの充実をめざして～

○吉岡千絵



西 7 階病棟

■スタッフ

科 長 村 中 ひろみ
主 任 松 浦 美由紀、平 野 有 紀
他 看護師 32 名 看護助手 3 名

■概要

当病棟の病床数は 55 床、個室 7 室（うち特別室 1 室、重症個室 1 室）、4 人部屋 12 室を有する消化器内科病棟です。内視鏡検査・治療、肝疾患治療を受ける患者さんが多く、クリニカルパスに沿って治療・看護を提供しています。2018 年度の平均稼働率は 84.5%、平均在院日数は 12.5 日です。

■看護

看護体制は固定チームナーシング制（A チーム・B チーム）をとり、二交代制勤務をしています。消化器疾患に関連した内視鏡検査・治療のほか、肝疾患治療や化学療法など専門的な知識を基に看護を提供しています。クリニカルパスやオリエンテーションブック（内視鏡的経鼻胆道ドレナージチューブ留置患者へのオリエンテーション）、退院時指導パンフレットを用いて、患者さんやご家族に対して治療経過や注意点、生活指導などわかりやすく説明しています。緊急入院が多い中、限られた時間で患者さんやご家族とコミュニケーションを図り、安心して治療が受けられる環境を提供しています。毎月、リーダー会やチーム会を行い、病棟スタッフとともに働きやすい環境作りに取り組み、就業前残業やカーデックスの廃止などを行いました。



[膵がん・胆道がん教室の様子]

また、病棟看護師が「膵がん・胆道がん教室」の運営に関わっています。医師から、膵がんの病態・治療、教室の意義について勉強会を実施してもらい知識を深めました。コアメンバーが中心となり、がん患者さんと共に教室参加し、患者さんの思いを聞き、他職種とともに協同しながら看護を行っています。

■教育

ラダーⅠを 2 名取得しました。次年度はラダーⅡ取得 4 名を目指し計画しています。新人看護師に対して、プリセプターが中心となり立案した計画に沿って、基礎看護技術・看護記録方法、内視鏡検査・治療など専門的な知識と技術を習得できるように指導し、支援していきました。新人看護師とプリセプターが話し合う機会を持ち、互いの思いを伝え、プリセプティの成長を喜ぶ場としました。

また、病棟一丸となってリーダー育成に取り組み、新たに 4 名がリーダーシップを発揮し看護実践ができるようになりました。

臨地実習について、3 校の受け入れを行っています。基礎看護学実習・成人看護学実習・統合実習を通して、学生指導を行い、育成に努めています。

■院内における研究・発表

院内看護研究発表会

「内視鏡的経鼻胆道ドレナージ術を受ける患者へオリエンテーションブックを用いて指導した後の患者の理解」

○徳永裕子 坂手友子 喜連川恵美



西 8 階病棟

■ スタッフ

科 長 宮 本 英 美
 主 任 高 原 さ お り、伊 藤 昭 範
 岡 本 信 子
 他 看 護 師 34 名 看 護 補 助 者 3 名

■ 病棟の概要

当病棟は呼吸器内科・放射線治療科・総合診療科・緩和ケア科の病棟で、急性期から終末期まで幅広い看護を提供しています。病床数は10月に54床から60床に増床されました。

2018年度の平均在院日数は18.6日、病床稼働率は82.6%でした。また高齢な患者が多いことや、呼吸器ケアや医療用麻薬の管理が必要な患者が多いことから、重症度、医療・看護必要度は38.9%でした。

■ 看護

看護体制は2チームの固定チームナースング制で、2交代制をとっています。

緩和ケアチームは毎朝ミニカンファレンスを実施し、患者・家族の情報をスタッフ間で共有しています。疼痛や呼吸困難を有する患者さんに対して、アセスメントをしながら非オピオイド鎮痛薬・医療用麻薬の管理を行い、苦痛緩和を行っています。緩和ケア認定看護師に相談しながら患者さんの精神的ケアや家族ケアを行っています。

呼吸器疾患患者に対しては、医師の指示のもと、酸素管理・ネブライザー・スマートベスト・陰圧人工呼吸器（RTX）を用いて専門的な呼吸器ケアを行っ



ています。呼吸ケアチーム（RCT）が中心となり、呼吸器疾患でリハビリをしている患者さん全員を対象に運動・薬・栄養・日常生活について指導を行っています。週1回呼吸器カンファレンスを行い、多職種と連携して情報共有や退院支援を行っています。

■ 教育

プリセプターを中心に、基礎看護技術や専門的知識を習得できるようスタッフ間で情報共有や、精神的サポートを行い病棟全体で新人看護師の育成をしています。

新人看護師だけでなく、スタッフ全員を対象に2018年度は4回勉強会を行いました。

〈2018年度勉強会〉

- ・NPPVについて（講師：臨床工学技士）
- ・看護必要度について（講師：記録委員）
- ・RTXについて（講師：業者）
- ・疼痛コントロール、麻薬について（講師：緩和ケア認定看護師）

■ 院内における研究・発表

院内看護研究発表会

西8階病棟で行われている呼吸器ケアの現状と課題～アンケートによるスタッフの意識調査から～

○伊藤昭範 高原さおり 岡本信子



東 3 階病棟

■ スタッフ

科 長 新 田 克 己
主 任 門 内 美 鈴、龍 敬 子
他 看護師 31 名 看護助手 4 名

■ 概要

東 3 階病棟は、循環器内科・心臓血管外科を主とする混合病棟です。2018 年度の平均在院日数は、12.3 日、病床稼働率は平均 80.4%でした。

循環器内科の入院患者は、主に心筋梗塞・狭心症・心不全・不整脈が主病名です。従来は心臓カテーテル検査や治療に加え、2018 年度から不整脈の患者さんに対して ICD 植込み術、CRT-D 植込み術、リードレスペースメーカー植込み術の治療が新たに開始されました。

心臓血管外科は、心臓弁膜症・虚血性心疾患の外科的治療が必要な場合・胸部大動脈瘤などの開心術後やステントグラフト内挿術後などの患者さんが入院されます。

■ 看護

看護体制は固定チームナースィング（2 チーム）を取り入れ、チームリーダーを中心に質の高い看護の提供に努めています。日々、チームカンファレンスを実施するなかで意見を出し合い、患者情報の共有と看護ケアの計画の見直しを行っています。

心不全・心筋梗塞の患者さんに対しては、多職種と連携を図り、指導計画に基づいて、生活改善の見直しと自己管理の必要性について指導を実施しています。

2015 年度から広島県心臓いきいき推進事業に参画して、毎月 1 回の心臓病教室や年 2 回の心臓いきいきキャラバン研修会を開催しています。

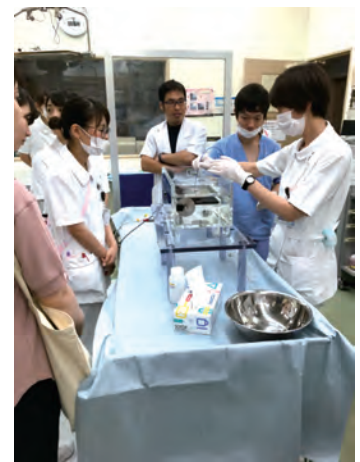
■ 教育

新人看護師教育は、PNS を取り入れプリセプターを中心に月ごとに教育計画を提示し、スタッフと情報共有しながら病棟全体で教育・支援を実施してい

ます。

病棟勉強会は主任と教育係が中心となり企画していますが、2018 年度は ICD、CRT-D、リードレスペースメーカーの植込み術の勉強会を実施しました。

また、当病棟は安田女子大学看護学部、山陽看護専門学校、東亜看護学院、日本赤十字看護大学等の実習を積極的に受け入れ、学生に対して支援をしています。



■ 院内における研究・発表

* 第 24 回 心臓リハビリテーション学会学術集会
(7 月横浜)

「外来心臓リハビリテーション終了後も自己管理が継続可能か」

研究者：門内美鈴 石川恵子 益本僚子 杉野里美
本間智明 小林 平



* 院内ポスター展出版

東 4 階病棟

■ スタッフ

科 長 秦 真規子
主 任 辻 由利恵、手 島 未 貴
他 看護師 28 名 看護助手 2 名

■ 病棟の概要

当病棟は病床数 43 床の小児科・耳鼻咽喉科・眼科を主とした混合病棟です。8 月の病棟再編成により救急・集中治療科が加わり、より幅広い疾患患者を受け入れています。

2018 年度の 1 日あたり入院患者数は平均 29.9 名、病床稼働率は平均 70.3%、平均在院日数は 6.6 日、在宅復帰率は平均 93.8%でした。

■ 看護

小児から高齢の方まで患者さんを総合的に見て医療や看護を提供できる病棟です。急性期という事もあり病棟の目標をもとにスタッフは向上意欲をもち、全員で看護の専門性が活かせるよう取り組んでいます。医師、コメディカルと共にカンファレンス等行い、患者さんの退院に向けた援助も展開しています。

眼科では、週 3 回白内障・緑内障手術を入院から手術、退院まで術後の看護から点眼指導を行い継続して治療が出来るようにしています。

耳鼻科では、週 2 回、主に扁桃・アデノイド手術・内視鏡下副鼻腔手術・直達喉頭鏡下の声帯手術・唾液腺、甲状腺手術などがあり術前から術後までの全身麻酔下の看護も行っています。また、喉頭癌などの癌治療のため、抗癌剤や放射線治療なども行い、日々の全身状態の観察を行いながら薬剤師との調整や栄養科の食事の工夫なども行い、多職種と連携を図っています。

小児科では、外来と病棟の看護一元化をすることで、急な入院においても、外来から入



院、そして退院後は外来へと継続した看護を提供することができています。小児は、身体の多くの組織が発達段階にあり、対応予備能力が未熟なため、容易に重症へと変化しやすく、小児救急の知識や技術を踏まえた急性期看護が重要となります。そのため、小児の急性期看護の充実を目標に日々看護に取り組み、研修会を企画し研鑽に努めています。



救急集中治療科では、2018 年度より新しく当病棟に加わり、より幅広い急性期看護が必要となります。救急認定看護師の指導により勉強会を開催し、質の高い看護が提供できるよう努めています。

■ 教育

看護の充実を図り、急性期における看護が提供できるよう技術研修・勉強会を行っています。

取り組み内容

- ・ 小児の点滴管理の固定方法の見直し
- ・ 転倒転落防止対策の見直し
- ・ 小児科外来、夜間救急対応
- ・ 胸腔ドレーン挿入について研修（救急認定看護師より）
- ・ 小児アレルギー、喘息発作時の看護（小児科医師より）
- ・ 放射線治療、化学療法の見直し

■ 院内における研究・発表

院内研究発表会

「転倒・転落の危険度の高い患者へのカンファレンス実施の有用性の検証～カンファレンス実施前後の看護師の転倒・転落に対する意識変容～」

○師井香奈 加藤慧巳

東 5 階病棟

■ スタッフ

科 長 吾 郷 志津枝
丸 澤 葉志子 (2019年1月～)
主 任 宮 崎 有 紀、中 満 美 幸
岡 本 真 理
他 看護師 32 名・看護助手 2 名・介護士 1 名

■ 病棟の概要

定床 52 床で、一般病室（4 人部屋）7 部屋と混合病室（観察室 4 人部屋）3 部屋、一般個室 9 床、重症個室 2 床の病棟です。主に脳神経外科・口腔外科の患者さんが入院されます。昨年より、消化器内科の検査入院の患者さんの入院も受け入れている混合病棟です。

脳卒中（脳出血・脳梗塞・脳塞栓・くも膜下出血）の患者さんは、入院当初よりリハビリを開始して、病棟食堂・屋上で遊びリテーション（歌風船バレー・カープ応援歌の合唱・シャボン玉など）も実施しています。

その後、地域連携パスを使用して、地域の回復期リハビリテーション病院（廿日市記念病院・大野浦病院・アマノリハビリテーション病院・西広島リハビリテーション病院・五日市記念病院）への転院をサポートして、切れ目のない、リハビリを行える環境を提供しています。



■ 看護

看護師の勤務形態は、2 交代制、A チーム・B チームの 2 チーム制を取っています。今年は、4 つの病棟活動チームを編成しテーマごとに活動しました。

1. 退院時指導研究チーム

【脳卒中にかかられた患者さんへ】というひとくくりの退院パンフレットであったため、疾患に応じたパンフレット作成に取り組みました。次年度は作成したパンフレットを使用して退院指導ができると思います。

2. 記録・コスト管理チーム

記録の漏れ・コストの取り忘れがないようにするため、現状をアンケートにより把握して、医事課と協力してコスト入力をしなければならない物品・薬品の表を作成しました。これにより個人差なくコストの入力ができるようになりました。また、記録については勉強会を開催し、監査を行いながら正しい記録が書けるように努力を続けています。

3. 急変シミュレーションチーム

今年度は机上で、シミュレーションを行い、リーダー・メンバーの役割の再確認をしました。

4. 研修会企画チーム

医師、臨床工学技士、リハビリスタッフ、管理栄養士、歯科衛生士に講師を依頼し、勉強会を企画・運営し看護師として必要な知識を身につけました。

2 名の新人看護師の勉強会は、病棟看護師全員に担当を振り分け、病棟全体で新人を育てています。

■ 教育

ラダーⅠに 2 名の看護師が認定されました。ラダー認定もスタッフに定着し、来年度ラダーⅢ・ラダーⅡ受審のため計画的に研修に参加しています。

加算対象の「重症度看護必要度」の研修に 6 名受講し、計画的なスタッフ教育を行っています。

■ 研究発表

- 急性期脳神経外科病棟における遊びリテーションの有効性
～患者家族に焦点を当てて～

◎宮地有紀・土橋千春
他

- ・第 29 回佐伯医学会
- ・広島県看護協会

廿日市支部看護研究発表会



患者家族とシャボン玉

■ 生き生きとした職場作り

スタッフ同士の交流会に重きを置き 2 ヶ月に 1 度の昼の食事会、忘年会など企画して実施しました。

東 6 階病棟

■ スタッフ

科 長 古 井 良 子
 野 田 明 美 (2018年10月～)
 主 任 前 田 智 子、松 浦 美由紀
 山 本 はずき
 他看護師 31 名 看護助手 2 名

■ 概要

東 6 階病棟は、10 月に病棟編成があり病床数 51 床の泌尿器科・皮膚科・腎臓内科（10 月までは乳腺外科）・他科診療科の受け入れを行っている混合病棟です。急性期から終末期の患者まで、幅広く看護を行っています。手術や検査はもちろん、腎臓内科が加わったことにより、透析患者の看護や教育入院などの患者指導にも力を入れています。

看護体制は、固定チームナースング制をとっており 2 チーム 2 交代制で行っています。また、パートナーシップ・ナースングシステム（PNS）の導入も検討しています。

■ 看護

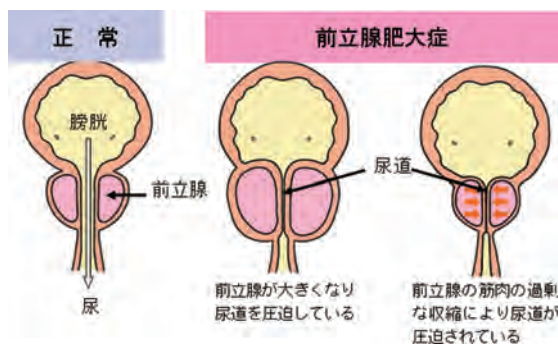
2018 年度は病棟編成に伴い、内科と外科の看護師が集結し一つの病棟となりました。双方の経験値や知識・技術を共有し、対等な立場で協力し合いながら看護を提供しています。

また、その中で 5 チームに分かれて年間目標を立てて取り組みました。

【認知症／アロマチーム】

- ・ 認知症患者が穏やかに療養生活を送れるよう心身のバランスを整える環境作りやケアを行う。
- ・ 終末期患者の身体的、精神的苦痛が緩和できる環境作りやケアを行う。

【泌尿器科チーム】



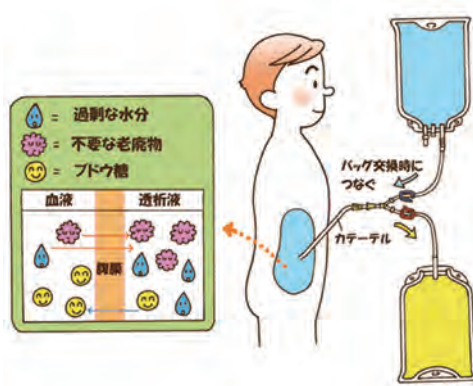
- ・ 泌尿器科の手術・検査や処置がわかり、技術の向上につなげる。

【リスク管理チーム】

- ・ インシデントの事例検討を行い、スタッフのアセスメント能力を高め、インシデント件数の減少を目指す。

【腎臓チーム】

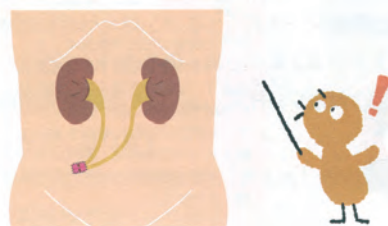
- ・ 透析についての理解を深め、患者教育に活かすことができる。



■ 教育

新人看護教育は、1 年目・2 年目ともプリセプターを中心に立案した教育計画をラダーで提示し、プログラムに沿ってチーム制指導を実施しています。

看護学生の実習も受け入れており、日本赤十字広島看護大学の学生の指導にも力を入れています。



■ 院内における研究・発表

【院内】

2018 年日本転倒予防学会 第 5 回学術集会

「転倒転落の現状と発声要因から導く転倒転落予防への取り組み～ A 病院における転倒転落事例の分析～」

研究者：前田智子

【ポスター展発表】

そうだ、検診へ行こう！

～あなたは乳癌検診を受けていますか～

東 7 階病棟

■ スタッフ

科 長 本 山 敏 恵
主 任 島 津 加 奈 子、辻 幸 枝
加 賀 美 昌 美
他 看護師 28 名 看護助手 2 名

■ 概要

東 7 階病棟は 2018 年 10 月より、病棟再編成のため糖尿病代謝内科が合併し、病床数を 52 床、個室 12 室（うち重症個室 4 室）、4 人部屋 10 室と増床となりました。

呼吸器外科と心臓血管外科、糖尿病代謝内科の外科・内科の混合病棟であり、検査入院から外科的治療、終末期治療に加えて、教育入院の受け入れを行っています。

呼吸器外科では肺癌、気胸、膿胸、縦隔腫瘍、心臓血管外科は下肢閉塞性動脈硬化症、腹部動脈瘤、下肢静脈瘤、糖尿病代謝内科では、糖尿病教育入院、血糖コントロールの治療を行っています。

2018 年度の平均病床稼働率は 85.6%、平均在院日数は 19.7 日、看護必要度は 44.3%です。

■ 看護

患者さんとの関わりを深め、きめ細かく・質の高い看護を提供する為に、看護方式は固定チームナーシングと受け持ち制を併用しています。

週に 3 回（火：心臓血管外科、水：糖尿病代謝内科、金：呼吸器外科）多職種が集まって、カンファレンスを実施しており、患者情報の共有を行い、統一し



た医療の提供を行っています。

心臓血管外科の下肢血管チーム（心臓血管外科医師、形成外科医師、理学療法士、薬剤師、管理栄養士、社会福祉士、看護師）は週 1 回フットケア回診を実施しており、治療方針の共有、ケアの充実につとめています。看護は、皮膚・排泄認定看護師を中心に、フットケアのスキルアップを目指しています。

糖尿病センターに糖尿病療養指導士を病棟から 1 名配置し、外来との一元化を進めています。糖尿病認定看護師と療養指導士を中心に、糖尿病代謝内科併診による知識の向上、患者ケアの向上につとめています。

■ 教育

病棟再編成、糖尿病代謝内科の外来一元化にあたり、病棟内で各診療科の知識の習得に向けて勉強会を実施しました。

また、専門分野だけでなく幅広い知識の習得に向けて、院内院外の研修に参加し、チーム内での伝達講習を行っています。

（勉強会の内容）

- ・ EVT・下肢バイパス手術見学実施
- ・ 糖尿病教室・療養指導の見学
- ・ 病棟勉強会 9 回、チーム内勉強会 20 回
- 各看護科委員会スタッフ勉強会 5 件
- （リンクナースとなり病棟勉強会を実施）

■ 研究・発表

重症下肢虚血患者の退院を見据えての関わり
～アセスメント評価の重要性～

高田紗知 坂田優花 南部智江 島津加奈子
本山敏恵 小林平

第 17 回日本フットケア学会 年次学術集会で発表

手術室

■ スタッフ

科長 久保知子
 科長代理 山村健二
 主任 加藤智恵、平本康昂
 穴戸多恵子、高野正義
 看護師 43名

委託業者（清掃、器械洗浄、滅菌、中材業務）

■ 概要

当院手術室は13診療科の手術を行っており、2018年度の年間手術件数は5,398件でした。急性期病院の手術室として患者さんが安心して手術を受けられ、安全で円滑に手術が進行するように知識、技術の習得に励んでいます。

医療環境の変化に伴い、手術室看護師に求められるスキルが多様化し、働き続けられる環境づくりが課題となっています。新しい手術室看護体制を確立するため固定チーム制の導入、また待機・オンコール体制より2018年11月より完全2交代制に勤務体制を変更しました。



■ 看護

今年度の部署目標

- 1) 患者さんが安心・安全な手術を受けられる周術期看護を実践しよう
 - ・インシデントの予防と再発防止に努め、患者さんに安心・安全な看護を提供します
- 2) 早期人材育成と働きやすくゆとりのある職場環境作りをしよう
 - ・風通しの良い開かれた手術室を目指し、限られた資源である「人」を大切にしていきます
 - 手術管理システムの修正・整理や、スタッフによる器械管理・器材物品管理、医療機器の管理・看護行為を臨床工学技士と連携・協働し実施することで、

より安全・安心な手術環境の提供に努めています。予定手術では手術担当看護師による術前訪問を行い患者さん、ご家族の緊張や不安の軽減に努めています。

■ 教育

“みんなで育てよう”をスローガンにスタッフ一丸となり育成に取り組んでいます。各固定チームが主体となりマニュアルの修正、伝達ノートの作成など新人にも統一した指導ができるように工夫をしています。

また、新人看護師教育は手術室ラダーをもとに、プリセプターを中心に指導を行っています。夜勤2交代制の導入に伴い、手術が行われていない時間は手術関連病棟への療養支援を実践しています。療養支援を通し、術中看護だけではなく術後も患者さんに関われる体制が確立した事は、外科系看護師のキャリアデザインの構築にも繋がってきます。今後は術後訪問の実施率を向上させ、自己の看護の振り返りを行っていくとともに、周術期という一連の流れで手術室看護師が患者さん、ご家族と関わり看護実践できる体制構築を目指していきます。

看護学生の実習は、3校を受け入れ、学生指導にも力をいれています。

■ 研究発表

【第32回日本手術看護学会年次大会】

手術室災害訓練・勉強会実施前後の看護師の災害意識・初期行動理解の比較～アクションカードを用いたシュミレーションを実施して～

○鈴木久恵 加藤智恵



居宅介護支援事業所

■スタッフ

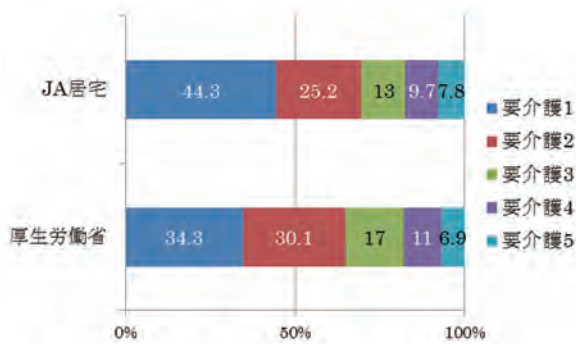
管理者 古本直子
 (主任介護支援専門員、緩和ケア認定看護師)
 主任 奥元直美
 (介護支援専門員、看護師)

■概要

要介護者の身体状況や精神状態は、ケアプランを
 実行していく過程で刻一刻と変化します。介護度の
 悪化や環境の変化により、できること・できないこ
 とが変わり、ケアプランの変更を行っていきます。
 ケアマネジャーは、介護サービスが必要な人と介護サー
 ビスをつなぐ架け橋のような役割を担っています。

■実績

- 年間実利用者数 55人 + 13人
 (要介護者) (要支援者)
- 新規利用者：24名 ・終了者：20名
- 要介護度別利用者数の割合構成



■主な支援内容数 (件)

	年間総数	月平均
利用者宅訪問	628	52.3
サービス担当者会議	85	7.1
モニタリング	530	44.2
包括との連絡	28	2.3
医療機関との連携	89	7.4

- 年間がん終末期実利用者数：14人
- 年間ターミナルケア加算：2件算定
- 開始時暫定プラン数：10人

がん末期利用者は介護保険の認定が降りる前に暫
 定プランで計画作成の必要があります。

■教育

広島県介護支援専門員協会、廿日市市介護支援専
 門協会、廿日市市、地域包括支援センター、廿日市
 市五師士会、学会・院内外の研修に参加し、自己研
 鑽に努めています。

■学会発表事例

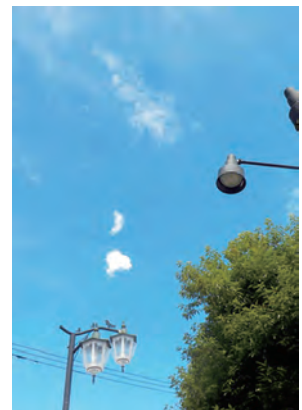
ご本人、家族の今後の化学療法、療養場所に対す
 る気持ちの揺らぎに寄り添いながら、在宅看取りで
 きた50歳代女性の事例発表を行いました。



■支援の実際

A氏：60歳代 男性 妻と二人暮らし
 食道癌、肺・肝・リンパ節転移
 介護保険申請中で暫定プラン利用。
 特殊寝台+付属品、床ずれ予防マット利用。
 医療保険で訪問看護利用。

退院後居室から外を見て、妻に「空って、こんな
 に青くてきれいなんだね。」何気ない日常に、幸せ
 を感じた瞬間でした。5日後再入院し、2日後亡く
 くなりました。



訪問看護ステーション

■ スタッフ

科 長 久 保 洋 子

他 看護師 6名

■ 概要

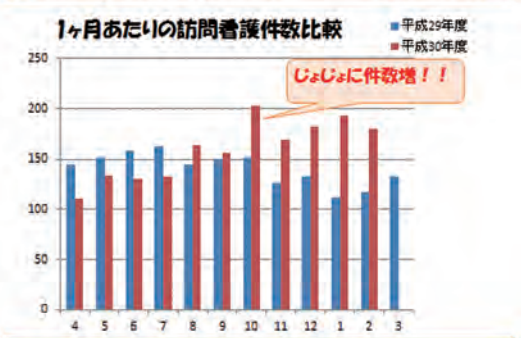
当訪問看護ステーションは、急性期総合病院、居宅介護支援事業所に併設しています。医療依存度の高い方やがん末期の方に対して、在宅看取りを含め他職種で連携・共有を図り、在宅で療養生活を過ごされる利用者様とご家族の支援を行っています。

また、待機制をとり24時間365日、電話対応、緊急訪問ができる体制をとっています。2018年度の新規利用者数は54名、訪問回数のはべ1,936回、在宅看取りは11名でした。

過去10年間の新規利用者数の比較 JA広島総合病院



前年度との訪問件数の比較 JA広島総合病院



■ 看護

当ステーションは、急性期総合病院の併設型訪問看護ステーションという強みと、様々な分野を経験したことのある看護師で質の高い看護を提供しています。院内の他職種に対して宣伝を行った結果、院内からの紹介を80%（2017年度：47%）と

増やすことができました。病院を退院される前に利用者様・ご家族、院内の他職種と退院前カンファレンスを実施し、在宅への移行をスムーズに行うことができました。その後、訪問看護師による訪問看護を通して、利用者様、ご家族から感謝のお言葉をいただくこともできました。住み慣れた地域、在宅で療養生活を送られる利用者様、ご家族の支援をする上で、訪問看護師は重要な役割を担っています。

訪問看護やってます

あなたらしく、住みなれた家で過ごしませんか



訪問看護ってなにをするの？



■ 教育

2018年度より人事異動に伴い、訪問看護に従事することが初めてのスタッフがほとんどでした。広島県看護協会、広島西医療圏訪問看護推進協議会の研修などに積極的に参加し、スタッフ間で訪問看護に必要な知識や技術の習得に努め、共有し実践に活かしています。

また、6校の大学や専門学校からの実習を受け入れ、学生指導にも力を入れています。

■ 院内における研究・発表

2018年度 広島西医療圏訪問看護推進協議会主催
第1回 広島西医療圏訪問看護事例報告検討会
在宅看取りを通して学んだこと

～家族看護の大切さ～

○折本孝子

薬剤部

■スタッフ

部長 橋本佳浩

科長 中島恵子

科長補佐 磯貝明彦

主任 松本里恵

主任 山崎貴司

主任 正嶋和美

主任 大原由希子

主任 角井碧

薬剤師 計 38 名 (休職・産休 3 名含む)

事務 6 名

[人員配置]

西 4 階、西 5 階、西 6 階、西 7 階、西 8 階、東 3 階、東 4 階、東 5 階、東 6 階、東 7 階、東 8 階、HCU、ICU に病棟薬剤師

がん化学療法専任 3 名 ICT 専任 1 名

NST 専任 2 名 緩和ケア専任 1 名

DI 専従 1 名

[取得資格 (認定、所属学会、世話人等)]

日本臨床救急医学会 救急認定薬剤師 1 名

日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療認定薬剤師 3 名

日本緩和医療薬学会 緩和薬物療法認定薬剤師 1 名

日本病院薬剤師会

感染制御認定薬剤師 1 名 認定指導薬剤師 1 名

生涯研修履修認定薬剤師 12 名

日本薬剤師研修センター

認定実務実習指導薬剤師 4 名

研修認定薬剤師 7 名

日本化学療法学会 抗菌化学療法認定薬剤師 1 名

糖尿病療養指導士 6 名

日本静脈経腸栄養学会 NST 専門療法士 2 名

日本アンチ・ドーピング機構 (JADA)

公認スポーツファーマシスト 2 名

日本救急医学会 ILS インストラクター 2 名

危険物取扱者 1 名

NR・サプリメントアドバイザー 1 名

日本 TDM 学会 1 名・日本化学療法学会 2 名

日本医療薬学会 5 名・日本腎臓病薬物療法学会 3 名

日本緩和医療学会 1 名・日本緩和医療薬学会 4 名

日本臨床腫瘍学会 1 名・日本臨床腫瘍薬学会 4 名

日本環境感染学会 2 名・日本臨床救急医学会 1 名

日本静脈経腸栄養学会 2 名・日本褥瘡学会 1 名

日本心臓リハビリテーション学会 4 名

全国厚生連病院薬剤師長会議理事 1 名

広島県病院薬剤師会理事 1 名

広島県病院薬剤師会委員会 (医薬品情報委員 2 名、

医療連携支援検討委員 2 名、専門薬剤師委員 (感染)

1 名、薬剤業務・プレアボイド委員 1 名)

■業務内容

調剤業務: 外来 514 枚/日 (院外処方箋発行率 0%)

入院 329 枚/日

注射調剤 504 件/日、院内製剤 48 品目

TDM (VCM・TEIC・ABK) 10 症例/月

抗がん剤無菌調製: 外来 17 件/日 入院 6 件/日

抗がん剤レジメン構築・管理

がん指導管理料 3 算定 (薬剤部のみ) 256 件/年

TPN 調製 49 件/月

薬剤管理指導算定件数 586 件/月

持参薬鑑別 228 件/月 実務実習 12 名/年

薬品管理、医薬品情報 (DI)、後発医薬品選定、

治験 17 件/年

チーム医療 (ICT、NST、医療安全管理、RST、PCT)

糖尿病教室、膵がん教室、心臓病教室

■その他活動内容

プレアボイド: 257 件/年 (外来・入院合計)

委員会事務局

(院内感染対策委員会、薬事委員会、治験委員会、がん化学療法運営委員会)

薬剤部定期勉強会・症例検討会 2 回/月

■管理機器一覧

錠剤分包機、散剤分包機、散剤バーコードシステム、高圧蒸気滅菌器、乾熱滅菌器、RO 純水製造装置、クリーンベンチ、安全キャビネット

◆全病棟に薬剤師を配置し、病棟薬剤業務加算を算定、外来患者の服薬指導も含め、病院全体における薬剤の安全管理と適正使用に貢献しています。

臨床研究検査科

■ スタッフ

主任部長 石田 和史 (兼務)
 部長 碓井 裕史 (兼務)
 精度管理部長 藤井 隆
 科長 水野 誠士
 科長補佐 三舛 正志、福岡 達仁
 主任 小松 浩基、長尾 専
 主任 山本 加代子、藤岡 朋子
 主任 池部 晃司、荒瀬 美幸
 副主任 嶋田 恵美
 医師 (兼務を含む) 3名
 臨床検査技師 (役職者を含む) 40名
 助手 2名

【資格取得】

認定管理検査技師 2名 認定輸血検査技師 1名
 認定臨床化学者 1名 認定血液検査技師 1名
 認定一般検査技師 1名 認定心電検査技師 2名
 細胞検査士 1名 日本糖尿病療養指導士 1名
 認定臨床微生物検査技師 1名 DMAT 隊員 1名
 認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師 1名
 医療情報技師 3名 医療環境管理士 1名
 超音波検査士 8名 (消化器 2、体表臓器 1、循環器 3、泌尿器 2) 血管診療技師 4名
 聴力測定技術者 1名 認定心電図専門士 1名
 二級臨床検査士 17名 (血液 5、循環器 4、脳神経 1、呼吸生理 1、病理 2、微生物 1、免疫血清 1)
 救急臨床検査士 2名
 第1種衛生管理者 1名 衛生工学衛生管理者 1名
 一般毒物劇物取扱者 5名 危険物取扱者 1名

【所属学会】

日本臨床衛生検査技師会 日本臨床検査医学会
 日本臨床化学会 日本臨床細胞学会 日本超音波医学会
 日本検査血液学会 日本輸血・細胞療法学会
 日本消化器内視鏡学会 日本超音波検査学会
 日本感染症学会 日本臨床微生物学会
 日本化学療法学会 日本環境感染学会
 日本結核病学会 日本心エコー図学会
 日本不整脈心電学会 日本睡眠学会
 日本乳腺甲状腺超音波医学会 日本診療情報学会

日本臨床検査自動化学会 生物試料分析学会

【施設基準】

日本臨床衛生検査技師会 認証精度保証施設
 同 標準化事業 基準基幹施設

【部門紹介】

当検査室は迅速で、安全かつ精度の高い検査を保証し、診療支援の一翼を担うことを基本に、次の行動目標をたて日々の業務に取り組んでいます。

【部門内研修会】

- * B型肝炎・C型肝炎の最新のトピックス
- * 平成30年度診療報酬改定と活躍が期待されている臨床検査技師象 * 肺高血圧症について
- * クロスミキシング試験・リン脂質抗体症候群について
- * 生化学分析の基礎 * 深部静脈血栓症
- * ヘリコバクター・ピロリとペプシノーゲン * グラム染色
- * 使ってみよう自動搬送システム
- * IEの診断・検査について * 間接液について
- * いまさら聞けない精度管理
- * C型肝炎検査と疫学研究
- * ファブリー病の新しい治療薬 (シャペロン療法)
- * 聴力検査について

【外部精度管理調査報告】

- 1) 日本臨床衛生検査技師会 99.2点 (231 / 233)
- 2) 日本医師会 99.0点 (584 / 590)
- 3) 広島県医師会 100点 (545 / 545)

■ トピックス

免疫検査機器の更新

ADVIA Centaur XP から Roche Cobas へ

この更新により報告時間は10～20分の短縮が図られた。なお、NT-Pro-BNP、ミオグロビン、トロポニンT、hCGは9分での報告となった。



中央放射線科

■スタッフ

主任部長 西原 礼介 (兼務)
 科長 山口 裕之
 科長補佐 本山 貴志
 主任 高畑 明、砂田 研二
 下土居 一、柳井 環
 副主任 中河 聖司
 副主任 池田 将敏
 診療放射線技師 (役職者含む) 24名

【取得資格】

第1種放射線取扱主任者	4名
エックス線作業主任者	5名
ガンマ線透過写真撮影作業主任者	3名
第一種作業環境測定士 (放射線)	1名
検診マンモグラフィ撮影認定技師	4名
核医学専門技師	1名
救急撮影認定技師	1名
X線 CT 認定技師	4名
医療情報技師	2名
肺がん CT 検診認定技師	2名
医用画像情報管理士	1名
臨床実習指導教員	2名
Ai 認定診療放射線技師	3名
放射線管理士	1名
放射線機器管理士	1名
ICLS プロバイダー	1名
ISLS プロバイダー	1名
画像等手術支援認定診療放射線技師	1名

【所属学会】

日本診療放射線技師会 日本放射線技術学会
 日本乳癌検診学会 オートプシーイメージング学会
 日本消化器集団検診学会 日本核医学技術学会
 日本超音波検査学会 日本 CT 技術学会
 日本磁気共鳴医学会 日本乳房画像研究会
 日本乳腺甲状腺超音波学会

【世話人等】

公益社団法人 日本診療放射線技師会代議員
 公益社団法人 広島県診療放射線技師会副会長

公益社団法人 広島県放射線技師会西部地区理事
 NPO 日本乳癌検診学会評議員
 NPO 日本核医学技術学会中国・四国地方会理事
 広島臨床画像研修会幹事 (事務局)
 ひろしま乳房画像研修会 (事務局)

■認定施設基準

日本乳がん検診精度管理中央機構認定 マンモグラフィ検診施設画像認定施設

■部内研修会 (1回/月)

CALNEO Smart の画像処理技術について
 造影剤のリスクマネジメント
 ITEM2018 報告会 (CT・MRI の最新技術紹介)
 安定冠動脈疾患の診断・治療の動向
 頸胸椎の MRI
 その対応で大丈夫? ~ 接遇について考えてみましょう~
 MRI 装置の最新情報紹介
 放射線障害防止法令改正の概要
 CT・MRI 検査における造影プロトコル
 みんなで急変に強くなりましょう (一般撮影室)
 最新のパントモ装置について
 医用画像電子保存ガイドラインと実際

■業務内容 (トピックス)

第1X線撮影室の機器更新に伴い 2018年8月に富士フィルム社製 CALNEO Dual が導入されました。



臨床工学科

■ スタッフ

主任部長 吉田 研一 (兼務)

科長 瀬尾 憲由

主任 荒田 晋二

主任 平野 恵子

臨床工学技士 (CE) 13 名 (科長・主任含む)

【認定資格取得】

体外循環認定士	3 名
3 学会合同呼吸療法認定士	6 名
透析技術認定士	2 名
不整脈治療専門臨床工学技士	1 名
呼吸治療専門臨床工学技士	1 名
消化器内視鏡技師	4 名

【所属学会】

- ・日本臨床工学会・日本体外循環技術医学会
- ・日本集中治療医学会・日本呼吸療法医学会
- ・日本人工臓器学会・日本高気圧環境医学会
- ・日本呼吸ケアリハビリテーション学会
- ・日本透析医学会・日本消化器内視鏡技師学会

■ 部門紹介

臨床工学技士は、医師や看護師とチームを組んで「生命維持管理装置の操作や各種医療機器の保守点検・修理」を行います。臨床工学科は現在 14 名でさまざまな業務と各専門性に対応するためにチームに分かれて業務を行っており、手術室・人工透析室・集中治療室・心臓カテーテル検査室・内視鏡室・一般病棟など院内のさまざまな分野で活躍しています。

■ 業務内容

『手術室業務』

- ・人工心肺症例数：66 例

『整形外科立ち合い業務』

立ち合い症例数

頸椎・脊椎固定：122 例 上肢・下肢：189 例

下肢関節置換：54 例

『EVT 立ち合い業務』

EVT 症例数：221 例

『救急・集中治療業務』

- ・急性血液浄化療法各症例数

CHDF：152 例、血漿交換：18 例、血液透析 32 例

- ・補助循環装置 (VA-ECMO、VV-ECMO)、IABP 各症例数

VA-ECMO、VV-ECMO：12 例 IABP：23 例

『循環器業務』

- ・CAG、PCI、PMI、ABL 各症例数

CAG：311 例 PCI：235 例 PMI：52 件 (12 件電池交換) ICD：10 例 ABL：81 例

『血液浄化療法』

慢性透析症例数：5,532 回

白血球除去療法 (LCAP：GCAP) 症例数：68 回

『高気圧酸素療法業務』

症例数：306 例

主な疾患：突発性難聴、網脈動脈閉塞症など

『内視鏡業務』

ESD、ERCP、EMR 各症例数

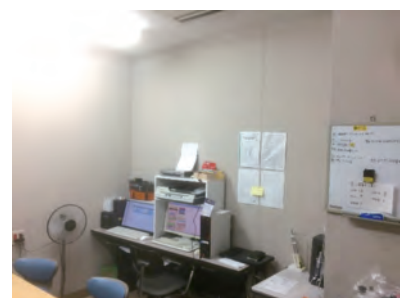
ESD：119 例 EMR：511 例 ERCP：371 例

『慢性期・在宅医療支援業務』

人工呼吸器や NPPV (NIP、ASV) などの在宅医療支援 (HST) 活動としての在宅訪問：16 回

■ トピックス

2019 年 2 月から機器管理室を東 8 階へ移動しました。今までは中塔 2 階 ME 室の狭い場所で機器の管理とメンテナンスをしていましたが、東 8 階のスペースを使用できることになり、広いスペースでメンテナンス、修理ができるようになりました。また、東 6 階の中央管理室とも近くなったので、作業効率も上がりました。広いスペースを確保できたので、今後は機器管理をより充実したものにしていきたいと思えます。



リハビリテーション科

■スタッフ

センター長 黒木 一彦 (兼務)
 部長 小林 平 (兼務)
 部長 山田 清貴 (兼務)
 科長 村上 嘉章
 主任 寺迫 正広、小林 恭子
 本間 智明、折手 祐一
 飛鷹 恵理
 理学療法士 14名 (役職者含む)
 作業療法士 5名 (役職者含む)
 言語聴覚士 4名

【認定資格取得】

3学会合同呼吸療法認定士	10名
心臓リハビリテーション指導士	3名
住環境福祉コーディネーター2級	3名
社会福祉士	1名
介護支援専門員	2名
がんリハビリテーション研修修了者	15名
認知症ケア専門士	1名
リンパ浮腫複合的治療技術者	1名
弾性ストッキングコンダクター	1名
日本糖尿病療養指導士	3名
腎臓リハビリテーション指導士	1名
認定言語聴覚士 (摂食・嚥下領域)	1名
日本摂食・嚥下リハビリテーション学会認定士	1名

■部門紹介

当科では入院患者さんを中心に院内全科からのリハビリテーション依頼を受けており、入院直後や手術後早期の超急性期から末期がんなどの終末期まで、多種多様な疾患をもたれた方々に介入しています。全ての疾患別リハビリテーションに加え、がん患者リハビリテーション料も算定しています。今年度より、リンパ浮腫複合的治療料の算定も開始しました。

理学療法士・作業療法士・言語聴覚士がそれぞれの専門性を活かし、他職種と協働して患者さんに介入しています。

所有管理機器

自転車エルゴメーター・トレッドミル・渦流浴・

ホットパック・起立台・低周波・スパイロメーター、心リハ専用モニター (RH-1000)

認定施設基準

運動器リハビリテーション料 (1)
 呼吸器リハビリテーション料 (1)
 脳血管疾患等リハビリテーション料 (1)
 心大血管疾患リハビリテーション料 (1)
 がん患者リハビリテーション料
 リンパ浮腫複合的治療料



《RH-1000 使用風景》

■トピックス

今年度より乳癌術後の上肢のリンパ浮腫や婦人科癌術後の下肢のリンパ浮腫に対してリンパ浮腫複合的治療を開始しています。主治医よりリハビリ介入指示がある患者さんに対して、問診・評価・パンフレットを用いたリンパ浮腫についての教育を行った後、患者さんに合わせた圧迫療法や圧迫下での運動療法を実施しつつ、生活上での注意点などの指導も併せて行っています。

また、必要に応じて弾性着衣の調整を行うなど、継続したアプローチを行うことでリンパ浮腫が軽減し、リンパ浮腫で悩んでおられた患者さんの生活の質を改善することができるようになりました。



栄養科

■スタッフ

主任部長 香 山 茂 平 (兼務)
 科 長 河 本 良 美
 主 任 三 浦 満美子
 主 任 上 村 真由美
 管理栄養士 11名 (科長、主任含む)

委託 (調理部門) (株) 日米クック

[人員配置]

外来指導担当 常時 3名
 病棟担当 各 1名
 NST 専従 1名 (八幡 謙吾)

[取得資格]

病態栄養認定管理栄養士 5名
 日本糖尿病療養指導士 4名
 NST 専門療法士 3名
 がん病態栄養専門管理栄養士 1名

[所属学会]

日本病態栄養学会 8名
 日本静脈経腸栄養学会 4名
 日本糖尿病学会 1名
 心臓リハビリテーション学会 1名

■業務内容

[栄養指導]

栄養食事指導では、患者さんの食生活・食習慣などを考慮した個別指導や、集団指導を実施しています。

〈2018年度 実績〉

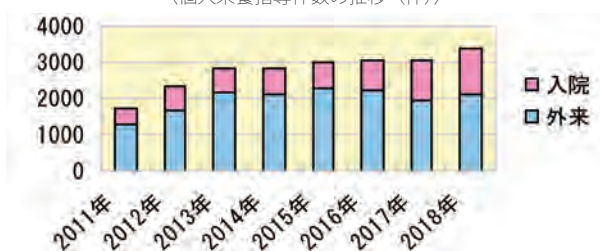
・個別指導

外来	2,112件	入院	1,274件
糖尿病	1,320件	心血管疾患	369件
心血管疾患	218件	糖尿病	293件
その他	574件	その他	612件

・集団指導 125件

糖尿病昼食会 1回/週 (毎週 火曜日)
 腎臓病調理実習 1回/月 (毎月第3木曜日)

〈個人栄養指導件数の推移 (件)〉



[給食]

調理部門の協力のもと、安全で美味しい食事の提供を心がけています。

〈2018年度 実績 (月平均)〉

一般食 12,862食/月 特別食 20,836食/月

■施設基準

入院時食事療養 (I)

■その他活動内容

患者サービス：行事食、退院食、全国統一献立
 集団栄養教育：妊産婦教室、膵がん胆道がん教室、
 心臓病教室

参加チーム活動：NST、褥瘡、緩和ケア、PEG、RST
 その他：あいプラザまつり (糖尿病グループ)、
 腎臓病市民公開講座、心臓いきいきキャラバン

■トピックス

腎臓病教室は1996年から現在まで20年以上続いている調理実習で、患者さんやご家族と和気あいあいとした雰囲気の中で楽しく料理をしています。

腎不全の患者さんが体に配慮した料理をより美味しく楽しく食べるために、工夫を凝らしたメニューを考えています。

調理実習で作ったメニューは、病院のHPでも紹介しています。



手作り柿ようかん



12月はクリスマスメニューで

診療情報管理科

■スタッフ

科長 井本 真美

他 9名

【資格取得】(科長を含む)

診療情報管理士	7名
院内がん登録実務中級認定者	2名
院内がん登録実務初級認定者	3名
医療情報技師	1名
DPC コース認定	1名
腫瘍学分類コース認定	1名

【所属学会】

- 日本診療情報管理士会
- 日本診療情報管理学会
- 日本医療情報学会

■活動報告

〈がん登録業務〉

地域がん診療連携拠点病院として「院内がん登録は国へ」、「全国がん登録は県へ」データ提出を行っています。

また、院外ホームページに広島県がん診療連携拠点病院で行っている「院内がん登録集計表」の掲載や、当院オリジナル新聞「広総がん情報ニュース」を発行し、地域の開業医・近隣住民に向けての情報発信を行いました。



〈Medoc スキャン業務〉

当科へ搬入された同意書等は内容点検後、一両日中（不備分を除く）にスキャンし、不備分は都度対応を行っています。スキャン後の同意書等は6ヶ月保管し、その後破棄処分しています。（タイムスタンプが付与され、電子データの原本性が担保されるため）

また、同意書等の記載不備が減少するよう、可視

化し、各部署へデータ還元を行っています。

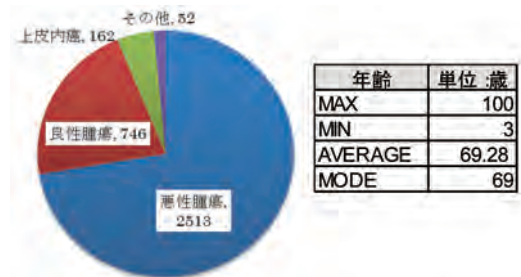
〈サマリ業務〉

医師の退院時サマリを基に国際疾病分類によるコーディングを行っています。

2018年度（総件数：15,043件：転科を含む）

順位	病名（大分類）	件数
1	悪性新生物および良性新生物（C00-D48）	3,473
2	循環器系の疾患（I00-I99）	2,210
3	消化器系の疾患（K00-K93）	1,872
4	呼吸器系の疾患（J00-J99）	1,300
5	損傷、中毒およびその他の外因の影響（S00-T98）	1,293
6	筋骨格系および結合組織の疾患（M00-M99）	1,038
7	腎尿路生殖器系の疾患（N00-N99）	934
8	妊娠、分娩および産褥（O00-O99）	586
9	その他の疾患	2,337

新生物内訳



〈ポスター展〉

ふれあいポスター展に作品を出展しており、今年度は、当科がどのような仕事をしているか、患者さんだけではなくスタッフの方々にも知っていただけるように、見る側も楽しくなるよう、仕掛けを工夫して楽しみながら取り組みました。その結果「ラッキー賞」を受賞しました。



〈院外発表〉

広島診療情報勉強会 1題

医療安全管理室

■ スタッフ

室長 徳毛 宏 則 (兼務)
 次長 田 中 信 弘 (兼務)
 科長 村 中 好 美 (専従)
 専従リスクマネージャー (RM)、医療安全責任者
 医療メディエーター

■ 部門紹介

医療安全管理室は「患者さんが医師・医療機関を信頼し、医療提供者も安心して医療提供できるシステム構築をめざし、患者さんと医療提供者双方の安心・安全の確保につなげる」ことを目標に、医療事故防止対策委員会や院内 RM 管理部会を中心とし、各組織・部門と連携し「安全な医療の提供」が推進されるよう取り組んでいます。

■ 活動内容

[院内 RM 管理部会]

* 毎週月曜日 16:10 ~ 17:00 開催。提出されたインシデント報告書を元に事案発生の原因、防止方法に関する提言を行います。事案によって部署対応・部門対応、病院対応とすべきかなど検討及び提案を行います。また、担当部署における職員の意識向上等、医療安全管理の推進に向け取り組んでいます。

* メンバー紹介

- 徳毛 宏則 (副院長・医療安全管理室室長)
- 田中 信弘 (診療部長・医療安全管理室次長)
- 村中 好美 (医療安全室科長・専従 RM)
- 中光 篤志 (副院長)
- 近藤 丈博 (診療部長)
- 荒田 晋二 (臨床工学技士：臨床工学科主任)
- 藤岡 朋子 (臨床検査技師：臨床研究検査科主任)
- 高畑 明 (診療放射線技師：放射線科主任)
- 村上 嘉章 (理学療法士：リハビリテーション科科长)
- 鶴谷 理恵 (看護科長・看護科安全対策委員会担当)
- 松下 理恵 (看護科長)
- 角井 碧 (薬剤師：薬剤部主任、医療安全研修終了)
- 大道 瑞穂 (総務課：課長補佐)

[医療事故防止対策委員会]

* 毎月第3木曜日 17:00 開始。医療安全管理室からの提案事項の検討、本委員会に関連した事項の

対応策の検討、医療安全研修会の計画実施、委員会の伝達を担うほか、院内 ROUND を実施しています。本年度は「ドレーン・チューブ」「情報関連」に関する ROUND も開始し、啓蒙活動やマニュアル変更につなげています。

* メンバーは、院内 RM 管理部会メンバーと各部門長等により構成されています。

■ 認定施設基準

医療安全対策加算 1、医療安全対策地域連携加算 1

■ 2018 年度トピックス

① 本年度新設の「医療安全対策地域連携加算 1」を取得 (図 1) する事となり、そのために同じ医療安全対策加算 1 の広島西医療センター、医療安全対策加算 2 のアマノリハビリテーション病院と連携を図っています。

加算 1 同士は相互評価、加算 2 の施設には赴いての評価を行いました。これにより当院の改善点についての指導も頂き、また他施設の状況にも目を向ける事ができました。マニュアルの追加や院内設備への意見も頂き、病院への提案に繋がっています。

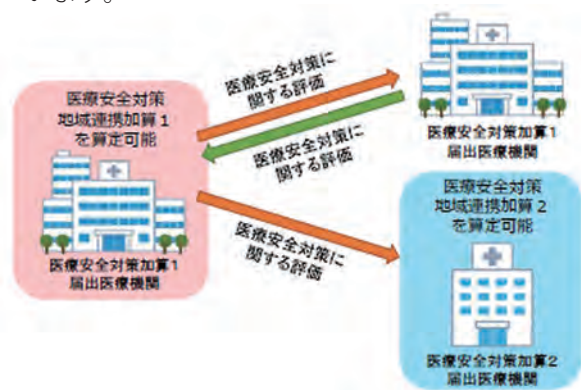


図 1

② 院内「薬剤ワーキンググループ」を中心として、与薬カートの統一を図りました。これは各部署のローカルルールの廃止を目指しての取り組みです。患者の転床時やスタッフの異動時のなど、様々な場面でローカルルールがミスを誘発しうる事を理解してもらい検討を重ねました。使用する中で煩わしいとの思いを持っているスタッフもいるようですが、新たなローカルルールが作成されないよう随時確認を行っています。

地域医療連携室

■スタッフ

室長 藤本 七津美
係長 寺岡 みゆき
他 事務職 2名

■部門紹介

当院は、地域医療支援病院の機能より、広島県西医療圏を中心に医療機関を支援する役割を担っています。紹介患者の診療・逆紹介を行い（表1）、かかりつけ医を支援、救急医療の対応、高度専門医療の提供、地域医療従事者に対する教育などの役割が要求されます。

地域と連携する前方支援、病院の窓口として、地域の病院、診療所、住民、行政、介護連携施設などの連携強化につとめています。

その連携強化として、佐伯地区・大竹医師会、佐伯区医師会との医師懇話会を開催しております。毎年多くの医師会の先生方に参加いただいています。

地域医療支援病院として、近隣の医師会・自治体・町内会などの代表者で構成される「地域医療支援病院諮問委員会」を年2回開催しております。地域の医療従事者には、「地域医療従事者研修会」を2018年は、13回開催しました。

表1：紹介率・逆紹介率の比較

	紹介率	逆紹介率
2017年度	88.1%	86.5%
2018年度	90.3%	95.7%

①研修会

○佐伯地区医師会・大竹医師会との医師懇話会

日時：2018年8月29日（水曜日）

場所：安芸グランドホテル

参加者：佐伯地区・大竹医師会 55名

JA 広島総合病院 93名



○佐伯区医師懇話会

日時：2018年11月28日（水曜日）

場所：広島サンプラザ

参加者：佐伯区医師会 29名

JA 広島総合病院 83名



○地域医療支援病院諮問委員会

日時：2018年7月25日（水曜日）

JA 広島総合病院 管理棟3階 大会議室

○地域医療従事者研修会

（開催した研修会）

4月12日 脳卒中を見抜くコツ

～あなたのその手が患者を救う！ Vol. 2～

5月24日 放射線治療のはなし

放射線治療と社会生活

6月14日 個々に合わせた糖尿病食事指導

～検査値・薬もチェック！

7月26日 知っておきたい インスリン注射の

取り扱いと注意点

9月6日 認知症の人の気持ちがわかればケアが

楽しくなる～聞き方・話し方のコツ～

9月13日 心臓いきいき在宅支援施設認定講習会1回目

10月11日 終末期の家族ケア

11月8日 クイズ形式で学ぶ『注意してほしい感染症』

12月6日 在宅ストーマケア

12月13日 心臓いきいき在宅支援施設認定講習会2回目

1月10日 リンパドレナージの実際

2月7日 お薬よろず相談

～お薬の相談なんでも受けます～

3月14日 心臓いきいき在宅支援施設認定講習会3回目



総合医療相談室

■スタッフ

センター長 中 光 篤 志 (兼務)
 室 長 藤 本 七津美 (兼務)
 主 任 中 村 希 (看護師)
 桐 山 葉 子 (社会福祉士)
 他：看護師 6 名 社会福祉士 3 名

■部門紹介

総合医療相談室は、急性期病院での治療が終了した後、地域で安心して療養できるように、患者さんと地域をつなぐ役割を担っています。地域での生活にどのように繋げていけるかを考え、地域との窓口になり、医療・福祉の多岐にわたる相談をうける窓口です。

2018年度から、入院患者センターと連携を行い、入院前から退院後までを一貫して支援する仕組みが整ってきました。病院完結型からその先をイメージした地域間完結型への取り組みを強化していきます。長期入院患者数もグラフに示すように減少しています。(図1)

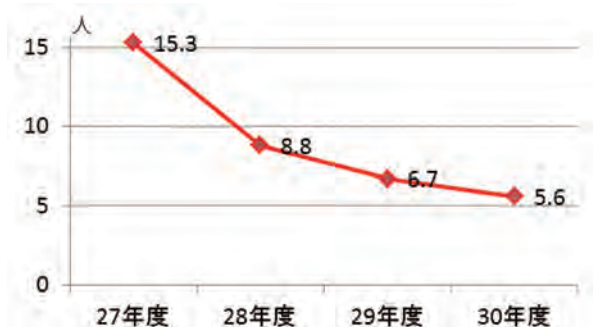


図1：長期入院患者の推移（90日超）

地域との連携指標ともなる介護支援等連携指導料は、2017年度125件でしたが、2018年度213件と大幅に増加しました。今後も地域で生活する患者さんを中心に、地域との連携を推進していきます。

また地域がん診療連携拠点病院の役割を当院が発揮するため、「がん相談支援センター」が相談窓口となっています。相談件数も29年度728件、30年度820件と増加しています。今後は、件数増加のみでなく、相談対応の質向上を目指し、取り組んでいきたいと考えています。

(専門の担当者)

- ・退院支援専従・専任担当者
- ・退院支援看護師
- ・がん相談専従・専任担当者
- ・認知症チーム専従担当者
- ・患者サポート体制充実加算専任担当者

(主な相談内容)

- 転院・施設入所に関する内容
- 在宅療養に関する内容
- がん相談
- 医療費などに関する内容
- セカンドオピニオンに関する内容
- がん患者の就労支援

研修会

- おしゃべりサロン（がん患者サロン）
 第2月曜日 交流会
 第4月曜日 ミニレクチャーと交流会



【おしゃべりサロンの様子】

教育研修課

■スタッフ

課長 砂田 朋子
他 1名

■業務概要

教育研修課は、職員教育体制の充実と臨床研修に関する業務の遂行が主な業務です。

■活動内容

【新採用職員研修】

毎年4月に新採用職員を対象とした研修を行っています。例年80～90名の新入職員が参加する大人数での行事ですが、医師、看護師、コメディカル等多職種の方の協力をいただいで研修会を実施しています。

【研修医の募集活動】

当院は臨床研修指定病院として、年間を通じて約60名の医学生の見学受入れを行っています。併せて研修医の募集活動も行っており、広島県内外で開催の求人説明会に参加したり、SNSで情報発信を行ったりしています。今年度は2018年7月レジナビ大阪、2019年2月マイナビ広島、2019年3月レジナビ福岡に参加し、2018年6月には病院見学会も開催しました。

今年度はたすきがけ研修医も含め、1年次研修医が11名、2年次研修医が7名在籍しています。

研修医の相談窓口として、連絡や調整業務を行い、初期研修が円滑に行えるよう努めています。



【アカデミック活動】

院内で開催されるポスター展や論文・学会発表等学術分野での表彰も行っています。いずれも多くの出展、応募があり、院内ではアカデミック活動が活発に行われています。

【高校生外科セミナー】

当院では近隣の高校生を対象に、最新の医療機器を体験しながら外科の魅力を知ってもらうことを目的とした“高校生外科セミナー”を開催しています。第8回目を迎えた今年は43名の参加がありました。学生たちも手術着に着替え、外科医師・手術室看護師の指導のもと実習を行いました。高校生に医療現場を知ってもらうことにより、医療職への関心・理解を深めてもらえるよう継続的な取り組みを行っています。



医事課

■ スタッフ

課長 丸 澤 裕 司

課長補佐 馬 場 諭

係長 森 田 祐 規

他 25 名（うち、委託 20 名）

各診療科外来担当 41 名（委託）

各病棟入院担当 17 名（委託）

■ 業務内容

- ・ 外来、入院診療に関する受付、診療費の計算
- ・ 保険者等への医療費請求
- ・ 労働災害、交通事故に関する医療費請求
- ・ 査定・返戻に関する集計
- ・ 感染症発生報告
- ・ 施設基準に係る届出
- ・ カルテ開示
- ・ その他患者数・収入管理、診療報酬に係る対応等

■ 活動報告

医事課は、患者様が病院に来られた際、最初と最後に訪れる「病院の窓口」として受付や診療費の計算のほか、保険者への医療費請求を行っております。また診療報酬に最も深く関わる部署であり、施設基準に係る届出や 2 年ごとに行われる診療報酬改定の対応等をしております。

近年、DPC 制度や診療報酬制度の複雑化等により、医事課の役割は変化しており、医療費の請求や種々のデータ集計だけでなく、医事企画として情報の分析や発信、更には問題定義から解決策の提案に至るまで求められるようになってきました。それらに伴い、DPC コーディングの精度向上を目的に、精度調査（委託）や診療科ごとの DPC コーディング委員会の開催を行っております。

その他、個人情報保護への対応として患者希望による面会謝絶や入院情報の開示の管理、カルテ開示等も行っております。

■ 院内発表

- セコム医療システム株式会社による勉強会
「2018 年度広島総合病院経営改善対策」
栗岡 允

■ システム

【電子カルテ】

- ・ HOPE/EGMAIN-GX（富士通）

【医事会計システム】

- ・ HOPE/X-W（富士通）

【DPC 様式 1 作成ソフト】

- ・ MEDI-DPC コードファインダー
（ニッセイ情報テクノロジー）

【DPC ベンチマークシステム】

- ・ 病院ダッシュボード
（グローバルヘルスコンサルティング）
- ・ EVE（メディカルデータビジョン）

【経営分析支援システム】

- ・ スマッシュ
（セコム医療システム株式会社）



医事課内の様子

栄養サポートチーム (NST)

■ チーム概要

栄養サポートチーム (NST) は、栄養管理における専門的な知識を持つ多職種により構成されるチームで、当院では 2005 年 4 月より活動しています。

NST は、栄養状態不良の方、経管栄養や経静脈栄養を行っている方、嚥下障害のある方など、特に栄養管理が治療上必要と考えられる患者様に対して回診やカンファレンスを行い、専門的な立場から最善の栄養管理に向けた提案を行っています。

■ NST メンバー (●専従者)

- ・ 医師：香山茂平、櫻谷正明 (ICU)
- ・ 歯科医師：大井尚志、平田ひかる
- ・ 看護師：藤本七津美、松下理恵、本山敏恵
- ・ 薬剤師：中島恵子、山崎貴司
- ・ 管理栄養士：●八幡謙吾、上村真由美
- ・ 臨床検査技師：池田光泰、村田竜也
- ・ 作業療法士：名井幸香、石井葵
- ・ 言語聴覚士：上田雅美
- ・ 歯科衛生士：大森志穂

■ 活動内容

- ・ NST ラウンド・カンファレンス：
毎週木曜日 14：30～
- ・ 栄養管理推進委員会：毎月最終木曜日
- ・ 院内 NST 研修会 (全職員対象)

日程	内容	講師
5/25	経腸栄養剤の特徴と経管栄養のすすめ方	八幡
6/27	高齢者栄養管理におけるたんぱく質・アミノ酸の重要性	MR
7/24	①アミノレバン EN の重要性 ②アルコール性肝硬変の栄養管理	①MR ②八幡
8/31	周術期の栄養管理について	香山
9/14	病態別栄養管理 (血液透析・短腸症候群)	八幡
11/19	①亜鉛 (Zn) はなぜ大事？ ②CDI 当院の現状	①村田 ②村田
12/11	いつまでも美味しく楽しく健康に	大井
2/22	『嚥下スクリーニングの変更と運用上の注意事項について』	八幡

- ・ 看護科栄養管理推進委員会：毎月 1 回
- ・ 新人研修：年 2 回、ラダーⅡ研修：年 1 回

■ 栄養サポートチーム加算算定件数

・ 2018 年度算定件数：延べ 1,150 件 (患者数 295 名)



■ 栄養サポートチーム 診療科別のべ回診件数

年度	2013	2014	2015	2016	2017	2018
呼内科	99	161	179	97	141	183
腎内科	47	89	138	66	47	70
糖内科	4	13	34	30	25	28
消内科	179	203	279	237	286	267
循内科	76	151	188	140	146	52
心血外	68	45	41	101	65	24
呼吸外	30	59	135	102	132	78
外科	169	142	199	75	138	74
脳神外	84	175	86	43	56	56
整形外	44	32	38	26	20	11
形成外	-	0	0	3	8	9
皮膚科	40	34	65	88	36	16
泌尿器	35	23	28	17	30	24
放治科	2	7	0	16	15	103
耳鼻科	27	71	70	69	26	103
小児科	0	0	0	0	0	12
歯口外	20	10	1	9	0	27
救急治	133	45	41	40	78	80
産婦人	6	6	3	5	16	7
乳腺外	0	0	0	0	1	0
総診科	-	-	-	-	-	20
合計	1,063	1,266	1,525	1,164	1,266	1,244

※単位：件 (人) ※NST 加算算定数 (患者数) とは異なる

■ 2018 年の Topics

- ・ 2018 年 6 月『術前経口補水療法 運用マニュアル』を一部改訂 (Ver.3 へ)
- ・ 2019 年 3 月『嚥下スクリーニングフローチャート』を一部改訂 (Ver.2 へ)

■ 学会発表

- ・ 第 34 回日本静脈経腸栄養学会学術集会
「院内共通嚥下スクリーニングの実施状況と今後の課題」
演者：八幡謙吾、他 NST メンバー

呼吸療法サポートチーム (RST)

■ RST とは

RSTとは呼吸療法サポートチーム (Respiratory Support Team) の略称で、呼吸療法が安全で効果的に行われるようにサポートするチームのことです。

■ 設立趣旨

集中治療室 (ICU)・ハイケアユニット (HCU)・救命救急センターに入院した患者さんが呼吸の補助を必要とする際に、非侵襲的陽圧換気 (NPPV) や人工呼吸器を装着することがあります。一般病棟でも呼吸の補助が必要な場合には、引き続き呼吸の補助を継続することがあります。

私たち RST は他職種からなるチームで構成されており、人工呼吸からの離脱管理や NPPV の適正使用に向けて、合併症予防や安全管理を総合的に行い、主治医または病棟看護師へのサポートを行うことを目的として活動しています。



ラウンドの風景

■ 構成メンバー

医師、臨床工学技士、看護師、理学療法士、歯科衛生士、栄養士、薬剤師、医療事務になります (写真)。

■ 活動内容

1) 病棟ラウンド

1週間に1度、人工呼吸器やNPPVが装着されている患者さんのベッドサイドでラウンドシートをもとに、人工呼吸器のチェック項目や周辺環境を確認するだけでなく、各専門職種それぞれの目線で呼吸療法の管理について評価します。その結果を踏まえ適宜主治医や病棟看護師などの関連スタッフへの助言や提言を行います。また、人工呼吸器を離脱する支援やNPPVマスクフィッティング、一部の酸素療法の評価を行っています。2018年4月1日から2019年3月31日までにRSTが介入した患者は20名おり、主に救急・集中治療科と脳血管外科を主科とする患者さんでした。RSTは人工呼吸器を装着したまま一般病棟へ退室した患者全例に介入し、人工呼吸器を安全に使用することに貢献しました。

2) 呼吸ケアに関連した機器・資材のマニュアル整備

NPPV、挿管患者の搬送時の不備を防止する目的でチェックリストを作成し救命救急センターとHCU、ICUに2018年6月より配置しました。定期的に現場の意見を取り入れ改訂を行っています。

口腔ケア用資材のコンクール及び自動カフ圧計の運用を取り決めました。

3) チーム内における薬剤師の活動

薬剤師はラウンドで注意が必要な耐性菌情報をチーム内で情報提供しています。また、患者さんに行われている薬物治療をreviewしreconciliationすることで、人工呼吸に関係する有害事象を減らし、早期離脱に貢献できるよう心がけています。

■ 今後の課題

RSTの質を一定に保つために、看護師に対する教育だけではなく、後任やサブメンバーの人員確保と教育が課題となります。

感染防止対策室 (ICT・AST)

■ スタッフ

室長 渡 正 伸 (兼務)
科長 今 本 紀 生

■ 取得資格、所属学会

[取得資格]

Infection Control Doctor : ICD
感染管理認定看護師

[所属学会]

日本環境感染学会
日本感染管理ネットワーク学会

■ 部門紹介 (概要)

感染防止対策室は患者さんや医療従事者の安全確保を第一の目標として、院内感染対策委員会やICT、看護科感染対策委員会を中心とした各組織・部門と連携し、感染防止活動を支援する部門として機能しています。特にICT(院内感染対策チーム)とは密に連携を図り、ラウンドや研修会など多くの業務を共同しています。

また、2018年度から感染管理に関連する新たな診療報酬として『抗菌薬適正使用支援加算』が加わりました。これに伴い、ICTメンバーが抗菌薬適正使用支援チーム(AST)を兼務し、院内活動を行っています。

■ ICT・AST コアメンバー紹介

渡 正 伸 (呼吸器外科医師、感染防止対策室長、ICD)
近藤 丈博 (呼吸器内科医師)
正島 和美、角井 碧 (感染制御認定薬剤師)
池部 晃司 (臨床検査技師)
今本 紀生 (感染管理認定看護師)
栗岡 允 (事務：医事課)

■ 認定施設基準

- ・「感染防止対策加算1」： 8つの連携施設と年4回の合同カンファレンスを開催
- ・「感染防止対策地域連携加算」： 広島西医療センターICTと連携し、年1回の相互ラウンドを実施
- ・「抗菌薬適正使用支援加算」： 抗菌薬の使用や検査の適正利用の為に体制整備による質の向上・評価や院内研修会を開催

■ 院内集合研修会

院内集合研修会を8回開催し、今年度は抗菌薬適正使用に関する研修を組み込みました。また、外部講師として山口県立医療センターの高橋徹先生をお招きし、「SFTS(重症熱性血小板減少症候群)」についてご講演いただきました。

■ 2018年度の活動 (Topics)

広島県の委託事業として「新型インフルエンザ等対策研修会(12/3)」を開催し、院内外から多くの参加を頂きました。帰国者・接触者外来の設置を想定した『陰圧式エアートント』の設営や、外来対応の演習、个人防护具の着脱演習などを行いました。



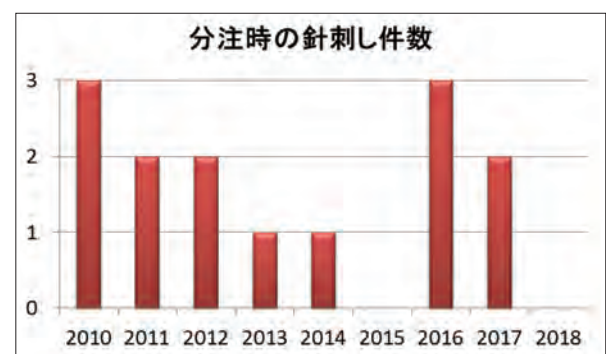
2017年度から取り組み始めた「採血後の分注時に発生する針刺し予防」ですが、安全器材の利用範囲を拡大させて頂いた事もあり、分注に関連した針刺しの2018年度の年間発生件数はゼロ件でした。



(分注ホルダ)



(ホルダ付き翼状針)



緩和ケアチーム

■ チーム概要

緩和ケアチームは、患者さん・ご家族のQOLを向上させるために、緩和ケアに関する専門的な臨床知識・技術を用いて患者さん・ご家族への支援を行っています。また、外来患者さんが安心して在宅療養できるように、がん相談にも応じています。

■ メンバー紹介

消化器内科 緩和ケア科医師：小松弘尚
 放射線治療科医師：伊東淳
 外科医師：田崎達也
 精神科医師：増田慶一
 呼吸器内科医師：大月鷹彦
 看護科長：宮本英美、久保洋子
 緩和ケア認定看護師：岡田恵美子（チーム担当）
 古本直子 高原さおり
 がん放射線療法看護認定看護師：河野佐代子
 薬剤師：磯貝明彦 藤原俊輔、小川智恵子
 理学療法士：小林恭子
 言語聴覚士：後藤優佳
 臨床心理士：佐藤亜弥
 管理栄養士：西田美穂
 社会福祉士・がん相談員：正畠忠貴
 がん相談員：益村勇子
 以上の職種で構成しています。

■ 活動内容

週一回緩和ケア担当医師と薬剤師、緩和ケア認定看護師、臨床心理士、社会福祉士、言語聴覚士等で介入依頼されている患者さんの元にチーム回診に伺います。毎週木曜日カンファレンスを開催しています。

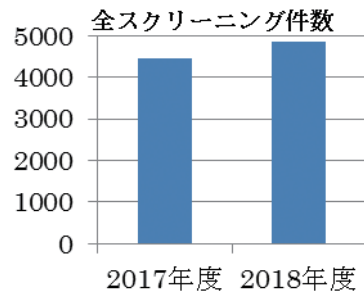
非がん患者さんの精神的・社会的側面に対するの依頼も受け、心理士を中心に介入しています。

・生活のしやすさに関する質問票

がん患者さんへの苦痛スクリーニングを行っています。

2018年度 苦痛スクリーニング

総件数 4,854 件
 外 来 4,199 件
 病 棟 655 件



・がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会開催
 12月16（日）26名 参加

■ 各部門の主な活動紹介

【薬剤調整】

個々の患者さんが使用する薬剤につき主治医と連携し調節します。患者さん・ご家族の理解が得られるよう薬剤指導を行っています。

【がん患者リハビリテーション】

がんを抱える患者さんに対して手術前後のケア、日常生活動作の維持、気分転換等を目的として関わります。

【栄養相談】

管理栄養士が個々の患者さんに合う食事の工夫を行います。

【がんサロン】

隔週月曜日のおしゃべりサロンに参加しています。

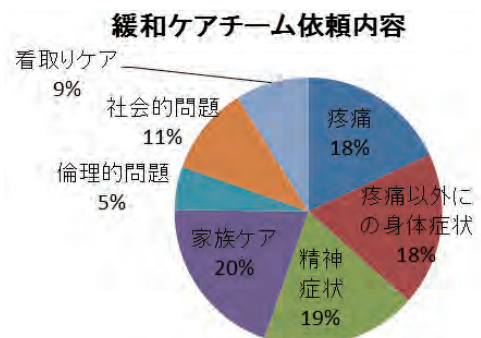
【がん相談】

療養場所の相談、在宅で受けられるサービスについて等、各種の相談に対応します。

■ 院内実績（2018年度）

緩和ケアチーム総依頼件数 128 件

依頼内容の割合は下記



心臓リハビリテーションチーム

■ 設立趣旨

近年、増加する心血管疾患（狭心症、急性心筋梗塞、心臓弁膜症、胸・腹部大動脈瘤、末梢動脈疾患など）を有する患者さんに対し、包括的心臓リハビリテーション（以下、心リハ）を提供することを目的に活動しています。包括的心リハとは、心血管疾患を有する患者さんにおける社会復帰および再発予防を目的とし、運動療法や食事療法、薬物療法などの患者教育、生活指導などを包括した治療手段です。当院では2010年度よりチームアプローチを展開しています。

■ メンバー紹介

(* 心臓リハビリテーション指導士、** 慢性心不全看護認定看護師)

- 医師 : 小林平、藤原敬士、辻山修司、長谷川美紗
- 理学療法士 : 本間智明*、河野裕美、小島輝久*、西谷喜子、高桑翼*、内山明子、井場和敏
- 看護師 : 東3階病棟、東7階病棟、内科系外来、外科系外来、正木博之**
- 薬剤師 : 向井一樹、無漏田香穂、稲田淑江、富永祥子
- 栄養士 : 森田菜津美、政田采花
- 相談員 : 遠藤美枝子、今中貴美子
- その他 : 臨床検査技師、義肢装具士、臨床工学技士

■ 活動内容

東3：循環器内科多職種カンファレンス

心臓血管外科多職種カンファレンス

東7：心臓血管外科多職種カンファレンス及び回診

心リハに関する活動	2018年度	2017年度	2016年度
開心術・大血管術後心リハ	21件	162件	119件
急性心筋梗塞後心リハ	58件	79件	71件
心肺運動負荷試験	35件	68件	100件
末梢動脈疾患手術後心リハ	85件	113件	101件
心不全心リハ	236件	211件	221件
心リハ外来	29件	53件	79件
日本心臓リハビリテーション学会発表	6件	4件	9件

— 心臓いきいき推進事業 —

本事業は、地域における心臓疾患患者さんに対する診療・自己管理サポート体制を構築し、心臓病患者を地域で診ることにより再入院抑制や予後の改善を目指しています。2018年度の研修会では、「今後の医療施設連携について」のグループワークを行い、2017年度より支援体制を構築した心臓いきいき在宅支援施設（2018年現在、全18施設）の多職種の方々と議論することができました。

— ペースメーカ植込み患者さんに対する心臓リハビリテーション —

2018年11月より新規ペースメーカ植込み患者さんに対して、理学療法士と作業療法士の介入を開始しました。従来の臨床工学技士の機器指導、病棟看護師の生活指導に加えて、リハビリで動作訓練や運動療法を行うことで、より理解を深めて頂けるよう支援しています。退院後のフォローも行い、不安軽減に努めています。

— 心リハ室での急変シミュレーション勉強会 —

心リハ室でのリスク管理の一環として、多職種合同での急変シミュレーション勉強会を行いました。急変発生時にスムーズに救急外来へ移動できるよう、グループに分かれて練習しました。救急・集中治療科医師、看護師と合同で研修することで、より実践的な場面での対応方法が確認できました。



勉強会の様子

「膵がん・胆道がん教室」運営チーム

■はじめに

2012年から院内で開催しています「膵がん・胆道がん教室」は、今年で7年目を迎えました。2016年に開催した広島での「膵がん教室ワークショップ」を通じて、さらなるチームの結束が深まっています。私たちが行ってきた今年の活動について報告します。

■メンバー紹介（主要メンバー）

医師 藤本佳史、佐々木秀、新宅谷隆太、北野文朗
 看護師 野村昌代、奥村麻美、古本直子、平野有紀、村上優子、吉松美咲、岡川奈々枝
 薬剤師 藪田ゆみ、埋橋賢吾、白井敦史
 管理栄養士 河本良美、三浦満美子、八幡謙吾
 理学療法士 小林恭子
 M S W 正島忠貴
 外部講師 木村泰博先生、小笠原英敬先生、長谷川健司先生、坂本真里子さん
 ヨガ講師 田中ゆり彩先生
 ボランティア 斎藤さん

■活動内容

膵がん・胆道がん教室は月に2回、第2、4水曜日の午後に地域連携室や健康管理センターを利用していただきながら開催しています。内容は、病気の話から始まり、抗がん剤、リハビリ、在宅医療、医療費、手術、栄養、緩和ケア、免疫アップのヨガ講座まで、がんの治療を行うために聞いておきたい話がたくさん詰め込まれており、2ヵ月：4回でひととおりの内容を聞くことができます。基本的に自由参加ですが、患者さんだけでなく、ご家族や、興味をもった人たちも参加されています。看護学生さんの研修にも役立っています。

近年、病棟看護師が積極的に教室に参加し、患者さんやご家族の意見をまとめてくれるようになりました。当院の様な、地方の中核がん拠点病院で患者満足度の高いチーム医療を進めるためにはどうしたらいいのか、現在でも、試行錯誤しながら教室を運

営しています。

2018年10月19日には、院内で膵がん講演会を地域医療従事者研修会として開催しました。病棟看護師の村上優子さんが「膵がん・胆道がん教室における病棟看護師のかかわり方」という内容で発表してくれました。病棟の看護師さんの参加と研究が、教室の運営にとって力強い支えとなっています。

2018年11月17日には千葉県柏市の国立がん研究センター東病院にて「第8回 膵がん教室ワークショップ」が開催され、藤本、吉松、奥川の3人で参加しました。毎年開催される様になりました、膵臓がんの患者と家族を支えるための全国規模のワークショップです。2016年に当院が主催で開催し、その後も全国に広まっています。各病院での教室の活動報告や、活動の評価法の検討など、今後の課題が検討されました。



(写真：ワークショップ2018 in 柏にて)

今後も、患者さんやご家族の役に立てるような教室を目指して、職種を超えたチーム医療で努力していきたいと思えます。

各種委員会

治験審査委員会

委員長 徳毛宏則

1. 設立主旨

1) 治験委員会の責務

(1) 治験委員会は、「治験の原則」に従って、全ての被験者の人権の保護、安全性の保持及び福祉の向上を図ることを目的としています。また社会的に弱い立場にある者を被験者とする可能性のある治験には特に注意を払っています。

(2) 治験審査委員会は、倫理的、科学的及び医学的・薬学的観点から治験の実施及び継続等について審査を行っています。

2) 治験審査委員会名簿

委員長：徳毛宏則、副委員長：中光篤志

委員：黒木一彦、橋本佳浩、福岡達仁、藤本七津美、丸澤祐司、森井克成、棒田祐司、向井恵子（外部委員）、松本明子（外部委員）

書記：磯貝明彦

オブザーバー：藤本吉範、嘉屋祥昭

2. 活動内容

1) 治験審査委員会の開催

治験審査委員会は原則として1ヶ月に1回開催します。

2) 2018年度治験審査委員会開催概要

・第1回（2018／4／20）

審議事項 10件（継続審査 9件）

報告事項 6件

・第2回（2018／5／18）

審議事項 7件（継続審査 6件）

報告事項 7件

・第3回（2018／6／22）

審議事項 6件（継続審査 5件）

報告事項 7件

・第4回（2018／7／27）

審議事項 7件（継続審査 5件）

報告事項 6件

・第5回（2018／8／24）

審議事項 5件（継続審査 4件）

報告事項 6件

・第6回（2018／10／19）

審議事項 6件（継続審査 5件）

報告事項 6件

・第7回（2018／11／16）

審議事項 7件（継続審査 6件）

報告事項 4件

・第8回（2018／12／21）

審議事項 5件（継続審査 4件）

報告事項 4件

・第9回（2019／1／18）

審議事項 6件（継続審査 5件）

報告事項 6件

・第10回（2019／2／15）

審議事項 5件（継続審査 4件）

報告事項 3件

・第11回（2019／3／15）

審議事項 6件（継続審査 4件）

報告事項 4件

3) 2018年度の実施治験総件数：17件

(1) 前年度からの継続治験（13件）

① hsCRP 高値を示す、心筋梗塞後の安定した患者を対象とした canakinumab の event-driven 試験 (ACZ885) (ノバルティス)

② 左室駆出率が保持された心不全患者を対象とした国内Ⅲ相 (LCZ696) (ノバルティス)

③ 下肢血行再建術施行後の症候性末梢動脈疾患患者を対象としたリバーロキサバンの国際共同Ⅲ相試験 (VOYAGER PAD) (バイエル薬品)

④ 保存期慢性腎臓病に伴う腎性貧血患者を対象としたダルベポエチンアルファを対照とする比較試験 (切替え試験) (ASP1517) (アステラス製薬)

⑤ LJN452 の第Ⅱ相試験 (ノバルティス ファーマ)

⑥ Respiratory Syncytial ウイルス感染症の 28 日齢～36 カ月齢の入院患児を対象とした lumicitabine (JNJ-64041575) を経口投与したときの抗ウイル

- ス活性、臨床アウトカム、安全性、忍容性、及び薬物動態の検討のための第2相、ランダム化、二重盲検、プラセボ対照試験（ヤンセンファーマ）
- ⑦ Respiratory Syncytial ウイルス（RSV）感染症の既往を有する乳幼児を対象とした、喘息又は喘鳴の発現に対する lumicitabine（JNJ-64041575）の影響を評価する 64041575RSV2004 試験の長期フォローアップ試験（ヤンセンファーマ）
- ⑧ 駆出率が保持された慢性心不全患者を対象としたエンパグリフロジンの第III相試験（ベーリンガーインゲルハイム）
- ⑨ 駆出率が低下した慢性心不全患者を対象としたエンパグリフロジンの第III相試験（ベーリンガーインゲルハイム）
- ⑩ 軽症～中等症の活動期潰瘍性大腸炎患者に FE999315 を8週間投与した際における有効性及び安全性を評価する第III相、多施設共同、無作為化、二重盲検、実薬対照、並行群間比較試験（フェリングファーマ）
- ⑪ 潰瘍性大腸炎における MLN0002（300mg）の第III相臨床試験（武田薬品）
- ⑫ クロウン病の治療における MLN0002（300mg）の第III相臨床試験（武田薬品）
- ⑬ 田辺三菱製薬株式会社による第II相試験（田辺三菱製薬）
- (2) 2018年度からの新規治験（1件）
- ① がん疼痛患者を対象とした HP-3150 の第III相試験（久光製薬）
- (3) 2018年度の終了治験（8件）
- ① 冠動脈疾患を合併した慢性心不全患者を対象としたリバーロキサバンの有効性及び安全性を検討する二重盲検試験国内III相（バイエル薬品）
- ② 保存期慢性腎臓病に伴う腎性貧血患者を対象とした第III相試験（貧血改善・改善維持試験）（ASP1517）（アステラス製薬）
- ③ MR11A8 を中等度又は重度の急性呼吸窮迫症候群患者へ静脈内投与した際の有効性及び安全性を

討する第III相臨床試験（丸石製薬）

- ④ がん疼痛患者を対象とした HP-3150 の第III相試験（久光製薬）
- ⑤ Respiratory Syncytial ウイルス感染症の28日齢～36カ月齢の入院児を対象とした lumicitabine（JNJ-64041575）を経口投与したときの抗ウイルス活性、臨床アウトカム、安全性、忍容性、及び薬物動態の検討のための第2相、ランダム化、二重盲検、プラセボ対照試験（ヤンセンファーマ）
- ⑥ Respiratory Syncytial ウイルス（RSV）感染症の既往を有する乳幼児を対象とした、喘息又は喘鳴の発現に対する lumicita を評価する 64041575RSV2004 試験の長期フォローアップ試験（ヤンセンファーマ）
- ⑦ 駆出率が保持された慢性心不全患者を対象としたエンパグリフロジンの第III相試験（ベーリンガーインゲルハイム）
- ⑧ 潰瘍性大腸炎の治療における MLN0002（300mg）の第III相臨床試験（武田薬品）

薬事委員会

委員長 徳毛宏則

1. 目的

当委員会は、院内で使用する全ての医薬品に関わる諸問題について検討協議を行い、薬事全般にわたる病院長の諮問事項を審議、報告する機能と義務を負い、医薬品の安全かつ効率的な使用をはかることを目的としています。

2. 任務

- 1) 新規採用申請薬品の審議
- 2) 薬品の適切な使用方法の協議と啓発
- 3) 在庫薬品の適切な管理と運用
- 4) 医薬品情報の衆知活動
- 5) その他の医薬品に関する事項

3. 委員

委員長及び委員は病院長が任命した者であり、病院幹部（病院長代行、副院長）、各診療科代表（セ

ンター長・主任部長)、看護部副部長、院内リスクマネージャー、医事課長、薬剤部長等で構成されています。

4. 委員会の開催

委員会の開催は、原則として月1回となっています。(但し、8月と12月は委員会を休会しています。)

5. 新規医薬品

医薬品の採用は、a) 一般採用医薬品 b) 用時購入医薬品 c) 患者限定医薬品に分類され、a) b) は委員会の審議が必要となります。

a) b) に関して、採用を希望する場合は、所属長の承認の元、「新規医薬品購入申請書」に必要事項を記入し、事務局(薬剤部)に提出していただき、当委員会で審議することとなります。

c) は「患者限定使用許可申請書」を事務局に提出、迅速審議の上、委員長が許可し、次回の委員会にて薬剤部長より報告されます。

薬事委員会は、採用の可否を審議決定しますが、1増1減を原則とし、適正な在庫数になるよう努めています。

6. 医薬品の安全管理

医薬品安全性情報が新たに発布された場合、全医師に迅速に連絡、注意喚起を行います。他の医療機関での医薬品の適正使用に係わるトピックスについても、全スタッフに向け情報提供・注意喚起を発信し、医薬品の適正使用および安全管理に努めています。

7. ジェネリック医薬品

当委員会では、当院の環境や薬剤使用状況を十分に考慮した上でジェネリック医薬品の採用を検討しています。2018年度は8件を採用。後発医薬品係数取得に貢献しています。

8. 2018年度実績

2018年度も、代表的な高額医薬品としてPD-L1関連薬の使用状況を継続して報告しました。また、同効薬採用品整理のための資料作成・情報提供に

努めました。院内全体の薬剤の適正使用と安全管理のために、引き続き情報提供・使用状況の監視と是正に努めます。

2019年3月31日現在の当院採用数

一般採用		特定患者限定	90
内服薬	728		
注射薬	522		
外用薬	310		
その他	10		
一般採用 計	1,570		
用時購入 保険適応	77	RI 医薬品	113
その他(ワクチン類)	15		
採用品数合計			1,774
ジェネリック医薬品			287

2018年度 医薬品の総新規採用件数・総削除件数

医薬品	総新規採用件数	64
医薬品	総削除件数	79

臨床検査適正化委員会

委員長 藤 井 隆

1. 設立趣旨

この委員会は、臨床検査に関する問題と、併せてその適正な運用に関する問題を審議し、臨床検査業務を円滑に行なうことを目的としています。

そのために以下の事項について審議します。

- * 臨床検査に関する調査、情報収集に関すること
- * 臨床検査部門内外で発生した臨床検査に関すること
- * 臨床検査の適正な使用に関すること
- * その他必要と思われる事項

1) 委員会の構成メンバー

医師 6名、看護師 3名、
臨床検査技師 7名、事務部門 2名

2. 活動内容

- 1) ZTT 検査の中止
- 2) SFMC 検査の積極的利用の推進
(循環器内科、救命救急科を中心に)
- 3) 血算算定検査コストダウンの取り組み
- 4) リパーゼ測定試薬の変更
- 5) グリコアルブミン検査の院内測定開始
- 6) 薬剤感受性カードの変更
AST-ST01 から AST-ST03 へ変更
- 7) 救命救急科より、間接液白血球数の算定(要望)

- 8) 保存検体の破棄について
- 9) 高感度 IL-6 の基準値変更
- 10) 抗菌薬 TDM ガイドライン改訂版準拠に依る変更事項
- 11) RAS 遺伝子変異解析検査の中止と新規項目 RAS・BRAF 遺伝子変異解析の案内
- 12) 年末年始血液供給体制の案内
- 13) 検査科年末年始の業務体制
- 14) 免疫検査機器の更新に伴う測定項目および基準範囲等の変更について
- 15) ミクロアルブミン測定試薬の変更
- 16) 亜鉛検査について日本臨床栄養学会からの指針に沿って基準範囲の変更
- 17) クオンティフェロン検査の採血管の変更
- 18) 平成 30 年度精度管理調査について報告
- 19) エンドトキシン検査の外注化

3. 外部精度管理調査報告

- 1) 日本臨床衛生検査技師会
99.2 点 (231 / 233)
- 2) 日本医師会
99.0 点 (584 / 590)
- 3) 広島県医師会
100 点 (545 / 545)

診療録管理委員会

委員長 石田 和 史

1. 設立主旨

診療情報管理業務の円滑な運営のため、診療情報管理および診療記録に関する事項を検討、討議することを目的として、診療録管理委員会が設立されました。

【診療録管理委員会の構成】

オブザーバー：院長、事務長、看護部長

委員長：医師

委員：医師 5 名、薬剤師 1 名、看護師 7 名
事務部門 3 名、診療情報管理士 2 名

(計 22 名)

2. 主な活動内容

〈退院時サマリ 2 週間以内記載率〉

診療録管理体制加算 1 を取得しており、要件の 1 つである退院後 2 週間以内のサマリ記載率 90%以上を維持するため、毎週医師への記載依頼を行っています。

また、委員会・医局会への報告、院内 HP への掲載など記載を意識してもらうための積極的な活動を行っています。

- ・2017 年度：97.4%
- ・2018 年度：97.9%

診療科別 退院時サマリ 2 週間以内記載率
2018 年 4 月～2019 年 3 月退院分 15,043 人（転科を含む）

診療科	2 週間以内記載率	診療科	2 週間以内記載率
総合診療科	98.70%	呼吸器外科	100.00%
呼吸器内科	98.60%	心臓血管外科	99.30%
循環器科	93.90%	皮膚科	96.70%
腎臓内科	90.00%	泌尿器科	98.00%
糖尿病代謝内科	100.00%	産婦人科	98.90%
消化器内科	98.90%	眼科	100.00%
小児科	98.50%	耳鼻咽喉科	98.80%
外科	97.50%	放射線治療科	100.00%
整形外科	96.20%	歯科口腔外科	100.00%
形成外科	99.00%	緩和ケア科	100.00%
乳腺外科	99.20%	救急・集中治療科	99.70%
脳神経外科	96.20%		
平均科別 2 週間以内記載率			97.90%

〈質的（同僚）監査、量的点検〉

質的監査は、医師同士で「日々の診療の判断材料の根拠となる診療情報」が正しく記載されているか監査を行っています。監査を行いやすくするため、電子カルテ内の記載場所を院内で統一すべく、記載ルールの徹底を計りました。

量的点検は、医師による日々の経過が記載されているか確認を行っています。

質的監査、量的点検結果は、二次利用が出来るようにシステムを構築しました。

〈量的監査〉

昨年度から転科を含む全退院患者を対象とし、項目は 20 項目としました。算定に基づいた必要な記載、

書類が揃っているかを目的に行っています。

また、昨年度と比較し不備は減少傾向にあります。

入院診療計画書	1.2%	減少
褥瘡危険因子評価票	5.0%	減少
診療情報提供書	26.2%	減少

診療情報提供書については、診療情報提供書の様式を改修し、医局会にて周知徹底

・6回/年監査を行い、診療録管理委員会、医局会および管理委員会へ報告

・主任部長へ具体的な説明文書と、配下医師の不備内容一覧を配布

・管理部門へ報告

など院内に働きかけました。

なお、各監査および点検結果は、関係部署へ還元すると共に、委員会・医局会へアナウンスし、診療録の改善を担っています。

〈その他の業務改善の内容〉

現行の運用で生じる様々な問題点を委員会で検討し、業務の改善を図っています。

・死亡診断書ルールの追加

・スキャン連絡事項の運用変更 など

衛生管理委員会

委員長 藤本吉範

労働安全衛生法第17条及び第18条に基づき衛生管理委員会を設置し、原則毎月1回委員会を開催しています。

〈衛生管理委員会構成メンバー〉

委員長：病院長

副委員長：産業医

委員：診療部長2名・肝臓内科主任部長・薬剤部長・臨床工学科長・臨床研究検査科長補佐・放射線科長補佐・看護部副部長・看護科長（内視鏡センター）・栄養科長・感染防止対策室科長・事務次長（人事課長）・総務課長・施設資材課長・臨床研究検査科主任・看護科主任（西3階）・健康管理課長・総合医療相談室専門員・放射線科・

栄養科・人事課

オブザーバー：事務長、看護部長

〈2018年度の主な取り組み事項〉

1. 過重労働対策について

職員の超過勤務時間を毎月調査し、委員会で報告しています。月に80時間以上の超過勤務が2ヶ月連続した職員、もしくはひと月の超過勤務が100時間を超えた職員に対し、産業医による面接指導の案内を文書で行っています。また当院の36協定における上限である月45時間以上超過勤務した職員数の報告も併せて行っています。

2. 職員のメンタルヘルス対策について

職員に対し毎年1回ストレスチェックを実施する事が義務づけられており、8月にストレスチェックを実施しました。高ストレス者へは面接勧奨文書を発布して外部医師による面接の実施、部署ごとの集団分析結果の検証等を行い、職場環境改善に向けて、検討しました。

また、当院の公認心理師によるメンタルヘルス相談、メンタルヘルス不調者や新採用職員（研修医・看護職員）等に対して、面談を行っています。

今年度、メンタルヘルス相談専用の「樹のある部屋」を新設しました。絵本作家に壁の一面に大きな樹を描いていただき、職員が落ち着いて相談できるよう配慮しています。

3. 感染症検査及びワクチン接種等の状況

職員の入職時に麻疹、風疹、水痘、ムンプス、HBs抗原・抗体検査、HCV抗体検査を実施しています。B型肝炎対策として、在職者および新入職者の中で、必要かつ希望する者にワクチン接種を行いました。

さらにインフルエンザの流行に備えて、職員・職員家族の内、希望者を対象に10月から12月にかけてインフルエンザワクチン接種を実施しました。職員の接種率は92.5%となっています。

4. 結核患者接触職員の対応について

結核患者に接触した職員の追跡として、事例があ

るごとに、状況・検査結果・今後の検査予定等の報告をしています。また、結核患者接触のハイリスク部署の職員に対し、Tスポット検査および年2回胸部X線検査を実施しています。

5. 職員健康診断について

職員健康診断の受診率を向上させるため、健康管理課と対策を話し合い、各部署の所属長への声かけを積極的に行っています。その結果、職員健康診断の受診率は夏期が97.9%、冬期が98.9%と、昨年度に引き続き高水準を維持しています。また、パソコンの使用頻度が高い者（事務職員、臨床検査技師、診療放射線技師、画像診断部医師、検査科医師）に対しVDT (Visual Display Terminals) 健康診断を、フィルムバッチ着用者を対象に電離放射線健康診断を実施しました。

6. 職場巡視

手術室を巡視し、職場環境をチェックしました。問題点や要望等を委員会で報告し、改善点について対応しました。

7. その他

作業環境測定（病理研究検査室・解剖室・滅菌保管室）を年に2回実施し、その結果を委員会で報告しています。結果は全て「適切である」となっています。

地域医療連携推進委員会

委員長 中光篤志

1. 設立趣旨

当院が、地域の中核病院としての役割を發揮するために、院内の診療体制整備、強化を行うことを目的としています。委員会の活動により円滑な地域医療連携を推進し、地域から信頼され選ばれる病院を目指しています。

2. 活動内容

①地域医療連携に係わる活動実績に関すること（紹介・逆紹介、退院支援、地域連携クリニカルパスなどに関する実績）

②地域医療連携に係わる院内の体制に関すること
③地域医師会、関係機関との連携に関すること
④地域医療連携に係わる地域住民への広報活動
⑤その他（地域医療連携に関すること）

3. 2018年度構成員

委員長：副院長・医療福祉支援センター長

副委員長：診療部長・健康管理科主任部長・センター長／地域医療連携室長

委員：医師15名、薬剤師1名、保健師1名、看護師7名、事務3名、診療情報管理士1名、社会福祉士1名

オブザーバー：病院長、事務長、看護部長

4. 活動報告

2018年度は、9月5日に委員会を開催しました。

協議内容は以下のとおりです。

①近隣医療機関挨拶周りについて

②第16回及び17回市民公開講座について

③初診紹介・救急患者について

④未返書状況について

挨拶周りについては、多くの医療機関から診療体制等について様々なご意見等をいただいております。意見については委員会で改善につながるよう協議を行いました。

市民公開講座については、第16回では広報活動に力を入れ、参加された方は500名を超えました。治療だけでなく生活面の講演も行い、参加者からはよい評価を頂きました。第17回は2019年の後半に行うこととなっています。

紹介件数や紹介率、返書率等は、地域の医療機関との連携状況の目安にもなるものであり、現在高い水準で推移していますが、今後も維持できるよう引き続き取り組みを続けていきます。

臨床研修医支援委員会

委員長 西原礼介

臨床研修医支援委員会は、初期臨床研修医の充実した研修を実現するため、基本的臨床能力の獲得・

向上の支援、学術活動や生活面・精神面のサポートなど行っています。

〈院内研修〉

- ・ Early Bird Lecture：毎週火曜日午前7時～8時
研修医のプレゼン、上級医のレクチャー
- ・ オープンカンファレンス：毎月第3水曜、研修医の症例発表ほか
- ・ 基本的臨床能力評価試験（2月）

〈セミナー開催〉

- ・ 第1回イブニングセミナー（8／10）
山口県立総合医療センター 血液内科 高橋徹先生
- ・ 第2回イブニングセミナー（2／6）
飯塚病院 漢方診療科 吉永亮先生
- ・ 第6回わかりやすい先進医療セミナー（7／9）
広島大学 脳・神経・精神診療科 高橋哲也先生
広島大学 幹細胞研究講座 中島歩先生

〈学術活動〉

- ・ 佐伯医学会総会（1月）発表 初鹿佳輝先生、近本哲士先生、原田怜先生

〈院外実習〉

- ・ 地域医療研修（廿日市記念病院、吉和診療所、コーレルメディカルクリニック、草津病院、メープルヒル病院、北海道静内病院）
- ・ ERアップデート、沖縄（7月）、東京（2月）
- ・ 第11回 厚生連病院研修医全国大会（10月、秋田）
近本哲士先生、原田怜先生
- ・ ハワイ大学 SimTiki 研修（8月）田中三千彦先生、石橋一樹先生、竹野典子先生

〈研修医サポート〉

- ・ メンター制度：研修医1人につき原則として上級医1人をメンターとして指名し、研修医のアドバイスやサポートを行う。
- ・ 臨床心理士との面接（6月）
- ・ 西原礼介委員長との面接（2月）
- ・ 臨床研修科 Facebook にて、研修医の活動を広く世界に紹介。

〈学生勧誘〉

- ・ 病院見学会（6／2）：洪早耶佳先生、住元遥香先生
- ・ マイナビレジフェス（広島）（4月）
- ・ 広島卒後臨床研修ネットワーク説明会（6月）
- ・ レジナビフェア 2017 大阪（7月）
- ・ マイナビレジデントフェスティバル（広島、2月）
- ・ レジナビ福岡（3月）

〈表彰〉

- ・ アカデミー学術賞研修医部門：宇山拓澄先生
- ・ 基本的臨床能力評価試験 優秀賞：山本高嗣先生、越智南帆先生
- ・ Early Bird Lecture 最多出席賞：岩田和佳奈先生
- ・ 研修医が選ぶベストオブ指導医：高場章宏先生、清水美奈子先生

〈西原委員長の活動〉

- ・ 第35回臨床研修研究会（4月、松山）

広報委員会

委員長 藤井 隆

1. 設立の目的

院内における各部署の活動を院外に周知することを目的として設立されました。各部署についての詳細な業績集としては年報がありますが、タイムリーな話題の広報も必要です。そのための手段の1つが広報誌「せと」であり、もう1つが「ホームページ」です。この2つを作成・管理するのが本委員会です。

2. 委員会活動

委員会は年4回、広報誌「せと」の発行時期に合わせて開催し、「ホームページ」についても検討を行っています。

1) 広報誌「せと」

病院広報誌である「せと」は年3回（新年号・春夏号・秋号）発行しています。短時間で気軽に目を通すことができる小冊子で、新年号は年始の病院長挨拶に始まり、春夏号は新任医師の紹介、秋号は院内のインフォメーション等を掲載しています。その他に診療科やメディカルスタッフ、チーム医療の紹

介、看護科や医療福祉支援センターからのお知らせ、病院行事の案内や院内での出来事等をコンパクトにまとめて構成しています。

2018年度は、新年号は整形外科、脳神経外科の紹介、春夏号で訪問看護ステーションからのお知らせ、秋冬号は総合診療科、呼吸器外科の紹介、西日本豪雨における当院の活動報告を掲載しました。

2) ホームページ

ホームページは年に1回アクセスの解析を行い、相互リンクを増やすことによりアクセス数の増加に努めています。

また、診療科及びスタッフによって作成された最新の話題やイベント情報などを盛り込んだトピックスを定期的に更新するように努めています。

昨年度の委員会で決定したホームページレイアウト改定案をもとに、2018年4月よりホームページ改定を行いました。

今年度よりスマートフォンに対応したホームページに改定したため、閲覧方法の割合は携帯・スマートフォンユーザーが昨年度に比べて大幅に増加しました(図1)。

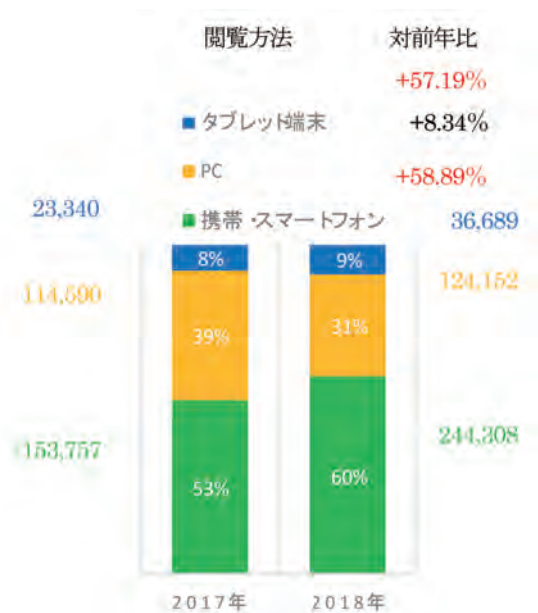


図1 閲覧方法(全体)(単位:人)

全体の閲覧者数は2017年の291,687人から2018年は405,149人に増加しました(図1)。

新規のホームページ閲覧者数も改定前の昨年度より増加しました(図2)。その要因として、PCよりスマートフォン等のモバイル通信機器の普及率が上がっており、ホームページをスマートフォン対応に改定したことにより、スマートフォンでホームページを閲覧するユーザーが大幅に増加したことと、閲覧者にとってわかりやすいレイアウトに改定したことが考えられます。

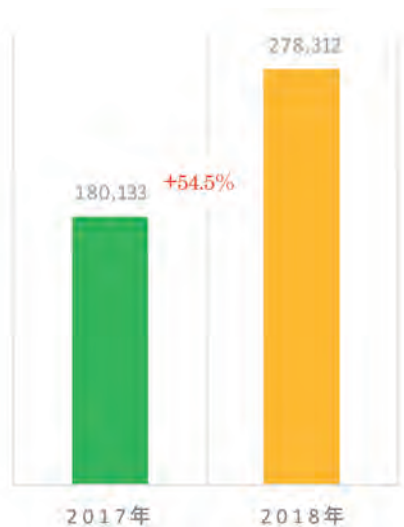


図2 閲覧方法(新規ユーザー)(単位:人)

来年度も引き続き医療ニュース等を更新し、より多くの方々にアクセスしていただけるホームページにしていく所存です。

アカデミック委員会

委員長 徳毛宏則

1. 設立趣旨

当院の医療および医療学術活動の質をレベルアップし、院外研修や学会発表の奨励を行う目的で2010年に設立されました。

2. 活動内容

①学術奨励賞の設定 ②病院年報の充実 ③国内・国際学会発表、論文作成等、学術活動の活性化および支援活動 ④他施設との情報交換、人的交流の促進と支援です。

今年度は委員会を3回開催し、下記の事項について協議しました。

(1) 第9回ふれあいポスター展

2018年11月5日～12月28日、各部署が趣向を凝らして作成したポスター40作品を院内に展示し、地域住民等から選出された6作品を表彰しました。

◆表彰作品

賞	部 門	部 署
最優秀賞		栄養科
優秀賞	医 局 部 門	小児科
	看 護 部 門	東3階病棟
	コメディカル部門	薬剤部
	チ ーム 活 動 部 門	糖尿病チーム
	住 民 投 票 部 門	東3階病棟

(2) 第9回アカデミー学術賞

学会・研究等において優れた論文を発表した職員を表彰しました。

◆最優秀賞受賞者

部 門	診 療 科	氏 名
内 科 系	消化器内科	村田 愛
外 科 系	整形外科	平松 武
コメディカル	感染防止対策室	今本 紀生
研 修 医	臨床研修科	宇山 拓澄

(3) 国内・国際学会発表等の支援活動

学会への参加者等に「アカデミック研修費」を支給し、学術活動の支援を行っています。

◆各診療科への支援状況

部 署	件 数
泌 尿 器 科	2
整 形 外 科	6
外 科	8
糖 尿 病 セ ン タ ー	3
産 婦 人 科	1
乳 腺 外 科	2
消 化 器 内 科	3
循 環 器 内 科	3
麻 酔 科	3
形 成 外 科	1
救 急 ・ 集 中 治 療 科	5
呼 吸 器 外 科	1
小 児 科	1
画 像 診 断 部	1
呼 吸 器 内 科	1
総 合 診 療 科	1
臨 床 研 修 科	8

(4) ハワイ大学研修について

医学教育で有名なハワイ大学で医師としてのレベルアップを目指し、英語環境にも触れ、また、日頃の忙しい日常業務から開放され、鋭気を養ってもらうことを目的に、2012年度より短期海外研修を実施しています。

対象者は、初期研修から引き続き当院で3年目の勤務を続けた医師で、今年度は3名が参加しました。



出張記

ESICM (ヨーロッパ集中治療医学会) に参加して

救急・集中治療科 櫻谷 正明

ヨーロッパ集中治療医学会に参加してきました。今回は日本人の参加者が多いと聞きましたが、その理由は開催都市がパリだったからではないでしょうか？ちょうど大学の卒業旅行でパリに行ったのが2007年で、12年ぶりに行ってきました。前回は無計画に観光したので、ルーブル美術館の休館日も調べずに、モナリザを見ることができませんでした。ですので、今回それだけは見たいと思って行きました。ちなみに休館日は火曜日です。

もちろんちゃんと勉強してきました。まずは、初日は早朝にシャルル・ド・ゴール空港に着いて、そのままバスで市内まで移動しました。会期前に行われる専門医向けの教育コースである master course を受講しました。私は神経集中治療を選択しましたが、この領域はエビデンスが確立しておらず、エキスパートオピニオンが多い領域ですので、興味深い話を聞くことができました。特に、くも膜下出血の話は当院でも活かすことができるのではないかと思います。

翌朝からは学会が始まり、ARDS や敗血症、栄養など集中治療が盛り沢山でしたが、横隔膜エコーや人工呼吸器離脱の分類が改定されたのを受けて検討した発表が目につきました。また ARDS という疾患は、肺炎、敗血症、外傷、急性膵炎など様々な原因から発症しますが、なかなか有効な介入方法を示した臨床研究はありません。米国でも、もう20年近くそのような状況が続いているので、さらなる臨床研究を行うことに対して資金繰りが難しくなっているようです。そこで、ARDS をサブタイプに分け、特異的な集団に対して、有効な介入を検討するような方向性にシフトしてきているそうです。そのような面白い話をお聞きしました。

私の発表は2日目で、当院ICUのベンゾジアゼピンを使用した患者のICU退室後の依存について検討した報告です。やはり入院期間中に使用が持続すると、退院後もその使用が増えるというものです。また今後も症例数を増やして、論文投稿をしたいと思っています。

2日目の夜は昭和大学の小谷先生たちとお食事を

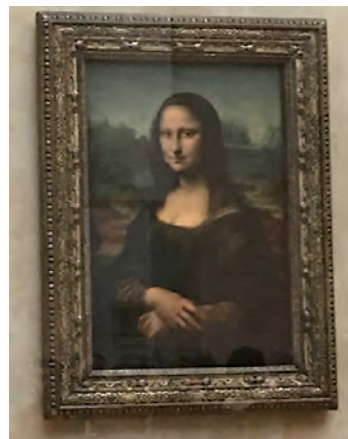
し、EIT や遠隔ICUについてお話を伺うことができました。美味しいワインもいただきました。3日目は午前中に、念願だったルーブル美術館に行き、モナリザを始め主要なところをとにかく見学しました。午後からは学会で、そのまま帰国したため、滞在時間は数時間で、かなりもったいないとは思いますが、またいつかゆつくりと来てみたいです。



パリはおしゃれなお店がいっぱいです



日本人医師たちとの食事会



念願だったモナリザ

The International Society for the Study of the Lumbar Spine (ISSLS : 国際腰痛学会) 2018 に参加して

整形外科 脊椎・脊髄センター 山田 清 貴

2018年5月14日から5月18日にカナダのバンフで開催されたISSLS 2018（第45回国際腰痛学会）に参加しましたので報告します。

本会は、腰椎領域における最も権威のある国際学会であり、世界各国の研究者が参加し最先端の研究が報告されています。本会には日本からの参加者も多く、広島からは同門である広島大学整形外科の中西一義先生、中前稔生先生も参加されました。



会場はバンフ市内を見下ろす丘の上にあるFairmont Banff Springs hotelでした。5日間の学会期間中、口演83題、スペシャルポスター60題、ポスター247題の報告がありました。私は“Long-term outcome of targeted therapy for low back pain in elderly de novo degenerative lumbar scoliosis”のポスター発表を行い、中前先生が“Percutaneous endoscopic discectomy for lumbar disc herniation in athletes”のポスター発表を行いました。いずれも当院で行っている低侵襲手術の報告です。本学会では口演は一会場のみで行われます。今回の学会では残念ながら口演はできませんでしたが、ポスターセッションの時間はワインを片手に1時間のディスカッションをします。各国の先生方が気軽に話しかけてくださるのですが、ワインの影響もあり様々な質問があるため、口演以上にディスカッションが盛り上

がります。私が発表した演題は、全く新しいコンセプトに基づいた慢性腰痛に対する低侵襲治療の長期成績の報告です。当院独自の臨床研究であるため、多くの先生方から次々にその病態や治療成績について多くの質問がありました。

バンフはカナダのロッキー山脈の中にある自然豊かな街です。日本からバンフへ行くには、まずカルガリーへ飛行機で移動します。約10時間のフライトの後、カルガリーからバンフまで2時間弱バスで移動します。バンフはカナダの国立公園内にあるため、飛行機の乗り入れが禁止されているためです。本学会のもう一つの特徴として、学会期間中の半日間、Outingがあります。学会参加者の殆どが参加し、各国の先生方と親睦を深めることができる企画です。今回はロッキー山脈にあるLake Louiseという湖に行きました。絵葉書のような風景の中、湖の畔をみんなで散歩をします。リラックスした雰囲気の中で近況を話し合い、普段学会では聞けないようなことを聞くことができる貴重な時間でした。



国際学会で演題を発表し討論することはなかなか簡単なことではありませんが、当院の臨床研究が評価されたことはこれまでの苦勞が報われる瞬間でもあります。また、他大学や他国の医師達と交流ができることも国際学会の大きな魅力です。これからも積極的に参加したいと思えます。

忙しい診療業務の中、貴重な機会を与えて頂いた藤本院長、ならびに留守中にご迷惑をおかけした先生方、スタッフの皆様には厚く御礼申し上げます。

EuroSpine 2018 に参加して

整形外科 田中 信 弘

2018年9月19日から21日に、情熱の国スペインのバルセロナにおいて開催されました、EuroSpine 2018に参加しましたので、報告します。

EuroSpine は 1998 年に European Spine Society と European Spinal Deformity Society が基となり設立されました。ヨーロッパ最大の脊椎の国際学会であり、世界中から多数の脊椎外科医が参加する、世界でも最大規模の学会です。年一回開催される本学会は、脊椎の国際学会でも特にレベルが高く、その採択率が低いことでも有名です。特に今回は、開催場所がバルセロナということもあり、多くの演題エントリーの末、採択率は僅か 24%と狭き門でした。私にとって初めてとなるバルセロナ訪問に高揚しつつ、ロンドン経由のブリュッセル便で渡欧しました。

バルセロナは、スペイン・カタルーニャ州の州都であり、2017年末に独立を宣言したカタルーニャ共和国の首都にもなっています。人口はマドリッドに次いでスペインで第2位、カタルーニャで最も栄えている観光都市です。歴史的建築物や美術品を擁しており、街中には独創的な建築物を生み出したアントニ・ガウディの建築が数多く残っています。

会場である Barcelona International Convention Centre はバルセロナ市内郊外にある巨大なコンベンションセンターでした。本学会に併せて学会主催のチャリティーマラソンが開催されており、ホテルから会場に向かう折、颯爽と市内を駆け抜ける学会参加ドクター達に遭遇しました。私は "Intraoperative spinal cord monitoring with Tce-MEP for cervical laminoplasty." と題して頸椎椎弓形成術における術中脊髄モニタリングの有用性に関する演題をポスター発表させていただきました。本研究は広島大病院在籍中から継続している研究テーマであり、頸椎手術の大きな合併症である手術後の神経麻痺を手術中に察知して、予防する目的で行ってきました。術中脊髄モニタリングによる評価の結果、手術の後に生じる神経麻痺の多くは手術操作による神経障害によるものでないことが判明しました。詳細な原因解明は今後の課題となりますが、従来不適切な手術操作により生じるとされていた麻痺発生の多くは、

実際には手術中に生じるものではないという点で、新しい知見として報告することができました。しかし頸椎手術には、潜在的に神経障害を生じる危険性を伴っており、安全な手術を行うためには脊髄モニタリングの併用が有用であることは言うまでもありません。当院におきましても、頸椎椎弓形成術全例において、脊髄モニタリングを施行しており、今後の更なる研究の為、知見を深めています。

学会の合間には、バルセロナの街を散策する機会がありました。天才ガウディが設計した建築を目の当たりにし、その荘厳な姿に感銘を受けました。特にサグラダ・ファミリアはガウディの没後 100 年にあたる 2026 年に完成を目指して急ピッチで建設が行われており、教科書などで学んだ姿とは見違えるほど完成に近づいていました。

最後になりますが、忙しい診療業務の中、貴重な機会を与えてくださった藤本院長、ならびに留守中にご迷惑をおかけした先生方、スタッフの皆様には厚く御礼申し上げます。



完成間近のサグラダ・ファミリア



コンgres会場のカフェ・デル・マールからの夜景

■ベトナム、ニャチャン訪問記

整形外科 田中 信 弘

2019年3月25日から27日に、ベトナム、ニャチャンにおいて開催されました、The APSS Operative Spine Course Nha Trang 2019 (APSS OSC) combined with The 25th Annual Meeting of Spine Society of HCM City (SSHV 25), Viet Nam and The 9th International Spine Symposium of Khanh Hoa General Hospital (ISS KHGH 9) に参加しましたので、報告します。

本学会は当院の藤本吉範院長の友人でもあるベトナム脊椎外科医 Vo Van Thanh 先生の主催です。Thanh 先生は大変高名なベトナムの脊椎外科医であり、東南アジアの脊椎外科リーダーの一人です。彼は大変教育熱心な先生で、ベトナムの若い先生方の育成の為に、年一回のペースで本学会を開催しています。

Vo Van Thanh 先生は過去何度も訪日されており、JA 広島総合病院にも幾度となく訪問されています。ご記憶の方もおられるかと思いますが、2018年8月27日から2週間、彼の元で働く3人のナース (Mr. Nguyen Van Hue, Mrs. Le Thi My Trang, Ms. Nguyen Thi Dung) が脊椎患者の看護を研修するために当院を訪れました。その折、Thanh 先生ご自身も当院を訪問され、次回2019年3月の本学会への参加を促されました。実は私自身、2年前の会に藤本吉範先生、山田清貴先生らと参加させていただき、ニャチャンという素晴らしい街にすっかり魅せられて再訪を願っていたところでした。

ニャチャンはベトナム南部、カインホア省の省都です。年間を通じ好天が多いため、ベトナムがフランス領となってからはリゾート地開発が進み、ここ数年のうちに高級ホテルも次々と建てられ、今ではベトナム随一のリゾートエリアとなっています。中心街の東側に延びるプロムナードに沿い、ニャチャンビーチが約7kmも続き、美しい白い砂浜と緑っぱいの椰子の並木に南国気分が盛り上がります。

学会初日と二日目の手術コースでは、Khanh Hoa 総合病院で行われました。広い講義室で、参加者全員で実際の患者さんを診て、その治療方法をディスカッションするといった、前近代的な症例検討会で

治療方針が決定され、翌日、参加者の先生方による手術が行われました。今回も日本からご高名な先生方が多数参加され、多くの手術が無償で行われました。患者さんにとってもありがたいことですが、これらを直に見学できるベトナムの脊椎外科医にとっても貴重な経験となったと思われます。三日目の講演会コースでは、私は“Microsurgical posterior discectomy for cervical disc herniation.”と題して、頚椎椎間板ヘルニアに対する後方からのヘルニア摘出術に関する講演を行い、当院で行っています低侵襲な手術方法を紹介しました。日本式の手術技術がベトナムの若い先生方に伝わり、現地の医療レベルが向上して、多くの患者さんの福音となることを切に願っています。本会には当院を訪れた3名の看護師さんも参加されていました。彼らはJA 広島総合病院で大変有意義な研修ができたこと、馬場崎看護部長をはじめ当院のスタッフに大変お世話になったこと、何度も何度もお礼を述べておられました。

最後になりますが、貴重な機会を与えてくださった藤本院長、ならびに留守中にご迷惑をおかけした先生方、スタッフの皆様には厚く御礼申し上げます。



Thanh 先生 (右から3人目)、筆者 (左から2人目)



ニャチャンビーチ

著書・論文

消化器内科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
JA 広島総合病院 消化器内科	徳毛宏則 藤本吉範	消化器疾患の最新医療(株)寺田国際事務所/先端医療技術研究所	415-416	2018年
A型胃炎に伴う多発性胃カルチノイドに胃癌を合併した1例.	村田愛 古土井明 石橋一樹 隅岡昭彦 野中裕広 藤本佳史 兵庫秀幸 相坂康之 小松弘尚 臺丸裕 徳毛宏則	広島医学	71:674-678.	2018年
胆嚢管原発神経鞘腫.	村田愛 藤本佳史 徳毛宏則	消化器内視鏡:胆膵疾患内視鏡アトラス. 30,東京医学社,	154-155.	2018年
Wisteria floribunda agglutinin-positive Mac-2 binding protein predicts the development of hepatocellular carcinoma in patients with non-alcoholic fatty liver disease.	Kawanaka M, Tomiyama Y, Hyogo H, Koda M, Shima T, Tobita H, Hiramatsu A, Nishino K, Okamoto T, Sato S, Hara Y, Nishina S, Kawamoto H, Chayama K, Okanoue T, Hino K.	Hepatology Research	48 (7): 521-528.	2018年
Comparison of Outcome of Hepatic Arterial Infusion Chemotherapy Combined with Radiotherapy and Sorafenib for Advanced Hepatocellular Carcinoma Patients with Major Portal Vein Tumor Thrombosis.	Kodama K, Kawaoka T, Aikata H, Uchikawa S, Nishida Y, Inagaki Y, Hatooka M, Morio K, Nakahara T, Murakami E, Tsuge M, Hiramatsu A, Imamura M, Kawakami Y, Masaki K, Honda Y, Mori N, Takaki S, Tsuji K, Kohno H, Kohno H, Moriya T, Nonaka M, Hyogo H, Aisaka Y, Kimura T, Nagata Y, Chayama K.	Oncology	94 (4): 215-222.	2018年
Evaluation of glycemic variability in chronic liver disease patients with type 2 diabetes mellitus using continuous glucose monitoring.	Honda F, Hiramatsu A, Hyogo H, Aikata H, Daijo K, Teraoka Y, Inagaki Y, Morio K, Kobayashi T, Nakahara T, Nagaoki Y, Kawaoka T, Yoneda M, Tsuge M, Imamura M, Kawakami Y, Ochi H, Chayama K.	PLoS One.	13 (4): e0195028	2018年
Evaluation of postprandial hypoglycemia in patients with nonalcoholic fatty liver disease by oral glucose tolerance testing and continuous glucose monitoring.	Oki Y, Ono M, Hyogo H, Ochi T, Munekage K, Nozaki Y, Hirose A, Masuda K, Mizuta H, Okamoto N, Saibara T.	European Journal of Gastroenterology and Hepatology	30 (7): 797-805	2018年
Comparison of clinical outcome of hepatic arterial infusion chemotherapy and sorafenib for advanced hepatocellular carcinoma according to macrovascular invasion and transcatheter arterial chemoembolization refractory status.	Kodama K, Kawaoka T, Aikata H, Uchikawa S, Inagaki Y, Hatooka M, Morio K, Nakahara T, Murakami E, Tsuge M, Hiramatsu A, Imamura M, Kawakami Y, Masaki K, Honda Y, Mori N, Takaki S, Tsuji K, Kohno H, Kohno H, Moriya T, Nonaka M, Hyogo H, Aisaka Y, Chayama K.	Journal of Gastroenterology and Hepatology	33 (10): 1780-1786.	2018年
The novel cutoff points for the FIB4 index categorized by age increase the diagnostic accuracy in NAFLD: a multi-center study.	Ishiba H, Sumida Y, Tanaka S, Yoneda M, Hyogo H, Ono M, Fujii H, Eguchi Y, Suzuki Y, Yoneda M, Takahashi H, Nakahara T, Seko Y, Mori K, Kanemasa K, Shimada K, Imai S, Imajo K, Kawaguchi T, Nakajima A, Chayama K, Saibara T, Shima T, Fujimoto K, Okanoue T, Itoh Y; Japan Study Group of Non-Alcoholic Fatty Liver Disease (JSG-NAFLD)	Journal of Gastroenterology	53 (11): 1216-1224.	2018年
Correction to: The novel cutoff points for the FIB4 index categorized by age increase the diagnostic accuracy in NAFLD: a multi-center study.	Ishiba H, Sumida Y, Tanaka S, Yoneda M, Hyogo H, Ono M, Fujii H, Eguchi Y, Suzuki Y, Yoneda M, Takahashi H, Nakahara T, Seko Y, Mori K, Kanemasa K, Shimada K, Imai S, Imajo K, Kawaguchi T, Nakajima A, Chayama K, Saibara T, Shima T, Fujimoto K, Okanoue T, Itoh Y; Japan Study Group of Non-Alcoholic Fatty Liver Disease (JSG-NAFLD).	Journal of Gastroenterology	53 (11): 1225.	2018年

著書・論文

A Data Mining-based Prognostic Algorithm for NAFLD-related Hepatoma Patients : A Nationwide Study by the Japan Study Group of NAFLD.	Kawaguchi T, Tokushige K, Hyogo H, Aikata H, Nakajima T, Ono M, Kawanaka M, Sawada K, Imajo K, Honda K, Takahashi H, Mori K, Tanaka S, Seko Y, Nozaki Y, Kamada Y, Fujii H, Kawaguchi A, Takehara T, Yanase M, Sumida Y, Eguchi Y, Seike M, Yoneda M, Suzuki Y, Saibara T, Karino Y, Chayama K, Hashimoto E, George J, Torimura T.	Scientific Report	8 (1) : 10434.	2018年
Palmitate-induced lipotoxicity is crucial for the pathogenesis of nonalcoholic fatty liver disease in cooperation with gut-derived endotoxin.	Ogawa Y, Imajo K, Honda Y, Kessoku T, Tomeno W, Kato S, Fujita K, Yoneda M, Saito S, Saigusa Y, Hyogo H, Sumida Y, Itoh Y, Eguchi K, Yamanaka T, Wada K, Nakajima A.	Scientific Report	8 (1) : 11365.	2018年
Impact of Sclerosing Dacryoadenitis and Sialadenitis on Relapse During Steroid Therapy in Patients with Type 1 Autoimmune Pancreatitis	Yasutaka Ishii, Masahiro Serikawa, Tamito Sasaki, Yoshifumi Fujimoto, Atsushi Yamaguchi, MD, Tsuneyoshi Ogawa, Bunjiro Noma, Masanobu Yukutake, Akihito Okazaki, Takashi Ishigaki, Kazuaki Chayama	Scandinavian Journal of Gastroenterology		2018年
Overlooked muscle cramps in patients with chronic liver disease-in relation to the prevalence of muscle cramps	Ai Murata, Hideyuki Hyogo, Michihiro Nonaka, Akihiko Sumioka, Yosuke Suehiro, Akira Furudoi, Yoshifumi Fujimoto, Yasuyuki Aisaka, Hironao Komatsu, Hironori Tokumo	European Journal of Gastroenterology & Hepatology.	31 : 375-381.	2019年
肝臓を守る糖尿病・高血圧・脂質異常症治療.	兵庫秀幸	広島医学	72 : 204-210.	2019年
Epidemiological survey of hemoglobin A1c and liver fibrosis in a general population with non-alcoholic fatty liver disease.	Tanaka K, Takahashi H, Hyogo H, Ono M, Oza N, Kitajima Y, Kawanaka M, Chayama K, Saibara T, Anzai K, Eguchi Y.	Hepatology Research	49 : 296-303.	2019年
HOMA-IR : An independent predictor of advanced liver fibrosis in nondiabetic non-alcoholic fatty liver disease.	Fujii H, Imajo K, Yoneda M, Nakahara T, Hyogo H, Takahashi H, Hara T, Tanaka S, Sumida Y, Eguchi Y, Chayama K, Nakajima A, Nishimoto N, Kawada N ; Japan Study Group of Nonalcoholic Fatty Liver Disease.	J o u r n a l o f Gastroenterology and Hepatology	J Gastroenterol Hepatol. 2019 Jan 1.	2019年
Clinical features of hepatocellular carcinoma in nonalcoholic fatty liver disease patients without advanced fibrosis.	Kodama K, Kawaguchi T, Hyogo H, Nakajima T, Ono M, Seike M, Takahashi H, Nozaki Y, Kawanaka M, Tanaka S, Imajo K, Sumida Y, Kamada Y, Fujii H, Seko Y, Takehara T, Itoh Y, Nakajima A, Masaki N, Torimura T, Saibara T, Karino Y, Chayama K, Tokushige K.	J o u r n a l o f Gastroenterology and Hepatology	J Gastroenterol Hepatol. 2019 Jan 22.	2019年

実績

小児科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
広島県内中学校医、園医を中心とした小児科医の食物アレルギー診療実態調査	岡田宏易 川口浩史 喜多村哲朗 白尾謙一郎 菅井和子 辻 徹郎 平田 修 渡邊弘司 牛尾剛士	広島医学	71 巻 8 号 p596-601	2018年
広島県における Japanese Pediatric Asthma Control Program (JPAC) を用いた小児気管支喘息の実態調査～ 2008年と2012年の比較～	岡田宏易 岡野里香 小野 厚 加藤恭博 川口浩史 喜多村哲朗 佐々木伸孝 白尾謙一郎 杉原雄三 辻 徹郎 藤高道子 安井耕三 池田政憲 有田昌彦	日本小児アレルギー学会雑誌	32 巻 5 号 p785-796	2018年

外科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
成人臍ヘルニアに対する、腹腔鏡下修復術を含めた当科での治療方針と成績	田崎達也 佐々木秀 香山茂平 杉山陽一 上神慎之介 新宅谷隆太 亀田靖子 田妻昌 新原健介 中光篤志	日本ヘルニア学会誌	4・2・18-22	2018年
再発鼠径ヘルニアに対する、腹腔鏡を用いた治療戦略	田崎達也 佐々木秀 香山茂平 杉山陽一 上神慎之介 新宅谷隆太 今村祐司 中光篤志	広島医学	71・6・481-486	2018年

著書・論文

Inguinoscrotal hernia containing the urinary bladder successfully repaired using laparoscopic transabdominal preperitoneal repair technique : A case report	Tazaki T, Sasaki M, Kohyama M, Sugiyama Y, Uegami S, Shintakuya R, Imamura Y, Nakamitsu A	Asian Journal of Endoscopic Surgery	2018 May 23 Epub ahead of print	2018年
A multicenter, Randomized, Controlled Trial Comparing Reinforced Staplers with Bare Staplers During Distal Pancreatectomy (HiSCO-07 Trial)	Kondo N, Uemura K, Nakagawa N, Okada K, Kuroda S, Sudo T, Hadano N, Matsukawa H, Satoh D, Sasaki M, Abe T, Fukuda S, Oshita A, Nakashima A, Hashimoto Y, Ohdan H, Murakami Y	Annals of Surgical Oncology	Published online : 19 Feb 2019	2019年
後期高齢者の鼠径部ヘルニア症例の治療方針—手術適応・麻酔・術式選択	田崎達也 佐々木秀 香山茂平 杉山陽一 新宅谷隆太 平野利典 今村祐司 中光篤志	広島医学	72・2・68-73	2019年

乳腺外科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
80歳以上の高齢者乳癌の治療選択と予後に関する検討	大原正裕 板垣友子 川淵義治 安井大介	広島医学	71巻6号491-494	2018年

整形外科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
Novel hybrid hydroxyapatite spacers ensure sufficient bone bondings in cervical laminoplasty.	Nobuhiro Tanaka, Kazuyoshi Nkanishi, Noasuke Kamei, Tohsio Nakamae, Norihiko Sumiyoshi, Takanori Rikita, Shinji Kotaka, Yoshinori Fujimoto, Mitsuo Ochi, Nobuo Adachi	Asian Spine J.	12 (6) ,1-7	2018年
頸髄症の歩行障害の病態 JOACMEQを用いた検討	平松武 藤本吉範 田中信弘 中西一義 山田清貴 中前稔生 亀井直輔 古高慎司 安達伸生	脊髄機能診断学	38 (1) 47-52	2018年

呼吸器外科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
多発性骨髄腫を重複し骨転移と鑑別を要した肺癌の1例	熊田高志 渡正伸 伊藤林太郎	日本臨床外科学会雑誌	79.11.2240-45	2018年

心臓血管外科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
遠位バイパス後の Failing Graft に対する EVT の治療成績	小林平 濱本正樹 小澤優道 海氣勇気	日本血管外科学会雑誌	27 : 267-272	2018年
遠位バイパス術後の感染による吻合部破綻症例の検討	小林平 濱本正樹 小澤優道 海氣勇気	日本血管外科学会雑誌	26 : 153-156	2018年
感染制御後の待機的手術で治療した Graft-enteric erosion の1例	海氣勇気 小林平 小澤優道 濱本正樹	日本血管外科学会雑誌	27 : 115-119	2018年

産婦人科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
妊娠授乳後骨粗鬆症の1例	佐藤優季 敷佐淑恵 川崎正憲 佐々木美砂 中前里香子 高本晴子 中西慶喜	現代産婦人科	66・2・323-327	2018年

眼科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
緑内障診療テキスト	山元哲也 (二井宏紀 (分担執筆))	南江堂	78-83 ページ	2018年

著書・論文

画像診断部

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
Dual Energy CT の初期臨床経験～胸部領域を中心に～	西原礼介	Multislice CT 2018 BOOK	Vol.50 No.8 p76	2018年
256列 Revolution CT での Dual Energy CT 撮影の有用性について	西原礼介	月刊新医療	第45巻第10号 p43	2018年

救急・集中治療科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
「人工呼吸器モードの選択」	櫻谷正明	VCV vs PCV の比較 集中治療, ここだけの話・医学書院		2018年
high frequency oscillatory ventilation (HFOV)	櫻谷正明	Intensivist・メディカル・サイエンス・インターナショナル		2018年
ARDS の先読み・深読み・裏読みポイント	高場章宏	呼吸器ケア・メディカ出版		2018年
同調不良への対応	櫻谷正明	呼吸器ケア・メディカ出版		2018年
同期式間欠的強制換気 (SIMV)	高場章宏	呼吸器ケア・メディカ出版		2018年
周術期、抜管後一まず HFNC と NIV のどちらを選ぶ?	櫻谷正明	呼吸器ジャーナル・医学出版		2018年
くも膜下出血における遅発性脳虚血の予防および治療	櫻谷正明	エキスパートに学ぶ 神経手中治療・総合医学社		2018年

薬剤部

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
集中治療患者における臓器系統別評価方法の習得 臓器系統別評価 1/5：鎮静鎮痛呼吸	吉廣尚大	日本病院薬剤師会雑誌・日本病院薬剤師会	54・12・1471-4	2018年
Recombinant human-soluble thrombomodulin contributes to reduced mortality in sepsis patients with severe respiratory failure : a retrospective observational study using a multicenter dataset	Shodai Yoshihiro, Masaaki Sakuraya, Mineji Hayakawa, Kota Ono, Akira Hirata, Akihiro Takaba, Natsuki Kawamura, Toru Tsutsui, Kenichi Yoshida, and Yoshihiro Hashimoto	SHOCK Journal	51, 2, 174-9	2019年

臨床工学科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
RST 実態調査アンケート (2017年度版)	荒田晋二	人工呼吸 Vol.35 No.1 2018		
在宅用人工呼吸器の仕組み～ICU呼吸器との比較、インターフェイスなど～	平野恵子	人工呼吸 Vol.35 No.2 2018		
特集 これからの標準管理と呼吸ケア	平野恵子	呼吸器ケア Vol.16 No.11 2018		

書籍・雑誌編集

消化器内科

担当者	書籍・雑誌名	担当	巻・号 (Volume, number)	出版元
兵庫秀幸	内科 NAFLD/NASH 診療のイノベーション ガイドラインからパイプラインへ	座談会 NAFLD/NASH 診療のイノベーションと未来を語る	内科 121 (6) : 1407-1415, 2018 兵庫秀幸、角田圭雄、米田正人、芥田憲夫	南江堂
兵庫秀幸	NAFLD と NASH の現況と展望 - 国民病となった NAFLD/NASH の疾患概念の変遷と問題点	サルコペニアと NAFLD/NASH	2019 JANUARY vol.37No1 p95	CURRENT THERAPY

心臓血管外科

担当者	書籍・雑誌名	担当	巻・号 (Volume, number)	出版元
濱本正樹	Cardiology and Angiology : An International Journal	査読者		SCIENCEDOMAIN international
濱本正樹	日本血管外科学会雑誌	査読者		株式会社メディカルトリビューン
濱本正樹	Annals of Vascular Diseases	査読者		Medical Tribune Inc.
濱本正樹	Annals of Vascular Diseases	査読者		Medical Tribune Inc.
濱本正樹	Journal of Case Reports in Medical Science	査読者		

麻酔科

担当者	書籍・雑誌名	担当	巻・号 (Volume, number)	出版元
中尾正和	Journal of Anesthesia	査読者		日本麻酔科学会
中尾正和	日本臨床麻酔学会誌	査読者		日本臨床麻酔学会
中尾正和	麻酔と蘇生	査読者		麻酔と蘇生編集部

薬剤部

担当者	書籍・雑誌名	担当	巻・号 (Volume, number)	出版元
吉廣尚大	日本集中治療医学会雑誌	reviewer	2018 年度	

学会発表

呼吸器内科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
気管支拡張像と粘液栓を認めた肺原発性明細胞肺癌の一例	鳥井宏彰 田中三千彦 大月鷹彦 近藤丈博 伊藤林太郎 熊田高志 渡 正伸	第 60 回日本呼吸器学会 中国・四国地方会	2018 年 12 月 15 日	高松市
高頻度振動換気にて改善が得られた顕微鏡的多発血管炎に合併した肺出血の一例	近藤丈博	第 46 回日本集中治療医 学会	2019 年 3 月 1～3 日	京都市

循環器内科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
循環虚脱をきたした急性肺血栓塞栓症に PCPS は有効か？	荘川知己 石橋直樹 藤原敬士 赤澤良太 渡邊義和 前田幸治 辻山修司 藤井 隆	第 66 回日本心臓病学会 学術集会	2018 年 9 月 7～9 日	大阪市

腎臓内科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
急激な心機能低下をきっかけに心サルコイドーシスが疑われた維持透析患者の 1 例	板倉崇帆 新開泰 前田和也 荒川哲次	第 63 回日本透析学会医 学会総会	2018 年 6 月 29 日～7 月 1 日	神戸市
アルコール性肝硬変を基礎疾患にネフローゼ症候群を呈した IgA 腎症の 1 例	新開 泰 清水美奈子 板倉崇帆 荒川哲次	第 48 回日本腎臓学会西 部学術総会	2018 年 9 月 28～29 日	徳島市

糖尿病代謝内科・糖尿病センター

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
5 年間の電流知覚閾値 (CPT) 追跡を用いて DPP-4 阻害薬のヒトにおける糖尿病神経障害進展阻止作用の可能性を追究する	石田和史 三玉康幸 濱岡 彩 古森佑美	第 61 回日本糖尿病学会 年次学術集会	2018 年 5 月 24～26 日	東京都
患者 QOL の視点からみたリスプロ Mix 製剤からデグルデク/アスパルト配合注への切り替えの有用性	三玉康幸 濱岡 彩 古森佑美 中元美恵 石田和史	第 61 回日本糖尿病学会 年次学術集会	2018 年 5 月 24～26 日	東京都
体組成に着目したチアゾリジン薬・SU 薬から SGLT2 阻害薬への有意な切り替え方法の探究	濱岡 彩 古森佑美 三玉康幸 石田和史	第 61 回日本糖尿病学会 年次学術集会	2018 年 5 月 24～26 日	東京都
Propensity score matching 法で検証した実臨床での DPP-4 阻害薬の神経障害進展阻止作用	石田和史 三玉康幸 濱岡 彩 由田彩佳	第 56 回日本糖尿病学会 中国四国地方会	2018 年 10 月 26～27 日	下関市
DPP-4 阻害薬からデュラグルチドへの切り替えは如何なる症例で有用か？	由田彩佳 濱岡 彩 三玉康幸 石田和史	第 56 回日本糖尿病学会 中国四国地方会	2018 年 10 月 26～27 日	下関市
血中 1, 5-AG は 2 型糖尿病におけるダバグリフロジンの有効性予測因子となりうるか？	濱岡 彩 由田彩佳 三玉康幸 石田和史	第 56 回日本糖尿病学会 中国四国地方会	2018 年 10 月 26～27 日	下関市
FGM 導入によるグルコース変動データが影響を与える背景因子に関する検討	三玉康幸 由田彩佳 濱岡 彩 石田和史 安藤知佳 加賀美昌美 中元美恵	第 56 回日本糖尿病学会 中国四国地方会	2018 年 10 月 26～27 日	下関市
連続皮下グルコース測定 FreeStyle リブレ (FGM) を療養行動に活かすための看護師支援の検討	安藤知佳 加賀美昌美 中元美恵 三玉康幸 石田和史	第 56 回日本糖尿病学会 中国四国地方会	2018 年 10 月 26～27 日	下関市

消化器内科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
腸閉塞をきたした子宮内膜症の 1 例	村田 愛 古土井明 石橋一樹 隅岡昭彦 野中裕広 藤本佳史 兵庫秀幸 相坂康之 小松弘尚 徳毛宏則	第 118 回内科学会中国地 方会	2018 年 5 月 19 日	米子市

学会発表

COVERED VERSUS UNCOVERED SELF-EXPANDABLE METAL STENTS IN THE PALLIATIVE ENDOSCOPIC TREATMENT OF MALIGNANT GASTRIC OUTLET OBSTRUCTION: A LARGE MULTICENTER RANDOMIZED TRIAL IN WEST JAPAN	Kitano Masayuki ¹ , Chiba Yasutaka, Yamao Kentaro ¹ , Ogura Takeshi, Eguchi Takaaki, Moriyama Ichiro, Yamashita Yukitaka, Kato Hironari, Kayahara Takahisa, Hoki Noriyuki ¹ , Okabe Yoshinobu, Shiomi Hideyuki, Nakai Yoshitaka, Kushiyama Yoshinori, Fujimoto Yoshifumi, Hayashi Shiro, Bamba Shigeki, Kudo Yasushi, Azemoto Nobuaki, Ueki Toshiharu, Kodama Yuzo, Asada Masanori, Matsumoto Kazuya, Nebiki Hiroko, Takihara Hiroshi, Noguchi Chishio, Kamada Hideki, Nakase Kojiro, Goto Daisuke, Sanuki Tsuyoshi, Koga Tetsuya, Kawamoto Hirofumi	DDW 2018 米国消化器病週間 Digestive Disease Week	2018年6月2～5日	ワシントン：米国
NASH 組織診断の落とし穴－何を NASH 診断・線維化の指標にすべきなのか？	兵庫秀幸 中島 淳 江口有一郎	第 54 回日本肝臓学会総会	2018年6月14日	大阪市
血清内 miR-379 発現レベルは NAFLD の発症・進展および NAFLD 患者におけるコレステロール代謝に関連する	岡本欣也 岡本敏明 三好謙一 野智光 杉原善明 平松 憲 兵庫秀幸他	第 54 回日本肝臓学会総会	2018年6月15日	大阪市
NAFLD/NASH と動脈硬化症～臨床的観点から～	兵庫秀幸	第 50 回日本動脈硬化学会総会学術集会	2018年7月12日	大阪市
当院における肝生検の現況と複数回施行した NASH 症例の臨床的傾向について	野中裕広 兵庫秀幸 相坂康之 徳毛宏則	第 22 回日本肝臓学会大会 (JDDW2018)	2018年11月1日	神戸市
ワークショップ 17：非ウイルス性肝臓の完全制御をめざす脂肪肝炎の基礎と臨床	川中美和 兵庫秀幸 日野啓輔	第 22 回日本肝臓学会大会 (JDDW2018)	2018年11月2日	神戸市

実績

小児科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
広島県下医療機関における吸入器貸し出しの現況	辻 徹郎 池田政憲 岡島宏易 岡野里香 喜多村哲朗 佐々木伸孝 下園広行 白尾謙一郎 杉原雄三 平田修 藤高道子 安井耕三	第 55 回日本小児アレルギー学会学術大会	2018年10月21～22日	岡山市
オマリズマブで治療し、心肺運動負荷試験 (CPX 検査) により運動耐容能をフォローした重症喘息児の 1 例	小野大地 岡島宏易 辻 徹郎 梶間理人 森本 彩 中島千恵子	第 1 回日本アレルギー学会中国・四国支部地方会	2019年2月2日	広島市
教育講演「小児気管支喘息の評価－呼吸機能検査を中心に－」	岡島宏易	第 1 回日本アレルギー学会中国・四国支部地方会	2019年2月2日	広島市

外科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
成人臍ヘルニアに対する、腹腔鏡下修復術を含めた当科での治療方針と成績	田崎達也 佐々木秀 香山茂平 杉山陽一 上神慎之介 新宅谷隆太 亀田靖子 田妻 昌 新原健介 宮下浩平 今村祐司 中光篤志	第 118 回日本外科学会定期学術集会	2018年4月5～7日	東京都
外科修練医に対する鼠径部ヘルニア手術教育	田崎達也 佐々木秀 香山茂平 杉山陽一 新宅谷隆太 亀田靖子 新原健介 今村祐司 中光篤志	第 16 回日本ヘルニア学会学術集会	2018年6月29～30日	札幌市
前立腺全摘後に発症した鼠径ヘルニアに対する腹腔鏡下手術の成績と問題点	田崎達也 佐々木秀 香山茂平 杉山陽一 新宅谷隆太 亀田靖子 新原健介 今村祐司 中光篤志	第 16 回日本ヘルニア学会学術集会	2018年6月29～30日	札幌市
抗血栓療法患者に対する鼠径部ヘルニア手術症例の検討	田崎達也 佐々木秀 香山茂平 杉山陽一 新宅谷隆太 亀田靖子 新原健介 今村祐司 中光篤志	第 16 回日本ヘルニア学会学術集会	2018年6月29～30日	札幌市
World Guideline の「Plug 法は推奨されない」は妥当か－再発所見からの考察－	田崎達也 佐々木秀 香山茂平 杉山陽一 新宅谷隆太 亀田靖子 新原健介 今村祐司 中光篤志	第 16 回日本ヘルニア学会学術集会	2018年6月29～30日	札幌市
TAPP 法で診断した成人女性鼠径部ヘルニアの検討	亀田靖子 田崎達也 佐々木秀 香山茂平 杉山陽一 新宅谷隆太 新原健介 今村祐司 中光篤志	第 16 回日本ヘルニア学会学術集会	2018年6月29～30日	札幌市
両側上腰ヘルニアの 2 例	田崎達也 新原健介 佐々木秀 香山茂平 杉山陽一 新宅谷隆太 平野利典 海氣勇氣 今村祐司 中光篤志	第 15 回中国四国ヘルニア手術研究会	2018年7月7日	高松市

学会発表

実績

後期研修医に対する腹腔鏡下腹壁ヘルニア修復術の教育	新原健介 田崎達也 佐々木秀 香山茂平 杉山陽一 新宅谷隆太 平野利典 海氣勇気 岡本暢之 今村祐司 中光篤志	第 15 回中国四国ヘルニア手術研究会	2018 年 7 月 7 日	高松市
Sarcopenia is the independent predictor of the delayed gastric emptying following pancreaticoduodenectomy	新宅谷隆太 佐々木秀 中光篤志 今村祐司 香山茂平 杉山陽一 田崎達也 平野利典 海氣勇気 新原健介 岡本暢之	第 30 回日本肝胆膵外科学会学術集会	2018 年 7 月 7 日～9 日	横浜市
進行・再発胃癌に対する PTX + RAM 療法の臨床的検討	田崎達也 杉山陽一 佐々木秀 香山茂平 今村祐司 上神慎之介 亀田靖子 田妻昌 中光篤志	第 73 回日本消化器外科学会総会	2018 年 7 月 11～13 日	鹿児島市
Blumhart 変法膵空腸吻合は膵管胃粘膜吻合を凌駕するか	佐々木秀 中光篤志 香山茂平 田崎達也 杉山陽一 上神慎之介 新宅谷隆太 亀田靖子 田妻昌 新原健介	第 73 回日本消化器外科学会総会	2018 年 7 月 11～13 日	鹿児島市
胃癌 Conversion surgery の適応と治療成績	杉山陽一 新原健介 田妻昌 新宅谷隆太 上神慎之介 田崎達也 香山茂平 佐々木秀 今村祐司 中光篤志	第 73 回日本消化器外科学会総会	2018 年 7 月 11～13 日	鹿児島市
絞扼性イレウスにおける腸管切除の予測因子とその影響についての検討	新原健介 杉山陽一 亀田靖子 新宅谷隆太 上神慎之介 田崎達也 香山茂平 佐々木秀 今村祐司 中光篤志	第 73 回日本消化器外科学会総会	2018 年 7 月 11～13 日	鹿児島市
高齢者膵管癌における膵切除の妥当性の検討	新宅谷隆太 佐々木秀 中光篤志 今村祐司 香山茂平 杉山陽一 田崎達也 平野利典 海氣勇気 新原健介 岡本暢之	第 45 回日本膵切研究会	2018 年 8 月 24～25 日	札幌市
TAPP 法後再発鼠径ヘルニア症例から考える、再発防止策	田崎達也 佐々木秀 香山茂平 杉山陽一 新宅谷隆太 平野利典 海氣勇気 新原健介 岡本暢之 今村祐司 中光篤志	第 93 回中国四国外科学会総会・第 23 回中国四国内視鏡外科研究会	2018 年 9 月 6～7 日	広島市
高齢者膵管癌における膵切除の妥当性の検討	新宅谷隆太 佐々木秀 中光篤志 今村祐司 香山茂平 杉山陽一 田崎達也 平野利典 海氣勇気 新原健介 岡本暢之	第 93 回中国四国外科学会総会・第 23 回中国四国内視鏡外科研究会	2018 年 9 月 6～7 日	広島市
盲腸穿孔を契機に認めた小腸 muco-submucosal elongated polyp (MSEP) による腸重積の一例	西隆孝之 新原健介 新宅谷隆太 岡本暢之 海氣勇気平野利典 杉山陽一 田崎達也 香山茂平 佐々木秀 今村祐司 中光篤志	第 93 回中国四国外科学会総会・第 23 回中国四国内視鏡外科研究会	2018 年 9 月 6～7 日	広島市
後期高齢者の鼠径部ヘルニアの治療方針—手術適応・麻酔・術式選択	田崎達也 佐々木秀 香山茂平 杉山陽一 新宅谷隆太 中光篤志	第 71 回広島医学会総会	2018 年 11 月 11 日	広島市
後期高齢者の鼠径部ヘルニアに対する手術適応と麻酔法・術式選択に関する検討	田崎達也 佐々木秀 香山茂平 杉山陽一 新宅谷隆太 平野利典 新原健介 海氣勇気 岡本暢之 今村祐司 中光篤志	第 80 回日本臨床外科学会総会	2018 年 11 月 22～24 日	東京都
転移形式からみた Conversion surgery の意義についての検討	杉山陽一 岡本暢之 新原健介 海氣勇気 平野利典 新宅谷隆太 田崎達也 香山茂平 佐々木秀 今村祐司 中光篤志	第 80 回日本臨床外科学会総会	2018 年 11 月 22～24 日	東京都
盲腸穿孔を契機に認めた小腸 muco-submucosal elongated polyp (MESP) による腸重積の一例	新原健介 新宅谷隆太 岡本暢之 海氣勇気 平野利典 杉山陽一 田崎達也 香山茂平 佐々木秀 今村祐司 中光篤志	第 80 回日本臨床外科学会総会	2018 年 11 月 22～24 日	東京都
再発鼠径ヘルニアに対して安全に TAPP 法を行うためのポイント	田崎達也 佐々木秀 香山茂平 杉山陽一 新宅谷隆太 平野利典 新原健介 中光篤志	第 31 回日本内視鏡外科学会総会	2018 年 12 月 6～8 日	福岡市
腹腔鏡手術を施行した複雑性憩室炎の 3 例	上神慎之介 田崎達也 新原健介 新宅谷隆太 杉山陽一 香山茂平 佐々木秀 中光篤志	第 31 回日本内視鏡外科学会総会	2018 年 12 月 6～8 日	福岡市
膵神経内分泌腫瘍に対する腹腔鏡補助下膵鉤部切除	佐々木秀 中光篤志 香山茂平 田崎達也 杉山陽一 新宅谷隆太 平野利典 新原健介	第 31 回日本内視鏡外科学会総会	2018 年 12 月 6～8 日	福岡市
後期研修医に対する腹腔鏡下腹壁ヘルニア修復術の教育	新原健介 田崎達也 佐々木秀 香山茂平 杉山陽一 新宅谷隆太 平野利典 海氣勇気 岡本暢之 今村祐司 中光篤志	第 31 回日本内視鏡外科学会総会	2018 年 12 月 6～8 日	福岡市

学会発表

後期高齢者の鼠径部ヘルニア症例の治療方針—手術適心・麻酔・術式選択	田崎達也 佐々木秀 香山茂平 杉山陽一 新宅谷隆太 平野利典 海氣勇気 新原健介 岡本暢之 今村祐司 中光篤志	第 29 回佐伯医学会総会	2019 年 1 月 20 日	廿日市市
ICG 蛍光法を用いた肝切除	新宅谷隆太 佐々木秀 中光篤志 今村祐司 香山茂平 杉山陽一 田崎達也 平野利典 海氣勇気 新原健介 岡本暢之	第 29 回佐伯医学会総会	2019 年 1 月 20 日	廿日市市
急性腹症として発症した低異型度虫垂粘液性腫瘍の 1 例	岡本暢之 田崎達也 香山茂平 新原健介 海氣勇気 平野利典 新宅谷隆太 杉山陽一 佐々木秀 今村祐司 台丸裕 中光篤志	第 184 回広島外科会並びに総会 第 40 回日本臨床外科学会広島県支部学区術集会	2019 年 3 月 2 日	広島市
食道癌術後の自然気胸に続発した緊張性気腹症の 1 例	海氣勇気 杉山陽一 岡本暢之 新原健介 平野利典 新宅谷隆太 田崎達也 香山茂平 佐々木秀 今村祐司 中光篤志	第 55 回日本腹部救急医学会総会	2019 年 3 月 7～8 日	仙台市

乳腺外科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
ER 陽性 HER2 陰性再発乳癌の治療戦略	板垣友子 大原正裕 川淵義治 安井大介	第 26 回日本乳癌学会学術総会	2018 年 5 月 16～18 日	京都市
Stage IV 乳癌における Prognostic Nutritional Index の意義	大原正裕 板垣友子 川淵義治 安井大介	第 26 回日本乳癌学会学術総会	2018 年 5 月 16～18 日	京都市
当院における HER2 陽性進行・再発乳癌治療の検討	川淵義治 板垣友子 安井大介 大原正裕	第 26 回日本乳癌学会学術総会	2018 年 5 月 16～18 日	京都市
女性化乳房症における画像検査有用性の検討	板垣友子 木村優里 大原正裕 川淵義治 安井大介	第 93 回中国四国外科学会総会	2018 年 9 月 6～7 日	広島市
Prognostic Nutritional Index の乳癌予後予測における意義	大原正裕 木村優里 板垣友子 安井大介 川淵義治	第 93 回中国四国外科学会総会	2018 年 9 月 6～7 日	広島市
当院における乳房再建の現状と術後合併症についての検討	木村優里 板垣友子 大原正裕 安井大介 長谷川美沙 川淵義治	第 93 回中国四国外科学会総会	2018 年 9 月 6～7 日	広島市

整形外科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
外側環軸関節症における後頭部痛と骨髄浮腫の関連性	平松 武 藤本吉範 田中信弘 山田清貴 橋本貴士 丸山俊明 鈴木修身	第 47 回日本脊椎脊髄病学会学術集会	2018 年 4 月 12～14 日	神戸
高齢者腰椎変性側弯症の腰痛に対するターゲット療法の中長期成績	山田清貴 藤本吉範 中前稔生 橋本貴士 平松 武 丸山俊明 福井博喜 亀井直輔 安達伸生	第 47 回日本脊椎脊髄病学会学術集会	2018 年 4 月 12～14 日	神戸
脳室腹腔シャントの過剰ドレナージによる頸髄症の一例	丸山俊明 山田清貴 平松 武 橋本貴士 鈴木修身 藤本吉範	第 130 回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会	2018 年 4 月 20～21 日	愛媛
Long-term outcome of targeted therapy for low back pain in elderly de novo degenerative lumbar scoliosis	Kiyotaka Yamada, Yoshinori Fujimoto, Toshio Nakamae, Takashi Hashimoto, Takeshi Hiramatsu, Toshiaki Maruyama, Hiroki Fukui, Naosuke Kamei, Nobuo Adachi	The International Society for the Study of the Lumbar Spine 2018	2018 年 5 月 14～18 日	カナダ、バンフ
高齢者腰椎椎間板変性により生じた椎間孔狭窄に対する低侵襲手術	平松 武 藤本吉範 田中信弘 山田清貴 橋本貴士 丸山俊明 福井博喜	第 8 回中四国 Mist 研究会	2018 年 6 月 23 日	広島
Intraoperative spinal cord monitoring with Tce-MEP for cervical laminoplasty.	Nobuhiro Tanaka・Kazuyoshi Nkanishi, Naosuke Kamei, Yoshio Nakamae, Shinji Kotaka, Yoshinori Fujimoto, Nobuo Adachi	2018 Eurospine	2018 年 9 月 19～21 日	スペイン、バルセロナ
びまん性特発性骨増殖症 (DISH) を伴う椎体骨折に対する椎体終板を貫く経皮的椎弓根スクリュー (PPS) 刺入法の有用性	丸山俊明 山田清貴 田中信弘 平松 武 橋本貴士 福井博喜 藤本吉範	第 27 回日本脊椎インストゥルメンテーション学会	2018 年 9 月 28～29 日	東京
骨粗鬆症性椎体骨折に対する経皮的後弯矯正術の有用性と限界	山田清貴 藤本吉範 田中信弘 橋本貴士 平松 武 丸山俊明 福井博喜	第 131 回中部日本整形外科災害外科学会学術集会	2018 年 10 月 5～6 日	倉敷

学会発表

若年性腰椎椎間板ヘルニアに対する経皮的内視鏡下椎間板摘出術の治療成績	山田清貴 橋本貴士 福井博喜	藤本吉範 平松 武	田中信弘 丸山俊明	第 131 回中部日本整形外 科災害外科学会学術集会	2018 年 10 月 5～6 日	倉敷
高齢者腰椎変性側弯症における椎間孔狭窄に対する低侵襲治療	平松 武 山田清貴 福井博喜	藤本吉範 橋本貴士	田中信弘 丸山俊明	第 131 回中部日本整形外 科災害外科学会学術集会	2018 年 10 月 5～6 日	倉敷
Low back pain in elderly degenerative lumbar scoliosis: endplate lesion and novel minimally invasive treatment	山田清貴 橋本貴士 福井博喜	藤本吉範 平松 武	田中信弘 丸山俊明	第 62 回広島脊椎脊髄セ ミナー	2018 年 10 月 7 日	広島
脊髄海綿状血管腫の治療経験	丸山俊明 平松 武 藤本吉範	山田清貴 橋本貴士	田中信弘 福井博喜	中国地区脊椎症例検討会	2019 年 3 月 9 日	広島
Microsurgical posterior discectomy for cervical disc herniation.	Nobuhiro Tanaka			APSS Nha Trang Operative Spine Course	2019 年 3 月 25～27 日	ベトナム、 ニャチャン
骨粗鬆症性椎体骨折に対する mini-open anterior approach を用いた前方・後方脊柱再建術	福井博喜 平松 武 藤本吉範	山田清貴 橋本貴士	田中信弘 丸山俊明	西日本脊椎研究会	2019 年 5 月 31 日	福岡

呼吸器外科

演題	発表者・協同研究者名			学会名	開催期間	開催都市
肺葉切除後の無症候性心房細動の探索	渡 正伸	熊田高志	伊藤林太郎	第 35 回日本呼吸器外科 学会	2018 年 5 月 17～18 日	幕張
肺癌肺葉切除後の発作性心房細動 の探索	渡 正伸	熊田高志	伊藤林太郎	第 67 回日本農村医学会 総会	2018 年 10 月 10～12 日	東京
広島県内の病院における院内禁煙推進の取り組みに関するアンケート調査	渡 正伸 安藤 仁	津谷隆史 平賀裕之	川根博司 田中純子	第 12 回日本禁煙学会	2018 年 11 月 10～11 日	高松
乳癌術後の内分泌療法中に発見された 肺原発腫外性形質細胞腫の 1 例	熊田高志	渡 正伸	伊藤林太郎	第 80 回日本臨床外科学 会総会	2018 年 11 月 22～24 日	東京
月経随伴性気胸に対して胸腔鏡下に横隔膜病変を処置した 1 例	伊藤林太郎	渡 正伸	熊田高志	第 80 回日本臨床外科学 会総会	2018 年 11 月 22～24 日	東京
ペンプロリズマブ投与後の 2 次治療中に ACTH 単独欠損による二次性副腎皮質機能低下症を発症した 1 例	熊田高志	渡 正伸	井上 聡	第 59 回日本肺癌学会総 会	2018 年 11 月 29 日～12 月 1 日	東京
肺扁平上皮癌術後再発の 2 次治療にペンプロリズマブを使用し完全奏効を得られた 1 例	熊田高志	渡 正伸	伊藤林太郎	第 59 回日本肺癌学会総 会	2018 年 11 月 29 日～12 月 1 日	東京

心臓血管外科

演題	発表者・協同研究者名			学会名	開催期間	開催都市
Viabahn は万能か？ — 初期成績から適応と限界を考える —	小林 平 白川賢司	濱本正樹	小澤優道	第 59 回日本脈管学会総 会	2018 年 10 月 25～27 日	広島市
遠位バイパス後の failing graft に対する EVT の治療成績	小林 平 白川賢司	濱本正樹	小澤優道	第 59 回日本脈管学会総 会	2018 年 10 月 25～27 日	広島市
遠位バイパス術後の感染によるグラフト破綻症例の検討	小林 平 白川賢司	濱本正樹	小澤優道	第 59 回日本脈管学会総 会	2018 年 10 月 25～27 日	広島市

皮膚科

演題	発表者・協同研究者名			学会名	開催期間	開催都市
食道癌の放射線療法後に放射線誘発性軟部肉腫を生じた 1 例	坂本拓海 北野文朗	田中友里恵 台丸裕	吉賀哲郎 伊東 淳	日本皮膚科学会 第 143 回広島地方会	2018 年 9 月 2 日	広島市
線状 IgA/IgG 水疱性皮膚症 1 例	吉賀哲郎 石井文人	坂本拓海	北野文朗	日本皮膚科学会 第 144 回広島地方会	2019 年 3 月 3 日	広島市
生物学的製剤を使用した膿疱性乾癬の 2 例	坂本拓海	吉賀哲郎	北野文朗	日本皮膚科学会 第 144 回広島地方会	2019 年 3 月 3 日	広島市

実績

学会発表

泌尿器科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
筋層浸潤膀胱癌に対する放射線併用動注化学療法の長期予後の検討	増本弘史 田坂 亮 赤坂保行 加藤昌生 小深田義勝	日本泌尿器科学会総会	2018年4月 20日	京都市
腎盂癌との鑑別が困難であった腎 mucinous tubular and spindle cell carcinoma の1例	増本弘史 田坂 亮 赤坂保行 加藤昌生 小深田義勝	日本泌尿器科学会東部総会	2018年10月 4日	東京都
筋層浸潤性膀胱癌に対する放射線併用動注化学療法の長期予後の検討	赤坂保行 田坂 亮 増本弘史 加藤昌生 小深田義勝	日本泌尿器科学会中部総会	2018年10月 5日	名古屋市
筋層浸潤性膀胱癌に対する放射線併用動注化学療法の治療予後に関する検討	田坂 亮 赤坂保行 増本弘史 加藤昌生 小深田義勝	西日本泌尿器科学会総会	2018年11月 2日	長崎市
当院における腹腔鏡下膀胱全摘除術の初期経験	加藤昌生 田坂 亮 赤坂保行 増本弘史 小深田義勝	日本泌尿器内視鏡学会総会	2018年11月 29日	仙台市

産婦人科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
子宮内膜細胞診異常を契機に発見された乳癌再発の1例	小西晴久 菅裕美子 佐々木美砂 高本晴子 中西慶喜	第71回中国四国産科婦人科学会学術講演会	2018年9月 22～23日	松山市
乳癌再発診断に子宮内膜細胞診が有用であった1例	小西晴久 井町海太 岡本淳子 永田郁子 高田 愛 臺丸 裕 中西慶喜	第57回日本臨床細胞学会秋期大会	2018年11月 17～18日	横浜市

眼科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
眼窩粘液腫の1例	末岡健太郎 末岡千絵 二井宏紀 黒木一彦 木内良明	第36回日本眼腫瘍学会	2018年11月 3日	金沢市
マイクロフックトラベクトミーの中期成績	二井宏紀 末岡千絵	第77回広島地方眼科学会	2018年11月 18日	広島市

画像診断部

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
心肺蘇生術に伴う肝損傷を認めた1例	近藤翔太	第130回日本医学放射線学会 中国四国地方会	2018年6月 16～17日	出雲市
肝多発石灰化を契機に発見された膵神経内分泌腫瘍の一例	柴田祥之	第130回日本医学放射線学会 中国四国地方会	2018年6月 16～17日	出雲市
特発性脊髄ヘルニアの一例	近藤翔太	第131回日本医学放射線学会 中国四国地方会	2018年12月 7～8日	高松市
MRIで偶然発見された間葉性軟骨肉腫の一例	近本哲士	第29回佐伯医学会総会	2019年1月 20日	廿日市市
肝細胞癌に対するTACE時のFlightPlan for liverの有用性について	西原礼介	第29回佐伯医学会総会	2019年1月 20日	廿日市市

麻酔科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
傷病者に侵襲の低い輸液の温度管理について	橋下教幸 古井直樹 吉田研一 中尾正和	日本救急医学会中国四国地方会	2018年5月 11～12日	広島市
救急外来初診時カルテ内服薬情報の正確度調査	竹野典子 古賀知道 村上俊介 河本佐誉子 本多亮子 中尾正和	日本麻酔科学会学術集会	2018年5月 17～19日	神戸市
ロクロニウム拮抗薬（ネオスチグミン、スガマデクス）の選択が手術終了から退室までの時間へ及ぼす影響（TOF, 予測濃度からの検討）	吉村晴香 中尾正和 古賀知道 河本佐誉子 佐々木幹子 新澤正秀	日本麻酔科学会学術集会	2018年5月 17～19日	神戸市
初期研修医による気管支ファイバースコープ下挿管へのファイバーガイドTuLip-iTMの有用性	佐藤浩毅 中尾正和 本多亮子 梅田絢子 村上俊介 佐々木幹子	日本麻酔科学会学術集会	2018年5月 17～19日	神戸市
予期せぬ中咽頭狭窄の一例	竹野典子 古賀知道 佐藤浩樹 山賀彩乃 村上俊介 渡辺るみ 望月さや 中尾正和	日本臨床麻酔学会第38回大会	2018年11月 1～3日	小倉市

学会発表

気管支喘息閉鎖術に対して自発呼吸下で麻酔管理を行った2症例	吉村晴香 古賀知道 中尾正和	日本臨床麻酔学会第38回大会	2018年11月1～3日	小倉市
-------------------------------	----------------	----------------	--------------	-----

歯科口腔外科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
下顎骨に発生した Odontogenic fibroma の1例	大井尚志 原田直 平田ひかる	第63回日本口腔外科学会総会・学術大会	2018年11月2～4日	幕張市

救急・集中治療科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
くも膜下出血後に救急・集中治療医ができること	櫻谷正明	第34回日本救急医学会中国四国地方会	2018年5月11～12日	広島
ECPR 離脱後に肝臓瘍を起こした1例	松本丈雄	第34回日本救急医学会中国四国地方会	2018年5月11～12日	広島
重症呼吸不全患者に対して CE に期待すること	櫻谷正明	第40回日本呼吸療法医学会 パネルディスカッション	2018年8月4～5日	東京
Benzodiazepine use during ICU stay might be associated with benzodiazepine dependence after discharge	Masaaki SAKURAYA	第31回ヨーロッパ集中治療医学会	2018年10月20～24日	Paris
特発性冠動脈解離 (SCAD) による難治性心室細動 (VF) に対し ECPR を行い救命に成功した1例	松本丈雄	第46回日本救急医学会総会・学術集会	2018年11月19～21日	東京
上部消化管出血が疑われる患者への造影 CT 撮影は有用なのか？	高場章宏	第46回日本救急医学会総会・学術集会	2018年11月19～21日	東京
直腸穿孔の後腹膜穿通により大腿筋層内ガス像を認めた1例	濱永有華	第46回日本救急医学会総会・学術集会	2018年11月19～21日	東京
Nocardia arthritis による脳膿瘍の1例	山本高嗣	第46回日本救急医学会総会・学術集会	2018年11月19～21日	東京
意識障害にて搬送され両側視床傍正中中部梗塞症候群と診断された1例	入江耕平	第46回日本救急医学会総会・学術集会	2018年11月19～21日	東京
急性腎障害を契機に発症した塩酸ピルシカイニド中毒による心停止の1例	岩田和佳奈	第46回日本救急医学会総会・学術集会	2018年11月19～21日	東京
集中治療医はくも膜下出血患者を診るべきである	櫻谷正明	第46回日本集中治療医学会学術集会 シンポジウム17	2019年3月1～3日	京都
ARDS 診療ガイドライン 2016 以後の文献レビュー	櫻谷正明	第46回日本集中治療医学会学術集会 教育講演セッション1	2019年3月1～3日	京都
元々人工換気等の処置を希望していない男性に対して人工呼吸管理を行い気管切開にまで至った1例	加藤之紀	第46回日本集中治療医学会学術集会	2019年3月1～3日	京都
難治性心室細動で救急搬送され死亡した WPW 症候群の1例	西山千尋	第46回日本集中治療医学会学術集会	2019年3月1～3日	京都
被殻出血に類似した CT 所見を認めた中大脳動脈瘤破裂の1例	山本高嗣	第46回日本集中治療医学会学術集会	2019年3月1～3日	京都
心臓 MRI 撮影中に機器による圧迫・息止め等で呼吸不全が生じ心停止になった1症例	岩田和佳奈	第46回日本集中治療医学会学術集会	2019年3月1～3日	京都

地域救命救急センター病棟

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
地域救命救急センターにおける2日目看護師による家族看護実践現状と課題～グループフォーカスインタビューによる質的分析～	岡崎裕美 杉中知子 水村めぐみ	日本看護学会看護教育学会	2018年8月16～17日	広島市

学会発表

東3階病棟

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
「外来心臓リハビリテーション終了後も自己管理が継続可能か」	門内美鈴 石川恵子 益本僚子 杉野里美 本間智明 小林 平	第24回心臓リハビリテーション学会学術集会	2018年7月 14～15日	横浜市

手術室

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
手術室災害訓練・勉強会実施前後の看護師の災害意識と初期行動理解の比較	鈴木久憲 加藤智恵	第32回日本手術看護学会年次大会	2018年11月 23～24日	横浜市

居宅介護支援事業所

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
在宅で療養する終末期癌患者・家族の揺らぐ気持ちに寄り添って	古本直子 小田真基子 奥元直美 木村泰博 藤本佳史	第29回日本在宅医療学会学術集会	2018年11月 3～4日	横浜市

薬剤部

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
外来心臓リハビリテーションへの薬剤師の介入～薬剤処方提案とsの実際～	向井一樹 大原由希子 橋本佳浩 本間智明 小林 平	第24回心臓リハビリテーション学会	2018年7月 14～15日	横浜市
末梢動脈疾患患者のチーム医療における薬剤師の関わり	富永祥子 稲田淑江 角井 碧 後藤彰仁 橋本佳浩 本間智明 小林 平	第24回心臓リハビリテーション学会	2018年7月 14～15日	横浜市
シンポジウム 拡がれ1集中治療！！～急性期を超えてそして全国へ～ 鎮静鎮痛におけるICUブリッジング JA広島総合病院での取り組み	吉廣尚大 櫻谷正明 小野塚和人 無漏田香穂 加藤之紀 河村夏生 高場章宏 稲田淑江 吉田研一 橋本佳浩	28回医療薬学会年会	2018年11月 23～25日	神戸市
注射用カリウム製剤投与間違え防止のための取り組み	角井 碧 中島恵子 村中好美 徳毛宏則 橋本佳浩	第28回医療薬学会年会	2018年11月 23～25日	神戸市
依頼時期から見えてきた緩和ケアチームの現状と課題	磯貝明彦 小川智恵子 藤原俊輔 吉田 玲 小松弘尚 橋本佳浩	第28回医療薬学会年会	2018年11月 23～25日	神戸市
シンポジウム ICUから始めるPICS予防 薬剤師の立場で考えて行うPICS予防	吉廣尚大	日本集中治療医学会 第3回中国・四国支部学術集会	2019年2月 2日	出雲市
口頭演題 集中治療室で発症したせん妄に対するゾピペンの安全性と効果：単施設パイロット研究	吉廣尚大 櫻谷正明 高場章宏 河村夏生 筒井 徹 加藤之紀 吉田研一 橋本佳浩	第46回日本集中治療医学会学術集会	2019年3月 1～3日	京都市
大腸がんオキサリプラチン使用患者におけるアプレピタントとパロノセトロン併用効果の検討	埋橋賢吾 藪田ゆみ 白井敦史 中島恵子 橋本佳浩	第9回日本臨床腫瘍薬学会学術集会	2019年3月 23～24日	旭川市

臨床研究検査科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
Small dense LDL-C 推定法の比較検討	丸山恭平 福岡達仁 水野誠士 碓井裕史 藤井 隆	臨床化学学会年次学術集会	2018年8月 26日	名古屋市
症例④髄液 解説	荒瀬美幸	第2回一般検査研修会 (認定更新研修会)	2018年9月 1日	広島市
Vector Flow Mapping を用いた左心耳内血流動態解析～洞調律と心房細動自験例での報告～	原千花子 小松浩基 水野誠士 渡邊義和 藤井 隆	第67回 日本農村医学会学術総会	2018年10月 10日	東京都
広島県におけるESBL産生菌とCREの検出状況（第9期調査）	池田光泰	第66回日本化学療法学会西日本支部総会	2018年11月 17日	鹿児島市
大動脈弁・僧帽弁穿孔を経胸壁心エコーで評価し得た感染性心内膜炎（IE）の一例	北村紀恵 藤井 隆 濱本正樹 水野誠士 小松浩基 川崎京子 霜津宏典 原千花子	第51回 中四国支部医学検査学会	2018年11月 24日	高松市
広島県におけるESBL産生菌とCPEの検出状況（第9期調査）	池田光泰	第30回日本臨床微生物学会総会	2019年2月 2日	東京都
外部委託検査によりCREが検出された小規模長期療養型医療施設の耐性菌サーベイランス～NGSを用いた分子疫学解析～	池田光泰	第31回日本臨床微生物学会総会	2019年2月 2日	東京都

学会発表

尿一般検査からアプローチできたファブリー病	猪丸祐美子	生理部門・一般検査部門 合同研修会	2019年2月 9日	広島市
医療法改正に関して	水野誠士	平成30年度広島県臨床 検査データ標準化研修会	2019年2月 9日	広島市
脂質異常症の治療最前線 2019 ～循環器医の立場から～	藤井隆	生物化学分析部門研修会	2019年2月 16日	広島市
広島豪雨災害時における活動～臨床検査技師の立場から～	水野誠士	第36回広島県医学検査 学会	2019年2月 23日	東広島市
一般検査部門フォトサーベイ・尿定性	荒瀬美幸	第38回広島県臨床検査 精度管理向上研修会	2019年3月 24日	広島市
医療法等の一部改正に伴う日本臨床衛生検査技師会の対処方針	水野誠士	第21回検査部長・技師 長会議	2019年3月 24日	広島市
生理検査部門フォトサーベイ	霜津宏典	第38回広島県臨床検査 精度管理向上研修会	2019年3月 24日	広島市

中央放射線科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
256チャンネルエネルギーアナライザー付きウェル型シンチレーションカウンターの測定値に与える影響	高畑 明 池田将敏 松村祐輔	日本核医学技術学会第 30回中国・四国地方会	2018年6月 23～24日	高知市
仮想単色X線のエネルギーレベルにおける解像力特性の評価	高橋昌史 山口裕之 下土居一 秋里恭平	第14回中四国放射線医 療技術フォーラム	2018年11月 3～4日	広島市
低エネルギー仮想単色X線を用いた高コントラスト画像の解像力特性の評価	高橋昌史 山口裕之 下土居一 秋里恭平	第14回中四国放射線医 療技術フォーラム	2018年11月 3～4日	広島市
ウェル型シンチレーションカウンターの測定環境が結果に及ぼす影響	高畑 明 池田将敏 松村祐輔	日本核医学技術学会	2018年11月 14～17日	宜野湾市

臨床工学科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
在宅医療における臨床工学技士の今後の展望	平野恵子	第10回広島県臨床工学 技士会学術集会	2018年5月 20日	広島市
海外における臨床工学技士の動向	荒田晋二	第10回広島県臨床工学 技士会学術集会	2018年5月 20日	広島市
OptiFlow使用中、加温加湿器自動給水式チャンバに溢水が生じた一例	原子成也	第28回日本臨床工学会	2018年5月 26～27日	横浜市
EVTにおける臨床工学技士の直接介助へ	胡子 健	第28回日本臨床工学会	2018年5月 26～27日	横浜市
吸引と気道管理のマネジメント	荒田晋二	第28回日本臨床工学会	2018年5月 26～27日	横浜市
在宅医療における当院の心得	平野恵子	第28回日本臨床工学会	2018年5月 26～27日	横浜市
透析患者の高周波手術装置を使用した治療が対極板エラーのため中止となった一例	村上直己	第63回日本透析医学会 学術集会	2018年5月 29～6月1 日	神戸市
心臓リハビリテーションと人工呼吸療法 ～臨床工学技士の視点から～	田中智子	第24回日本心臓リハビ リテーション学会	2018年7月 14～15日	横浜市
本邦におけるRSTの現状把握 ～アンケート結果から～	荒田晋二	第40回日本呼吸療法学 会	2018年8月 4～5日	東京都
呼吸療法の臨床に深く関わるために	荒田晋二	第8回中四国臨床工学会	2018年9月 29～30日	徳島市
ここから始める！内視鏡マネジメント-広総STYLE-	藤田雄樹	第8回中四国臨床工学会	2018年9月 29～30日	徳島市
内視鏡洗浄消毒装置における消毒液濃度測定方法の改善	藤田雄樹	第81回日本消化器内視 鏡技師学会	2018年11月 2～3日	京都市

学会発表

リハビリテーション科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
重症下肢虚血患者において歩行能力の低下は再発リスクを高める	高桑 翼 村上嘉章 本間智明 小島輝久 河野裕美 西谷喜子 小林 平	第24回日本心臓リハビリテーション学会学術集会	2018年7月14～15日	横浜市
AMI患者における外来心リハ通院の効果	本間智明 辻山修司 村上嘉章 河野裕美 小島輝久 西谷喜子 高桑翼 小林 平	第24回日本心臓リハビリテーション学会学術集会	2018年7月14～15日	横浜市
呼吸器疾患患者に対して他職種チーム医療がもたらす効果について	飛鷹恵理 村上嘉章 折手祐一 橋詰菜津美 中谷すずか 岡崎紗和 近藤丈博 宮本英美 平本梨恵 小川智恵子 藤原俊輔 林 理恵 西田美穂	第28回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会	2018年11月9～10日	千葉市
ICUにおける抜管後嚥下障害に対する対策 - 当院独自の嚥下評価プロトコルの有用性 -	上田雅美 櫻谷正明 後藤優佳 中谷すずか 杉本美里 大野真由美 五百川典子 村上嘉章 小林 平	第46回日本集中治療医学会学術集会	2019年3月1～3日	京都市
CKD患者の運動療養は腎機能を改善するのか？	井場和敏 小林 平 村上嘉章 清水美奈子 荒川哲次	第9回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会	2019年3月8～10日	大分市

実績

栄養科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
肥満妊娠糖尿病（GDM）患者の食事摂取状況の問題点とその解決を目指した栄養指導の効果	上村真由美 河本良美 三浦満美子 長曾我部弘子 松下有紀 西田美穂 森田菜津美 神田史那 三玉康幸 濱岡 彩 石田和史	日本糖尿病学会中国四国地方会第56回総会	2018年10月25～27日	山口
包括的呼吸リハビリテーションチームにおける栄養介入の検討	西田美穂 河本良美 飛鷹恵理 近藤丈博	第22回日本病態栄養学会年次学術集会	2019年1月11～13日	横浜市
院内共通嚥下スクリーニングの実施状況と今後の課題	八幡謙吾 石井 葵 村田竜也 名井幸香 池田光泰 上田雅美 上村真由美 山崎貴司 中島恵子 河本良美 本山敏恵 松下理恵 藤本七津美 大井尚志 高本宗男 香山茂平	第34回日本静脈経腸栄養学会学術集会	2019年2月14～15日	東京
外来心リハにおける肥満AMI患者への栄養指導介入の効果	森田菜津美 上村真由美 河本良美 上田雅美 本間智明 小林 平	日本心臓リハビリテーション学会第4回中国支部地方会	2019年2月16日	岡山

感染防止対策室（ICT）

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
看護学生および新人看護師におけるB型肝炎ウイルス免疫獲得への対応	今本紀生	第7回 日本感染管理ネットワーク学会学術集会	2018年5月25～26日	仙台市
シンポジウム 手術室における手指衛生	今本紀生	第34回 日本環境感染学会総会・学術集会	2019年2月22日	神戸市

学会での座長

糖尿病代謝内科・糖尿病センター

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第 115 回日本内科学会総会・講演会	石田和史	医学生研修医の日本内科学会ことはじめポスターセッション 内分泌・代謝	2018年4月14日	京都市
第 61 回日本糖尿病学会年次学術集会	石田和史	糖尿病療養指導（運動・リハビリ療法 3）	2018年5月25日	東京都
第 56 回日本糖尿病学会中国四国地方会第 54 回総会	石田和史	治療（インスリン療法）	2018年10月26日	下関市
第 71 回広島医学会総会	石田和史	実地医家のための教育講座	2018年11月11日	広島市

小児科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第 35 回日本小児臨床アレルギー学会	辻 徹郎	一般演題 2「アレルギー調査」	2018年7月28～29日	福岡市
第 55 回日本小児アレルギー学会学術大会	辻 徹郎	一般演題「気管支喘息：診断/検査」	2018年10月21～22日	岡山市
第 55 回日本小児アレルギー学会学術大会	岡島宏易	一般演題「気管支喘息：治療 1」	2018年10月21～22日	岡山市

外科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第 16 回日本ヘルニア学会学術集会	田崎達也	腹壁瘢痕ヘルニア	2018年6月29～30日	札幌市
第 31 回日本内視鏡外科学会総会	田崎達也	ヘルニア 治療成績	2018年12月6～8日	福岡市
第 34 回日本環境感染症学会総会学術集会	佐々木秀	術後感染予防 1	2019年2月22～23日	神戸市

整形外科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
日本脊椎脊髄病学会	田中信弘	頸部神経根症	2018年4月14日	神戸市
日本整形外科学会学術集会	田中信弘	頸部神経根症	2018年4月14日	神戸市
中部整形外科災害外科学会	田中信弘	脊椎稀少症例	2018年4月20日	松山市
中部整形外科災害外科学会	山田清貴	脊椎 II	2018年4月20～21日	松山市
日本脊椎脊髄病学会	田中信弘	脊椎・脊髄腫瘍	2018年5月27日	神戸市
日本脊椎インストルメンテーション学会	田中信弘	腰椎 3	2018年9月28日	東京
中部整形外科災害外科学会	田中信弘	脊椎 診断・評価	2018年10月5日	倉敷市
日本整形外科学会基礎学術集会	田中信弘	脊椎・画像	2018年10月11日	奈良市
日本骨粗鬆症学会	田中信弘	サルコペニア・フレイル	2018年10月27日	長崎市

呼吸器外科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第 59 回日本呼吸器学会中国・四国地方会 第 57 回日本肺癌学会中国・四国支部学術集会	渡正伸	一般演題（肺）外科症例 -2	2018年7月14～15日	出雲市

心臓血管外科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
日本血管外科学会中国地方会	小林平	腹部大動脈瘤 1	2018年7月28日	鳥取県
日本心臓リハビリテーション学会中国地方会	小林平	運動療法・CPX	2019年2月16日	岡山県

学会での座長

耳鼻咽喉科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
日本耳鼻咽喉科学会広島県支部会・広島県耳鼻咽喉科医会総会ならびに学術講演会	高本宗男	一般演題 2	2018 年 4 月 7 日	広島市

麻酔科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
日本麻酔科学会学術集会 TCI / TIVA WITH スマートポンプ	中尾正和	共催セミナー L23	2018 年 5 月 19 日	神戸市

救急・集中治療科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第 46 回日本集中治療医学会学術集会	櫻谷 正明	一般演題・口演 34 循環 症例 01	2019 年 3 月 1 日	京都

手術室

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第 32 回日本手術看護学会年次大会	田中猛	手術室運営	2018 年 11 月 23 日	横浜市

臨床研究検査科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第 67 回日本医学検査学会	北村紀恵	生理検査	2018 年 5 月 12 日	浜松市
第 1 回広島臨床微生物部門研修会	池部晃司	微生物検査	2018 年 6 月 16 日	広島市
第 1 回広島県臨床検査技師会生化学部門研修会	丸山恭平	生化学検査	2018 年 6 月 23 日	広島市
第 2 回広島県臨床検査技師会生化学部門研修会	丸山恭平	生化学検査	2018 年 9 月 8 日	広島市
第 67 回日本農村医学会学術総会	藤井隆	一般演題	2018 年 10 月 10 日	東京都
第 119 回日本内科学会中国地方会	藤井隆	循環器部門	2018 年 11 月 17 日	広島市
第 3 回広島県臨床検査技師会生化学部門研修会	丸山恭平	生化学部門	2018 年 12 月 1 日	広島市
生理部門・一般検査部門合同研修会	荒瀬美幸	生理・一般検査部門	2019 年 2 月 9 日	広島市
第 4 回広島県臨床検査技師会生化学部門研修会	丸山恭平	生化学部門	2019 年 2 月 16 日	広島市
平成 30 年度日臨技精度管理調査報告会	水野誠士	精度管理	2019 年 3 月 2 日	広島市

中央放射線科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第 14 回中四国放射線医療技術フォーラム	田丸隆行	モーニングセミナー 4 MRI	2018 年 11 月 3～4 日	広島市
第 14 回中四国放射線医療技術フォーラム	山口裕之	シンポジウム「被ばく低減について考える」	2018 年 11 月 3～4 日	広島市

感染防止対策室 (ICT)

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第 7 回日本感染管理ネットワーク学会学術集会	今本 紀生	一般演題 耐性菌対策	2018 年 5 月 25 日	仙台市

研究会講演・発表

循環器内科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
山県医師会学術講演会	心不全治療における病診連携の重要性～心不全パンデミックに備えて～	辻山修司	2018年7月26日 広島北ホテル	大塚製薬・山県医師会
心不全チーム医療講演会	心不全体液管理の今を考える	辻山修司	2018年9月6日 厚生堂長崎病院	大塚製薬
第1回山口県病院薬剤師会学術講演会	心不全治療のトレンド～トルバパタンと心不全チーム医療～	辻山修司	2018年11月28日 山口グランドホテル	山口県病院薬剤師会・大塚製薬
佐伯地区学術講演会～第36回循環器診療の病診連携～	VTE today～最近の話題～	辻山修司	2018年11月30日 広島総合病院	佐伯地区医師会・佐伯区医師会・JA広島総合病院・第一三共

腎臓内科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第8回日本血液浄化心不全研究会	日本人血液透析患者における心臓バイオマーカーとしての脳性ナトリウム利尿ペプチド前駆体N端フラグメント	清水美奈子	2018年8月5日 岐阜市	日本血液浄化心不全研究会
Fluid Management Seminar	腎疾患患者での体液管理	清水美奈子	2019年1月25日 広島市	大塚製薬株式会社

糖尿病代謝内科・糖尿病センター

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第30回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	連続皮下グルコース測定を用いた糖尿病診療の実際～CGM・FGMで隠れた高血糖・低血糖を見きわめる～	三玉康幸	2018年4月11日 廿日市市商工保健会館(広島県廿日市市)	広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会・広島県医師会糖尿病対策推進会議・テルモ
第30回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	糖尿病地域連携/パス10年を迎えて～その成果の検証と次の戦略を考える～	石田和史	2018年4月11日 廿日市市商工保健会館(広島県廿日市市)	広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会・広島県医師会糖尿病対策推進会議・テルモ
インスリン治療セミナー	ランタスXRで出来ることは何か?	石田和史	2018年4月23日 ホテルニューヒロデン(広島市南区)	サノフィ
第567回広島市内科医会学術講演会	糖尿病治療における併用療法のポイント	石田和史	2018年6月12日 TKPガーデンシティ広島駅前大橋(広島市南区)	広島市内科医会・キッセイ薬品工業
第81回薬剤業務研修会～臨床業務に役立つシリーズ 糖尿病～	ますます多彩になった経口血糖降下薬を実臨床に活かすコツ	石田和史	2018年8月4日 広島大学広仁会館(広島市南区)	広島県病院薬剤師会・小野薬品工業
第31回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	糖尿病治療中に膀胱が発覚した症例を振り返る	石田和史	2018年8月8日 廿日市市商工保健会館(広島県廿日市市)	広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会・広島県医師会糖尿病対策推進会議・田辺三菱製薬
糖尿病重症化予防(フットケア)研修会	糖尿病の病態・生理と治療	石田和史	2018年8月31日 広島県看護協会(広島市中区)	広島県看護協会
糖尿病診療Expert Meeting	実臨床から学ぶSGLT2阻害薬の有効症例	石田和史	2018年9月10日 リーガロイヤルホテル広島(広島市中区)	MSD・アステラス製薬
第32回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	実臨床における週1回GLP-1受容体作動薬の効果検証	由田彩佳	2018年12月12日 廿日市市商工保健会館(広島県廿日市市)	広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会・広島県医師会糖尿病対策推進会議・第一三共

研究会講演・発表

消化器内科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第120回広島消化器病研究会	内視鏡直視下でコーラの直接散布、局注により破碎、除去した胃石の1例	村田 愛 小松弘尚 隅岡昭彦 藤本佳史 末廣洋介 野中裕広 古土井明 兵庫秀幸 相坂康之 徳毛宏則	2018年4月7日 広島市	広島消化器病研究会
第120回広島消化器病研究会	肝疾患患者におけるこむら返りの実態と対処法	石橋一樹 村田 愛 兵庫秀幸 隅岡昭彦 藤本佳史 野中裕広 古土井明 相坂康之 小松弘尚 徳毛宏則	2018年4月7日 広島市	広島消化器病研究会
佐伯地区医師会学術講演会	便秘症の病態と治療	小松弘尚	2018年4月24日 廿日市市	佐伯地区医師会、佐伯地区内科会、佐伯地区外科会、EAファーマ、エーザイ
佐伯地区肝炎セミナー	当院におけるC型肝炎治療の状況と、ウイルス肝炎患者における診療の注意点	相坂康之	2018年5月23日 廿日市市	ギリアド・サイエンス株式会社
第23回 Regional Interactive G.I. Doctors' Network	A型胃炎に伴う多発性胃カルチノイドに胃がんを合併した1例	村田 愛	2018年6月27日 廿日市市	RGIDNet、佐伯地区医師会、第一三共、アストラゼネカ
第31回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	糖尿病と膵疾患	藤本佳史	2018年8月8日 廿日市市	糖尿病医療連携を進める会、田辺三菱
消化器懇話会スペシャル膵癌講演会 地域医療従事者研修会	膵炎で発症した膵腫瘍の検討	児玉竜一 藤本佳史 村田 愛 古土井明 石橋一樹 隅岡昭彦 野中裕広 兵庫秀幸 相坂康之 小松弘尚 徳毛宏則	2018年10月19日 廿日市市	大鵬薬品工業株式会社
第24回 Regional Interactive G.I. Doctors' Network	当院における消化管異物の現況	石橋一樹	2018年10月24日 廿日市市	Regional Interactive G.I. Doctors' Network、佐伯地区医師会、第一三共株式会社
第8回生活習慣病と肝疾患を考える平卒の会	患者をその気にさせるNASH専門医の極意に迫る	兵庫秀幸	2018年11月2日 神戸市	生活習慣病と肝疾患を考える平卒の会、EAファーマ、エーザイ、日本医療戦略研究センター
第71回広島医学会総会	肝臓を守る糖尿病・高血圧・脂質異常症治療	兵庫秀幸	2018年11月11日 広島市	広島県医師会
第19回岩国・広島西地区消化器疾患懇話会	胃腸疾患の内視鏡診断症例について	隅岡昭彦 古土井明	2018年11月29日 大竹市	岩国・広島西地区消化器疾患懇話会、アストラゼネカ
第4回広島胆膵内科合同カンファレンス	当院の膵癌診療の現状	藤本佳史	2018年12月13日 広島市	広島大学第一内科
第29回佐伯医学会総会	健診USが膵癌の発見に寄与した一例	石橋一樹 藤本佳史 隅岡昭彦 村田 愛 野中裕広 古土井明 兵庫秀幸 相坂康之 小松弘尚 徳毛宏則 新宅谷隆太 佐々木秀 中光篤志 確井裕史	2019年1月19日 廿日市市	佐伯地区医師会
第29回佐伯医学会総会	縮小後に再増大した稀な膵腫瘍の一例	原田怜 児玉竜一 藤本佳史 石橋一樹 隅岡昭彦 村田 愛 野中裕広 古土井明 兵庫秀幸 相坂康之 小松弘尚 徳毛宏則	2019年1月19日 廿日市市	佐伯地区医師会
Clinical Lild Seminar 2019	NASHと脂質異常症治療薬	兵庫秀幸	2019年1月24日 広島市	興和創薬株式会社
佐伯地区医師会学術講演会	慢性膵疾患のup to date	藤本佳史	2019年2月26日 廿日市市	佐伯地区医師会、佐伯地区内科会、マイラン EPD 合同会社

研究会講演・発表

第 25 回 Regional Interactive G.I. Doctors' Network	当院の「MRI 臍ドッグ」を契機に診断した膵癌の 1 例	濱永有華 石橋一樹 藤本佳史	2019 年 3 月 6 日 廿日市市	Regional Interactive G.I. Doctors' Network、佐伯地区医師会、佐伯地区内科会、佐伯地区外科会、第一三株式会社
佐伯地区医師会学術講演会	便秘症の病態と治療	小松弘尚	2019 年 3 月 19 日 廿日市市	佐伯地区医師会、佐伯地区内科会、アステラス製薬

小児科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第 44 回広島小児アレルギー感染免疫研究会	2017/18 シーズンにおける RS ウィルス感染症入院症例の検討～実臨床におけるウィルス性喘鳴に対するステロイド投与の現状について～	辻 徹郎	2018 年 7 月 19 日 広島市	広島小児アレルギー感染免疫研究会 杏林製薬
第 46 回西日本小児アレルギー研究会	広島県内小児気管支喘息発作状況の検討 - 多変量解析を用いた検討 -	岡島宏易	2018 年 8 月 18 ～ 19 日 福岡市	西日本小児アレルギー研究会
重症喘息 Meeting in Hiroshima	重症喘息児の評価～症状からその先へ～	岡島宏易	2018 年 11 月 22 日 広島市	ノバルティスファーマ株式会社

外科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第 15 回佐伯地区医師会外科会総会	下肢静脈瘤の血管内治療	海氣勇気	2018 年 7 月 5 日 廿日市	
第 17 回同門会研究報告会	当院で経験した腹部大動脈十二指腸瘻の検討	柴田祥之	2018 年 10 月 27 日 広島市	
第 50 回広島内視鏡下外科手術研究会	当院における腹腔鏡下胆嚢摘出術の手術手技	海氣勇気	2019 年 2 月 7 日 広島市	ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社
RIGID net	膵癌診療最近の話題～膵癌診療ガイドライン 2019 改訂のポイント～	佐々木秀	2019 年 3 月 6 日 廿日市	
第 5 回ラパヘルエキスパートミーティング	TAPP 法後再発症例の振り返り	田崎達也	2019 年 3 月 9 日 東京都	

乳腺外科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第 48 回広島乳腺疾患研究会	巨大乳房腫瘍を主訴に来院した Invasive Cystic Hypersecretory ductal carcinoma の一例	板垣友子	2018 年 4 月 14 日 広島市	広島乳腺疾患研究会・アストラゼネカ
乳癌治療 Meet the Expert in HIROSHIMA	当院におけるエリブリン使用経験	大原正裕	2018 年 7 月 2 日 広島市	エーザイ株式会社
JOIN Hiroshima 2018	パネルディスカッション	大原正裕	2018 年 10 月 23 日 広島市	ファイザー株式会社
第 29 回佐伯医学会総会	当院における乳癌術後乳房再建の現状と術後合併症についての検討	木村優里	2019 年 1 月 20 日 廿日市市	佐伯地区医師会
再発乳癌治療 Meet the Expert in 岩国	エリブリンの使用経験	板垣友子	2019 年 2 月 15 日 広島市	エーザイ株式会社
デノスマブ研究会	当院における denosumab の治療戦略	大原正裕	2019 年 2 月 21 日 広島市	第一三株式会社
広島乳がん認定医・専門医育成セミナー	乳癌のチーム医療	大原正裕	2019 年 3 月 12 日 広島市	広島大学・日本イーライリリー

整形外科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
広島地域連携パス会議	骨粗鬆症性椎体骨折に対する治療と病診連携	山田清貴	2018 年 6 月 7 日 広島市	旭化成ファーマ
第 101 回山口県医学会総会	こしの痛みと病気について - 職場における腰痛対策 -	田中信弘	2018 年 6 月 17 日 山口県下松市	下松市医師会
AOSpine Advanced Level Specimen Course Chiba	頸椎～中位胸椎 (前方)	田中信弘	2018 年 6 月 23 日 千葉市	千葉大学大学院整形外科

研究会講演・発表

第8回低侵襲・内視鏡脊髄神経外科研究会	高齢社会におけるBKPの果たす役割	山田清貴	2018年7月14日 東京都	低侵襲・内視鏡脊髄神経外科研究会
第9回骨粗鬆症性椎体骨折研究会	BKP介入時期による隣接椎体骨折の検討	山田清貴	2018年10月25日 浜松市	骨粗鬆症性椎体骨折研究会
AOSpine Advanced Seminar-Spine Trauma	頸椎外傷 AO分類	田中信弘	2018年11月11日 福岡市	AOSpine
第2回BKP治療の現状と将来を考える会	病診連携によるBKP実施時期の適正化の取り組み	山田清貴	2019年2月2日 東京都	BKP治療の現状と将来を考える会
AOSpine ORP Course	頸部 後方手術と合併症対策	田中信弘	2019年2月23日 川崎市	AOSpine
AOSpine ORP Course	腰椎 後方除圧手術と合併症	田中信弘	2019年2月23日 川崎市	AOSpine
第56回秋田県脊椎脊髄外科研究会	頸部神経根症に対する後方手術	田中信弘	2019年3月9日 秋田市	秋田県脊椎脊髄外科研究会

形成外科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第5回広島創傷治療セミナー	バイパス術後に植皮を行い治療を得た重症虚血肢潰瘍の小経験	長谷川美紗	2019年2月28日 広島市	科研製薬株式会社

呼吸器外科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
COPD Forum 2018 in Hiroshima	院内全術前患者を対象としたCOPDスクリーニング-術前肺機能外来の紹介-	渡 正伸	2018年7月5日 オリエンタルホテル	日本ベーリンガー社
COPD Web 講演会	院内の全術前患者を対象としたCOPDスクリーニングの意義	渡 正伸	2018年11月26日 シェラトンホテル	ノバルティス社

心臓血管外科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第36回回言語聴覚士合同研修会	心疾患とリハビリと言語聴覚士	小林 平	2018年6月21日 廿日市市	
第4回北大阪フットケア勉強会	重症下肢虚血に対する治療の最前線～チーム医療とリハビリを含めて～	小林 平	2018年10月19日 大阪府	株式会社メディコン・キッセイ薬品工業株式会社・JCRファーム株式会社
Evening of Clinical Discussion in Hiroshima	Real Worldでの成績からViabahnの適応と限界を考える	小林 平	2018年10月26日 広島市	日本ゴア株式会社
腎疾患患者のリハビリを考える会	現在までの腎臓リハビリテーションの推移、ガイドラインから考える	小林 平	2018年12月6日 廿日市市	大塚製薬株式会社
第62回広島循環器病研究会	Viabahnの初期成績から適応と限界を考える	小林 平	2018年12月22日 広島市	広島循環器病研究会・エーザイ株式会社
第27回広島心血管手術手技研究会	治療に難渋した末梢動脈疾患の一手術例	小林 平	2019年1月19日 広島市	広島心血管手術手技研究会・CSLベーリング株式会社

画像診断部

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
広島放射線診断カンファレンス	マンモグラフィ読影～基本のキホン～	近藤翔太	2018年10月18日 広島大学病院放射線診断科	
第24回RIGID NET	Dual Energy CTの驚異～当院の最新CTはこんなとこまで見れちゃいます～	西原礼介	2018年10月24日 廿日市市商工保険会館	RIGID NET、佐伯地区医師会、第一三共株式会社
CTテクノロジー第56回勉強会	さあ、みんなで考えよう～意識障害～	西原礼介	2019年1月25日 広島	エーザイ株式会社

研究会講演・発表

第313回広島大学放射線診断カンファレンス	肺分画症の1例	今中俊秀	2019年2月7日 広島大学病院放射線診断科	
-----------------------	---------	------	---------------------------	--

救急・集中治療科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
日本呼吸療法医学会セミナー ADVANCED コース	ARDS 診療ガイドライン第3版の概要	櫻谷正明	2018年4月29日 横浜	日本呼吸療法学会
おりづるセミナー	敗血症性心筋症について	加藤之紀	2018年7月21日 広島	旭化成
ひろしま呼吸管理セミナー 2018	各種体位療法の生理学的意義と科学的根拠	櫻谷正明	2018年8月26日 広島	Medtronic
日本呼吸療法医学会セミナー ADVANCED コース	ARDS 診療ガイドライン第3版の概要	櫻谷正明	2018年9月9日 京都	日本呼吸療法学会
CCM 輸液栄養研究会	メトホルミンによる乳酸アシドーシスに続発した浸透圧性脱髄症候群(ODS)の1例	西山千尋	2018年10月13日 東京	大塚製薬工場
広島西部救急研究会	広島西部救急医療体制について	加藤之紀	2018年11月28日 広島	広島西部救急研究会
2018年集中ケア認定看護師会 教育セミナー	楽しみながらチームを成長させる！自分にあったリーダーシップの在り方を考えてみよう	櫻谷正明	2019年1月13日 岡山	集中ケア認定看護師会
広島県臨床工学技士セミナー	呼吸管理の実践	櫻谷正明	2019年1月27日 広島	広島県臨床工学技士会
長野県臨床工学技士セミナー	各種体位療法の生理学的意義と科学的根拠	櫻谷正明	2019年2月17日 長野	長野県臨床工学技士会
福井救急超音波講習会	Airway Ultrasound	加藤之紀	2019年3月23日 福井	福井超音波講習会

看護科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
ジェネラリスト研修	運動器疾患の理解とケア	馬場崎喜美子	2018年10月24日 広島県看護協会	広島県看護協会
看護管理学	看護管理	佐藤澄香	2018年10月29日 山陽看護専門学校	山陽看護専門学校
看護管理学	看護管理	佐藤澄香	2018年11月5日 山陽看護専門学校	山陽看護専門学校
看護管理学	看護管理	佐藤澄香	2018年11月12日 山陽看護専門学校	山陽看護専門学校

薬剤部

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第17回広島循環器薬物療法研究会	集中治療室で経験した高リン血症の心筋梗塞後の血液透析患者	吉廣尚大	2018年7月10日 広島市民病院	広島循環器研究会
第7回 JSEPTIC 薬剤部会セミナー	症例ディスカッション プレゼンター	吉廣尚大	2018年11月11日 大阪市立医学附属病院	JSEPTIC 薬剤部会
第1回院内感染対策研修会	抗菌薬適正使用について	正嶋和美	2018年5月23日 広島総合病院	
第3回医療安全研修会	薬剤安全研修 簡易懸濁法について	角井 碧	2018年7月26日 広島総合病院	
第81回薬剤業務研修会 臨床業務に役立つシリーズ 糖尿病	アドヒアランス・副作用モニタリングを意識した患者面談～SGLT2阻害薬編～	瀧口幸子	2018年8月4日 広島大学広仁会館	広島県病院薬剤師会 / 小野薬品工業株式会社
第4回認知症ケア研修会	せん妄を引き起こしやすい薬剤	石津克紘	2018年8月29日 広島総合病院	
第4回院内感染対策研修会	抗菌薬の基礎	正嶋和美	2018年9月27日 広島総合病院	
第7回医療安全研修会	薬剤安全研修 麻薬について	角井 碧	2018年11月29日 広島総合病院	

研究会講演・発表

第7回院内感染対策研修会	季節性・新型インフルエンザについて 共同演者	角井 碧	2018年12月18日 広島総合病院	
広島西部泌尿器科勉強会	前立腺がんの薬物療法マネジメントと泌尿器がんの免疫療法について	藪田ゆみ	2019年1月25日 広島サンプラザ	広島西部泌尿器科勉強会 / あすか製薬
ONCOLOGY FORUM HIROSHIMA	大腸がんオキサリプラチン使用患者におけるアプレピタントとパロノセトロン併用効果の検討	埋橋賢吾	2018年1月25日 広島コンベンションホール	
第3回広島県糖尿病療養指導に携わる薬剤師の会	糖尿病治療病棟での療養指導～1型糖尿病患者～	井上沙緒里	2019年1月26日 TKP 広島平和大通りカンファレンスセンター	広島県病院薬剤師会 / ノボルディスクファーマ / 日本くすりと糖尿病学会
地域医療支援病院 地域医療従事者研修会	おくすりよらず相談～素朴なギモンにお答えします～	中島恵子	2019年2月7日 広島総合病院	
佐伯地区医師会 訪問看護ステーション研修会	抗がん剤治療中の患者さんに関わる場合に知っておきたいこと	中島恵子	2019年2月7日 廿日市商工保健会館	
第8回院内感染対策研修会	AMR(薬剤耐性)対策と抗菌薬について知っておきたいこと	角井 碧	2019年2月27日 広島総合病院	
Lung Cancer Meeting	薬剤師から見た当院のICI治療の現状と課題	白井敦史	2019年3月19日 広島総合病院	中外製薬株式会社
地域医療従事者のための研修会 大腸癌副作用マネジメントセミナー	当院における血管新生阻害薬の使用の実際と課題	藪田ゆみ	2019年3月13日 広島総合病院	サノフィ株式会社 / 株式会社ヤクルト本社
広島県西部地区薬剤師研修会	ささえてあげたい妊婦・授乳婦のための当院の薬剤師の取り組み～職種間の連携を通じて～	中島恵子	2019年3月22日 廿日市市あいプラザ	広島県病院薬剤師会 / 廿日市市薬剤師会 / あすか製薬株式会社

臨床研究検査科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
シーメンスヘルスケア・広島市技師会	ここまで進歩した虚血性心疾患の診断～血液検査と画像診断～	藤井 隆	2018年4月21日 広島市	主催：シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティックス株式会社
第48回広島乳腺超音波診断カンファレンス	検診US所見C3で紹介症例の検討結果報告	三木知佐	2018年5月22日 広島市	
第61回広島循環器病研究会	IgG4関連疾患に伴う冠動脈腫瘍の1例～刑事的变化・手術・病理所見含めて	藤井隆	2018年6月2日 広島市	共催：興和創薬
広島動脈硬化治療を考える会	PADバイパス術前評価としての大伏在・小伏在静脈マッピング	原千花子	2018年11月6日 広島市	興和創薬株式会社
第62回広島循環器病研究会	大動脈弁・僧帽弁穿孔を経胸壁心エコーで評価し得た感染性心内膜炎(IE)の一例～その発症機序“jet lesion mechanism”を含めて～	北村紀恵	2018年12月22日 広島市	広島循環器病研究会・エーザイ株式会社

中央放射線科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
安芸RI倶楽部	ソマトスタチン受容体シンチ	池田将敏	2018年4月26日 広島赤十字・原爆病院	富士フイルム富山化学
	虚血性心疾患におけるCTの取り組み！	山口裕之	2018年8月17日 広島市民病院	広島画像症例研究会・富士フイルム富山化学株式会社
	当直で役立つ救急CTを学ぼう	山口裕之	2018年8月26日 JR 広島病院	広島県診療放射線技師会
第139回広島県放射線治療技術研究会	法令改正の概要	砂田研二	2018年9月1日 JA 広島総合病院	広島県放射線治療技術研究会
平成30年度第2回広島県診療放射線技師会研修会	胸腹部エックス線写真を診てみよう！	田丸隆行	2018年9月9日 広島赤十字・原爆病院	広島県診療放射線技師会
広島県MRI勉強会 基礎講座43	腹部MRI検査-肝・胆・膵-	本山貴志	2018年9月13日 県立広島病院	広島県MRI勉強会
第34回臨床画像研修会	Revolution CTの使用経験	下土居 一	2018年9月15日 TKP ガーデンシティー広島駅前	バイエル薬品株式会社

研究会講演・発表

第5回 GSI Workshop	Revolution CTの臨床応用	秋里恭平	2018年10月4日 TKP ガーデンシティ-仙台	GE
18回 CTテクノロジー福山セミナー	Dual Energyにおける空間分解能の評価	高橋昌史	2018年11月10日 福山市民病院	CTテクノロジーセミナー/エーザイ株式会社
広島 GEMR ユーザーズミーティング 第51回初級者コース	頸胸椎のMRI	貝原雄也	2019年1月25日 広島市西区民文化センター	GE
	FPDによる1shot法によるエネルギーサブトラクション処理の可能性	柳井 環	2019年2月2日 中国労災病院	放射線技術学会

臨床工学科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第15回呼吸ケアカンファレンス	人工呼吸器 実技セミナー	荒田晋二	2018年4月29日 大阪	
第87回チーム医療CE研究会 臨床セミナー	在宅人工呼吸療法における災害対策	荒田晋二	2018年10月20日 東京	
広島県内視鏡技師研究会	内視鏡機器管理における現状と今後の展望～臨床工学技士介入から6年を経て～	伊藤功一	2018年11月18日 広島市	
第24回日本体外循環技術医学会中国地方秋季セミナー	本態性血小板血症の患者に体外循環を施行しリザーバーを交換した1症例	瀬尾憲由	2018年12月1日 広島市	
第1回えひめ呼吸療法セミナー	臨床工学技士として臨床にどう関わるか～導入、維持、離脱の場面のできるごと～	荒田晋二	2019年3月10日 愛媛	

リハビリテーション科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第2回心臓いきいき在宅支援施設認定講習会	心不全患者の至適運動強度・活動範囲について	小島輝久	2018年12月13日 JA 広島総合病院	JA 広島総合病院

栄養科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
介護報酬改定福祉事業部スキルアップ伝達研修会	地域連携の実際	河本良美	2018年8月4日 広島県健康福祉センター	広島県栄養士会
第31回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	妊娠糖尿病（GDM）の食事療法のポイント	上村真由美	2018年12月12日 廿日市市商工保健会館	主催：第一三共株式会社
第3回広島県糖尿病療養指導に携わる薬剤師の会	糖尿病治療病棟での療養指導～1型糖尿病～	三浦満美子	2019年1月26日 TKP 広島平和大通りカンファレンスセンター	共催：広島県病院薬剤師・専門薬剤師委員会（糖尿病）ノボルディスクファーマ株式会社 後援：日本くすりと糖尿病学会
平成30年度広島県自立支援型ケアマネジメント個別研修	軽度者の糖尿病疾患を抱える人の在宅での栄養管理と食行動について	河本良美	2019年2月5日 広島県健康福祉センター	広島県地域包括推進センター
第14回広島胃腸と経腸栄養療法研究会	なんでも胃腸相談室	八幡謙吾	2019年3月9日 広島コンベンションホール	主催：広島胃腸と経腸栄養療法研究会 後援：広島県医師会、広島県栄養士会、広島県看護協会、広島県消化器内視鏡技師会、広島県薬剤師会、広島県病院薬剤師会、広島県言語聴覚士会、PEG・在宅医療研究会、NPO法人PDN、中国新聞社、広島市

研究会講演・発表

医療安全管理室

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
広島県医療安全セミナー	医療安全への取り組み～ローカルルール廃止を目指した与薬カートの変更～	村中好美	2019年1月12日 県立広島病院	広島県医療安全管理者ネットワーク会議、テルモ株式会社

研究会座長

循環器内科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
SGLT-2 seminar for cardiologists	辻山修司	①糖尿病を合併した HFpEF に対する SGLT-2i の可能性 ②高血圧・脂質異常を併発した 2 型糖尿病に対する SGLT-2i の有用性の検討	宇都宮 裕人 上田健太郎	2019 年 1 月 30 日 オリエンタルホテル 広島	田辺三菱・第一三共

腎臓内科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
Fluid Management Seminar	荒川哲次	腎疾患患者での体液管理	清水美奈子	2019 年 1 月 25 日 広島市	大塚製薬株式会社 広島市

糖尿病代謝内科・糖尿病センター

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
インスリン治療セミナー	石田和史	糖尿病診療の未来	陣内病院 院長・理事長 陣内秀昭先生	2018 年 4 月 23 日 ホテルニューヒロデ ン（広島市南区）	サノフィ
Insulin work shop in Hiroshima	石田和史	様々な状況で血糖値をコントロールする～インスリン療法の効果と限界～	東京女子医科大学糖尿病センター講師 三浦順之助先生	2018 年 6 月 4 日 オリエンタルホテル 広島（広島市中区）	日本イーライリリー
第 9 回最新糖尿病治療広島フォーラム	石田和史	新しい配合溶解インスリンは混合型インスリンと何がどう違うのか？	東邦大学医学部内科学講座糖尿病・代謝・内分泌学分野教授 弘世貴久先生	2018 年 7 月 20 日 ホテルグランヴィア 広島（広島市南区）	ノボノルディスク ファーマ
佐伯地区医師会学術講演会	石田和史	服薬アドヒアランスを意識した 2 型糖尿病治療戦略	東邦大学医学部内科学講座糖尿病・代謝・内分泌学分野准教授 熊代尚記先生	2019 年 1 月 22 日 廿日市市商工保健会館（広島県廿日市市）	佐伯地区医師会、佐伯地区内科会、武田薬品工業
高齢者糖尿病の治療戦略	石田和史	1) 高齢者に向けた糖尿病性腎症重症化予防について 2) グリニド薬処方のトリセツ～未来を護るベスト・チョイス～	1) 広島大学大学院医歯薬保健学研究科成人看護開発学教授 森山美知子先生 2) 福岡大学医学部内分泌・糖尿病内科准教授 野見山崇先生	2019 年 2 月 12 日 リーガロイヤルホテル 広島（広島市中区）	大日本住友製薬

消化器内科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第 120 回広島消化器病研究会	兵庫秀幸	一般演題 X		2018 年 4 月 7 日 広島市	広島消化器病研究会
第 120 回広島消化器病研究会	藤本佳史	一般演題 I		2018 年 4 月 7 日 広島市	広島消化器病研究会
佐伯地区医師会学術講演会	徳毛宏則	便秘症の病態と治療	小松弘尚	2018 年 4 月 24 日 廿日市市	佐伯地区医師会、佐伯地区内科会、佐伯地区外科会、EAファーマ、エーザイ
佐伯地区医師会医療安全講習会	徳毛宏則	医療機関における苦情クレーム対応	永吉旭士	2018 年 5 月 23 日 廿日市市	佐伯地区医師会
第 23 回 Regional Interactive G.I. Doctors' Network	兵庫秀幸	H.pylori 除菌時代後の消化管疾患 ～高齢化と生活習慣の変化～	妹尾 浩	2018 年 6 月 27 日 廿日市市	Regional Interactive G.I. Doctors' Network、佐伯地区医師会、第一三共、アストラゼネカ
消化器懇話会スペシャル 膵臓講演会 地域医療従事者研修会	藤本佳史	胆膵疾患の内視鏡診察	南 智之	2018 年 10 月 19 日 廿日市市	大鵬薬品工業株式会社
第 24 回 Regional Interactive G.I. Doctors' Network	古土井明	Dual Energy CT の驚異 ～当院の最新 CT はこんなとこまで見れちゃいます～	西原礼介	2018 年 10 月 24 日 廿日市市	Regional Interactive G.I. Doctors' Network、佐伯地区医師会、第一三共株式会社
炎症性腸疾患治療を考える会	徳毛宏則	Treat to target ～IBD の治療目標達成に必要な検査～	佐上晋太郎	2018 年 11 月 19 日 岩国市	ヤンセンファーマ、田辺三菱製薬

研究会座長

医療安全・院内感染対策研修会	徳毛宏則	感染経路別予防策（ノロウイルス、インフルエンザ、結核など）	今本紀生	2018年11月20日 廿日市市	佐伯地区医師会、広島市医師会臨床検査センター
第19回岩国・広島西部地区消化器疾患懇話会	藤本佳史	総合診療科にきた腹痛患者から学ぶ	溝岡雅文	2018年11月29日 大竹市	岩国・広島西部地区消化器疾患懇話会、アストラゼネカ
佐伯地区医師会学術講演会	小松弘尚	慢性膵疾患の up to date	藤本佳史	2019年2月26日 廿日市市	佐伯地区医師会、佐伯地区内科会、マイラン EPD 合同会社
第14回広島胃瘻と経腸栄養療法研究会	徳毛宏則	パネルディスカッション「在宅における栄養管理 ～そのコツと工夫～」		2019年3月9日 広島市	広島胃瘻と経腸栄養療法研究会

小児科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第44回広島小児アレルギー感染免疫研究会	辻 徹郎	乳幼児喘息の診断と治療～ガイドライン2017改訂をふまえて～	吉原重美	2018年7月19日 広島市	広島小児アレルギー感染免疫研究会 杏林製薬

外科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第50回広島内視鏡下外科手術研究会	中光篤志	若手外科医（卒後10年以内）の消化器内視鏡手術		2019年2月7日 広島市	ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社
第12回広島腹腔鏡下手術手技勉強会	田崎達也	ビデオカンファレンス「TAPP法」		2019年2月19日 広島市	コヴィディエンジャパン株式会社

整形外科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
慢性疼痛治療検討会	山田清貴	運動器慢性痛の患者に向き合う痛み治療アプローチ	鉄永倫子	2018年11月8日 広島市	日本イーライリリー

心臓血管外科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
Vasc in Hiroshima	小林 平	一般演題	医師	2018年6月28日 広島市	興和創薬株式会社・ポストンサイエンティフィックジャパン
広島動脈硬化を考える会	小林 平	Session1	医師	2018年11月6日 広島市	興和創薬株式会社
第21回倉敷心臓疾患最先端治療研究会	小林 平	講演第2部	医師	2018年11月10日 福岡県北九州市	日本メドトロニック株式会社
第60回広島循環器病研究会	濱本正樹	一般演題セッション4（外科系II）	循環器内科医師、心臓血管外科医師		
第62回広島循環器病研究会	小林 平	末梢血管・虚血	医師	2018年12月22日 広島市	広島循環器病研究会・エーザイ株式会社
Fusion EVT Conference 2019	小林 平	一般演題	医師	2019年1月5日 広島市	日本メドトロニック株式会社

産婦人科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
西部地区産婦人科医学会学術講演会	中西慶喜	腹腔鏡手術から導かれる深部子宮内膜症の最新の見解	太田啓明	2018年6月21日 広島サンプラザ	佐伯地区医師会 西部地区産婦人科医学会 持田製薬株式会社
西部地区産婦人科医学会学術講演会	中西慶喜	生殖ライフサイクルから少子化を考える - 子宮内膜症も含めて -	榎原久司	2018年9月20日 広島サンプラザ	佐伯地区医師会 西部地区産婦人科医学会 バイエル薬品株式会社

研究会座長

西部地区産婦人科医会 学術講演会	中西慶喜	妊娠高血圧症候群の新定義・ 臨床分類解説	渡辺員支	2018年11月8日 広島サンプラザ	佐伯地区医師会 西部地区産婦人科医会 あすか製薬株式会社
---------------------	------	-------------------------	------	-----------------------	------------------------------------

薬剤部

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
広島県西部地区薬剤師 研修会	橋本佳浩	もう妊婦・授乳婦のお薬説明 もこわくない！職種間連携、 薬薬連携でママを笑顔に～当 院でのママたちからの相談事 例と取り組み～	木村 初	2019年3月22日 廿日市市総合健康福 祉センター（あいプ ラザ）	広島県病院薬剤師 会・廿日市市薬剤師 会・あすか製薬

臨床研究検査科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第10回シーメンスセ ミナー in 広島	水野誠士	当院のトロポニンI測定の特 状とH-FABP測定の見直し	岡田博臣	2018年4月21日 広島市	主催：シーメンスヘル スケア・ダイアグ ノスティクス株式会 社
第10回シーメンスセ ミナー in 広島	水野誠士	ここまで進歩した虚血性心疾 患の診断～血液検査と画像診 断～	藤井 隆	2018年4月21日 広島市	
第61回広島循環器病 研究会	藤井 隆	セッション3 心内膜炎		2018年6月2日 広島市	
ロシュメデイカルセミ ナー	水野誠士	医療を取り巻く環境の変化～ 検査室の機能を再編する～	山崎真一	2019年8月3日 広島市	主催：ロシュ・ダイ アグノスティクス 株式会社
第1回感染症対策・未 来創造ミーティング	池部晃司	Roseomonas mucosa による 菌血症の一例	森本 瞳	2018年11月23日 香川県	
第1回感染症対策・未 来創造ミーティング	池部晃司	当院における血液培養検査の 取り組み	大森章恵	2018年11月23日 香川県	
第17回広島 ICT・AST 活動研修会	池部晃司	耐性菌サーベイランス	樫山誠也	2018年12月15日 広島市	
第17回広島 ICT・AST 活動研修会	池部晃司	抗菌薬使用量サーベイランス	佐和章弘	2018年12月15日 広島市	

中央放射線科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
広島県診療放射線技師 会 平成30年度第1 回研修会	山口裕之	「FPD時代のデジタル画像の基 礎知識」	小寺吉衛	2018年6月24日 広島大学病院	広島県診療放射線技 師会
第39回せとうち心臓 CT・MR勉強会	山口裕之	一般演題（4演題）	三木崇史 松本武司 吉田 和樹 白石泰宏	2018年10月19日 オルガホール（岡山 市）	せとうち心臓CT・ MR勉強会・富士薬 品工業株式会社
第42回広島医療情報 システム研究会	中河聖司	「第6回MIST参加報告」「当院 におけるNOBORIの使用経験」	田名後弥里 神田耕治 榎 先 翼	2018年12月8日 広島赤十字原爆病院	主催：広島医療情報 システム研究会 後 援：広島県診療放射 線技師会・日本放射 線技術学会医療情報 部会・日本医用画像 管理学会
第43回広島県MRI勉 強会	本山貴志	「k-Space」「女性骨盤の基礎～ 生理周期にもFOCUSして～」	田村隆行 青野香里	2018年12月15日 広島大学病院	広島県MRI勉強会
第40回安芸RI倶楽部 勉強会	高畑 明	「画像診断ファシリテーション ～臨床医が診る認知症～」	井門ゆかり	2019年1月18日 TKP ガーデンシティ 広島駅前大橋	安芸RI倶楽部・富 士フイルム富山化学 株式会社
第40回ひろしま乳房 画像研究会	小濱千幸	「過剰診断を理解する」	角田博子	2019年2月23日 県立広島病院	ひろしま乳房画像研 究会・GEヘルスケ アジャパン・広島県 診療放射線技師会

研究会座長

栄養科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
平成30年度第1回廿日市市五師士会研修会	河本良美	高齢者の栄養管理の留意点	栢下淳（県立広島大学教授）	2018年5月26日 廿日市市商工会館	廿日市市五師士会

地域活動

糖尿病代謝内科・糖尿病センター

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
第9回広島いちがたの会（コーディネーター）	石田和史	1型糖尿病患者 者&家族、糖尿 病医療従事 者	2018年6月23日 広島市文化交流会館（広 島市中区）	広島県糖尿病協会・日本 イーライリリー	205人
あいプラザまつり「きちんと測定！らくらく運 動！～プロが教えるお手軽糖尿病予防～」	糖尿病診 療に関わ るスタッ フ全員	一般市民	2018年11月4日 あいプラザ（広島県廿 日市市）	廿日市市	108人
平成30年度廿日市市糖尿病予防教室 公開講座 「血糖値が高いことは何を意味するのか？～糖尿 病予防の重要性～」	石田和史	糖尿病予備群 を指摘された 一般住民	2019年1月27日 あいプラザ（広島県廿 日市市）	廿日市市	75人

消化器内科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
市民公開講座 聞いてよかった 胃内視鏡治療の 話	古土井明	一般市民	2018年6月24日 廿日市市	JA 広島総合病院、佐伯地 区医師会、廿日市市	約500人
在宅緩和ケア研修「緩和ケアの基礎知識」	小松弘尚	医療従事者	2018年11月21日 廿日市市	広島県西部地域保健対策協 議会	
抜け出そう 広島県民健康寿命ワースト1位（女 性）脱却を！！～アンチエイジングによる健康 寿命増進～県民フォーラム メタボ予防で健康長 寿	兵庫秀幸	一般市民	2018年12月1日 広島市	県民が安心して暮らせるた めの四師会協議会	
五日市公民館講座「消化器疾患のトピックス：脂 肪肝と胃カメラによる胃癌治療」	徳毛宏則	一般市民	2018年12月8日 広島市	広島市文化財団	約60人
パープルセミナー in 広島 2019 基調講演「チェッ クポイント阻害剤が膀胱がんに見える時代（ゲノ ム医療とは）」	藤本佳史	一般市民	2019年2月4日 広島市	NPO 法人パンキャンジャ パン広島支部	約60人

小児科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
アナフィラキシーについての講習会	辻 徹郎	保育士	2018年5月16日 津田保育所	廿日市市	10人
アナフィラキシーについての講習会	辻 徹郎	保育士、看護 師	2018年9月5日 廿日市市市民活動セン ター	廿日市市	48人
食物アレルギーについての講習会	辻 徹郎	保育士	2018年10月10日 はつかいし市民大野図 書館	廿日市市	70人

乳腺外科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
まちなかりボンサロン	大原正裕	乳がん患者	2018年4月7日 広島市	NPO 法人まちなかピンク リボンプロジェクト	50人
第18回きらら乳がんフォーラム	大原正裕	一般市民	2018年9月9日 廿日市市	廿日市市	100人
広島乳がんアカデミア	大原正裕	一般市民	2018年10月14日 広島市	NPO 法人まちなかピンク リボンプロジェクト	500人
みんなで知ろう乳癌のこと	板垣友子	一般市民	2018年12月3日 廿日市市	大野東市民センター	10人
みんなで知ろう乳癌のこと	大原正裕	一般市民	2019年2月21日 廿日市市	宮園市民センター	10人
みんなで知ろう乳癌のこと	大原正裕	一般市民	2019年3月7日 廿日市市	廿日市中央市民センター	20人

地域活動

健康管理センター

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
口コモ、骨粗鬆症、認知症について	林 直子 秋元深雪	JA 組合員	2018年5月16日 上瀬野支店	JA 安芸総務課	41人
健康診断結果の読み方	増本順子	カープタクシー職員	2018年5月30～31日 廿日市市保健会館	カープタクシー	94人
女性の健康～乳がん・子宮がんについて～	川村洋子	JA 組合員	2018年8月23日 マロンの里	JA 佐伯中央ふれあい課	25人
健康でいきいきとした生活をおくるために	林 直子 秋元深雪	JA 組合員	2019年1月8日 中野支店	JA 安芸総務課	25人
健康を保つ基礎知識について	増本順子 南浦美樹	JA 組合員	2019年2月14日 JA ビル	JA 広島中央会	20人
骨粗しょう症予防	増本順子 南浦美樹	JA 組合員	2019年3月5日 地御前支店	JA 佐伯中央ふれあい課	32人

薬剤部

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
ICLS	吉廣尚大	初期研修医	2018年4月14日 JA 広島総合病院	教育研修科	10人
FCCS	吉廣尚大	医療従事者	2018年6月23～24日 大阪市立総合医療センター	CCPAT	60人
FCCS	吉廣尚大	医療従事者	2018年7月21～22日 広島大学病院	CCPAT	60人
JMECC	吉廣尚大	医師	2018年10月6日 JA 広島総合病院	日本内科学会	5人
新型インフルエンザ等対策研修会 個人防護具の着脱演習	角井 碧	医療従事者	2018年12月3日 広島総合病院	NPO 法人ひろしま感染症ネットワーク	50人
FCCS	吉廣尚大	医療従事者	2018年12月8～9日 倉敷中央病院	CCPAT	60人

中央放射線科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
広島国際大学臨床実習前講義 マンモグラフィー	高畑 明	学生	2018年4月11日 広島国際大学	広島国際大学	80人
広島国際大学臨床実習前講義 核医学	小濱千幸	学生	2018年4月17日 広島国際大学	広島国際大学	80人
広島国際大学臨床実習前講義 MRI (基礎)	皿田勝弘	学生	2018年4月18日 広島国際大学	広島国際大学	80人
広島国際大学臨床実習前講義 X線 CT (臨床)	貝原雄也	学生	2018年4月25日 広島国際大学	広島国際大学	80人
第27回 X線 CT 認定技師講習会	山口裕之	診療放射線技師	2018年5月11日 大阪市立大学医学部学舎	日本 X線 CT 専門技師認定機構	150人
業務拡大に伴う統一講習会	山口裕之	診療放射線技師	2018年6月16～17日 広島大学病院	日本診療放射線技師会	12人
山陽女子短期大学臨床検査学科講義 放射線・放射性物質	高畑 明	学生	2018年10月3日、17日、 11月21日、12月19日、 2019年1月9日、23日 山陽女子短期大学	山陽女子短期大学	40人
第30回 X線 CT 認定技師講習会	山口裕之	診療放射線技師	2018年11月18日 岡山済生会総合病院	日本 X線 CT 専門技師認定機構	92人
業務拡大に伴う統一講習会	山口裕之	診療放射線技師	2018年12月1～2日 広島大学病院	日本診療放射線技師会	18人
業務拡大に伴う統一講習会	山口裕之	診療放射線技師	2019年2月16～17日 福山市市民病院	日本診療放射線技師会	17人

地域活動

栄養科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
地域医療従事者研修会『個々に合わせた糖尿病食事指導～検査値・薬もチェック！～』	三浦満美子	地域医療従事者	2018年6月14日 大会議室	地域医療連携室	41人
第9回市民公開講座「もっと知らんと胃けんよ、胃がんの話。」	河本良美	一般市民	2018年6月24日 はつかいち文化ホール	JA 広総病院・廿日市市	506人
がんサロン 講師「フレイル（高齢者の虚弱について）」	八幡謙吾	がん患者・医療従事者	2018年8月27日 地域連携室	地域医療連携室 がん相談支援センター	3人
第8回心臓いきいき在宅支援施設認定講習会	森田菜津美	地域医療従事者	2018年12月13日 JA 広島総合病院	広島県心不全患者在宅支援体制構築事業	49人
ちょっと一息医療とふくしの相談室「ミニ講座」	松下有紀 神田史那	廿日市市民	2019年2月28日 平良市民センター	廿日市市五師士会	20人

医療安全管理室

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
佐伯区医師会 MRM 講演会	村中好美	医療従事者	2018年9月20日 佐伯区医師会	佐伯区地域福祉センター	50人
山陽看護専門学校 講義「医療安全」	村中好美	看護学生	2018年9月21日 山陽看護専門学校	山陽看護専門学校	40人
山陽看護専門学校 講義「医療安全」	村中好美	看護学生	2018年9月22日 山陽看護専門学校	山陽看護専門学校	40人
廿日市野村病院 施設内研修会	村中好美	医療従事者	2018年10月5日 廿日市野村病院	廿日市野村病院	100人
佐伯区医師会 MRM 講演会	村中好美	医療従事者	2019年2月28日 佐伯区医師会	佐伯区地域福祉センター	60人

感染防止対策室 (ICT)

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
広島グリーンヒル病院 施設内研修会	今本紀生	医療従事者	2018年4月3日 広島グリーンヒル病院	広島グリーンヒル病院	40人
喜生園 施設内研修会	今本紀生	医療従事者	2018年4月21日 喜生園	喜生園	30人
広島グリーンヒル病院 施設内研修会	今本紀生	医療従事者	2018年7月5日 広島グリーンヒル病院	広島グリーンヒル病院	70人
佐伯区医師会 MRM 講演会	今本紀生	医療従事者	2018年7月26日 佐伯区医師会	佐伯区地域福祉センター	50人
山陽看護専門学校 講義「医療安全」	今本紀生	学生	2018年9月20日 山陽看護専門学校	山陽看護専門学校	40人
広島県看護協会研修会「感染管理【実践編】」	今本紀生	医療従事者	2018年10月04日 広島県看護協会	広島県看護協会	70人
阿品土谷病院 施設内研修会	今本紀生	医療従事者	2018年10月22日 阿品土谷病院	阿品土谷病院	60人
感染症予防研修（講演）	今本紀生	医療従事者	2018年10月29日 2018年11月6日 広島県社会福祉会館 福山市生涯学習プラザ	広島県社会福祉協議会	70人
地域医療従事者研修会	今本紀生	医療従事者	2018年11月8日 JA 広島総合病院	JA 広島総合病院	40人
平成30年度 高齢者福祉施設等職員講習会	今本紀生	医療従事者	2018年11月15日 広島県西部保健所	広島県西部保健所	30人
佐伯地区医師会研修会	今本紀生	医療従事者	2018年12月20日 佐伯地区医師会	佐伯地区医師会	60人
JA 佐伯中央訪問介護事業所 施設内研修会	今本紀生	介護ヘルパー他	2018年12月13日 JA 佐伯中央	JA 佐伯中央	15人
佐伯区医師会 MRM 講演会	今本紀生	医療従事者	2019年1月24日 佐伯区医師会	佐伯区地域福祉センター	80人
廿日市野村病院 施設内研修会	今本紀生	医療従事者	2019年1月29日 廿日市野村病院	廿日市野村病院	120人

地域活動

新型インフルエンザ実施研修会	今本紀生	医療従事者	2019年1月29日 あいプラザ	広島県、広島県医師会	40人
清鈴園 施設内研修会	今本紀生	医療従事者	2019年3月18日 清鈴園	清鈴園	10人

緩和ケアチーム

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
在宅緩和ケア研修 緩和ケアの基礎知識	小松弘尚	地域包括支援センター職員、在宅医療・介護連携の相談支援窓口の従事者、居宅介護支援事業所、介護保険施設等に勤務する介護支援専門員 等	2018年11月21日 廿日市市商工保健会館 (交流プラザ)	広島県西部地域保健対策協議会	56人
在宅緩和ケア研修 在宅緩和ケアの実際について	古本直子	地域包括支援センター職員、在宅医療・介護連携の相談支援窓口の従事者、居宅介護支援事業所、介護保険施設等に勤務する介護支援専門員 等	2018年11月21日 廿日市市商工保健会館 (交流プラザ)	広島県西部地域保健対策協議会	57人
在宅緩和ケア研修 コミュニケーションについて	岡田恵美子	地域包括支援センター職員、在宅医療・介護連携の相談支援窓口の従事者、居宅介護支援事業所、介護保険施設等に勤務する介護支援専門員 等	2018年11月21日 廿日市市商工保健会館 (交流プラザ)	広島県西部地域保健対策協議会	58人

雑誌投稿・テレビ・ラジオへの出演

消化器内科

提供者	テーマ・タイトル	出演、掲載物名	依頼社名	放送、掲載日
兵庫秀幸	肝疾患における筋痙攣の実態調査	大塚製薬 e 講演会	大塚製薬	2018年6月20日
藤本佳史	かんよろず相談室「膵癌について」	インターネット放送「ぼるぼるLIVE」内「Can Fre Cafe」	広島ホームテレビ	2018年10月22日

小児科

提供者	テーマ・タイトル	出演、掲載物名	依頼社名	放送、掲載日
森本 彩	「朝起きない、夜寝ない それは病気かもしれません」	はつかいち「青少年健全育成新聞」しゃぼん玉 第23号	廿日市市市民活動センター	2018年11月16日

救急・集中治療科

提供者	テーマ・タイトル	出演、掲載物名	依頼社名	放送、掲載日
加藤 之紀	熱中症について	ラジオ	FM はつかいち	2018年8月15日

健康管理センター

提供者	テーマ・タイトル	出演、掲載物名	依頼社名	放送、掲載日
森川裕子	花粉症対策を知ろう	こいづみ	JA 広島市	2018年4月号
森川裕子	花粉症対策を知ろう	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2018年4月号
秋元深雪	予防しようメタボリックシンドローム	こいづみ	JA 広島市	2018年5月号
秋元深雪	予防しようメタボリックシンドローム	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2018年5月号
秋元深雪	ロコモ	こいづみ	JA 広島市	2018年6月号
秋元深雪	ロコモ	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2018年6月号
東 千穂	ドライマウスについて	こいづみ	JA 広島市	2018年7月号
東 千穂	ドライマウスについて	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2018年7月号
長田恵美子	おうちでも食中毒を予防しよう	こいづみ	JA 広島市	2018年8月号
長田恵美子	おうちでも食中毒を予防しよう	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2018年8月号
森川裕子	熱中症の予防と対策を知りましょう	こいづみ	JA 広島市	2018年9月号
森川裕子	熱中症の予防と対策を知りましょう	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2018年9月号
秋元深雪	乳がん検診 (JMS)	こいづみ	JA 広島市	2018年10月号
秋元深雪	乳がん検診 (JMS)	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2018年10月号
東 千穂	慢性心臓病を知ろう	こいづみ	JA 広島市	2018年11月号
東 千穂	慢性心臓病を知ろう	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2018年11月号
長田恵美子	あなたは大丈夫？咳エチケット	こいづみ	JA 広島市	2018年12月号
長田恵美子	あなたは大丈夫？咳エチケット	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2018年12月号
森川裕子	お酒とのつきあいかた	こいづみ	JA 広島市	2019年1月号
森川裕子	お酒とのつきあいかた	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2019年1月号
秋元深雪	入浴中の事故	こいづみ	JA 広島市	2019年2月号
秋元深雪	入浴中の事故	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2019年2月号
南浦美樹	風疹とは	こいづみ	JA 広島市	2019年3月号
南浦美樹	風疹とは	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2019年3月号

薬剤部

提供者	テーマ・タイトル	出演、掲載物名	依頼社名	放送、掲載日
吉廣尚大	journal glub の広場 デクスメトミジンの低用量夜間投与によるICU入院患者のせん妄予防	月刊記事 2018年9月号・じほう	じほう	2018年9月1日

雑誌投稿・テレビ・ラジオへの出演

感染防止対策室 (ICT)

提供者	テーマ・タイトル	出演、掲載物名	依頼社名	放送、掲載日
今本紀生	オムツ交換・排泄ケア・嘔吐物の処理	INFECTION CONTROL 第27巻5号	メディカ出版	2018年5月1日発行
今本紀生	汚物処理と環境清掃～嘔吐物処理 セット・マニュアルの作成と活用～	感染対策ICTジャーナル vol.14 No.1 2019 winter	ヴァンメディカル	2019年1月15日発行

合同カンファレンス

糖尿病代謝内科・糖尿病センター

カンファレンス名	代表者	対象者	開催日・開催場所	共催・後援会社
第30回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	石田和史	広島県西部地区糖尿病診療に関わる医師・コメディカル(88名)	2018年4月11日 廿日市市商工保健会館(広島県廿日市市)	広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会・広島県医師会糖尿病対策推進会議・テルモ
第31回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	石田和史	広島県西部地区糖尿病診療に関わる医師・コメディカル(89名)	2018年8月8日 廿日市市商工保健会館(広島県廿日市市)	広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会・広島県医師会糖尿病対策推進会議・田辺三菱製薬
第3回糖尿病療養支援スキルアップセミナーチーム in Hiroshima	大久保雅通	広島県糖尿病診療に関わる医師・コメディカル(35名)	2018年9月8日 広島YMCA(広島市中区)	糖尿病療養支援スキルアップセミナーチーム in Hiroshima・日本イーライリリー・広島県医師会糖尿病対策推進会議
第32回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	石田和史	広島県西部地区糖尿病診療に関わる医師・コメディカル(96名)	2018年12月12日 廿日市市商工保健会館(広島県廿日市市)	広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会・広島県医師会糖尿病対策推進会議・第一三共

放射線治療科

カンファレンス名	代表者	対象者	開催日・開催場所	共催・後援会社
緩和ケア講習会	伊東 淳 小松弘尚	医療者	2018年12月16日 広島総合病院	広島総合病院

栄養科

カンファレンス名	代表者	対象者	開催日・開催場所	共催・後援会社
第9回広島西地域連携研修会「栄養士の顔の見える交流会」	河本良美 土井千代美 石本翔子 磯部朋美 奥 悟	廿日市市・大竹市栄養士	2018年6月2日 JA広島総合病院 糖尿病教室	
第10回広島西地域連携研修会「栄養士の顔の見える交流会」	河本良美 土井千代美 石本翔子 磯部朋美 奥 悟	廿日市市・大竹市栄養士	2018年11月10日 JA広島総合病院 糖尿病教室	
第2回言語聴覚士・管理栄養士合同研修会	五郎水敦 河本良美 土井千代美	廿日市市・大竹市言語聴覚士、栄養士	2019年1月31日 JA広島総合病院 大会議室	

医療安全管理室

カンファレンス名	代表者	対象者	開催日・開催場所	共催・後援会社
医療安全対策地域連携ラウンド	徳毛宏則	アマノリハビリテーション病院	2018年11月27日 アマノリハビリテーション病院	
医療安全対策地域連携ラウンド	徳毛宏則	広島西医療センター	2019年2月19日 広島西医療センター	

感染防止対策室 (ICT)

カンファレンス名	代表者	対象者	開催日・開催場所	共催・後援会社
広島総合病院・院内感染予防に関する地域連携合同カンファレンス	渡 正伸	連携施設 ICT (7施設)	2018年6月6日 2018年8月1日 2018年10月3日 2018年12月5日 広島総合病院	

華道部

■ クラブ概要

1980年より「池坊」、2013年より「プリザーブドフラワー」の活動を行っています。

■ 活動内容

メンバー（職種）：医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、事務

活動日：

池坊 毎月第3水曜日

場所：中棟 3階従業員休憩室

時間：17：30～

プリザーブドフラワー

月2回不定期（同じ内容）

場所：中棟3階従業員休憩室

薬局

時間：17：30～

■ 活動報告

プリザーブドフラワーは、月に1回今井直子先生をお呼びして季節感たっぷりの作品を作っています。多職種のメンバーが集まり、色鮮やかな花に癒やされながらわいわいと作っています。先生の用意してくださる素材とセンスがいいので、どんな初心者でもかわいらしく作ることができます。作り方はとても簡単です。お花の色合いや位置、バランスなど考えて自分の作品を作ります。材料は皆同じですが、できあがった作品は様々なので、最後に作品を見せ合って楽しんでいます。



プリザーブドフラワーは、別売りの箱に入れて持ち帰ることもできるため、贈り物にしても大変喜ばれます。母の日などに自分の作った作品を贈る部員もいます。



■ 2019年度活動予定

2019年度は、先生の産休により先生からの指導はなくなりますが、5年以上在籍している部員も多くいるので、定期的に材料を仕入れて集まり、作品を作っていく予定です。

■ クラブアピール

仕事終わりに花を扱うと、とても癒され、日頃の疲れも吹っ飛びます。日頃のストレスが溜まっている方は色鮮やかなプリザーブドフラワーに癒やされに来ませんか。

1回のみ参加も可能です。興味ある方は、お近くの華道部員まで。（臨床検査技師、薬剤師が多いです。）



野球部

■ クラブ概要

- ・部員数：39名（男性3名 女性6名）
- ・メンバー（職種）：
 医師4名、看護師8名、薬剤師4名、管理栄養士1名、臨床検査技師9名、臨床工学技士2名、社会福祉士1名、事務8名、研修医2名

■ 活動内容

- ・練習場所：阿品台球場、宮園球場、昭北グラウンド等
- ・日 時：不定期（月2回程度）



■ 2018年度実施行事等

- 7月：新入部員歓迎会
- 7月：清掃活動
- 11月：広島県医師会ソフトボール大会
 （開催延期により出場辞退）
- 11月：交流試合（大野浦病院・広島西医療センター）
- 2月：親睦会

※他に不定期で練習や対外試合あり



（2018年7月清掃活動：廿日市市宮園野球場）

■ クラブアピール

野球やソフトボール、親睦会を通じて、部員同士、近隣病院と交流を深めています。メンバーも増加傾向で、定期練習や練習試合の充実を計画しています。未経験者も大歓迎で、応援だけでもかまいません。是非のぞきにきて、そして参加してみてください。同時に練習試合の相手も募集中ですので、ぜひ声をおかけください！



興味をもたれた方は、
 お近くの野球部員もしくは
 栄養科 八幡（PHS：5521）
 薬剤部 埋橋（PHS：3064）
 人事課 乃美（PHS：3814）
 までご連絡ください!!



テニス部

■クラブ概要

・部員数：22名

代 表：総合医療相談員 正島 忠貴

・メンバー（職種）：

医師・研修医・薬剤師・社会福祉士・看護師・
事務職員など

■活動内容

・練習場所：佐伯運動公園（佐伯区五日市町）

・練習日：毎月1～2回 水曜日か木曜日

・時間：19：00～21：00

・活動時期：3月～11月 冬は休部

ただし、やりたいという人の人数が揃った時は、
不定期で活動しています（真冬でも）。

・参加費、部費は徴収していません。

・試合

第34回広島医療メイト杯

毎年、広島県医師テニス協会が主催する広島医
療メイト杯（広島県職域対抗テニス大会）に参加
しています。広島県全土より、医療従事者、家族
が参加し、今年は40チームのエントリーがあり
ました。

2018年8月26日（日）

1チーム3ペアのダブルス団体戦（1ペアは女性）
で、各ブロック内でリーグ戦を行います。

【結果】

Cブロック 4位

今年も夏の暑い日差しの中で、脱水と痙攣に耐え、
みんな頑張りました。

無事怪我人も出ることなく終了です。

来年に向け、また練習を頑張りましょう。

■交流会

医療メイト杯の打ち上げ、歓送迎会、忘年会（新
年会）を行っています。

■クラブアピール

錦織君や大坂なおみさんのようにテニスをバシバ
シやりたい人も、初めてラケットを握る人も、久し
ぶりにやってみようかなと思う人も…どんな方でも
大歓迎です。

楽しく身体を動かして、ストレスと運動不足解消
をしましょう。



ゴルフ部（伯友会）

■活動報告

伯友会は1970年に活動を開始しています。大変歴史の長いゴルフ同好会です。年に3回の定期コンペと前夜の親睦会と翌日のコンペを行う1泊2日の地御前オープンが年間定例活動です。ゴルフを通して親睦を図ると共に、地域の医師会、歯科医師や薬剤師ともゴルフコンペを通じて交流を図り病診連携に寄与しています。

■2018年度の活動

第174回伯友会コンペ

2018年7月1日 広島西カントリークラブ 25名参加

優勝 奥田 晃章 (OB、奥田整形外科)

準優勝 小深田義勝 (泌尿器科)

3位 正嶋 忠貴 (MSW)

4位 兼見 良典 (OB、明海耳鼻科)

5位 川上 恭司 (OB、アマノリハ)

第175回伯友会コンペ

2018年9月9日 柳井カントリーゴルフクラブ

雨天中止

第43回地御前オープン

2018年11月11日 浜田ゴルフリンクス 13名参加

優勝 熊田 高志 (呼吸器外科)

準優勝 津端 清志 (あすか製薬)

3位 兼見 良典 (OB、明海耳鼻科)

4位 光山 豊文 (OB、開業)

5位 小深田義勝 (泌尿器科)

第175回伯友会コンペ

2019年3月10日 広島西カントリークラブ

現地に集合しましたが協議の上、雨天中止と決定。

地域医師会行事参加（ゴルフ部門）

グリーン会コンペ（医師）

2018年6月3日 鷹の巣カントリー

碓井 裕史 (健康管理センター)

小深田義勝 (泌尿器科)

中光 篤志 (外科)

渡 正伸 (呼吸器外科)

熊田 高志 (呼吸器外科)

三師会コンペ（医師、歯科医師、薬剤師）

2018年11月23日 芸南カントリークラブ

碓井 裕史 (健康管理課)

小深田義勝 (泌尿器科)

中光 篤志 (外科)

渡 正伸 (呼吸器外科)

2018年度は2回も雨のために中止延期となりました。

院内のゴルフコンペに留まらず、地域の医師会関連のゴルフコンペにもゴルフの腕前など気にせず、積極的に参加して地域の医療関係者と交流しています。

うまくいかないけどゴルフにはまっている人、一緒に楽しみましょう。大歓迎です。

また女性や若くて経験の浅い職員の方々の参加も大歓迎です。ゴルフで気分転換しましょう！！

文責 渡 正伸 (2017年度より担当)



サッカー部

■ クラブ概要

- ◇通称：広総ラツィオ
- ◇創設：19〇〇年
- ◇部員数：約 15 名
- ◇メンバー（職種）：
医師、研修医、看護師、臨床検査技師、管理栄養士、臨床工学技士、理学療法士、事務など

■ 活動内容・報告

- ◇練習
毎月第 2、第 4 木曜日 20：00～21：30
場所：廿日市グリーンフィールド
練習は職員だけでは人数が足りないことがあるので、廿日市 F.C さん主催の練習に参加させていただく形で行っています。地域の方々と一緒に楽しんでいます。

■ エンジョイエイトリーグ

- ◇廿日市サッカー協会が主体となって行われている社会人リーグに年間を通して参加しています。だんだん年齢が上がってきて体力的に厳しくなっていますが、一戦一戦楽しくやっています。

■ クラブアピール

- ◇サッカーがやりたい方、運動がしたい方いつでも大歓迎ですので一緒に楽しみましょう。
- ◇近年、新規の部員確保に難渋しています。試合だけの参加でも大丈夫なので、みなさんの参加お待ちしております。



フットサル部

■クラブ概要

- ・ 創 立：2014年8月
- 代 表：栄養科 八幡 謙吾
- 副代表：臨床工学科 藤田 雄樹
- 会 計：臨床研究検査科 丸山 恭平
- ・ 部員数：参加したことある方全員が部員です。
 ※部費は徴収していません
- ・ メンバー：
医師、研修医、看護師、管理栄養士、臨床検査技師、
臨床工学技士、放射線技師、事務など当院職員、
委託職員、元職員、元委託職員、又はその家族



■活動内容

- ・ 定期練習：毎月1～2回 19:30～21:30
- 活動場所：ミズノフットサルプラザ広島（観音）他
- 参加費：1,000円 + α / 回
(参加人数次第。女性は絶対1000円！)
- ・ その他、不定期で近隣病院や医療機器メーカーさんのチームと交流戦も行っています。



■クラブアピール

- 日々のストレスと運動不足解消、他職種間交流を目的とし、2014年8月より活動を開始しました。
- フットサルは、サッカーと違って接触プレーが少ないため、女性も一緒にプレーしやすいのが特徴です。男女混合で楽しくプレーしています。
- その他に、新年会や歓送迎会、夏にはBBQも開催しフットサル以外での交流も大切にしています。
- 常時メンバー募集中です！初心者大歓迎！
- 知り合いを増やして楽しく仕事をしましょう♪



臨床工学科はピンクが好きらしい (2018.07.23)



(2018.7.31)



アキレス腱グッバイ記念日 (2018.10.17)

★フットサル部に

興味をもってくれた方は
藤田、丸山、八幡など

写真に写っている人までお気軽にどうぞ！



バスケットボール部

■ クラブ概要

- ・ 部員（職種）
医師、臨床研修医、看護師、診療放射線技師、検査技師、社会福祉士、事務職員
- ・ 部員数：15名程度

■ 活動内容

- ・ 練習場所：阿品台中学校 体育館
- ・ 日時：毎週木曜日
- ・ 時間：19時30分～21時30分

■ 年間行事

- 4月：歓迎会
- 12月：忘年会
- 2月：病院対抗バスケットボール大会
- 3月：送別会

■ クラブアピール

2012年度から活動を開始し、メンバーも医師、コメディカル、事務職員他幅広い職種で構成されています。発足当初は、「バスケがやりたい!」という経験者や「体を動かしたい!」、「何か運動がしたい!」という職員が集まり、今では十数人程で活動しています。活動内容は主に試合ですが、シュート練習やミニゲームなども行い、時には真剣に、時には笑いを交えながら活動を続けてきました。

毎年顔ぶれは変わりますが、バスケを通じてみんな仲良く、楽しい雰囲気で行っています。また、他職種間での交流の場にもなっているので、自身が勤める職種以外の仕事内容の話ができ、病院でも職種間の隔たりを気にすることもなくなるので、仕事がとてもしやすくなりました。特に今年度は多くの勤務1年目の方が参加してくれており、昨年度以上に活気に溢れています。

2月には、毎年岡山で開催される「ホスピタルカップ」という病院対抗のバスケットボール大会に今年も参加しました。東は東京から西は福岡まで、各都府県でバスケ活動をしている48もの病院が参加し、



2日間にわたって熱戦が繰り広げられました。しかもこの大会は、初心者の方も参加しやすい内容となっており、バスケ経験のある人もそうでない人も、楽しめる2日間となりました。今大会の結果は2勝5敗1分でした。次回はさらに良い結果を残せるよう日々の練習に励んでいます。



現在も経験・未経験、男女問わず部員を募集しています。最近運動不足だからちょっと運動してみよう、体を動かしてストレスを発散しよう、ダイエットをしたい、なんていうきっかけからの参加・入部も大歓迎です。一緒にバスケットをしているうちに、きっとバスケットが好きになることは間違いありません。

バスケ以外の「交流会」という名の飲み会も年に数回ありますので、ぜひ一緒に楽しみましょう!

■ Annual Report 2018 2018年(平成30年)度 年報 ■

資 料

診療科別外来患者数

平成30年度 月別外来患者数 (4~7月)

科 別	4月 (診療日数 20日)				5月 (診療日数 21日)			
	旧患	新患	計	1日当	旧患	新患	計	1日当
内科	4,956	806	5,762	288.1	5,173	816	5,989	285.2
（呼吸器内科）	636	108	744	37.2	695	124	819	39.0
（循環器内科）	855	170	1,025	51.3	994	172	1,166	55.5
（腎臓内科）	753	39	792	39.6	698	42	740	35.2
（糖尿病内科）	1,169	99	1,268	63.4	1,224	109	1,333	63.5
（消化器内科）	1,382	291	1,673	83.7	1,419	271	1,690	80.5
（神経内科）	50	4	54	2.7	54	3	57	2.7
（緩和ケア科）	16	0	16	0.8	13	0	13	0.6
（血液内科）	10	5	15	0.8	20	7	27	1.3
（総合診療科）	85	90	175	8.8	56	88	144	6.9
精神科・心療内科	11	7	18	0.9	19	10	29	1.4
小児科	934	100	1,034	51.7	688	122	810	38.6
外科	1,277	85	1,362	68.1	1,237	76	1,313	62.5
乳腺外科	592	42	634	31.7	607	30	637	30.3
整形外科	1,023	188	1,211	60.6	1,345	272	1,617	77.0
形成外科	288	27	315	15.8	331	39	370	17.6
脳神経外科	983	165	1,148	57.4	908	131	1,039	49.5
呼吸器外科	261	39	300	15.0	247	27	274	13.0
心臓・血管外科	519	47	566	28.3	530	42	572	27.2
皮膚科	1,155	139	1,294	64.7	1,240	164	1,404	66.9
泌尿器科	2,033	116	2,149	107.5	1,892	101	1,993	94.9
産婦人科	1,015	120	1,135	56.8	1,053	123	1,176	56.0
眼科	860	68	928	46.4	842	78	920	43.8
耳鼻咽喉科	600	270	870	43.5	595	222	817	38.9
放射線治療科	814	21	835	41.8	766	29	795	37.9
麻酔科	42	323	365	18.3	53	277	330	15.7
救急科	65	244	309	15.5	72	240	312	14.9
画像診断部	20	62	82	4.1	25	82	107	5.1
歯科口腔外科	602	184	786	39.3	655	141	796	37.9
計	18,050	3,053	21,103	1,055.2	18,278	3,022	21,300	1,014.3
栗谷診療所	68	5	73	3.7	48	2	50	2.4
合計	18,118	3,058	21,176	1,058.8	18,326	3,024	21,350	1,016.7

科 別	6月 (診療日数 21日)				7月 (診療日数 21日)			
	旧患	新患	計	1日当	旧患	新患	計	1日当
内科	5,097	776	5,873	279.7	5,127	854	5,981	284.8
（呼吸器内科）	667	98	765	36.4	587	139	726	34.6
（循環器内科）	1,013	185	1,198	57.0	1,059	173	1,232	58.7
（腎臓内科）	636	44	680	32.4	713	46	759	36.1
（糖尿病内科）	1,195	82	1,277	60.8	1,221	85	1,306	62.2
（消化器内科）	1,454	275	1,729	82.3	1,411	292	1,703	81.1
（神経内科）	63	3	66	3.1	46	4	50	2.4
（緩和ケア科）	9	0	9	0.4	11	0	11	0.5
（血液内科）	10	5	15	0.7	8	7	15	0.7
（総合診療科）	50	84	134	6.4	71	108	179	8.5
精神科・心療内科	12	8	20	1.0	8	9	17	0.8
小児科	702	111	813	38.7	822	111	933	44.4
外科	1,266	91	1,357	64.6	1,236	86	1,322	63.0
乳腺外科	625	34	659	31.4	567	52	619	29.5
整形外科	1,219	220	1,439	68.5	1,233	234	1,467	69.9
形成外科	286	34	320	15.2	340	34	374	17.8
脳神経外科	898	125	1,023	48.7	979	152	1,131	53.9
呼吸器外科	249	27	276	13.1	295	33	328	15.6
心臓・血管外科	555	47	602	28.7	475	35	510	24.3
皮膚科	1,172	172	1,344	64.0	1,198	215	1,413	67.3
泌尿器科	1,921	87	2,008	95.6	1,854	117	1,971	93.9
産婦人科	1,041	98	1,139	54.2	1,036	123	1,159	55.2
眼科	842	83	925	44.0	791	95	886	42.2
耳鼻咽喉科	532	201	733	34.9	625	203	828	39.4
放射線治療科	875	25	900	42.9	839	26	865	41.2
麻酔科	51	309	360	17.1	44	337	381	18.1
救急科	45	184	229	10.9	60	245	305	14.5
画像診断部	15	71	86	4.1	20	63	83	4.0
歯科口腔外科	660	177	837	39.9	615	150	765	36.4
計	18,063	2,880	20,943	997.3	18,164	3,174	21,338	1,016.1
栗谷診療所	58	2	60	2.9	54	0	54	2.6
合計	18,121	2,882	21,003	1,000.1	18,218	3,174	21,392	1,018.7

平成30年度 月別外来患者数 (8~11月)

科 別	8月(診療日数23日)				9月(診療日数18日)			
	旧患	新患	計	1日当	旧患	新患	計	1日当
内科	5,175	866	6,041	262.7	4,617	718	5,335	296.4
(呼吸器内科)	707	125	832	36.2	598	91	689	38.3
(循環器内科)	1,056	163	1,219	53.0	934	161	1,095	60.8
(腎臓内科)	663	54	717	31.2	627	47	674	37.4
(糖尿病内科)	1,273	102	1,375	59.8	1,045	81	1,126	62.6
(消化器内科)	1,334	300	1,634	71.0	1,311	246	1,557	86.5
(神経内科)	57	3	60	2.6	28	2	30	1.7
(緩和ケア科)	10	0	10	0.4	7	0	7	0.4
(血液内科)	3	8	11	0.5	0	16	16	0.9
(総合診療科)	72	111	183	8.0	67	74	141	7.8
精神科・心療内科	12	14	26	1.1	19	5	24	1.3
小児科	905	94	999	43.4	721	104	825	45.8
外科	1,222	94	1,316	57.2	1,167	79	1,246	69.2
乳腺外科	570	35	605	26.3	554	39	593	32.9
整形外科	1,345	203	1,548	67.3	1,006	166	1,172	65.1
形成外科	321	28	349	15.2	279	29	308	17.1
脳神経外科	1,034	158	1,192	51.8	862	130	992	55.1
呼吸器外科	270	41	311	13.5	267	31	298	16.6
心臓・血管外科	483	48	531	23.1	505	38	543	30.2
皮膚科	1,393	185	1,578	68.6	1,131	152	1,283	71.3
泌尿器科	1,855	128	1,983	86.2	1,785	100	1,885	104.7
産婦人科	1,134	141	1,275	55.4	1,013	110	1,123	62.4
眼科	895	102	997	43.3	816	69	885	49.2
耳鼻咽喉科	558	206	764	33.2	515	163	678	37.7
放射線治療科	849	23	872	37.9	714	17	731	40.6
麻酔科	48	315	363	15.8	39	271	310	17.2
救急科	66	251	317	13.8	73	290	363	20.2
画像診断部	15	72	87	3.8	25	51	76	4.2
歯科口腔外科	679	155	834	36.3	575	156	731	40.6
計	18,829	3,159	21,988	956.0	16,683	2,718	19,401	1,077.8
栗谷診療所	50	2	52	2.3	47	2	49	2.7
合計	18,879	3,161	22,040	958.3	16,730	2,720	19,450	1,080.6

科 別	10月(診療日数22日)				11月(診療日数21日)			
	旧患	新患	計	1日当	旧患	新患	計	1日当
内科	5,583	876	6,459	293.6	5,040	827	5,867	279.4
(呼吸器内科)	708	124	832	37.8	697	123	820	39.0
(循環器内科)	1,084	160	1,244	56.5	933	175	1,108	52.8
(腎臓内科)	699	41	740	33.6	671	37	708	33.7
(糖尿病内科)	1,362	90	1,452	66.0	1,141	76	1,217	58.0
(消化器内科)	1,584	342	1,926	87.5	1,476	308	1,784	85.0
(神経内科)	64	7	71	3.2	49	5	54	2.6
(緩和ケア科)	13	0	13	0.6	13	0	13	0.6
(血液内科)	6	14	20	0.9	4	8	12	0.6
(総合診療科)	63	98	161	7.3	56	95	151	7.2
精神科・心療内科	12	4	16	0.7	9	7	16	0.8
小児科	822	81	903	41.0	789	66	855	40.7
外科	1,353	69	1,422	64.6	1,297	88	1,385	66.0
乳腺外科	650	56	706	32.1	635	40	675	32.1
整形外科	1,112	295	1,407	64.0	1,184	266	1,450	69.0
形成外科	304	25	329	15.0	350	33	383	18.2
脳神経外科	1,054	190	1,244	56.5	891	152	1,043	49.7
呼吸器外科	310	37	347	15.8	239	27	266	12.7
心臓・血管外科	516	35	551	25.0	512	34	546	26.0
皮膚科	1,235	198	1,433	65.1	1,182	167	1,349	64.2
泌尿器科	1,883	248	2,131	96.9	1,745	99	1,844	87.8
産婦人科	1,124	120	1,244	56.5	1,118	109	1,227	58.4
眼科	791	87	878	39.9	805	84	889	42.3
耳鼻咽喉科	579	219	798	36.3	547	208	755	36.0
放射線治療科	755	22	777	35.3	784	24	808	38.5
麻酔科	52	316	368	16.7	37	310	347	16.5
救急科	72	223	295	13.4	70	239	309	14.7
画像診断部	13	86	99	4.5	20	70	90	4.3
歯科口腔外科	648	160	808	36.7	579	143	722	34.4
計	18,868	3,347	22,215	1,009.8	17,833	2,993	20,826	991.7
栗谷診療所	51	4	55	2.5	52	2	54	2.6
合計	18,919	3,351	22,270	1,012.3	17,885	2,995	20,880	994.3

平成30年度 月別外来患者数 (12～3月)

科 別	12月(診療日数 19日)				1月(診療日数 19日)			
	旧患	新患	計	1日当	旧患	新患	計	1日当
内科	5,190	814	6,004	316.0	4,926	855	5,781	304.3
(呼吸器内科)	671	89	760	40.0	610	143	753	39.6
(循環器内科)	939	187	1,126	59.3	941	168	1,109	58.4
(腎臓内科)	713	40	753	39.6	698	44	742	39.1
(糖尿病内科)	1,254	74	1,328	69.9	1,202	86	1,288	67.8
(消化器内科)	1,478	324	1,802	94.8	1,352	286	1,638	86.2
(神経内科)	43	9	52	2.7	32	12	44	2.3
(緩和ケア科)	11	0	11	0.6	6	0	6	0.3
(血液内科)	11	3	14	0.7	11	6	17	0.9
(総合診療科)	70	88	158	8.3	74	110	184	9.7
精神科・心療内科	20	7	27	1.4	17	6	23	1.2
小児科	820	90	910	47.9	733	95	828	43.6
外科	1,118	100	1,218	64.1	1,270	80	1,350	71.1
乳腺外科	609	51	660	34.7	555	35	590	31.1
整形外科	1,137	222	1,359	71.5	1,142	242	1,384	72.8
形成外科	273	49	322	16.9	298	24	322	16.9
脳神経外科	878	129	1,007	53.0	944	167	1,111	58.5
呼吸器外科	298	34	332	17.5	280	39	319	16.8
心臓・血管外科	491	31	522	27.5	428	39	467	24.6
皮膚科	1,110	178	1,288	67.8	1,152	169	1,321	69.5
泌尿器科	1,862	96	1,958	103.1	1,835	102	1,937	101.9
産婦人科	1,000	133	1,133	59.6	1,050	114	1,164	61.3
眼科	854	64	918	48.3	796	79	875	46.1
耳鼻咽喉科	537	189	726	38.2	564	188	752	39.6
放射線治療科	657	63	720	37.9	652	25	677	35.6
麻酔科	59	291	350	18.4	43	298	341	17.9
救急科	76	323	399	21.0	87	320	407	21.4
画像診断部	10	59	69	3.6	19	57	76	4.0
歯科口腔外科	511	121	632	33.3	537	160	697	36.7
計	17,510	3,044	20,554	1,081.8	17,328	3,094	20,422	1,074.8
栗谷診療所	47	0	47	2.5	43	3	46	2.4
合計	17,557	3,044	20,601	1,084.3	17,371	3,097	20,468	1,077.3

科 別	2月(診療日数 19日)				3月(診療日数 20日)			
	旧患	新患	計	1日当	旧患	新患	計	1日当
内科	4,971	813	5,784	304.4	4,956	806	5,762	288.1
(呼吸器内科)	632	117	749	39.4	636	108	744	37.2
(循環器内科)	939	173	1,112	58.5	855	170	1,025	51.3
(腎臓内科)	668	47	715	37.6	753	39	792	39.6
(糖尿病内科)	1,185	91	1,276	67.2	1,169	99	1,268	63.4
(消化器内科)	1,414	272	1,686	88.7	1,382	291	1,673	83.7
(神経内科)	52	5	57	3.0	50	4	54	2.7
(緩和ケア科)	12	0	12	0.6	16	0	16	0.8
(血液内科)	3	11	14	0.7	10	5	15	0.8
(総合診療科)	66	97	163	8.6	85	90	175	8.8
精神科・心療内科	16	6	22	1.2	11	7	18	0.9
小児科	720	95	815	42.9	934	100	1,034	51.7
外科	1,175	89	1,264	66.5	1,277	85	1,362	68.1
乳腺外科	500	31	531	27.9	592	42	634	31.7
整形外科	1,073	217	1,290	67.9	1,023	188	1,211	60.6
形成外科	300	15	315	16.6	288	27	315	15.8
脳神経外科	877	161	1,038	54.6	983	165	1,148	57.4
呼吸器外科	234	46	280	14.7	261	39	300	15.0
心臓・血管外科	390	26	416	21.9	519	47	566	28.3
皮膚科	1,098	157	1,255	66.1	1,155	139	1,294	64.7
泌尿器科	1,710	101	1,811	95.3	2,033	116	2,149	107.5
産婦人科	1,000	109	1,109	58.4	1,015	120	1,135	56.8
眼科	776	80	856	45.1	860	68	928	46.4
耳鼻咽喉科	531	184	715	37.6	600	270	870	43.5
放射線治療科	688	28	716	37.7	814	21	835	41.8
麻酔科	55	296	351	18.5	42	323	365	18.3
救急科	61	277	338	17.8	65	244	309	15.5
画像診断部	21	57	78	4.1	20	62	82	4.1
歯科口腔外科	548	151	699	36.8	602	184	786	39.3
計	16,744	2,939	19,683	1,035.9	18,050	3,053	21,103	1,055.2
栗谷診療所	41	1	42	2.2	68	5	73	3.7
合計	16,785	2,940	19,725	1,038.2	18,118	3,058	21,176	1,058.8

診療科別入院患者数

平成30年度 月別入院患者数(4~7月)

科 別	4月(診療日数30日)				5月(診療日数31日)			
	入院	退院	計	1日当	入院	退院	計	1日当
内 科	256	324	4,221	140.7	283	344	4,390	141.6
(呼吸器内科)	36	57	1,057	35.2	53	74	1,158	37.4
(循環器内科)	75	88	914	30.5	72	80	806	26.0
(腎臓内科)	18	21	657	21.9	17	26	611	19.7
(糖尿病内科)	10	11	150	5.0	16	15	222	7.2
(消化器内科)	114	142	1,333	44.4	119	141	1,504	48.5
(神経内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(緩和ケア科)	1	3	74	2.5	1	3	22	0.7
(血液内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(総合診療科)	2	2	36	1.2	5	5	67	2.2
精神科・心療内科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
小 児 科	29	36	228	7.6	50	45	252	8.1
外 科	97	99	1,322	44.1	98	96	1,412	45.5
乳 腺 外 科	26	26	188	6.3	23	24	178	5.7
整 形 外 科	102	100	1,248	41.6	95	100	1,175	37.9
形 成 外 科	5	5	82	2.7	3	5	54	1.7
脳 神 経 外 科	39	55	853	28.4	30	36	720	23.2
呼 吸 器 外 科	25	24	462	15.4	18	26	391	12.6
心臓・血管外科	36	44	1,082	36.1	42	52	1,114	35.9
皮 膚 科	17	19	173	5.8	14	14	111	3.6
泌 尿 器 科	81	90	895	29.8	76	74	598	19.3
産 婦 人 科	89	97	720	24.0	97	91	685	22.1
眼 科	40	41	114	3.8	44	36	109	3.5
耳 鼻 咽 喉 科	35	43	447	14.9	23	31	248	8.0
放 射 線 治 療 科	12	13	260	8.7	5	5	195	6.3
麻 酔 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
救 急 科	156	50	376	12.5	185	74	374	12.1
画 像 診 断 部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
歯 科 口 腔 外 科	9	8	83	2.8	9	9	91	2.9
合 計	1,054	1,074	12,754	425.1	1,095	1,062	12,097	390.2

科 別	6月(診療日数30日)				7月(診療日数31日)			
	入院	退院	計	1日当	入院	退院	計	1日当
内 科	270	335	3,987	132.9	322	333	4,533	146.2
(呼吸器内科)	38	56	944	31.5	63	58	1,183	38.2
(循環器内科)	81	93	818	27.3	58	75	644	20.8
(腎臓内科)	30	39	581	19.4	35	36	626	20.2
(糖尿病内科)	8	8	107	3.6	21	17	280	9.0
(消化器内科)	109	132	1,421	47.4	137	141	1,627	52.5
(神経内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(緩和ケア科)	0	1	25	0.8	1	0	19	0.6
(血液内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(総合診療科)	4	6	91	3.0	7	6	154	5.0
精神科・心療内科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
小 児 科	46	47	205	6.8	64	63	382	12.3
外 科	97	117	1,303	43.4	106	119	1,295	41.8
乳 腺 外 科	27	31	178	5.9	18	19	145	4.7
整 形 外 科	104	122	1,452	48.4	117	121	1,475	47.6
形 成 外 科	3	3	18	0.6	8	5	99	3.2
脳 神 経 外 科	41	44	857	28.6	34	51	746	24.1
呼 吸 器 外 科	19	18	356	11.9	33	39	628	20.3
心臓・血管外科	29	24	953	31.8	33	38	1,077	34.7
皮 膚 科	15	17	185	6.2	25	20	323	10.4
泌 尿 器 科	76	84	788	26.3	69	76	731	23.6
産 婦 人 科	84	85	711	23.7	98	90	805	26.0
眼 科	42	50	140	4.7	41	38	144	4.6
耳 鼻 咽 喉 科	28	29	270	9.0	36	39	359	11.6
放 射 線 治 療 科	5	6	190	6.3	6	7	174	5.6
麻 酔 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
救 急 科	157	64	349	11.6	191	75	463	14.9
画 像 診 断 部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
歯 科 口 腔 外 科	12	10	140	4.7	11	13	104	3.4
合 計	1,055	1,086	12,082	402.7	1,212	1,146	13,483	434.9

平成30年度 月別入院患者数(8~11月)

科 別	8月(診療日数31日)				9月(診療日数30日)			
	入院	退院	計	1日当	入院	退院	計	1日当
内 科	253	372	4,444	143.4	249	324	3,906	130.2
(呼吸器内科)	27	65	979	31.6	29	46	883	29.4
(循環器内科)	63	82	766	24.7	73	84	797	26.6
(腎臓内科)	21	40	584	18.8	18	26	431	14.4
(糖尿病内科)	16	16	223	7.2	9	14	211	7.0
(消化器内科)	118	155	1,710	55.2	117	147	1,438	47.9
(神経内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(緩和ケア科)	1	2	12	0.4	0	1	39	1.3
(血液内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(総合診療科)	7	12	170	5.5	3	6	107	3.6
精神科・心療内科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
小 児 科	62	59	405	13.1	41	49	284	9.5
外 科	117	110	1,479	47.7	98	122	1,450	48.3
乳 腺 外 科	20	20	163	5.3	24	24	195	6.5
整 形 外 科	104	116	1,326	42.8	100	112	1,347	44.9
形 成 外 科	6	6	90	2.9	8	7	84	2.8
脳 神 経 外 科	35	39	760	24.5	46	51	933	31.1
呼 吸 器 外 科	25	35	559	18.0	20	28	487	16.2
心 臓 ・ 血 管 外 科	30	35	925	29.8	27	39	714	23.8
皮 膚 科	17	22	256	8.3	14	16	270	9.0
泌 尿 器 科	80	84	869	28.0	78	100	650	21.7
産 婦 人 科	96	102	929	30.0	77	85	671	22.4
眼 科	53	49	134	4.3	37	44	80	2.7
耳 鼻 咽 喉 科	30	33	325	10.5	26	25	383	12.8
放 射 線 治 療 科	7	7	217	7.0	3	7	103	3.4
麻 酔 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
救 急 科	205	69	496	16.0	188	70	477	15.9
画 像 診 断 部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
歯 科 口 腔 外 科	8	9	90	2.9	5	2	109	3.6
合 計	1,148	1,167	13,467	434.4	1,041	1,105	12,143	404.8

科 別	10月(診療日数31日)				11月(診療日数30日)			
	入院	退院	計	1日当	入院	退院	計	1日当
内 科	297	325	3,904	125.9	282	355	4,004	133.5
(呼吸器内科)	45	54	1,009	32.5	43	62	1,006	33.5
(循環器内科)	67	77	715	23.1	72	82	773	25.8
(腎臓内科)	19	22	371	12.0	15	20	318	10.6
(糖尿病内科)	10	10	148	4.8	10	14	190	6.3
(消化器内科)	150	154	1,520	49.0	131	163	1,581	52.7
(神経内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(緩和ケア科)	0	1	3	0.1	2	2	23	0.8
(血液内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(総合診療科)	6	7	138	4.5	9	12	113	3.8
精神科・心療内科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
小 児 科	40	34	251	8.1	21	25	187	6.2
外 科	93	105	1,299	41.9	89	100	1,251	41.7
乳 腺 外 科	20	20	158	5.1	26	25	192	6.4
整 形 外 科	104	116	1,420	45.8	93	108	1,363	45.4
形 成 外 科	8	9	79	2.5	5	4	52	1.7
脳 神 経 外 科	49	58	1,056	34.1	40	53	1,079	36.0
呼 吸 器 外 科	30	32	600	19.4	22	34	550	18.3
心 臓 ・ 血 管 外 科	43	41	750	24.2	34	36	815	27.2
皮 膚 科	14	18	230	7.4	18	18	266	8.9
泌 尿 器 科	81	94	657	21.2	74	75	678	22.6
産 婦 人 科	95	89	675	21.8	99	98	828	27.6
眼 科	33	27	81	2.6	39	45	129	4.3
耳 鼻 咽 喉 科	35	36	399	12.9	32	33	385	12.8
放 射 線 治 療 科	6	2	138	4.5	3	5	161	5.4
麻 酔 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
救 急 科	172	53	417	13.5	175	63	490	16.3
画 像 診 断 部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
歯 科 口 腔 外 科	6	7	112	3.6	16	12	152	5.1
合 計	1,126	1,066	12,226	394.4	1,068	1,089	12,582	419.4

平成30年度 月別入院患者数 (12~3月)

科 別	12月(診療日数31日)				1月(診療日数31日)			
	入院	退院	計	1日当	入院	退院	計	1日当
内 科	267	365	4,273	137.8	302	343	4,972	160.4
(呼吸器内科)	31	55	831	26.8	38	53	1,011	32.6
(循環器内科)	54	80	835	26.9	68	79	1,019	32.9
(腎臓内科)	27	35	534	17.2	26	25	695	22.4
(糖尿病内科)	18	20	202	6.5	15	12	235	7.6
(消化器内科)	132	168	1,694	54.6	149	159	1,811	58.4
(神経内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(緩和ケア科)	0	1	36	1.2	2	2	10	0.3
(血液内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(総合診療科)	5	6	141	4.5	4	13	191	6.2
精神科・心療内科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
小 児 科	37	36	248	8.0	32	34	187	6.0
外 科	86	109	1,404	45.3	108	102	1,376	44.4
乳 腺 外 科	23	30	148	4.8	23	16	116	3.7
整 形 外 科	103	121	1,585	51.1	94	98	1,456	47.0
形 成 外 科	6	8	68	2.2	6	5	49	1.6
脳 神 経 外 科	33	51	1,068	34.5	33	42	1,196	38.6
呼 吸 器 外 科	26	31	557	18.0	19	24	440	14.2
心 臓 ・ 血 管 外 科	30	45	743	24.0	41	25	816	26.3
皮 膚 科	13	21	179	5.8	21	16	185	6.0
泌 尿 器 科	62	74	599	19.3	75	75	602	19.4
産 婦 人 科	79	91	782	25.2	86	78	619	20.0
眼 科	35	35	102	3.3	43	38	125	4.0
耳 鼻 咽 喉 科	30	41	385	12.4	38	33	276	8.9
放 射 線 治 療 科	3	6	125	4.0	8	5	124	4.0
麻 酔 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
救 急 科	212	66	565	18.2	245	87	749	24.2
画 像 診 断 部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
歯 科 口 腔 外 科	7	16	162	5.2	9	6	53	1.7
合 計	1,052	1,146	12,993	419.1	1,183	1,027	13,341	430.4

科 別	2月(診療日数28日)				3月(診療日数31日)			
	入院	退院	計	1日当	入院	退院	計	1日当
内 科	293	369	4,958	177.1	275	398	4,722	152.3
(呼吸器内科)	43	67	1,266	45.2	39	73	1,050	33.9
(循環器内科)	60	74	781	27.9	76	93	946	30.5
(腎臓内科)	22	33	677	24.2	22	40	663	21.4
(糖尿病内科)	12	20	252	9.0	19	22	228	7.4
(消化器内科)	150	164	1,767	63.1	113	156	1,649	53.2
(神経内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(緩和ケア科)	1	2	38	1.4	2	4	44	1.4
(血液内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(総合診療科)	5	9	177	6.3	4	10	142	4.6
精神科・心療内科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
小 児 科	54	53	264	9.4	41	41	255	8.2
外 科	107	105	1,513	54.0	115	129	1,913	61.7
乳 腺 外 科	13	15	96	3.4	20	23	100	3.2
整 形 外 科	95	105	1,461	52.2	102	117	1,689	54.5
形 成 外 科	6	7	105	3.8	5	6	65	2.1
脳 神 経 外 科	35	53	1,209	43.2	38	61	1,333	43.0
呼 吸 器 外 科	22	24	379	13.5	25	30	561	18.1
心 臓 ・ 血 管 外 科	35	32	1,053	37.6	30	46	1,081	34.9
皮 膚 科	13	15	137	4.9	15	18	213	6.9
泌 尿 器 科	65	65	590	21.1	76	87	771	24.9
産 婦 人 科	83	83	652	23.3	95	98	788	25.4
眼 科	42	43	99	3.5	45	45	131	4.2
耳 鼻 咽 喉 科	31	34	321	11.5	39	44	379	12.2
放 射 線 治 療 科	3	5	88	3.1	3	1	116	3.7
麻 酔 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
救 急 科	216	64	607	21.7	193	61	441	14.2
画 像 診 断 部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
歯 科 口 腔 外 科	10	6	143	5.1	11	10	162	5.2
合 計	1,123	1,078	13,675	488.4	1,128	1,215	14,720	474.8

患者数の推移

年度別外来患者数

年 度	平成 27 年度 (診療日数 244 日)				平成 28 年度 (診療日数 244 日)				平成 29 年度 (診療日数 245 日)				平成 30 年度 (診療日数 244 日)			
	旧患	新患	計	1 日当	旧患	新患	計	1 日当	旧患	新患	計	1 日当	旧患	新患	計	1 日当
内 科	59,942	8,715	68,657	281.4	60,873	8,584	69,457	284.7	62,025	9,394	71,419	291.5	60,811	9,827	70,638	289.5
精神科・心療内科	497	141	638	2.6	323	144	467	1.9	302	131	433	1.8	166	90	256	1.0
小 児 科	10,871	1,550	12,421	50.9	11,245	1,377	12,622	51.7	9,126	1,401	10,527	43.0	9,590	1,169	10,759	44.1
外科・乳腺外科	21,137	1,800	22,937	94.0	15,186	1,028	16,214	66.5	22,217	1,657	23,874	97.4	21,951	1,509	23,460	96.1
整 形 外 科	17,983	2,954	20,937	85.8	17,801	2,817	20,618	84.5	17,679	3,013	20,692	84.5	13,842	2,713	16,555	67.8
形 成 外 科	1,475	261	1,736	7.1	2,126	346	2,472	10.1	3,299	360	3,659	14.9	3,658	364	4,022	16.5
脳 神 経 外 科	11,465	2,018	13,483	55.3	12,537	2,032	14,569	59.7	12,385	2,126	14,511	59.2	11,291	1,825	13,116	53.8
呼 吸 器 外 科	2,523	417	2,940	12.0	2,881	408	3,289	13.5	3,019	435	3,454	14.1	3,211	420	3,631	14.9
心臓・血管外科	4,920	599	5,519	22.6	5,222	504	5,726	23.5	5,927	534	6,461	26.4	5,923	469	6,392	26.2
皮 膚 科	19,348	2,861	22,209	91.0	19,115	2,886	22,001	90.2	15,654	2,544	18,198	74.3	14,221	2,035	16,256	66.6
泌 尿 器 科	21,848	1,412	23,260	95.3	22,209	1,308	23,517	96.4	21,389	1,352	22,741	92.8	22,408	1,411	23,819	97.6
産 婦 人 科	13,465	1,738	15,203	62.3	12,940	1,465	14,405	59.0	12,728	1,439	14,167	57.8	12,599	1,420	14,019	57.5
眼 科	10,093	999	11,092	45.5	10,735	686	11,421	46.8	10,384	766	11,150	45.5	9,928	957	10,885	44.6
耳 鼻 咽 喉 科	7,165	2,792	9,957	40.8	6,650	2,593	9,243	37.9	6,611	2,561	9,172	37.4	6,783	2,523	9,306	38.1
放射線治療科	8,591	256	8,847	36.3	8,999	304	9,303	38.1	9,253	374	9,627	39.3	9,207	324	9,531	39.1
麻 酔 科	688	3,759	4,447	18.2	569	3,773	4,342	17.8	603	3,614	4,217	17.2	565	3,666	4,231	17.3
救 急 科	691	2,347	3,038	12.5	758	2,513	3,271	13.4	709	2,680	3,389	13.8	812	3,080	3,892	16.0
画 像 診 断 部	345	1,053	1,398	5.7	367	924	1,291	5.3	368	944	1,312	5.4	223	792	1,015	4.2
歯科口腔外科	7,343	1,833	9,176	37.6	7,769	1,859	9,628	39.5	8,046	1,827	9,873	40.3	7,211	1,882	9,093	37.3
計	220,390	37,505	257,895	1,056.9	225,158	36,229	261,387	1,071.3	221,724	37,152	258,876	1,056.6	214,400	36,476	250,876	1,028.2
栗谷診療所	682	22	704	2.9	685	21	706	2.9	593	17	610	2.5	627	28	655	2.7
合 計	221,072	37,527	258,599	1,059.8	225,843	36,250	262,093	1,074.2	222,317	37,169	259,486	1,059.1	215,027	36,504	251,531	1,030.9

年度別入院患者数

年 度	平成 27 年度 (診療日数 366 日)				平成 28 年度 (診療日数 365 日)				平成 29 年度 (診療日数 365 日)				平成 30 年度 (診療日数 365 日)			
	入院	退院	計	1 日当	入院	退院	計	1 日当	入院	退院	計	1 日当	入院	退院	計	1 日当
内 科	3,204	3,710	50,240	137.3	3,428	4,034	53,360	146.2	3,467	4,090	50,739	139.0	3,349	4,187	52,316	143.3
精神科・心療内科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
小 児 科	868	878	4,650	12.7	799	800	4,311	11.8	573	574	3,148	8.6	517	522	3,148	8.6
外科・乳腺外科	1,374	1,501	20,551	56.1	1,165	1,272	17,281	47.3	1,510	1,623	19,620	53.8	1,474	1,586	18,874	51.7
整 形 外 科	1,408	1,521	17,191	47.0	1,438	1,594	17,883	49.0	1,362	1,536	17,018	46.6	1,213	1,336	16,997	46.6
形 成 外 科	43	40	333	0.9	74	77	623	1.7	64	70	760	2.1	69	70	845	2.3
脳 神 経 外 科	629	748	15,423	42.1	673	793	13,992	38.3	537	654	12,430	34.1	456	594	11,810	32.4
呼 吸 器 外 科	272	307	5,870	16.0	276	298	5,130	14.1	267	315	5,582	15.3	284	345	5,970	16.4
心臓・血管外科	319	360	9,339	25.5	341	369	10,710	29.3	455	496	11,974	32.8	410	457	11,123	30.5
皮 膚 科	195	213	3,065	8.4	203	226	3,656	10.0	227	254	3,023	8.3	196	214	2,528	6.9
泌 尿 器 科	870	931	9,257	25.3	884	952	8,296	22.7	901	963	8,577	23.5	893	978	8,428	23.1
産 婦 人 科	1,205	1,207	10,767	29.4	1,090	1,104	8,794	24.1	1,053	1,064	9,282	25.4	1,078	1,087	8,865	24.3
眼 科	469	462	1,233	3.4	472	474	1,276	3.5	507	513	1,517	4.2	494	491	1,388	3.8
耳 鼻 咽 喉 科	492	509	5,343	14.6	448	489	4,121	11.3	444	476	4,031	11.0	383	421	4,177	11.4
放射線治療科	44	49	1,668	4.6	51	59	1,949	5.3	74	76	2,186	6.0	64	69	1,891	5.2
麻 酔 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
救 急 科	1,586	557	4,248	11.6	1,802	620	4,319	11.8	2,046	800	5,457	15.0	2,295	796	5,804	15.9
画 像 診 断 部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
歯科口腔外科	108	107	1,577	4.3	124	123	1,411	3.9	105	108	982	2.7	113	108	1,401	3.8
合 計	13,086	13,100	160,755	439.2	13,480	13,502	158,735	434.9	13,592	13,612	156,326	428.3	13,285	13,261	155,563	426.2

平均在院日数

平成30年度 月別 診療科別 平均在院日数

(単位：日数)

科別	月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内科		16.4	15.8	15.1	16.1	16.4	15.6	14.9	14.8	15.9	18.1	17.4	16.0
小児科		7.0	5.3	4.4	6.0	7.0	6.3	6.8	8.4	6.8	5.8	4.9	6.5
外科		15.2	15.6	14.1	13.6	14.5	15.5	16.0	15.4	15.2	15.4	17.1	18.1
整形外科		12.6	12.4	12.2	12.4	12.1	12.8	13.1	13.5	14.3	15.3	14.8	15.7
形成外科		16.4	13.5	6.0	16.2	15.0	11.2	9.6	12.8	9.1	8.9	16.2	11.8
乳腺外科		7.4	6.9	6.2	7.8	8.2	8.1	8.7	7.5	5.6	5.9	6.9	4.8
脳神経外科		18.3	22.4	20.5	17.8	20.3	18.9	19.6	24.4	25.0	32.2	28.0	27.6
産婦人科		9.3	8.4	9.5	9.9	10.5	9.4	8.2	9.7	10.3	8.7	9.3	9.0
皮膚科		9.5	7.9	11.6	14.4	13.1	18.0	15.0	15.2	10.5	10.0	9.8	13.6
泌尿器科		13.7	11.8	12.2	13.8	12.8	10.0	11.0	12.2	13.8	12.1	12.2	12.1
眼科		9.1	6.6	5.5	7.5	7.1	2.7	21.3	7.4	6.1	5.3	3.7	5.4
耳鼻咽喉科		11.5	9.2	9.5	9.0	9.5	13.8	11.4	11.8	11.1	7.8	9.9	9.1
歯科口腔外科		9.8	10.1	12.7	8.7	10.6	31.1	17.2	10.9	14.7	7.1	16.5	15.4
救急・麻酔科		3.7	2.9	3.2	3.4	3.5	3.8	3.8	4.1	4.1	4.5	4.2	3.5
放射線治療科		20.8	39.0	34.5	26.8	31.0	20.6	35.4	54.8	27.8	19.1	27.7	58.0
画像診断部		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
呼吸器外科		16.8	16.8	19.8	16.6	17.6	19.0	19.4	18.0	19.7	21.2	17.1	20.6
心臓血管外科		27.6	23.5	39.8	30.3	28.5	22.3	18.6	23.4	20.6	24.6	31.7	31.1
精神科・心療内科		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
計		13.5	12.5	12.6	12.7	12.9	12.7	12.8	13.2	13.2	13.6	14.0	14.0

平成30年度 月別 病棟別 平均在院日数

(単位：日数)

科別	月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
西 病 棟	4 F	8.5	7.7	8.1	9	9.3	8	8.2	9.1	8.4	8.0	8.5	8.0
	5 F	11.9	11.8	12.1	12	11.6	12.4	12.7	12.6	14.1	13.5	13.5	15.2
	6 F	15	15.3	13.8	12.6	15.1	15.2	16.1	13.9	14.3	13.6	16.9	20.3
	7 F	13.4	14.2	16.4	16.5	16.9	14.6	13.8	15.0	15.7	14.8	16.2	15.4
	8 F	22.7	17.5	19.7	19.5	18	20.9	18.9	18.5	18.9	19.8	22.5	17.8
	3 F	12.1	12.1	18.1	13.8	11.1	14.6	10.3	11.1	14.8	10.9	9.6	11.3
	救命	3	2.4	2.4	2.8	3.1	2.2	3.3	3.0	2.4	2.9	2.1	2.4
東 病 棟	3 F	13.6	12.5	12.4	12.3	12.8	12	11.2	11.6	13.0	15.3	14.8	13.4
	4 F	9.1	7.6	6.5	7	8	8.9	8.5	9.8	9.1	7.9	8.0	8.5
	5 F	16.1	18.9	17.2	13.2	13.9	18.3	19.7	20.3	21.2	24.9	22.7	24.1
	6 F	11.3	9.7	10.4	12.5	11.6	11.1	12.5	13.9	12.8	15.1	16.6	15.2
	7 F	20.7	18.4	25.4	24.9	21.9	19.8	16.4	17.1	15.5	19.4	15.2	19.9
8 F	23.3	18	14.6	14.5	14.8	12.4	-	-	-	-	-	-	
計		13.5	12.5	12.6	12.7	12.9	12.7	12.8	13.2	13.2	13.6	14.0	14.0

資料

地域医療支援病院紹介率・逆紹介率

平成 30 年度
地域医療支援病院紹介率（月別）

月別	紹介率
4月	90.1%
5月	91.5%
6月	86.8%
7月	88.1%
8月	87.5%
9月	90.2%
10月	93.7%
11月	91.4%
12月	92.0%
1月	92.1%
2月	94.1%
3月	91.5%
合 計	90.7%

平成 30 年度
地域医療支援病院逆紹介率（月別）

月別	逆紹介率
4月	101.0%
5月	97.9%
6月	93.9%
7月	92.6%
8月	95.0%
9月	101.8%
10月	94.5%
11月	92.2%
12月	98.5%
1月	90.5%
2月	97.0%
3月	105.0%
合 計	96.6%

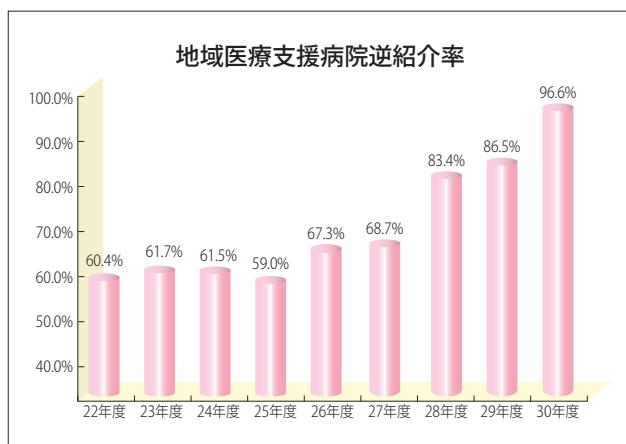
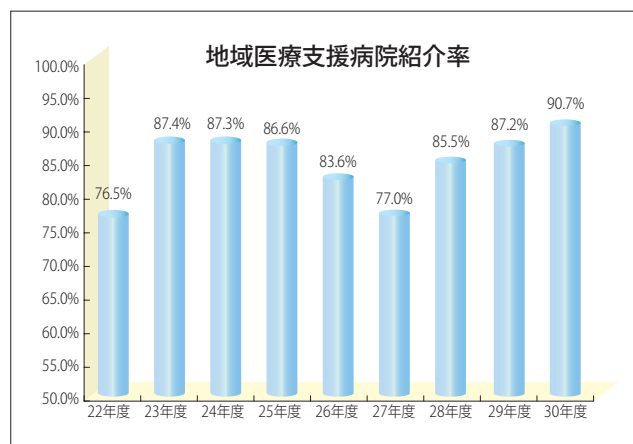
平成 30 年度
地域医療支援病院紹介率（診療科別）

科別	紹介率
内 科	87.8%
小 児 科	62.1%
外 科	117.6%
整 形 外 科	109.3%
脳 神 経 外 科	95.5%
産 婦 人 科	84.2%
皮 膚 科	94.5%
泌 尿 器 科	82.6%
眼 科	104.3%
耳 鼻 咽 喉 科	90.4%
歯 科・口 腔 外 科	46.7%
救 急 科・麻 醉 科	-3893.8%
放 射 線 治 療 科	112.5%
画 像 診 断 部	99.2%
心 臓・血 管 外 科	79.9%
精 神 科・心 療 内 科	0.0%
呼 吸 器 外 科	78.6%
形 成 外 科	82.6%
合 計	90.7%

平成 30 年度
地域医療支援病院逆紹介率（診療科別）

科別	逆紹介率
内 科	158.5%
小 児 科	18.0%
外 科	146.3%
整 形 外 科	101.4%
脳 神 経 外 科	155.6%
産 婦 人 科	33.2%
皮 膚 科	16.0%
泌 尿 器 科	56.5%
眼 科	142.3%
耳 鼻 咽 喉 科	39.6%
歯 科・口 腔 外 科	69.7%
救 急 科・麻 醉 科	-5081.3%
放 射 線 治 療 科	150.0%
画 像 診 断 部	124.0%
心 臓・血 管 外 科	100.4%
精 神 科・心 療 内 科	0.0%
呼 吸 器 外 科	119.5%
形 成 外 科	14.6%
合 計	96.6%

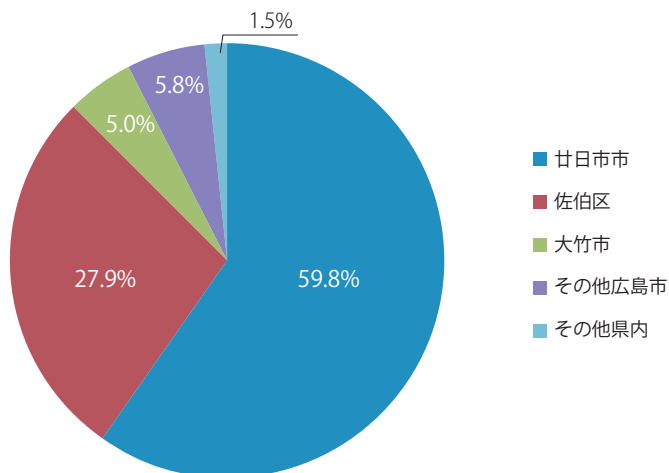
資 料



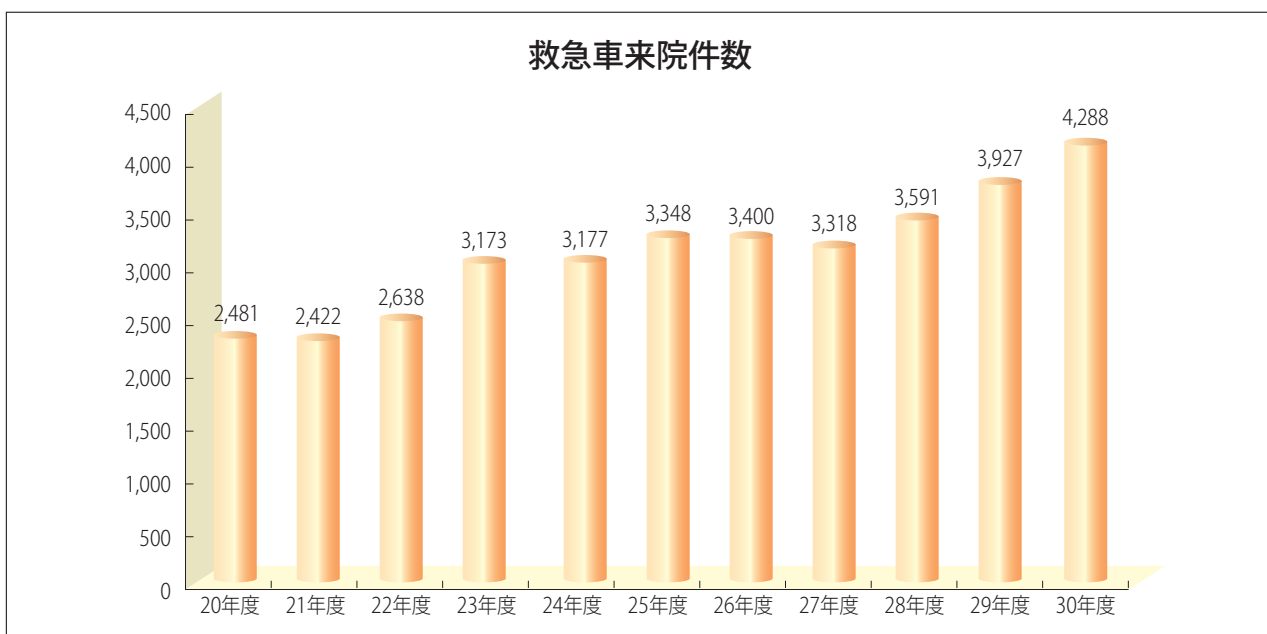
救急車来院件数

平成 30 年度
救急車来院件数 (管轄別)

平成 30 年度	
廿日市市	2,565
佐伯区	1,195
大竹市	213
その他広島市	250
その他	65
合計	4,288



救急車来院件数



資料

医療行為統計表

平成30年度 医療行為統計表

【手術件数】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
内 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小 児 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
精神科・心療内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外 科	74	79	89	95	96	78	85	83	84	79	93	94	1,029
整形 外科	96	93	117	123	119	109	122	104	118	105	103	113	1,322
形成 外科	8	9	13	16	15	15	12	14	12	15	12	10	151
脳 神 経 外 科	11	3	11	12	13	15	13	11	10	18	11	20	148
産 婦 人 科	40	40	37	38	46	26	43	37	30	42	43	49	471
眼 科	60	61	63	57	70	59	57	65	56	61	61	57	727
耳 鼻 咽 喉 科	19	10	15	19	17	12	16	16	20	11	15	20	190
皮 膚 科	13	13	17	19	23	15	21	18	10	17	10	11	187
泌 尿 器 科	42	29	44	34	39	32	34	39	23	32	28	34	410
歯 科 口 腔 外 科	6	5	5	7	4	5	3	7	5	5	7	6	65
救急科・麻酔科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
放射線治療科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
画像診断部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
心臓血管外科	41	38	31	36	30	25	27	25	29	24	29	31	366
呼吸器外科	13	12	12	19	17	14	17	17	19	18	17	19	194
乳 腺 外 科	16	14	13	8	13	13	16	14	13	13	11	14	158
計	439	406	467	483	502	418	466	450	429	440	440	478	5,418
手術(外来件数)(再掲)	37	32	39	40	47	43	49	50	33	44	36	29	479
(口 腔 外 科)	(44)	(52)	(65)	(61)	(56)	(56)	(77)	(64)	(55)	61	(59)	(59)	(709)
アンギオ室手術	3	5	7	0	1	5	2	(1)	(1)	(3)	(3)	(2)	33
内視鏡下手術(VPP)	105	95	122	119	121	96	114	122	99	101	119	131	1,344
全身麻酔件数	309	216	276	339	344	230	331	253	309	301	243	297	3,448

【放射線業務】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
一 般 撮 影	3,432	4,019	3,683	3,951	3,956	3,423	4,045	3,816	3,835	4,103	3,708	3,606	45,577
パ ン ト モ	129	120	146	127	130	145	148	109	100	101	117	153	1,525
骨 密 度 測 定	51	65	91	89	72	64	81	86	74	90	75	76	914
造 影 透 視 撮 影	66	116	97	75	66	67	104	82	93	72	106	105	1,049
上 部 消 化 管	45	99	124	110	122	112	128	118	86	58	80	56	1,138
注 腸	2	5	3	4	1	3	1	1	0	1	5	3	29
血 管 連 続 撮 影	37	42	32	30	31	35	46	42	37	44	35	34	445
心臓血管連続撮影	70	70	79	47	58	66	60	60	46	60	51	80	747
C T 各 科	1,707	1,816	1,761	1,863	1,851	1,687	1,951	1,922	1,846	1,914	1,818	1,873	22,009
C T 画 診	54	50	35	38	37	36	38	39	25	33	33	39	457
M R I	578	632	654	656	688	552	681	642	612	594	575	566	7,430
R I	141	166	154	185	176	147	174	166	169	151	160	134	1,923
リニアック(件数)	582	497	632	697	656	422	459	553	439	438	722	539	6,636
リニアック(門数)	2,428	1,917	2,431	2,177	2,474	1,718	1,832	2,246	1,803	1,669	1,783	2,286	24,764

【検査業務】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
心 電 図 検 査	1,641	1,820	1,696	1,763	1,804	1,546	1,791	1,737	1,604	1,806	1,712	1,803	20,723
ト レ ッ ド ミ ル	2	1	2	3	5	3	1	0	1	0	1	0	19
ホ ル タ ー 型	47	38	40	45	59	33	58	37	47	40	44	33	521
心 臓 エ コ ー	613	668	651	677	653	575	630	636	649	625	638	634	7,649
脳 波	43	30	27	44	57	30	34	31	35	29	24	41	425
肺 機 能 検 査	270	355	301	346	345	268	350	316	283	344	307	370	3,855
神経伝達速度、電流知覚閾値測定	215	159	142	180	162	133	155	130	176	167	144	157	1,920
重 心 動 揺 検 査	0	6	6	4	2	7	3	0	2	1	2	5	38
サーモグラフィー検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脈波図・心電図・ボリグラフ検査	241	235	235	221	231	183	244	219	218	252	256	269	2,804
体 液 量 測 定	134	139	110	127	134	97	122	132	120	159	153	146	1,573
病 理 組 織 検 査	1,031	1,117	1,120	1,153	1,171	1,072	1,331	1,200	1,327	1,115	1,118	1,134	13,889
解 剖 件 数	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	4

【薬剤業務】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
外 来													
処 方 箋 枚 数	9,886	10,704	10,387	10,040	10,997	9,668	10,884	10,268	10,389	10,232	9,867	10,491	123,813
剤 数(件数)	29,629	32,123	30,784	30,046	32,712	28,606	32,645	30,863	31,074	30,468	29,263	30,815	369,028
延 べ 剤 数	892,739	946,554	944,161	906,538	969,182	864,057	1,004,939	914,664	948,350	911,831	864,116	947,322	11,114,453
入 院													
処 方 箋 枚 数	10,108	9,333	9,766	10,300	10,466	9,561	10,248	9,302	9,751	10,258	10,309	10,665	120,067
剤 数(件数)	16,336	15,579	15,663	16,874	17,543	14,924	16,110	15,159	15,345	15,795	16,581	17,468	193,377
延 べ 剤 数	83,424	80,561	76,674	86,265	86,603	69,766	77,671	78,107	79,932	78,775	82,502	86,672	966,952
服薬指導件数	652	693	672	702	647	559	592	622	540	511	431	453	7,074
栗合診療所													
処 方 箋 枚 数													
剤 数(件数)													
延 べ 剤 数													

【その他業務】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
在宅療法指導	69	72	61	58	68	53	53	65	67	52	57	70	745
分娩	38	45	36	39	40	34	40	35	42	30	27	31	437
その他分娩	1	1	0	2	0	0	0	3	0	1	1	1	10
腎尿管結石破砕	11	16	1	14	19	10	11	11	10	10	9	9	131
化学療法件数(外来)	342	391	355	382	368	283	361	326	298	363	335	332	4,136
化学療法件数(入院)	129	124	123	109	132	105	108	127	93	111	61	103	1,325
(超音波内訳)													
内科	259	275	293	283	290	242	261	245	255	238	260	261	3,162
小児科	36	19	16	16	33	19	26	22	19	13	19	26	264
精神科・心療内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外科	288	290	320	269	280	296	356	301	297	237	260	321	3,515
整形外科	9	6	8	14	11	3	9	9	11	9	11	12	112
脳神経外科	19	21	10	13	8	24	11	15	15	7	15	18	176
産婦人科	336	354	384	387	418	371	415	443	386	377	368	456	4,695
眼科	1	0	3	1	3	0	0	1	2	2	1	3	17
耳鼻咽喉科	64	76	79	83	59	76	83	86	86	61	76	97	926
皮膚科	0	0	6	1	4	3	3	1	5	1	2	3	29
泌尿器科	205	205	172	187	224	198	214	193	173	180	182	212	2,345
歯科口腔外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
救急科・麻酔科	119	155	133	152	175	170	143	139	182	157	135	146	1,806
放射線治療科	0	0	0	0	0	1	1	0	1	2	0	1	6
画像診断部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
心臓血管外科	38	59	47	49	45	48	40	55	34	33	31	31	510
呼吸器外科	4	0	1	5	1	0	2	2	3	3	1	1	23
健康管理課	86	109	206	227	278	219	256	273	249	242	248	123	2,516
超音波診断計	1,464	1,569	1,678	1,687	1,829	1,670	1,820	1,785	1,718	1,562	1,609	1,711	20,102

【内視鏡業務】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
胃ファイバー検査 内科	218	263	242	231	233	205	248	256	230	234	230	234	2,824
胃ファイバー検査 ドック	98	173	217	216	227	205	237	224	210	200	200	106	2,313
気管支ファイバー検査	6	19	15	14	4	6	10	9	8	9	9	12	121
大腸ファイバー検査	132	116	128	120	127	98	143	122	112	118	114	100	1,430
上部止血(消化管止血術)	6	12	6	15	16	6	10	8	17	17	20	10	143
EVL(食道静脈瘤血紮術)	0	2	3	2	0	2	1	1	0	3	1	0	15
PEG(胃瘻造設術)	2	3	2	2	6	3	7	5	4	4	6	3	47
上部EMR(粘膜切除)、ESD	8	5	7	10	3	6	9	8	3	9	7	3	78
下部ポリペク(ポリプ切除)	35	28	37	44	31	32	48	58	41	37	37	39	467
下部EMR(粘膜切除)	38	38	40	54	39	38	55	50	52	51	52	46	553
ERCP(膵胆管造影)、ERBD	5	8	7	5	3	2	3	4	4	1	5	3	50
EST(乳頭切開術)	22	27	22	27	22	28	32	21	30	32	39	25	327

【リハビリテーション業務】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
消炎鎮痛等(器具)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
運動器リハビリテーション	682	734	957	991	1,011	759	840	867	820	752	786	856	10,055
脳血管疾患リハビリテーション	1,497	1,491	1,668	1,395	1,594	1,441	1,843	1,889	1,920	1,897	2,265	2,198	21,098
呼吸器リハビリテーション	565	529	498	587	712	500	576	599	517	484	598	574	6,739
疾患対象外	671	760	807	824	816	605	839	887	910	1,110	975	1,084	10,288
心大血管疾患リハビリテーション	650	633	670	698	725	505	556	523	510	586	722	645	7,423
A D L 加算													0
早期リハ加算	2,129	2,205	2,481	2,427	2,663	2,096	2,636	2,492	2,327	2,118	2,961	2,694	29,229
リハビリテーション総合実施計画書	126	228	236	251	254	208	244	203	204	198	237	237	2,626
退院時リハ指導	87	78	86	101	106	84	79	88	85	66	76	83	1,019

【給食業務】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
常食	3,535	3,521	4,066	4,817	4,529	3,874	4,197	4,538	4,343	3,829	4,179	5,447	50,875
全粥	8,286	6,785	6,461	8,134	8,394	7,871	6,875	7,699	7,657	8,004	8,340	9,168	93,674
五分	42	119	49	111	63	67	64	57	69	67	147	83	938
三分	80	82	63	53	91	84	70	76	79	61	74	51	864
重湯	106	200	91	134	87	96	80	69	144	83	173	103	1,366
特別食	21,527	20,473	21,038	21,584	21,506	19,726	20,106	20,569	21,265	22,429	22,685	23,752	256,660
計	33,576	31,180	31,768	34,833	34,670	31,718	31,392	33,008	33,557	34,473	35,598	38,604	404,377

【栄養指導業務】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
外来栄養指導	178	187	174	161	179	145	204	185	168	177	180	176	2,114
入院栄養指導	124	107	117	99	118	95	98	100	109	102	98	106	1,273
集団栄養指導	11	7	7	17	5	12	13	10	13	9	8	13	125

医師科別人員／職員数

平成30年度 医師科別人員

部署名	平成30年4月	
総合診療科	2	
内科	呼吸器内科	4
	腎臓内科	4
	糖尿病代謝内科	4
	消化器内科	10
	循環器内科	7
合計	29	
小児科	6	
外科	14	
整形外科	7	
脳神経外科	4	
心臓血管外科	4	
産婦人科	5	
眼科	2	
耳鼻科	3	
皮膚科	4	
泌尿器科	5	
歯科口腔外科	2	
放射線治療科	1	
画像診断部	5	
麻酔科	11	
救急・集中治療科	8	
精神科	—	
形成外科	1	
呼吸器外科	3	
健康管理科	1	
臨床研究検査科	1	
病理研究検査科	1	
臨床研修医2年次	7	
臨床研修医1年次	12	
合計	138	

職員数

区 分	平成30年4月
医師	115
歯科医師	4
臨床研修医	19
専修医	—
医師部門計	138
助産師	27
保健師	122
看護師	489
准看護師	4
看護部門計	642
薬剤師	38
放射線技師	26
臨床検査技師	48
臨床工学技士	14
理学療法士	14
マッサージ師	—
作業療法士	5
管理栄養士	12
歯科衛生士	3
歯科技工士	—
視能訓練士	3
言語聴覚士	4
臨床心理士	1
社会福祉士	4
介護福祉士	—
医療技術部門計	172
事務	86
事務部門計	86
ボイラ技師	1
電気技師	1
運転手	—
調理師	—
保清員	—
保育士	—
看護助手	33
介護員	—
技術助手	6
労務部門計	41
出向	—
合計	1,079

学会施設認定

認定種別
日本内科学会認定内科専門医教育関連病院
日本内科学会認定内科専門医制度研修医指導
日本呼吸器学会教育関連施設
日本呼吸療法医学会呼吸療法専門医研修施設
日本消化器内視鏡学会認定指導施設
日本消化器病学会認定施設
日本肝臓学会認定施設
日本胆道学会指導施設
日本糖尿病学会認定教育施設
日本腎臓学会研修施設
日本透析医学会認定施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本小児科学会認定医制度研修施設
日本小児科学会小児科専門医研修施設
日本外科学会認定医制度修練施設
日本外科学会外科専門医制度修練施設
日本外科感染症学会外科周術期感染管理教育施設
日本肝胆膵外科学会認定肝胆膵外科高度技能専門医修練施設B
日本消化器外科学会専門医修練施設証
日本大腸肛門病学会関連施設
日本乳癌学会認定医・専門医制度認定施設
乳房再建用エキスパンダー・インプラント実施施設
日本脳神経外科学会指定専門医訓練施設
日本脳卒中学会認定研修教育病院
日本整形外科学会認定医制度研修施設
日本整形外科学会専門医制度研修施設
日本胸部外科学会（認定医）指定施設
三学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設
日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設
日本皮膚科学会認定専門医研修施設

認定種別
日本泌尿器科学会専門医教育施設
日本眼科学会専門医制度研修施設
日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設
日本女性医学学会専門医制度認定研修施設
日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
日本気管食道科学会専門医研修施設
日本麻酔科学会認定病院
日本ペインクリニック学会ペインクリニック専門医指定研修施設
日本救急医学会認定救急科専門医指定施設
日本集中治療医学会専門医研修施設
日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関
日本老年医学会認定施設
日本呼吸器外科学会指導医制度基幹施設
呼吸器外科専門医制度関連施設
日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設
日本放射線腫瘍学会準認定施設
日本口腔外科学会専門医制度研修機関
日本がん治療認定医機構認定研修施設
日本病態栄養学会認定「栄養管理・NST実施施設」
日本栄養療法推進協議会認定NST稼働施設
日本静脈経腸栄養学会認定NST稼働施設
マンモグラフィ検診精度管理中央委員会認定マンモグラフィ検診施設
日本高血圧学会専門医認定施設
PEG・在宅医療研究会専門胃瘻造設施設・管理施設
優良二日ドック施設
腹部ステントグラフト実施施設
胸部ステントグラフト実施施設
下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術の実施基準による実施施設
日本脈管学会認定研修指定施設

編集後記

2018年度のJA広島総合病院“Annual Report”が完成いたしました。

2018年度も色々な出来事がありました。広島東洋カープはセ・リーグ3連覇をしたものの、日本シリーズではソフトバンクと力の差を見せつけられ残念な結果でした。

2018年の医学界における明るい話題は本庶 佑先生のノーベル医学生理学賞受賞です。本庶先生が解明されたがん免疫機序に基づいて作成されたPD-L1抗体である“免疫チェックポイント阻害薬”は現在のがん治療における重要な治療法の一つとなっています。

2018年は2017年に続いて多くの社会的問題が生じました。政治家の不適切発言、公務員の汚職、セクハラ、統計不正、私立大学医学部の入試不正、カルロス・ゴーン的不正など以前では考えられないことが日常におこり、モラルの低下はあきれるばかりです。一方受刑者や容疑者の逃亡と再収監までの不手際は日本の組織の機能低下も疑われました。

2018年は災害の多い年で、6月の大阪北部地震では危険性が指摘されていたながら放置されていた学校のブロック塀倒壊により小学生が命を落としました。7月の西日本豪雨では広島県、岡山県で土砂崩れや氾濫が多発し、多くの人命が失われました。9月の台風19号では強風と高潮による被害で最も大変だったのは関西国際空港で、高潮による滑走路の浸水やターミナルビルの浸水、停電などで閉鎖を余儀なくされ、さらに関西国際空港連絡橋にタンカーが衝突し連絡橋が壊れたため一時孤立状態となり、乗客・職員約5,000人が空港内で一夜を過ごす事態となりました。10月の北海道胆振東部地震では広範囲で土砂崩れが発生し人命が失われるとともに全範囲での停電“ブラックアウト”が話題となりました。最近の災害の様相が変わっており、やはり地球温暖化の影響なののでしょうか。

明るい話題としては「万引き家族」の第71回カンヌ国際映画祭でのパルム・ドール獲得、小惑星探査機「はやぶさ」のリュウグウ到達や大谷翔平の大リーグ新人王獲得もありますが、なんと言っても大坂なおみの全米オープン・全豪オープン優勝と日本人初のランキング一位でしょう。精神的に落ち着いたプレーで成長を感じさせました。

取り留めない話を書きましたが、本年も多くの方の御協力により年報が完成したことを感謝いたします。本年報が地域の方々に我々の診療の実際を知っていただく端緒となれば幸いです。

2020年3月
年報編集委員長
辻山 修司

年報編集委員会

小林 平	柳井 環	佐藤 澄香	小松 浩基
砂田 朋子	上田 雅美	荒田 晋二	野津 麻史
入江 耕平			

JA広島総合病院 年報 2018年度

令和2年3月 発行

発 行 広島県厚生農業協同組合連合会
広島総合病院

広島県廿日市市地御前1-3-3

TEL 0829-36-3111

印 刷 株式会社 タカトープリントメディア



JA 広島総合病院
JA. HIROSHIMA General Hospital